

自己点検・評価報告書

令和7年6月
福岡県立大学

福岡県立大学
令和6年度 事業に関する説明

戦略的・意欲的な取組み

実施事項	年度の実施状況
(1)時代の変化に対応した「学生ファースト」の教育の推進	<p>令和6年度は、第4期中期計画に基づき、時代の変化に対応した「学生ファースト」の教育の推進を目的として、本学全体で多面的かつ戦略的な取組を展開した。魅力的で質の高い教育課程の編成について、各学位プログラムにおけるDP・CPの検討を行った。今後も継続的に検討する。また、基盤教育及び全学横断型教育のカリキュラムの見直しのための体制を整え、検討を開始した。さらに、「全世代型キャンパス」推進の一環として、社会人やシニア向けの学習・研修プログラムについて検討を開始した。</p> <p>主体的・協働的に行動できる力を養う教育の推進について、アクティブ・ラーニングの推進及び充実のため、令和6年度は、各授業科目のシラバスの記載項目からアクティブ・ラーニングの実施状況を確認した。</p> <p>学生の学修支援と生活支援については、学生の主体的・協働的な学修を支援するため、令和7年度より附属図書館本館1階にラーニング・コモンズの設置・運用を開始することを決定した。多様な学修スタイルに対応した柔軟な空間として、学生の自律的な学びの促進が期待される。情報処理教室の機器更新、オンライン学修プラットフォームの改善、学内情報ネットワーク(学内LAN)の更新についても計画通りに進めた。また、学修等の配慮申請を行った学生の支援を決定し、実施するとともに、支援体制の充実を図るための現状把握を行った。さらに、国の奨学金支援制度に基づく入学料減免及び授業料減免を実施するとともに、大学独自の授業料減免及び分納制度を実施した。併せて、学業が継続できるよう「真島・市場特別奨学金」「和田紘子奨学金」を活用した支援を行った。</p>
(2)「データ駆動型アプローチ」による地域共生社会や高度福祉社会の実現に寄与する研究の推進	<p>令和6年度は、第4期中期計画に基づき、研究機能の強化および「データ駆動型アプローチ」による地域共生社会・高度福祉社会の実現に資する研究の推進を目的として、本学全体で多面的かつ戦略的な取組を展開した。</p> <p>研究支援の面では、研究奨励交付金による支援を行うとともに、科研費申請に向けた研修会や若手研究者向けの個別相談セミナーを実施し、個別支援の充実を図った。また、研究倫理や研究費の適正使用に関する研修・説明会を通じて、研究活動の質的向上にも取り組んだ。</p> <p>さらに、国保データベース(KDB)を活用したデータ駆動型研究、重点領域研究およびCOC研究(地域の発展に寄与する研究)の推進、成果報告会の開催など、地域に根ざした研究活動を展開した。研究成果の蓄積と可視化を目的として、附属研究所報告書等の成果物を機関リポジトリに登録・公開した。</p> <p>国際化の面では、国際研究枠でのプロジェクト研究採択、研究目的に応じた海外研修などを通じて、国際的な研究活動の基盤整備を進めた。</p> <p>これらの取組を通じて、地域および国際社会との連携のもと、データ駆動型・実践型研究を中核とする研究の高度化と地域課題や社会的課題の解決に貢献する研究拠点形成を進展させた。</p>
(3)地域の幅広い世代や多様な人々が学べる「全世代型キャンパス」の推進	<p>地域教育支援機構の下、「全世代型キャンパス」の具体化に向けた取組みを開始した。</p> <p>本学と筑豊市民大学との連携において、「『全世代型キャンパス』推進に関する協定書」を締結し、令和9年度の開始予定日標を前倒しで達成することができた。さらに、各世代の学びの場に資する事業等の整理に取り組んだ。</p> <p>また、全学を対象とした「学内における教育や学習の機会提供活動に関する調査」を実施するとともに、IRサイクル総合会議による事業実績を元に情報の整理を行った。その結果、子ども(不登校・ひきこもりサポートセンターやキャンパススクール・学校・地域等での学習支援、性や命に関する教育等)、社会人・専門職(市民公開講座、リカレントセミナー[学内の全学科において実施]、ペアレントトレーニング、不登校支援フォーラム等)、高齢者(筑豊市民大学)の各世代に対して、教育や学習の機会を提供していることが明らかとなった。今後さらなる情報の収集と整理を実施するとともに、「全世代型キャンパス」の周知方法についての検討に取り組む予定である。</p>

項目別の状況（中期計画項目）
1. 高度福祉社会の実現に力を発揮できる人材の育成 保健・医療・福祉の専門職として、関連する分野に関する幅広い視野や国際的な感覚を併せ持ち、他の専門職と協働して、保健・医療・福祉の現場で中核となって高度福祉社会の実現に力を発揮できる人材を育成する。また、DEIAの理念に基づいた教育を推進し、複雑化・複合化するニーズに対応した多様な教育課程の編成に取り組む。あわせて、予測困難な時代に社会で活躍するために必要な資質・能力として、自ら課題を発見し、主体的に考え、他と連携しながら多様な知を持ち寄り、新たな発想をもって解決に向けて行動できる力を養う教育を推進する。

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(1)魅力的で質の高い教育課程の編成【1】	実施事項 ウ： 令和6年度では、「全世代型キャンパス」を推進する取組として、社会人のリスキリング・キャリアアップやシニアの生涯学習に役立つ学習・研修プログラムの開発・提供が進展した。具体的には、本学は「『全世代型キャンパス』推進に関する協定書」（令和6年7月22日締結）に基づき、「筑豊市民大学」の開催に協力し、4つの分科会を本学キャンパスにて実施した。第1分科会の教養講座では本学教員4名が講師を務めた。本プログラムは、地域の社会人を対象に多様な学びの場を提供するものであり、令和9年度からの実施を予定していた取組の目標を前倒して達成できた。

実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和6年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
ア. 本学への社会的要請の状況や教育内容・成果に着目しながら、ディプロマ・ポリシー（DP）及びカリキュラム・ポリシー（CP）について検討し、質の高い学部の教育課程を編成する。	DP・CPの検討	社会的要請状況、教育成果に着目しながら、DP・CPの検討を毎年度行い、卒業要件、履修基準、専門科目の履修方法の見直しを行う。	卒業要件、履修基準、専門科目の履修方法の見直しを視野に、両学部・学科でDP・CPについて検討する。	教務・共通教育部会で取組の推進体制を検討し、両学部教務部会・基盤教育センター運営部会との連携を確認した。 人間社会学部では、各コースでDP・CPの検討を始めた。 看護学部では、教務部会を中心としてDP・CPの検討を進めている。	B	人間社会学部では、新教職課程の設置等によるカリキュラム改正を行うのに併せてDP・CPとの関係についても検討したが、急ぎ見直す必要はないとの結論に達した。DP・CPについては、今後も引き続き検討を続ける。 看護学部では、新カリキュラムの完成年度となるため、4年間の教育に関する評価、見直しを行う。またDP・CPの見直し、検討は引き続き行う。
イ. 複雑化・複合化する社会のニーズに対応した魅力的な教育課程を編成するために基盤教育、全学横断型教育等の見直しを行う。	基盤教育、全学横断型教育の検証と見直し	基盤教育（科目、卒業要件単位数）及び全学横断型教育のカリキュラムについて、令和7年度までに見直しを行う。令和9年度までに改編案を策定し、令和10年度から実施と検証を行う。	基盤教育及び全学横断型教育のカリキュラムの見直しのための体制を整え、検討を開始する。	見直しを行うカリキュラムやプログラムを選定し、その担当者を決定した。	B	令和5年度に整えた体制により、基盤教育及び全学横断型教育のカリキュラムの見直しのための検討を継続する。

実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和6年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
ウ.「全世代型キャンパス」の推進の一環として、社会人のリスキリング・キャリアアップやシニアの生涯学習に役立つ多様な学習・研修プログラムを編成し、提供する。	社会人やシニア向けの学習・研修プログラム提供	令和8年度までに、学習・研修プログラムを作成する。	大学のカリキュラムを踏まえた社会人やシニア向けのプログラム作成に着手する。(※教務・共通教育部会担当分)	プログラムの作成に向けた社会人やシニアのニーズについての検討を開始した。(教務・共通教育部会)	B	引き続き、大学のカリキュラムを踏まえた社会人やシニア向けのプログラムを作成する。
		令和9年度から募集開始。毎年度プログラムを実施する。	生涯学習に役立つ学習プログラムを検討する。	本学は、「『全世代型キャンパス』推進に関する協定書」(令和6年7月22日締結)に基づき、「筑豊市民大学」の開催に協力し、4つの分科会が本学を会場として実施された。これは、市民を対象とする学習・研修プログラムであり、令和9年度からの開始を予定していた取組目標を前倒しで達成したものである。	A	「全世代型キャンパス」推進に関する協定に基づき、「筑豊市民大学」の継続的な運営支援を行うとともに、生涯学習に役立つ学習プログラムについて、地域のニーズを踏まえて、その在り方について検討する。

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(2)高度福祉社会の実現に力を発揮する人材育成のための専門教育の推進【2】	<p>実施事項 ア：ICT研修 教職課程におけるICT活用指導力の向上を目的に、学生・教員双方が参画する実践的なICT研修を実施している。学校現場での授業参観や教育委員会との連携、さらに課題解決型授業におけるICT活用の共有を通じて、教員間の問題意識が高まり、学生の学修到達度も向上した。 今後も実践的かつ効果的なICT研修を継続し、教育現場の変化に対応できる教員養成を推進していく。</p> <p>実施事項 イ：デジタル学習コンテンツ デジタル学習コンテンツを継続して活用できるよう、看護学部教務部会の担当者(DXワーキンググループ)が中心となり器材の整備や点検、活用方法に関する勉強会を行った。 また、実習施設の実習指導担当者との連絡会において、本学の看護技術向上に向けた取り組みとして、デジタル学習コンテンツを活用した演習の概要と学内演習の実際についてプレゼンテーションを行った。実習施設の参加者からは、学内での演習の展開がわかり、実習指導に生かしたい等の意見があり、実習施設と協働での教育への手がかりとなった。</p>

実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和6年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
ア. 地域社会・社会福祉・心理・教育等の現場で他の専門職と協働しながら中核的な役割を果たす人材を育成するため、人間社会学部における専門教育を充実させる。	(人間社会学部地域社会コース) 学校現場のICTにあわせた実習指導の見直し・実施	教職課程内で、ICT研修を年2回以上実施する。	教職課程関係教員を対象に、年2回以上のICT研修を実施する。	令和6年度田川市主体的な学びに向かう授業づくり研修会を、社会・公民・情報の教科担当教員と学生が受講した(10月30日)。本研修をもとに、教育実習報告会に教科担当教員が出席し、採用試験の体験や実習先のICT活用状況を共有した(11月28日)。課題解決型授業におけるICT活用の授業実践について、社会調査実習での取り組みの事例を公開授業として実施し情報交換を行った(12月19日)。	B	教職課程関係教員を対象に、年2回以上のICT研修を実施する。
	(人間社会学部社会福祉コース) 実習指導体制のICT化	令和7年度までにICT化の方法を検討し、令和8年度に実施する。その後、令和11年度まで教育効果の検証を行う。	実習指導体制のICT化に向けた方法を検討する。	「ソーシャルワーク実習支援システム」(富士フィルムシステムサービス株式会社)の導入に向け、業者と打ち合わせを行った。システムに搭載する内容について社会福祉コース担当者会議で検討した。	B	実習指導体制のICT化に向けた方法を検討する。
	(人間社会学部こどもコース) 実習を中心とするカリキュラムの検証・充実	令和7年度開始となる改正した実習及び、実習指導のカリキュラムを実施し、検証を行う。	令和7年度から開始する改正した実習及び実習指導の準備を行う。	令和7年度からの保育実習・幼稚園教育実習における実習時期の変更を踏まえ、実習関連科目の教育内容の順序性について検討した。実習手続きに関する指導は従前通り保育実習Ⅰ(施設、保育所)で行うことが確認され、日誌・指導案作成指導については幼稚園教育実習事前事後指導内で基礎的指導を行うこととなった。 また、7月6日に行われた筑豊地区児童福祉施設実習調整会議において、令和7年度保育実習Ⅰ(施設)の実習先の確保を行い、2年次の指導内容を計画した。	B	令和7年度から開始する改正した実習及び実習指導を実施する。

	(人間社会学部心理コース)公認心理師カリキュラム改定への対応	令和7年度に示される予定のカリキュラム改定に基づく教育課程を改定通知が届いた翌年度までに構築・開始する。	公認心理師カリキュラム改定に関する情報を収集する。また現行の教育課程を見直す。	令和7年度に示される予定の公認心理師カリキュラムの改定に関し、厚生労働省公認心理師制度推進室や一般社団法人日本公認心理師養成機関連盟の動向及び通知を定期的に確認した。現時点では、「公認心理師法の施行状況と今後の取組の検討内容」が示されていることを確認した。 また学生便覧を基に教務部会員が資料を作成し、心理コース担当者会議で現行の専門教育科目の学年配置や卒業必要科目及び単位数を確認した。資格取得に必要な科目の追加、実習時期の変更及び科目名の変更を行った。	B	令和7年度に示される予定の公認心理師カリキュラム改定に基づき、教育課程の再構築を行う。
	(人間社会学部総合人間社会コース)プログラムの再編	令和7年度まで検討し、令和8年度に再編したプログラムを開始する。	プログラムの再編を見据え、現状のプログラムの課題を洗い出す。	各学科の関連科目のうち、総合人間社会コースの科目について、学生便覧上の表記や全学横断型科目との関係など、現状の確認を行った。令和7年度はこの情報を基に、プログラムの再編を検討することとしている。	B	プログラムの再編を検討する。
イ. 保健・医療・教育等の現場で他の専門職と協働しながら中核的な役割を果たす人材を育成するため、看護学部における専門教育を充実させる。	(看護学部)カリキュラムの検証と見直し	新カリキュラム完全移行の令和7年度に、最終学年である4年次生のプログラムを実施・検証し、以降毎年度、検証と見直しを行う。	令和7年の完成年度に向けて、4年次のプログラムについて検討を行う。	1年次から3年次までの授業内容を踏まえ、4年次につながる内容について検討を行った。演習科目に関する課題の洗い出しを教務部会で、実習上の課題については実習運営部会で明らかにした。	B	3年次前期に行われる演習科目について、4月～5月に実施する科目、6月～7月に実施する科目と時期で区分し、終了時に技術テストを行った。この取り組みが後期の実習の準備へと効果的につながった。ただし、時間割にゆとりが少ないため、令和7年度は科目の組み方や技術テストの時期・内容について検討する。
	(看護学部)看護実践力向上のための演習・実習科目の充実	令和7年度までに SP (模擬患者)参加型教育の検討と導入を行い、以降毎年度、検証と見直しを行う。	SP導入に際して決めておくべき事柄について整理し、項目に従って調査し検討をする。	SP導入に関するワーキンググループを設置し、導入に向けて準備を行った。令和11年度までの年間計画を立て、令和6年度は、SP導入の情報収集、技術力などの学生の到達度評価、模擬患者の定義を確認し本学での目的を検討した。	B	小児看護学演習及び精神看護学演習において、模擬患者を導入している。令和7年度はこれらを基に、訓練を受けた模擬患者を導入している他大学を訪問し、導入までのプロセスや実施の見学などを行い、新たな導入の方法について検討する。
		デジタル学習コンテンツを導入し、毎年度検証と見直しを行う。	デジタル学習コンテンツを導入し、毎年度検証と見直しを行う。	令和5年度に整備したデジタル学習コンテンツを継続して活用できるよう、教務部会の担当者(DXワーキンググループ)が中心となり器材の整備や点検、活用方法に関する勉強会を行った(3月21日)。3月4日の実習指導者連絡会で、デジタル学習コンテンツを活用した演習を紹介した。	B	令和7年度はDXワーキンググループを教務部会から独立させ、1年生から4年生まで継続して活用できる事例の作成や、新たな運用方法について検討する。

ウ. 社会福祉・心理臨床・子ども教育の現場でリーダーシップを発揮し中核的かつ革新的な役割を果たす人材を育成するため、人間社会学研究科における専門教育を充実させる。	(人間社会学研究科 社会福祉)カリキュラムの見直しと検証	令和8年度までにカリキュラムを見直し、令和9年度から新たなカリキュラムを実施する。その後、令和11年度まで教育効果の検証を行う。	現行カリキュラムの見直しを行う。	社会福祉専攻では、フィールドワークで使用する報告書フォーマットの変更ならびに実施要綱の改訂を行うとともに、学生ニーズに対応した新たな科目の開設に向けた準備を行った。	B	現行カリキュラムの見直しを行う。
	(人間社会学研究科 心理臨床)公認心理師カリキュラム改定への対応	令和7年度に示される予定のカリキュラム改定に基づき、臨床心理士資格にも対応した教育課程を改定通知が届いた翌年度までに構築・開始する。	令和7年度に示される予定の公認心理師カリキュラム改定の動向と通知を注視し、臨床心理士資格にも対応した教育課程の準備を行う。	心理臨床専攻では、1月31日に示された「公認心理師実習演習担当教員養成講習会の実施について」の一部改正を精査し、その内容に合わせた改定の準備を開始した。 その他の公認心理師カリキュラムの改正についても動向と通知を注視した。	B	令和7年度に示される予定の公認心理師カリキュラム改定に基づき、臨床心理士資格にも対応した教育課程の準備を行う。
	(人間社会学研究科 子ども教育)社会人学生への教育方法の検証と見直し	多様な経歴をもつ社会人学生の教育方法についてさらに改善するため、令和6年度から実施する新カリキュラムにもとづく教育方法を検討し、令和8年度以降検証と見直しを行う。	多様な経歴をもつ社会人学生の教育方法について改善を行った令和6年度からの新カリキュラムを実施する。	子ども教育専攻では、令和6年度より新しいカリキュラムを実施し、社会人学生が希望する授業を履修できるよう、前期と後期のどちらからでも履修可能となるよう科目を見直し、履修指導において説明するとともに、2年間を見通した履修計画を提示した。 また、実践実習についても、社会人学生が無理なく履修可能とするために、学生自身の興味関心に基づいた実習先を1カ所または2カ所選択できるように改善し、履修指導を行った。	B	令和6年度に開始した新カリキュラムを実施するとともに、多様な経歴をもつ社会人学生の教育方法についてさらに改善するための検討を行う。
エ. 保健・医療・教育等の現場でリーダーシップを発揮し中核的かつ革新的な役割を果たす人材を育成するため、看護学研究科における専門教育を充実させる。	(看護学研究科)カリキュラムの検証と見直し	カリキュラムの検証と見直しを毎年度行う。	助産実践形成コース及び研究コースのカリキュラムの見直し・変更を実施する。 各コースの科目の授業内容を検証する。	助産実践形成コースの名称と科目名・科目概要、研究コースの科目名・科目概要について見直し、文部科学省に変更を申請した(7月に受理)。 また、科目の授業内容を確認し検討を行った。	B	令和7年度は助産コース、研究コースともに新カリとなるため、各コースの授業内容と実施状況について自己点検するとともに、授業評価アンケート等を通して検討を行う。

実施事項	年度の特に優れた実績や成果					
(3)主体的・協動的に行動できる力を養う教育の推進【3】						
実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和6年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
<p>複雑化・複合化する社会のニーズを捉え、自ら課題を発見して主体的に考えるとともに、他者と協働してその解決に向けて行動できる力を養うためにアクティブ・ラーニングを推進し、充実させる。</p>	<p>アクティブ・ラーニングの推進及び充実</p>	<p>アクティブ・ラーニングを取り入れた授業科目の割合：毎年度60%以上。</p>	<p>シラバスの項目IV授業計画にアクティブ・ラーニングの取り組みを記載する項目を作成した。課題は大学の授業でアクティブ・ラーニングの授業の割合と授業計画の詳細を把握できていない。取り組みとして、現状を把握し、アクティブ・ラーニングの詳細をまとめる必要がある。</p>	<p>シラバスの記載内容に基づき、評価指標の分析を行った。アクティブ・ラーニングの項目に記載のある科目は全科目の79%であった。</p>	<p>B</p>	<p>アクティブ・ラーニングの効果を検証し、授業方法の改善に反映させる。学生が主体的・能動的に学ぶための環境を整備する。</p>

項目別の状況（中期計画項目）	
2. 教育の実施体制等の充実 アセスメント・プランに基づく学修成果の把握・検証や効果的なFD（ファカルティ・ディベロップメント）等、教育改善のための組織的な活動を推進し、多様なメディアを活用した教育の充実を含めて全学的な教育の質を向上させる。また、他の大学、研究機関、企業・団体等との連携を通じて、提供する教育の幅を広げ、教育内容を充実させる。	

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(1)学修成果の検証【4】	実施事項 ア：国家資格等合格率 本学が推奨する国家試験対策講座の受講や模擬試験への受験を促し、模擬試験結果を教員が把握することなどにより学生ごとに丁寧な指導を行った結果、すべての国家試験において目標を達成することができた。

実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和6年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
ア. アセスメント・プランに基づき、各種データ(授業評価アンケート、成績評価アンケート、DPアンケート、成績分布調査、就職率調査、国家試験合格率)を分析して学修成果の検証を行う。また、検証結果を学位プログラムDPレビューにまとめ、公表する。	アセスメント・プランに基づく学修成果の検証	毎年度実施し、検証の結果を学位プログラムDPレビューにまとめ、公表する。	アセスメント・プランに基づき、令和5年度における学修成果を検証し、学位プログラムDPレビューを作成のうえ、公表する。	教務・共通教育部会において、令和5年度DPアンケート、授業評価アンケート、成績評価アンケート及び受講者と成績分布について結果分析を行った。学位プログラムDPレビューを作成のうえ、HPIに掲載した。	B	アセスメント・プランに基づき、令和6年度における学修成果を検証し、学位プログラムDPレビューを作成のうえ、公表する。
	学生による授業評価(授業評価アンケートにおける学修到達目標に対する達成度)	毎年度全学平均3.0以上(4段階評定)	学部SD・FD部会において、令和6年度前期・後期授業評価アンケートの実施と結果分析を行う。	前期及び後期授業評価アンケートを実施した。 学生による授業評価(授業評価アンケートにおける学修到達目標に対する達成度):全学平均3.5/4.0	B	学部SD・FD部会において、令和7年度前期・後期授業評価アンケートの実施と結果分析を行う。
	DP到達度(卒業時に実施するDPアンケート)	毎年度全学平均4.0以上(5段階評定)	教務・共通教育部会において、令和5年度卒業時アンケートの結果分析を行う。また、学部SD・FD部会において、令和6年度卒業時アンケートを実施する。	教務・共通教育部会において、令和5年度卒業時アンケートの結果分析を行った。また、学部SD・FD部会において、令和6年度卒業時アンケートを実施した。 DP達成度(卒業時アンケート):全学科平均4.6/5.0	B	教務・共通教育部会において、令和6年度卒業時アンケートの結果分析を行う。また、学部SD・FD部会において、令和7年度卒業時アンケートを実施する。
	国家試験合格率	毎年度以下の合格率を達成 <ul style="list-style-type: none"> ・看護師95%以上 ・保健師90%以上 ・助産師95%以上 ・社会福祉士 65%以上 ・精神保健福祉士 70%以上 	学部において、国家資格等合格率の把握を実施する。	学部において、国家資格等合格率の把握を実施した。 令和6年度国家試験合格率 <ul style="list-style-type: none"> ・看護師 97.9% ・保健師 100% ・助産師 100% ・社会福祉士 79.2% ・精神保健福祉士 100% 	A	学部において、国家資格等合格率の把握を実施する。
イ. より適切かつ効果的な学修成果の検証のため、アセスメント・プランの改善を行う。	アセスメント・プランの改善	令和8年度までにアセスメント・プランを改善する。その後、新たなアセスメント・プランを用いて学修成果の検証を行う。	現アセスメント・プラン及び実施体制について、改善を要する点等を把握する。	今後、教務・共通教育部会において、現アセスメント・プラン及び実施体制について意見聴取を行う。	B	現アセスメント・プラン及び実施体制について、改善を要する点等を把握する。

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(2)教育活動の改善・向上 【5】	<p>実施事項 イ：</p> <p>教育活動の改善・向上を目的としたSD・FDセミナーについては達成目標を上回る回数を実施した。概ね経年的に実施しているアクティブラーニング研修会に加え、令和6年度は新たにAIに関するセミナーも開催した。これにより教育力の向上に寄与するとともに、今後の教育のあり方について示唆を得る有意義な研修となった。</p> <p>また、GPS-Academic報告会では学生の問題解決力の経年変化の分析を通じて本学の教育の特徴や課題を可視化することで、教職員の関心を喚起するとともに、教育成果や課題の具体的な確認につながった。いずれの研修会も、教職員の関心の高さと積極的な参加が確認され、内部質保証に寄与する研修を実施することができた。</p> <p>さらに職員はSD・FDセミナーとは別に公立大学教職員研修システムを活用した個別の研修計画を立案し、年間計画に基づき研修に参加することで、継続的な学びを実践した。</p>

実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和6年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
ア. 各種データ(授業評価アンケート、成績評価アンケート、DPアンケート、成績分布調査、就職率調査、国家試験合格率)の分析による学修成果の検証を通じて明らかになった教育方法・内容の課題について、学内の関連部局等(学部・学科・コース、学部教務部会、教務・共通教育部会、教務入試委員会等)で検討し、改善に向けた取組を実施する。また、それらの検討の過程と取組の結果を学位プログラムDPLレビューにまとめ、公表する。	教育方法・内容の改善・向上	学修成果の検証に基づき、学部・学科・コースにおいて毎年度1回以上、改善する。	各種データの分析による学修成果の検証を通じて明らかになった教育方法・内容の課題について、学内の関連部局等で検討し、改善に向けた取組を実施する。また、それらの検討の過程と取組の結果を学位プログラムDPLレビューにまとめ、公表する。	教務・共通教育部会においてDPアンケート、成績評価アンケート、受講者数及び成績結果状況の分析(令和5年度分のデータ)を行った。これらの結果をもとに、①令和4年度における教育活動の改善・向上の成果を検証すること、②令和6年度に実施する教育方法・内容の改善・向上に向けて、関連部局等にて検討し、授業実施評価レポートを作成した。 また、それらの検討の過程と取組の結果を学位プログラムDPLレビューにまとめ、公表した。	B	令和6年度分のDPアンケート・成績評価アンケートをオンライン化したことの効果の検証が課題である。 また、認証評価の動向や教学マネジメント指針等を踏まえて学位プログラムDPLレビューのあり方について検討することも課題である。 各種データの分析による学修成果の検証を通じて明らかになった教育方法・内容の課題について、学内の関連部局等で検討し、改善に向けた取組を実施する。 また、それらの検討の過程と取組の結果を学位プログラムDPLレビューにまとめ、公表する。
イ. SD(スタッフ・ディベロップメント)・FDセミナーを実施し、教育活動を改善・向上させる。	SD・FDセミナーの開催	毎年度1回以上開催	【学部】SD・FDセミナーを年1回以上開催する。	【学部】SD・FDセミナーとして、「第1回大学改革セミナー(1月8日)」「第2回大学改革セミナー(2月13日)」「GPS-Academic結果報告会(2月14日)」「AIに関するセミナー(2月14日)」「発達特性のある学生への対応と支援(3月4日)」「アクティブラーニング研修会(3月6日)」の計6回開催した。	A	【学部】令和7年度も引き続き、教育活動の改善・向上を目指し、本学の教職員のニーズに即したSD・FDセミナーを企画・実施する。
			【大学院】FDセミナーを年1回以上開催する。	【大学院】FDセミナーを学部SD・FD部会と共催して開催した。	B	【大学院】FDセミナーを年1回以上開催する。
	SD・FDセミナーへの教職員参加率	毎年度85%(1回以上参加の教職員割合)	【学部】SD・FDセミナー開催時の教職員へ呼びかけと参加者の把握。	【学部】SD・FDセミナー開催に際し、教職員への参加の呼びかけをメールにて実施した。また、教職員各自の都合に合わせて参加できるよう研修環境(対面、オンライン、オンデマンド配信等)を整えた。 教職員SD・FDセミナー参加率(1回以上参加の教職員割合)89.3% * 休職者・中途退職者のぞく	B	【学部】令和7年度も令和6年度と同様に、教職員へのSD・FDセミナー実施に関してメール等を活用して周知する。あわせて、教職員が参加しやすい時期の選定や実施方法の工夫を図り、参加率85%の達成を目指す。
			【大学院】FDセミナー開催時には参加を教職員に促す。	【大学院】FDセミナー開催時、教職員に参加を促す案内(メール)を複数回実施した。	B	【大学院】FDセミナー開催時には参加を教職員に促す。

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(3)他機関と連携した教育の充実【6】	<p>実施事項 ウ：</p> <p>高大連携事業の一環として西田川高校6名の生徒を科目等履修生として受け入れ、のべ8科目の授業を履修する機会を提供した。受講した科目全てにおいて単位付与が行われ、高校生の学びの深化と学修成果の向上に寄与した。</p> <p>また授業参観ウィークには86の科目を公開し、15名の生徒がのべ18科目の授業に参加した。参加した生徒の専門的知識の探求に対する関心を喚起し、主体的な学びの重要性などを気づく機会を提供でき、将来の進路選択に繋がる貴重な学びの場となった。教員も高校生の理解を促しながら大学教育を意識した授業設計を行うことで、教育手法の見直しや専門的知識の教授に工夫する機会となり、指導の質の向上にもつながった。</p>

実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和6年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
<p>ア. 保健・医療・福祉系の高度専門職を育成するという観点から、地域の保健・医療・福祉機関等と連携して実習教育や学外教育を実施する。</p>	<p>実習教育・学外教育の実施と見直し</p>	<p>実習教育・学外教育の内容と方法を毎年度検証し、必要に応じて見直しを行う。</p>	<p>他機関と連携して実習教育や学外教育を実施する。</p> <p>効果的な実習教育及び学外教育を実施するために、「臨床教授制」を継続して実施し、臨地での充実した看護技術指導を実現する。また、年度末(3月)に実習指導者連絡会を開催し、臨地の指導者との連携を深める。</p>	<p>【人間社会学部】</p> <p>社会福祉コースでは、社会福祉協議会等の各種機関・施設との連携のもと実習を実施した。こどもコースは、公・私立保育所等において実習を行った。心理コースでは、宗像市・田川市の児童相談所等で実習を行った。地域社会コースでは、教職課程において、田川地区消防本部の協力により普通救命講習を実施した。</p> <p>「子育て支援」「社会調査実習Ⅰ」「社会的養護Ⅰ」等の授業では、自治体・施設の協力のもと学外教育を行った。</p> <p>内容と方法を検証した結果、令和7年度入学生から、心理コースの心理実習Ⅰ～Ⅲの履修条件を変更し、心理実習ⅢをⅢA・ⅢBに分割することとなった。</p> <p>【看護学部】</p> <p>臨床教授(教授・准教授・講師)の候補者を、称号付与規定に基づき審査し、6月に該当者に通知し(28名)臨地での充実した指導に繋ぐことができた。</p> <p>実習指導者連絡会を3月4日に実施し、令和6年度の実習実績、学生の看護技術習得状況と課題について報告した。</p> <p>また、本学の看護技術向上に向けた取り組みとして、DX教育の概要と学内演習の実際について紹介した。施設の参加者からは、学内での演習の展開がわかり、実習指導に生かしたい等の意見があった。17施設から27名が参加された。</p>	<p>B</p> <p>B</p>	<p>他機関と連携して実習教育や学外教育を実施する。その内容と方法を検証し、必要に応じて見直しを行う。</p> <p>令和7年度も効果的な実習教育を実施するために臨床教授制を継続して実施し、実習施設との連携をはかる。また、実習成果について、年度末の実習指導者連絡会を開催し、情報を共有してさらなる教育の充実を行う。</p>

実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和6年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
イ. ケアリングアイランド大学コンソーシアムの参加大学との連携をより一層進め、教育内容を充実させる。また、大学コンソーシアム構築・運用の実績とノウハウを生かし、新たな価値に基づく連合大学院構想を推進する。	ケアリングアイランド大学コンソーシアムにおける教育の充実	コンソーシアム参加大学との協議を毎年度行い、令和11年度までに教育内容を充実させる。	ケアリングアイランド大学コンソーシアムの参加大学との連携をより一層進め、教育内容を充実させる。	令和6年度コンソーシアム連携推進会議を6月14日、10月17日、1月17日、3月7日の4回開催し、12月27日に会員校の学長懇談会を開催した。	B	連携推進会議、学長懇談会を継続して実施するとともに、コンソーシアム共同授業(災害看護学)のコンテンツ見直しを図る。
	連合大学院構想の推進	連合大学院設置の検討を令和8年度までに開始し、令和11年度までに設置構想を作成する。	昨年度議論されてきた新しい価値をもとにした連合大学院構想を議論する予定である。	近年の大学及び大学院教育の現状と課題の把握に向け、積極的に情報収集を行い、検討を行っている。キーワードに「One Health」を取り上げて、各種の情報を収集した。	B	引き続き「One Health」を中心に他大学の取組状況等に関する情報収集を行う。
ウ. 高大連携事業として高校生に対して大学の授業を開放する。また、高校生へのアンケートを通して授業の質を向上させる。	ウ 高校生に対する授業の開放	高校生に対して大学の授業を毎年度開放し、アンケート結果に基づき必要に応じて授業内容や方法を改善する。	高大連携事業協定締結校の生徒を科目履修生として受け入れる。高等学校のニーズによる出前講義を実施する。FD活動の推進事業として実施している授業参観に高校生の受け入れを行う。	科目履修生の受け入れ 科目履修生:6名(延べ7名) 前期:6名 後期:1名(前期受講者) 授業参観ウィーク 参観校:3校 参観人数:15名(参加科目数:18名) 出前講義実施件数:14件	B	高大連携事業協定を締結している高等学校の生徒の受け入れを積極的に実施する。 また、授業参観ウィークについては、高校生が参加しやすい時期に開催できるよう、実施時期等を検討するとともに、対象校には早期に案内を行う。 さらに、出前講義については、ホームページで情報提供を行うとともに、各校のニーズに応じた対応を図る。

項目別の状況（中期計画項目）	
3. 教育の国際化の推進 国際的な視野を持ち、異文化や多様な価値観を尊重しながら、他者と協働することができる人材を育成するため、国外の大学等との連携により、多様な交流活動等を通じて国際化に対応した教育を推進する。	

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(1) 国際交流事業の推進【7】	交換留学、イギリス海外語学実習、韓国短期研修の実施に加え、オンラインを利用して本学学生と海外の学生の交流する機会を提供した。南京師範大学とは両大学の学生がzoomを利用してディスカッションを行い、イギリスのオックスフォード・ブルックス大学日本語学科との学生交流も行った。

実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和6年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
国際交流センターを中心に事業を充実させ、国外の大学等と連携し、留学生の派遣と受入れを推進する。	留学生(派遣・受入)数	毎年度延30名以上(受入数15名程度、派遣数15名程度(オンラインも含む))	協定校との交換留学や海外短期派遣研修、オンラインを利用した交流等を実施する。	<p>受入数 56名 (交換留学:韓国・大邱韓医大2名、中国・南京師範大学2名、南京師範大学オンライン交流イベント:18名、オックスフォードブルックス大学オンライン日英バーチャル交流:34名)</p> <p>派遣数 29名 (交換留学:韓国・大邱韓医大1名、韓国・三育大1名、中国・南京師範大学1名、海外語学実習:イギリス5名、南京師範大学オンライン交流イベント:9名、韓国短期研修:7名、オックスフォードブルックス大学オンライン日英バーチャル交流:5名)</p>	A	協定校との交換留学や海外短期派遣研修、オンラインを利用した交流等を実施する。 また、令和6年度に交流を深めてきた韓国東国大との協定締結に向けた取組を進める。

項目別の状況（中期計画項目）
4. 意欲ある学生の確保 効果的・戦略的な募集広報活動を展開するとともに、入学選抜方法の検討・見直し・検証を行い、DEIAの理念に基づいて大学が求める資質・能力を持ち、学ぶ意欲の高い多様な学生を確保する。

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(1)入学選抜の実施と検証【8】	実施事項 ア： 【学部】 新入生の背景を分析し戦略的な募集広報活動を実施したことに加え、令和6年度の受験動向などの複合的要因が効果的に影響し、一般入試志願倍率4.8倍を達成することができた。公立大学の入試を取り巻く厳しい状況は今後も続く予想されるため、引き続き戦略的な募集広報活動を行う。 【大学院】 人間社会学研究科、看護学研究科ともに受験者が定員数を上回り、合格者全員(27名)が入学手続きを完了した(100%)。

実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和6年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
ア. 受験者確保及び定員充足のための効果的な広報活動を検討し、目的及び対象者に応じた戦略的な募集広報活動を通じて、志願倍率や定員充足率を維持・向上させる。	志願倍率<全学(学部)の志願倍率(一般入試)>	毎年度3.2倍以上	【学部】目標とする志願倍率を達成するため、戦略的な募集広報活動を実施する。	【学部】 入試説明会・高校訪問は55件、オープンキャンパスは1回(8月3日)実施した。7月に入試要項・募集要項を大学HPに掲載した。全学(学部)の一般入試志願倍率は4.8倍(人間社会学部4.8倍、看護学部4.8倍)だった。	A	【学部】 目標とする志願倍率を達成するため、戦略的な募集広報活動を実施する。
	定員充足率<大学院各研究科>	毎年度100%	【大学院】両研究科とも定員充足率100%を達成する。	【大学院】 人間社会学研究科、看護学研究科の合格者全員(27名)が入学手続きを完了した(100%)。その後、2名の辞退があり、最終的な定員充足率は、92.6%となった。 人間社会学研究科(定員15名) 社会福祉コース4名 心理臨床コース8名 子ども教育コース2名 看護学研究科(定員12名) 研究コース6名 助産コース5名	A	【大学院】 両研究科とも戦略的な募集広報活動を通して、定員充足率100%を達成する。
	オープンキャンパス参加者アンケート	毎年度良好評価90%以上	【学部】オープンキャンパスにおいて参加者アンケートを実施する。	【学部】 8月3日に開催したオープンキャンパスの参加者アンケートで良好評価は92.3%であった。	B	【学部】 オープンキャンパスにおいて参加者アンケートを実施する。

実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和6年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
イ. 選抜方法の検討と改善のため、入学選抜方法や入学選抜時の成績と入学後の成績推移の関係等に関する分析を行う。	入学者の成績の分析	毎年度実施	令和6年度入学者の入学後の成績推移と入学選抜方法及び入学試験の成績との関係について分析を行う。	令和6年度入学者の入試時と前期の成績を比較し、入学選抜方法及び入学試験との関係について分析を行った。 また、分析結果について、学内で共有した。	B	令和7年度入学者の入学後の成績推移と入学選抜方法及び入学試験の成績との関係について分析を行う。
ウ. 学力の3要素(「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」)の評価に基づき、意欲の高い多様な学生を確保するため、選抜方法の検討と見直しを行う。	学部入試科目の見直し	令和6年度に実施する入学者選抜から実施	【学部】令和5年度に見直した入試科目に基づいて適切に入学者選抜を実施する。	【学部】令和5年度に見直した入試科目に基づいて学校推薦型選抜、一般選抜を実施した。	B	【学部】令和5年度に見直した入試科目に基づいて適切に入学者選抜を実施する。
	DEIAの理念に基づいた学部入試の選抜方法の見直し	令和8年度まで検討を行い、令和9年度以降に見直しを実施	【学部】学部入試の選抜方法について検討する。	【学部】学校推薦型選抜の募集人員や入試方法について各学科で検討した。 また、学校推薦型選抜の合格者に共通テストの「英語」の受験を課すことを決定した。	B	【学部】学部入試の選抜方法について検討する。
	学部入試の選抜方法と試験内容の見直し	以下について、令和8年度まで検討を行い、令和9年度以降に実施する入学者選抜から見直した選抜方法、内容で実施 ・各入試選抜の定員比率 ・選抜方法 ・試験内容	【学部】令和4年度に行った各学科の各種選抜方法の受験状況と入学後のGPAの照らし合わせを踏まえ、各入試選抜の定員比率、選抜方法、試験内容について検討する。	【学部】各入試選抜の定員比率については、学科ごとに決定することとなった。選抜方法と試験内容については、総合型選抜入試の情報を入試部会内で共有した。	B	【学部】各学科の各種選抜方法の受験状況と入学後のGPAを踏まえ、入試選抜の定員比率、選抜方法、試験内容について検討する。
	大学院入試選抜の見直し	以下について、令和6年度まで検討を行い、令和7年度以降に見直しを実施 ・入試選抜実施時期 ・入試科目	【大学院】令和5年度に見直した入試選抜方法について、引き続き検討を行う。	【大学院】B日程の実施時期を他大学院の日程や受験者の状況など考慮しながら検討し、昨年度よりも約2週間早めて実施した。 人間社会学研究科では、令和7年度実施の心理臨床コースの入試日程をA日程へ変更することも検討したが、受験者の状況を考慮した結果B日程での実施を判断した。 看護学研究科では、すでにA及びB日程の時期を早め、入試科目などを修正したため、その結果を受けて、分析し継続して検討している。 入試科目については、社会福祉コースの受験科目で英語を廃止するなど、これまで検討してきた点について対応を行った。	B	【大学院】令和6年度に検討・実施した入試選抜方法を、引き続き実施しながら見直しを行う。

項目別の状況（中期計画項目）
<p>5. 学生支援の充実</p> <p>多様なニーズを持つ学生が主体的に学修を行い、健康で充実した学生生活を送るため、学修・学生生活支援体制の充実・強化を図るとともに、経済的に学修が困難な学生に対する適切な支援を行う。また、学生の職業観の醸成に向け、県内の産業界等との連携を強化することで、学生の意向に沿った進路の実現に資するキャリア支援を充実させる。</p>

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(1)学生の学修支援と生活支援【9】	<p>実施事項 ア：</p> <p>学生の主体的・協働的な学修を支援するため、令和7年度より附属図書館本館1階にラーニング・commonsの設置・運用を開始することが決定された。これは、令和8年度までに実施を予定していた達成目標を前倒しで実現したものである。多様な学修スタイルに対応した柔軟な空間として、学生の自律的な学びの促進が期待される。</p>

実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和6年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
ア. 学生の自主的学修を促すための環境整備を実施する。ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びを推進するため、情報基盤整備を行う。	附属図書館における学修ラウンジとICT環境整備	令和8年度までに実施	附属図書館における学修ラウンジとICT環境整備案を検討する。	附属図書館運営部会において学修ラウンジの整備を検討した結果、令和7年度より附属図書館本館1階にラーニング・commonsを設置し、運用を開始することが決定された。	A	令和7年度に附属図書館本館1階に設置するラーニング・commonsを運用を開始し、充実を図る。
	情報処理教室の機器更新	令和8年度までに実施	情報処理教室の機器更新案を検討する。	令和7年9月までに情報処理教室の機器更新を目指し、計画を進めた。	B	令和7年度中に情報処理教室1～3の機器を更新する。
	オンライン学修プラットフォームの改善	令和8年度までに実施	オンライン学修プラットフォームの改善案を検討する。	令和8年度からの新教務システム導入が決定し、オンライン学修プラットフォームの改善案を検討した。	B	令和8年度に導入予定の新教務システムにおける、オンライン学修プラットフォームの改善案を検討する。
	学内情報ネットワークの更新	令和10年度までに実施	学内情報ネットワーク(学内LAN)の更新案を検討する。	学内情報ネットワーク(学内LAN)の更新は直近で令和4年10月に行っており、更新後2年目に入り、問題点を検討した。	B	令和10年度に予定されている学内情報ネットワーク(学内LAN)の次期更新に向けて、課題を整理する。
イ. 配慮を必要とする学生の支援を行う。学生総合支援センターの機能を充実させる。	学生支援体制の充実	令和7年度まで検討し、令和8年度以降実施	配慮申請への支援決定を実施するとともに、支援体制の充実を図るための現状把握を進める。	昨年度27件に対して、38件の配慮を決定した(3月末時点)。配慮決定後の支援実施状況につき、現状把握と課題整理を実施した。	B	配慮申請への支援決定を実施するとともに、支援体制の充実を図るための検討を行う。
ウ. 経済的に学修が困難な学生に対する適切な支援のため、外部資金等を活用した本学独自の支援を継続する。	外部資金等を活用した本学独自の支援の継続	毎年度実施	国の就学支援新制度に基づく授業料減免制度を実施するとともに、本学独自の授業料減免制度及び分納制度を実施する。また、真島・市場特別奨学金や日本学生支援機構等、外部資金等を活用した支援策を実施する。	修学支援制度に基づく入学料減免及び授業料減免、大学独自の授業料減免及び分納制度を実施した。「真島・市場特別奨学金」による支援は、申請1名、貸付1名。「和田紘子奨学金」による支援は、申請2名、給付2名。	B	国の就学支援新制度に基づく授業料減免制度を実施するとともに、本学独自の授業料減免制度及び分納制度を実施する。また、真島・市場特別奨学金や日本学生支援機構等、外部資金等を活用した支援策を実施する。

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(2)キャリア支援【10】	オンラインの求人プラットフォームを用いた求人・インターンシップ情報等の提供や、学内就職説明会・キャリア支援講座の積極的な企画実施を行ったことにより、昨年度に引き続き、99%以上の高い就職率を達成した。

実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和6年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
学生の希望や資質に沿った進路実現に向け、就職・進学支援体制を充実させる。県内の産業界や病院・施設等と連携し、継続的・効果的なインターンシップや情報収集等を推進する。課外活動等を対象に含めた学生への評価・表彰制度を充実させる。	オンラインを利用した就職支援の実施	毎年度実施	学生支援班、キャリア相談室で実施する。	オンラインの求人プラットフォーム「キャリアタスUC」による求人・インターンシップ情報等の提供、Zoom等を用いたキャリア相談を実施している。	B	学生支援班、キャリア相談室で実施する。
	効果的なインターンシップの実施	毎年度実施	正課科目「プレ・インターンシップ」は授業担当者、正課外のインターンシップは学生支援班において実施する。	「プレ・インターンシップ」では受入先体験を実施した(9か所15人、8～9月)。正課外の業務体験、短・中期インターンシップは、インターンシップ推進協議会等と連携して実施した(23か所41人、8～9月)。	B	正課科目「プレ・インターンシップ」は授業担当者、正課外のインターンシップは学生支援班において実施する。
	就職率(就職者数/就職希望者数)	毎年度95%以上	学生の学科・コース、学生支援班、キャリア相談室で就職支援を実施する。内定状況等の全体把握は学生支援班で行う。	大学全体:99.5% 人間社会学部:99.2% 看護学部:100%	B	学生の学科・コース、学生支援班、キャリア相談室で就職支援を実施する。内定状況等の全体把握は学生支援班で行う。
	企業等に対するアンケート調査等	毎年度実施	進路・生活支援部会で調査内容の検討及び分析を行う(発送等は学生支援班)。	令和5年度卒業生の就職先165ヶ所に対して、11月にアンケートを実施し、結果の分析を行った。アンケートの回答数は65(回答率は39.4%)であった。	B	進路・生活支援部会で調査内容の検討及び分析を行う(発送等は学生支援班)。
	学内就職説明会、キャリア支援講座の開催	毎年度20回以上	各学科・コース、学生支援班、キャリア相談室で企画実施する。	学内就職説明会・キャリア支援講座:58回(3月末時点)	B	各学科・コース、学生支援班、キャリア相談室で企画実施する。
	学生への評価・表彰制度の充実	令和7年度まで検討し、令和8年度以降実施	進路・生活支援部会で、対象とする活動、実施手続等を検討する。	進路・生活支援部会で検討を開始した。	B	進路・生活支援部会で、対象とする活動、実施手続等を検討する。

II 研究に関する目標を達成するための措置

項目別の状況（中期計画項目）
1. 地域共生社会や高度福祉社会の実現に寄与する研究の推進 本学の特色を生かして、地域社会の課題、ニーズに対応した研究に意欲的に取り組む。特に、地域共生社会や高度福祉社会の実現に貢献するため、データ駆動型アプローチを用いて保健・医療・福祉の発展に役立つ研究を重点的に行う。データサイエンスの手法を駆使し、急速な情報化に伴って蓄積された膨大なデータから有益な情報を抽出し、データ分析を展開する。これらの研究成果を広く社会に発表し、社会に還元する。

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(1)地域の課題解決と保健・医療・福祉の発展に寄与する研究の推進【11】	実施事項 イ： 福岡県国民健康保険団体連合会との共同研究事業を開始し3年目となるが、人間社会学部、看護学部共に現在6件の研究が遂行されている。国保連の膨大なデータから有益な情報を抽出し、データ分析を展開し、疾病別医療費に関する研究や慢性腎臓病(CKD)のリスクアセスメントに関する研究の成果を県内市町村(保健師等担当者)に向け発表し、社会に還元した。

実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和6年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
ア. 地域・文化の振興、地域の課題解決に寄与する研究を推進する。	地域・文化の振興、地域の課題解決に寄与する研究プロジェクトの実施	毎年度3件以上	重点領域研究とプロジェクト研究データサイエンス研究を公募する。附属研究所ホームページに重点領域研究の進捗状況に関する情報発信を定期的に行う。研究奨励交付金附属研究所重点領域研究及びプロジェクト研究、データサイエンス研究に対して、研究促進のため共同研究室を提供する。	重点領域研究及びCOC研究の公募を実施し、それぞれ2件ずつ、合計4件のプロジェクト研究を採択した。 また、同研究プロジェクトに対して、共同研究室を提供し、地域課題に関する研究活動を推進した。	B	地域・文化の振興、地域の課題解決に寄与する研究プロジェクトとして、附属研究所研究奨励交付金による重点領域研究とCOC研究を公募する。あわせて、採択された研究の円滑な遂行と連携促進を支援するため、共同研究室を提供する。
イ. 保健・医療・福祉の発展に寄与するデータサイエンス研究を推進する。	保健・医療・福祉の発展に寄与するデータサイエンス研究の実施	毎年度2件以上	福岡県国民健康保険団体連合会との共同研究事業による国保データベース(KDB)システムの研究の募集枠を設ける。	国保データベース(KDB)システムを活用したデータサイエンス研究の公募し、6件を採択した。 また、そのうち2件研究成果を県内市町村向けの内容を発信し、現場(県・市町村)との共同を図った。	A	附属研究所研究奨励交付金によるデータサイエンス研究の公募を行い、保健・医療・福祉の発展に寄与する研究を推進する。その一環として、福岡県国民健康保険団体連合会との共同研究事業による国保データベース(KDB)システムを活用した研究を公募する。

実施事項	年度の特に優れた実績や成果					
(2)本学の特色を生かした研究成果の発表と社会への還元【12】						
実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和6年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
ア. 本学の研究成果を成果報告会やウェブサイト等を通じて積極的に発表する。	本学の特色を生かした研究成果報告会での発表件数	毎年度7件以上	本学の特色を生かした研究成果報告会を実施する。	令和7年3月3日に、令和6年度附属研究所研究奨励交付金事業に関する成果報告会を開催し、7件の研究成果が発表された。	B	本学の特色を生かした研究成果報告会を実施する。
	附属研究所ウェブサイト上での本学の特色を生かした研究成果の発表	毎年度更新	附属研究所ウェブサイト上での本学の特色を生かした研究成果の発表を掲載する。	令和6年度に採択された2件の重点領域研究の進捗状況を、附属研究所ウェブサイト上で随時掲載した。	B	附属研究所ウェブサイト上での本学の特色を生かした研究成果の発表を掲載する。
イ. 本学の研究成果を広く社会に還元するため、オープンアクセス形式の成果公表を推進する。	機関リポジトリによるオープンアクセス形式の成果公表	毎年度20件以上	本学の研究成果を機関リポジトリに収録し、公表する。	福岡県立大学人間社会学部紀要(19件)、福岡県立大学看護学部紀要(5件)、福岡県立大学心理臨床研究(3件)、福岡県立大学附属研究所報告書(26件)の以上53件を機関リポジトリに収録し、公表した。	B	本学の研究成果を機関リポジトリに収録し、公表する。

項目別の状況（中期計画項目）						
2. 研究支援体制の強化と外部研究資金の獲得拡大 研究活動を更に活性化させるため、教員の研究意欲及び研究水準の向上等に繋がる支援体制を一層充実させるとともに、他の大学、企業、研究機関等との連携を強化し、外部研究資金の獲得を拡大する。						

実施事項	年度の特に優れた実績や成果					
(1)教員の研究意欲及び研究水準を向上させるための研究支援体制の充実・強化【13】						

実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和6年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
ア. 附属研究所による多様な研究支援を行う。DEIAの理念に基づき、多様な人材がその個性を生かし、活躍できる研究環境作りに取り組む。	附属研究所による研究支援	毎年度研究奨励交付金等による研究支援10名以上	附属研究所運営部会を中心に取組み研究奨励交付金の公募を行う。	研究支援体制の整備・運用に取り組み、令和6年度は研究奨励交付金より11件(26名)の研究を支援した。	B	研究奨励交付金の公募を継続的に実施し、制度運営の透明性と支援の機能強化を図る。これにより、持続可能かつ戦略的な研究支援体制の確立を目指す。
	若手研究者をはじめとする多様な人材が活躍できる研究環境作り	令和8年度までに研究奨励交付金の助成枠の見直し	研究活動を更に活性化させるため、研究支援体制の充実・強化を図る。若手研究者の研究環境整備を支援する取り組みを推進する。	科研費申請のための研修会にて科研費基盤研究C・若手研究の採択者による体験談を7月31日に実施し、申請を呼びかけた。さらに若手研究者をはじめとする学内研究者を対象とした研究支援セミナー(個別相談)を8月9日に実施した。(参加者は3人)	B	研究活動の活性化を目的として、研究奨励交付金における助成枠の見直しを行うとともに、若手研究者をはじめとする多様な人材が活躍できる研究環境の整備を推進する。あわせて、研究支援セミナーの開催を通じて、研究力の向上及び研究支援体制の一層の充実を図る。
イ. 研究倫理や不正防止等に関する研修プログラムを実施し、研究者の倫理的な行動や研究水準の向上を促進する。	研究倫理・不正行為防止研修の受講率	毎年度100%	①研究倫理・不正行為防止研修を実施する。 ②研究費の適正使用に関する説明会を開催する。 ③研究倫理部会委員の学外研修を行う。	①研究倫理・不正行為防止研修を実施した。 ②研究費の適正使用に関する説明会を開催した。 ③研究倫理部会委員が学外研修(オンライン)に参加した(12月24日)。 研究倫理・不正行為防止研修及び研究費の適正使用に関する説明会:教員参加率100%	B	引き続き研究倫理・不正行為防止の取組を行い、教員参加率100%を達成する。
	学術成果件数	毎年度100件以上(うち、査読付き論文又は学術書50件以上)	年度末に学術成果件数の調査予定。	学術成果件数(査読付き論文又は学術書、その他の論文等):83件(うち、査読付き論文又は学術書39件)	B	学術成果件数の調査を踏まえ、学術成果の一層の向上に向けて、外部資金の獲得支援や研究者の能力開発に資する研修の充実を中心に、研究推進体制の強化に取り組む予定である。

実施事項	年度の特に優れた実績や成果					
(2)他の教育・研究機関等との連携強化と外部研究資金の獲得拡大【14】						
実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和6年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
ア. 他の教育・研究機関等と地域社会の課題やニーズに対応した共同研究を推進するため、本学研究者の研究シーズを積極的に公表する。	附属研究所ウェブサイト上での研究シーズの公表	毎年度更新	地域社会のニーズと本学の研究シーズとのマッチングを推進するために附属研究所のウェブサイト上に研究シーズ集を掲載する。	附属研究所ウェブサイト上の「研究シーズ集」を更新した。	B	地域社会のニーズと本学の研究シーズとのマッチングを推進するために附属研究所のウェブサイト上に研究シーズ集を掲載する。
イ. 他の教育・研究機関等と研究に関する連携を円滑にするための仕組みを整備する。	共同研究取扱規則や受託研究取扱規則等の見直し	令和8年度までに見直し	他の教育・研究機関等と研究に関する連携を円滑にするための仕組みを整備するため部会で検討する。	共同研究取扱規則や受託研究取扱規則等の検討を行った。	B	他の教育・研究機関等と研究に関する連携を円滑にするための仕組みを整備するため部会で検討する。
ウ. 外部研究資金の募集情報を積極的に収集し、それを学内で共有し、外部研究資金への応募を促進するための研修会を実施する。	外部研究資金獲得に向けた研修会	毎年度1回以上	外部研究資金獲得のための研修会を実施する。	科研費申請のための研修会を会場への対面参加に加えて、リアルタイムでのオンライン参加、録画の事後視聴での参加ができる形式で7月31日に実施した。	B	外部研究資金獲得のための研修会を実施する。
	外部研究資金獲得件数(継続を含む)	毎年度30件以上	若手研究者に対して、科研費申請書の添削・相談を行う。	若手研究者を対象に科研費申請に関する相談・添削を5件実施した。 また、令和6年度の科研費獲得件数は30件であった。	B	若手研究者に対して、科研費申請書の添削・相談を行う。
	外部研究資金応募件数(新規分)	毎年度50件以上	外部研究資金獲得のための研修会を実施する。	科研費申請のための研修会を会場への対面参加に加えて、リアルタイムでのオンライン参加、録画の事後視聴での参加ができる形式で7月31日に実施した。 外部研究資金応募件数(新規分)、68件。	B	外部研究資金獲得のための研修会を実施する。

項目別の状況（中期計画項目）
3. 国際的な学術交流と共同研究の推進 国際的な共通課題の解決に寄与するため、海外の大学や研究機関との学術交流と共同研究を一層推進する。

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(1)海外の大学等の研究者との学術交流の推進【15】	

実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和6年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
ア. 海外の研究者との国際共同研究や海外研修を推進する。	国際共同研究	毎年度1件以上	国際共同研究を推進するために、プロジェクト研究に国際研究の応募枠を設ける。	国際共同研究を推進するために、プロジェクト研究に国際研究の募集枠を設け公募し、2件を採択した。	B	国際共同研究を推進するために、プロジェクト研究に国際研究の応募枠を設ける。
	海外研修	毎年度3名以上	3名以上海外研修が行われるように海外研修を募集する。	各学部を設置された研修部会の審議を経て実施される学外研修制度により、12名の教員が海外での研究活動に取り組んだ。	B	3名以上海外研修が行われるように海外研修を募集する。
イ. 国際学術誌への論文投稿を推進する。	研究奨励交付金による国際学術論文投稿助成枠	毎年度2件以上	研究奨励交付金(研究論文出版補助)にて国際学術論文投稿助成枠を設ける。	研究奨励交付金による国際学術論文投稿助成枠2件を設けて公募した。	B	研究奨励交付金(研究論文出版補助)にて国際学術論文投稿助成枠を設ける。

Ⅲ 地域貢献に関する目標を達成するための措置

項目別の状況（中期計画項目）

1. 生涯を通じた多様な学びの場の提供と地域の保健・福祉等の向上の推進

大学が有する人的・物的資源や教育研究成果を生かして、保健・医療・福祉人材のキャリアアップに資する教育プログラムなど、生涯を通じた多様な学びのニーズに応える機会を提供するとともに、地域の団体に対し、本学の資源を学びの場として活用する機会を提供し、地域の学習コミュニティの形成を支援し、「全世代型キャンパス」に向けた取組を積極的に行う。また、地域における知の拠点としての役割を踏まえ、県の各種施策や自治体、企業等との連携を深め、不登校対策をはじめとする地域の教育活動の支援や保健・福祉の向上等に繋がる取組を積極的に推進し、地域社会の発展に貢献する。

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(1)県民への多様な学習機会の提供【16】	<p>実施事項 ア：【公共社会学科】 田川市との連携のもと社会調査実習を実施した。公共社会学研究Ⅱ（陸ゼミ）でも2月21日に伊万里市シティプロモーション推進課等との共催による「公共社会学科リカレント教育プログラムまちづくり政策能力講座」を実施した。セミナーでは、「伊万里市大学生等フィールドワーク・イベントの実施推進事業補助金」対象事業として採択され、フィールドワーク(2泊3日)とZoomを利用して実施された調査結果が報告された。セミナーには、伊万里市関係者5名、田川市関係者2名が参加し、「データに基づき客観的にまちの様子を理解することができた」「他地域での取り組みを知ることで、まちづくりの参考になった」等の声が聞かれ、まちづくり関係者の相互学習の機会を提供することができた。また、参加者から「現地の生の声を聞き説得力の高い素晴らしい分析」等の講評をいただき、学生にとっても、データ収集・分析、研究報告書の作成、研究発表を経験する機会となり、本学科のアクティブラーニングの充実にもつながった。</p> <p>実施事項 イ： 県民へ生涯を通じた多様な学びのニーズに応える機会を提供する機会として実施されている公開講座について、本年度Ⅰ～Ⅳと子ども関連から高齢者まで幅広くテーマで実施し、参加者は延985名となった。これは県民の地域の教育活動の支援や保健・福祉の向上につながる展開であり、地域社会の発展に貢献した。</p>

実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和6年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
ア. 資格・免許保持者等へのリカレント教育や研修を実施する。	リカレント教育や研修の実施回数	毎年度3回以上	【公共社会学科】 田川市等との連携のもと実施する社会調査実習等において、行政職員などに地域運営等についての学びなおしの機会を提供する。	【公共社会学科】 田川市との連携のもと社会調査実習を実施した。公共社会学研究においても2月21日に伊万里市シティプロモーション推進課等とリカレントセミナーを実施した。	A	田川市等との連携のもと実施する社会調査実習等において、行政職員などに地域運営等についての学びなおしの機会を提供する。
			【社会福祉学科】 リカレントセミナーの実施。	【社会福祉学科】 12月14日に「権利擁護の現状と課題」をテーマにリカレントセミナーを実施した。	B	リカレントセミナーを1回実施する(12月を予定している)。
			【人間形成学科 こどもコース】 ホームカミングデーを11月30日開催予定である。	【人間形成学科 こどもコース】 11月30日に実施した。令和6年度は映画「こどもかいき」の上映を中心に据えて開催した。	B	ホームカミングデーを開催する。
			【人間形成学科 心理コース】 心理臨床研究会を年6回開催する。	【人間形成学科 心理コース】 6回(7月28日、9月22日、12月8日、1月26日、2月16日、3月9日)開催した。延べ参加人数は153名(オンライン含む)。	B	令和7年度も心理臨床研究会を年6回開催する。コロナ禍以降、オンライン研修の機会が増えているため、開催日や開催回数の検討を行う予定である。
			【看護学科】 リカレント教育部会において、各部門(看護師、保健師、助産師、養護教諭、大学院修了生)と協働しリカレント教育等を企画・実施する。	【看護学科】 看護師部門はケアカフェたがわを7月19日及び10月4日に実施した。保健師部門は8月23日、3月18日に、助産師部門は2月28日にリカレント研修を実施した。また養護教諭部門は看護師部門と共同リカレント研修を3月8日に実施した。	B	各部門(看護師、保健師、助産師、養護教諭)のリカレント研修に取り組むとともに、リカレント教育における外部機関との連携について検討する。

実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和6年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
イ. 生涯を通じた多様な学びのニーズに応えるため、附属研究所等による公開講座等を実施する。	公開講座やセミナー等の実施回数	毎年度3回以上	公開講座の企画・運営には附属研究所公開講座小部会で取り組み、附属研究所を中心とした公開講座を実施予定。また公開講座企画の学内公募も行う。 保健・福祉・教育・心理等のテーマでセミナーやフォーラムを実施する。	公開講座ⅠからⅣの4講座を開催した。 公開講座Ⅰ「メンタルヘルスと不登校」1月14日から3月28日までVOD期間限定配信。 参加者は第1部518名、第2部273名。 公開講座Ⅱ「いのちをつなぐ～地域でのあたたかな看取りに向けて～」12月14日開催。参加者120名。 公開講座Ⅲ「職場におけるハラスメント問題を考える」3月5日、開催した。 公開講座Ⅳ「健診ひろめ隊」養成講座(全3回)、第1回は10月5日に開催。参加者数は9名。第2回は1月11日に開催。第3回は3月15日に開催。参加者は19名。 不登校・ひきこもり支援フォーラム「メンタルヘルスと不登校」を3月11日に開催。参加者は対面式24名、Zoom76名。 令和6年度は、公開講座の会話について学内公募制とした。公募は4件あり、延985名の参加を得た。	A	公開講座の企画・運営には附属研究所公開講座小部会で取り組み、附属研究所を中心とした公開講座を実施する。 また、公開講座企画の学内公募を引き続き行う。 保健・福祉・教育・心理等のテーマでセミナーやフォーラムを実施する。
ウ. 地域の学習コミュニティの形成を支援するため、地域の団体が、本学の資源を学びの場として活用しやすい仕組みを構築する。	地域の団体が、本学の資源を学びの場として活用しやすい仕組みの検討と実施	令和7年度までに実施	地域関連機関と連携・協力して地域の課題解決に向けての合同研修会の実施。	田川医師会との合同研修会を7月19日(参加者:70名)、10月4日(参加者:64名)に実施した。 地域の学習コミュニティの形成を支援する取組を通じて、筑豊市民大学と7月22日に協定(『全世代型キャンパス』推進に関する協定書)を結んだ。	B	地域関連機関と連携・協力して地域の課題解決に向けての合同研修会を実施する。
エ. 地域教育支援機構の機能を強化し、機構の下で「全世代型キャンパス」の具体化に向けた各年代の学びの場に資する事業等を体系的に整理するとともに、「全世代型キャンパス」について県民に周知する。	地域教育支援機構の機能強化	令和6年度までに実施	運営体制の整備に取り組む。	現行の体制(不登校・ひきこもりサポートセンター、社会貢献ボランティア支援センター)を確認した。	B	現状の実施状況に合わせ、運営体制について整備を進める。
	「全世代型キャンパス」の具体化に向けた体系的整理	令和8年度までに実施	地域教育支援機構と各学部のリカレント教育担当者等との協働体制に向けた準備に取り組む。	大学が主催する地域住民等を対象とした教育やリカレント教育等の実施状況を把握するため、全学教職員対象の調査を3月に実施した。	B	再度、調査を実施するとともに、得られた情報を世代別の一覧にまとめ、整理する。
	「全世代型キャンパス」の周知	令和8年度までに実施	リーフレットを作成・配布するとともに、その内容をホームページ等に掲載する。	具体的内容や配布先等については検討中である。	B	具体的内容や配布先等について引き続き検討する。

実施事項	年度の特に優れた実績や成果					
(2)地域社会の発展に貢献する取組【17】	実施事項 ア・イ: 不登校・ひきこもりサポートセンターにおける小中高生への学習支援活動の実績は目標の約4倍となった。フリースクール(キャンパススクール)において生徒間のコミュニケーション能力を高めるためのグループワークに積極的に取り組んだ。さらに、県内の適応指導教室の児童生徒を対象とした日帰りキャンプの満足度は100%であった。公開講座の満足度も97%と高いものであった。					
実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和6年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
ア. 不登校・ひきこもりサポートセンターにおいて、相談支援や県大こどもサポーター、キャンパススクール等による不登校対策を中心とした地域の教育活動を支援する取組を積極的に推進する。	小中高生への学習支援活動	毎年度学習支援活動登録者50名以上	キャンパスキッズ、キャンパススクールなどの取り組みを通じて、学習支援を行う。	現在、教員、県大子どもサポーターとともに学習支援活動に取り組んでいる。196名の県大子どもサポーターがキャンパススクールで学習支援を実施した。	A	キャンパスキッズ、キャンパススクールなどの取り組みを通じて、学習支援を行う。
	利用者(センター等の利用者や研修等の参加者)満足度	満足度70%以上	メンタルヘルスや不登校に関する公開講座、フォーラムを実施する。また、相談支援や県大こどもサポーターとの協働の下、必要な教育活動に取り組む。	公開講座を「メンタルヘルスと不登校」のテーマとし、1月から3月末までの期間限定オンデマンド配信を実施した。フォーラムは3月11日に「メンタルヘルスと不登校」として、公開講座のテーマをさらに深化させることを目的に実施し、好評であった。 県内の適応指導教室の児童生徒を対象とした日帰りキャンプを10月に実施し、アンケート調査の結果では「満足」が100%となった。	A	メンタルヘルスや不登校に関する公開講座、フォーラムを実施する。また、相談支援や県大こどもサポーターとの協働の下、必要な教育活動に取り組む。
イ. 不登校・ひきこもりサポートセンターの認知度向上のため、県内の学校等にセンターの周知を行う。	利用者(センター等の利用者や研修等の参加者)満足度	満足度70%以上	メンタルヘルスや不登校に関する公開講座、フォーラムについて、県内の学校等に周知し参加を募る。	公開講座の周知を通じて、センターの周知を実施した。公開講座は「メンタルヘルスと不登校」をテーマに1月から3月末までの期間限定オンデマンド配信を実施し、結果、「満足」が97.1%となった。	A	メンタルヘルスや不登校に関する公開講座、フォーラムについて、県内の学校等に周知し参加を募る。
	不登校・ひきこもりサポートセンターの周知	毎年度実施	ホームページを用いて広報を行う。地域からの要請に応じて、視察の受け入れを行う。	ホームページを通じた広報活動に取り組んでいる。福岡県社会福祉協議会広報(10月号)にセンターの活動が掲載された。	B	ホームページを用いて広報を行う。地域からの要請に応じて、視察の受け入れを行う。

実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和6年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
ウ. 社会貢献・ボランティア支援センターにおいて、地域からの依頼に応える学生ボランティアの派遣やボランティアサークル活動の支援を行い、地域の保健・福祉の向上等に繋がる取組を積極的に推進する。	利用者(センター等の利用者や研修等の参加者)満足度	満足度70%以上	学生のボランティアコーディネート及び支援を実施する。 学生を対象としたボランティア研修を実施する。	外部団体の登録件数は269件となり、113件のボランティア依頼情報を学生に提供し、延べ1407人の学生が活動に参加した。延べ593人の学生相談に応じた。 学生を対象としたボランティア研修を実施した。7月24日に人型ロボット「ペッパー」を使用したプログラミング体験サポート研修(11人参加)、10月30日に白杖・車いす体験研修(3人参加)、1月22日に認知症サポーター養成研修(10人参加)を実施した。 研修参加者満足度(満足した・まあまあ満足した):92%	B	引き続き学生のボランティアコーディネート及び支援を実施するとともに、学生を対象としたボランティア研修を実施する。 外部機関等との連携を促進し、新たなボランティア活動の機会開拓を促進する。
エ. 心理教育相談室において、地域住民等を対象とした相談や支援する取組を推進する。			地域住民等を対象とした相談や支援を行う。	臨床心理面接を実施した(延べ1427回)。 「お父さんとお母さんの学習室」春季(4月～7月:10回)、秋季(10月～1月:10回)を開催し、各季3名の保護者が参加した。 令和5年度参加者の6ヶ月後フォロー(7月29日)と令和6年度参加者の3ヶ月後フォロー(10月7日)、6か月フォロー(2月17日)を実施し、各3名が参加した。 公開講座「子どもの行動理解と対応の仕方」を実施した。(9月22日学外62名参加)	B	地域住民等を対象とした相談や支援を行う。

IV 業務運営及び財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

項目別の状況（中期計画項目）
<p>1. 戦略的な大学運営の推進</p> <p>社会の課題に的確に対応するため、理事長のリーダーシップの下、大学の教育研究組織、経営状況等を検証・改善しつつ、大学の特色を生かし、価値の向上に繋げる戦略的・機動的な運営、人材の確保・育成を行うとともに、意欲的に他の大学等と連携し、多様な教育研究を効果的に推進する。併せて、社会的信頼性を確保するために、公立大学ガバナンス・コードの基本原則に沿った大学運営体制の構築を目指すとともに、業務の執行における法令遵守及び効率性の確保並びに内部統制の整備及び内部統制システムの継続的な見直しを行うことにより、ガバナンスを強化し、コンプライアンスを徹底するとともに、リスク管理の実効性を高める。</p>

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(1)大学の教育研究組織、経営状況等の検証・改善【18】	

実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和6年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
社会の課題に的確に対応するため、学内組織や学内資源の配分について検証を行う。また、第4期中期計画の実行に必要な組織体制を検討し、必要に応じ、見直し等を実施する。	学内組織や学内資源の配分の検証、検討及び見直し	令和7年度までに検証・検討を行い、必要に応じて速やかに見直しを行う。	以下の課題解決に向け、検証・検討を開始する。 1 旧生涯福祉研究センター（遊休土地）の有効活用 2 不登校・ひきこもりサポートセンターの機能強化	改革推進委員会に作業部会を設置し、課題解決に向けた検討を行った。	B	引き続き、改革推進委員会作業部会において検討を行う。

実施事項	年度の特に優れた実績や成果					
(2)戦略的・機動的な運営に必要な人材の確保・育成【19】	実施事項 ア： 現行の教員個人業績評価制度は、本学が法人化した平成18年以降実施され、平成26年度に一次評価に上限設定を導入後、運用されてきたものである。現行制度は一定の定着を見ているものの、改正より10年が経過し、制度本来の趣旨に合致しているか、今日的課題に照らし明確化できる項目はないか等に検証の必要があるとして、令和6年度に検証及び改善に向けた検討を重ねた結果、目標を前倒してシステム改正を実施することができた。 さらに教員への周知も終え、評価対象年度である令和7年度から、新教員業績評価システムの運用開始をする予定である。					
実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和6年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
ア. 教員の個人業績評価システムを検証し、改善に向けた検討を行う。	教員個人業績評価システムの検証及び改善に向けた検討の実施	令和7年度までに検証を行い、必要に応じて令和8年度に改正	教員個人業績評価システムの検証及び改善に向けた検討を行う。	事務局で検証及び改善に向けた見直しを行い、教員個人業績評価システムを目標を前倒して達成し改正した。さらに、改正内容についてチラシ及び動画で教員に周知した。	A	達成目標を前倒して令和6年度中に改正を終えたが、さらに必要に応じて新制度について周知する。
イ. 大学運営の専門的人材を確保するため、新規採用や職員配置等の職員人事方針を策定する。	職員人事方針の策定	令和8年度末までに策定	令和6年度中に職員人事方針策定の検討を開始する。	事務局で検討を開始した。	B	引き続き事務局で検討を行う。

実施事項	年度の特に優れた実績や成果					
(3)ガバナンスの強化、コンプライアンスの徹底及びリスク管理【20】						
実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和6年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
ア. 理事長と学長の責務・役割を明確にする。	法人規程等について、点検を行い、理事長と学長の役割を明確化し、必要に応じた規程等の改正	令和7年度までに点検、改正	令和6年度中に法人規程等の点検を行う。	法人規程等の点検に着手した。	B	引き続き法人規程等の点検を行い、必要に応じて規程の改正を行う。
イ. 法令遵守等の徹底及び意識醸成に係る啓発及び研修等を実施する。	啓発、研修の実施(人権、LGBT等)	毎年度1回以上	法令遵守等の徹底については、随時県からの通知文を部局長会議で報告し教授会等で周知を行う。研修会を開催する。	法令遵守等の徹底については、随時県からの通知文を部局長会議で報告し教授会等で周知を行った。 田川郡人権・同和対策推進協議会主催の研修に参加 前期研修:7月2日、4日 後期研修:1月9日、15日 人権委員会主催の人権研修実施 2月19日	B	引き続き法令遵守の徹底及び研修を実施していく。
ウ. 学内の防災、防犯、情報セキュリティ等の危機管理について、検証・改善を行う。	危機管理マニュアル等の点検と見直し	毎年度1回以上	福岡県立大学危機管理マニュアルに等について点検と見直しを行う。	福岡県立大学危機管理基本マニュアルについて点検と見直しを検討した。	B	引き続き点検と見直しを行う。
	防災訓練、防犯講習会、情報セキュリティ講習会の実施	毎年度各1回以上	防災訓練(学生寮合同消防訓練・学内消防訓練)、防犯講習会及び情報セキュリティ講習会を開催する。	防災訓練 学生寮合同消防訓練(5月29日実施) 学内消防訓練(11月14日実施) 防犯講習会 ＜新入生対象＞(4月9日実施) ※薬物乱用防止講習会をあわせて実施。 ＜2年生対象＞(4月4日実施) 情報セキュリティ講習会 情報セキュリティに関する動画を作成し、学内に周知(3月31日実施)した。	B	引き続き防災訓練、講習会等を行う。

項目別の状況（中期計画項目）
2. 業務の効率化及び財政基盤の強化 思い切った業務の見直しやデジタル化を進め、生産性向上、業務の変革に繋げることにより、経費の抑制を図る。また、付加価値の高い教育研究サービスを提供するため、適切な料金の設定、外部資金の獲得等を行うとともに、大学の多様な人的・物的資源を活用して自己収入を確保する。

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(1)業務の見直しやデジタル化による経費の抑制【21】	

実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和6年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
ア. 費用対効果を主眼に更なる業務のデジタル化等の可能性を検討する。	既存業務のシステム導入及び既存システムのリプレースの検討	令和8年度までに検討を完了する。	新教務システム導入に向け、仕様を確定し、業者選定を行う。	新教務システムの導入業者を決定。当該業者と詳細な仕様等について打合せを行った。	B	令和8年度の導入に向けて、システム導入業者と構築に係る協議を行う。
イ. 業務の見直し、アウトソーシング等を行い、経費を抑制する。	既存業務の見直し及び設備更新の実施	令和8年度までに検討を行い、順次実施する。	庶務事務システム導入に向け、必要な検討やシステム試行を行う。	令和7年4月1日に一部運用を開始した。	B	出張システムについては、令和7年度のできるだけ早い時期に運用開始予定。

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(2)財政基盤の強化【22】	<p>実施事項 ア：</p> <p>科学研究費の応募を積極的に促すための取り組みとして、学生の身分を有する助手でも科研費に応募できるよう、科研費応募に係る学内要件の見直しを行った。</p> <p>また令和6年度は新規事業の獲得が多く、その主なものとして、県内3町(糸田町、小竹町、筑前町)から委託された「不登校児童生徒等の早期発見・早期支援事業」、北九州市から委託された「北九州市職員の心の健康づくりのための計画」に関する委託費、田川市や伊万里市等からの補助金があり、科学研究費等と合わせて外部資金獲得目標を達成することができた。</p> <p>さらに、県内3町より委託された「不登校児童生徒等の早期発見・早期支援事業」については、本学の「地域における知の拠点」としての役割を踏まえ、地域の教育活動の支援のひとつとして地域社会に貢献することができた。</p>

実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和6年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
ア. 科学研究費の応募を積極的に促すための説明会等の開催、本学研究者の専門分野等を積極的に発信することにより、科学研究費、受託研究費等を積極的に獲得する。	外部資金(科研費、受託研究、寄付金等)獲得額	毎年度5千万円以上	学生の身分を有する助手でも科研費に応募できるよう、科研費応募に係る学内の要件を検討する。	学生の身分を有する助手でも科研費に応募できるよう、科研費応募に係る学内要件の見直しを行った。 外部資金獲得金額 51,848千円	B	外部資金を5千万円以上獲得する。
	科研費応募説明会の開催	毎年度1回以上	令和7年度科研費応募説明会を実施する。	7月31日に説明会を実施した。	B	引き続き説明会を行う。
	本学研究者の専門分野等の活動、紹介について、ウェブサイト等での広報の実施	毎年度1回以上	大学ウェブサイト内に各学部毎に教員紹介のページを設けて、いつでも本学研究者の専門分野等について確認できる体制を整える。	大学ウェブサイト内に各学部毎に教員紹介のページを設け、本学研究者の専門分野等について確認できるよう掲載した。	B	引き続き掲載し、変更等に応じて更新する。
イ. 学内施設等の外部への貸し出し等を積極的に行うとともに、寄宿舎使用料等の適正な設定について、必要に応じ見直しを行う。	施設貸出について、ウェブサイト等を活用した、広報の実施	毎年度1回以上	大学ウェブサイトの「施設貸し出しについて」に、利用時間、利用料金、申し込み方法等を掲載し、外部者の利用について周知を行う。	大学ウェブサイトの「施設貸し出しについて」のページを利用希望者が閲覧しやすいよう、ページ内のリンクを見直した。	B	利用者からの意見を聞く仕組みをつくり、ウェブサイトへの反映を検討する。
	寄宿舎使用料等の見直しを検討し、必要に応じて適宜実施	令和7年度までに検討を行い、必要に応じて速やかに見直しを行う。	寄宿舎使用料等の妥当性等について、検証方法の検討を行う。	寄宿舎使用料について、現行の算出方法や他大学の情報を進路・生活支援部会において共有した。 学内施設の利用料金について、近隣の同様施設などの利用料について情報収集した。	B	寄宿舎使用料当の妥当性について、検証を行う。 学内施設の利用料金について、収集した情報を基に適正な設定価格を検討する。

V 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するための措置

項目別の状況（中期計画項目）
1. 自己点検・評価 内部質保証システムを機能させ、適正に自己点検・評価を行うとともに、第4期中期計画の達成に向け、適切に進捗管理を行う。また、その評価結果及び第三者評価の結果を活用し、教育研究及び大学運営の改善、充実に推進する。

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(1)内部質保証システムの充実に強化【23】	

実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和6年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
ア. 内部質保証に関する部局間の役割分担や連携方法をより明確にするとともに、学内で保有する各種データや調査結果等を必要に応じて随時共有・活用できるOODAループの仕組みを作ることで、内部質保証システムを効果的に運用する。	各種データ等の共有・活用の仕組みの構築	令和8年度末までにデータ等を共有・活用する仕組みを構築し、令和9年度から試行運用を開始する。	内部質保証に関する部局間の役割分担や連携方法についての現状と課題を整理する。また、その結果をもとに学内で保有する各種データの共有・活用の仕組みのあり方を検討する。	学内で保有するデータの種類・内容と保有部局を把握するため、調査項目等の検討を行った。 また、自己点検・評価に関わる各種データの集積方法を検討するため、他大学の取り組みについて聞き取りを行った。	B	IR関連データの共有・保有に関する他大学の取り組みを具体的に把握し、本学の参考とすることが課題である。 内部質保証に関する部局間の役割分担や連携方法についての現状と課題を整理する。 また、その結果をもとに学内で保有する各種データの共有・活用の仕組みのあり方を検討する。
イ. 第4期中期計画の達成に向け、体制を整備するとともに、適切に進捗管理を行う。	第4期中期計画の達成に向けた体制整備と進捗管理	令和6年度中に体制を整備し、毎年度1回以上進捗管理を行う。	第4期中期計画1年目となる令和6年度の進捗管理体制を整備する。	令和6年度進捗管理のための会議(IRサイクル総合会議)を整備し、3か月に一度開催した。	B	IRサイクル総合会議を円滑に進め、進捗管理と課題抽出を的確に行う。

実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和6年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
ウ. 大学運営に関わる各種事項について現状を把握したうえで継続的に自己点検・評価を行い、結果を公表する。また、令和10年度に大学機関別認証評価を受審し、結果を公表することにより、第4期中期計画期間中の自己評価及び外部評価結果を学内で共有する。以上の評価結果から今後の課題を検討し、経営陣を含めた学内組織全体で大学運営を改善する。	アニュアルレポート発行	毎年度1回	令和5年度アニュアルレポートを発行する。また、令和6年度アニュアルレポートの内容について検討を行う。	アニュアルレポートを2月に発行した。また、令和6年度アニュアルレポートの掲載項目について見直しを開始した。	B	令和6年度アニュアルレポートを発行する。
	自己点検・評価セミナーの開催	毎年度1回以上・自己点検・評価に関する学内セミナーの開催	自己点検・評価に関する学内セミナーを開催する。	第3期法人評価結果と第4期中期計画の学内説明をテーマとして学内セミナー(第1回)を1月8日に開催した。 また、「教育・研究・社会貢献活動一覧」の見直しについての説明会として学内セミナー(第2回)を2月13日に開催した。	B	自己点検・評価に関する教職員の意識向上や啓発をさらに進めることが課題である。 自己点検・評価に関する学内セミナーを開催する。

項目別の状況（中期計画項目）

2. 情報公開・情報発信
 大学情報を積極的に公開し、公立大学法人としての説明責任を果たすとともに、大学の活動状況を効果的に情報発信してプレゼンスを向上させ、県民及びステークホルダーの理解・支持を獲得する。

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(1)積極的な情報公開及び情報発信の実施【24】	ウェブサイト等における大学情報の公開及び県民・ステークホルダー向けの情報発信の実施において、達成目標回数を上回る成果が得られた。両学部や部会でのイベントや研修会のお知らせなど大学情報を積極的に公開することで、情報発信回数の目標達成につながった。

実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和6年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
教育、研究、地域貢献、業務運営及び財務内容、自己点検・評価に関する大学情報を積極的に公開し、公立大学法人としての説明責任を果たすと同時に、地域社会にとって有益な情報を積極的に発信することにより、県民やステークホルダーの理解・支持を得るよう努める。	ウェブサイト等における大学情報の公開及び県民・ステークホルダー向けの情報発信	毎年度50回以上	教育、研究、地域貢献、業務運営及び財務内容、自己点検・評価に対して公開する情報を把握し、積極的に公開する。 地域社会にとって有益となる情報について公開する。 50回/年度	各部局情報の公開状況の把握に努め、進捗管理や助言・提案等を行う。 情報の発信については、96回（内訳：イベント11、お知らせ52、教員公募5、入試15、広告13）であった。	A	令和7年度は、県民やステークホルダーにより一層理解しやすい情報発信（教育、研究、地域貢献、業務運営及び財務内容、自己点検・評価）に関する大学情報を積極的に公開するための発信内容と方法について検討する。

特記事項

【今年度実績】

- ①人間社会学部の社会福祉学科に高等学校教諭一種免許状（福祉）、人間形成学科に特別支援学校教諭二種免許状（知的障害者・肢体不自由者・病弱者）の教職課程認定を受けた。なお、特別支援学校教諭二種免許状は、「特定分野に強みや専門性を持つ学科等に係る特例」が適用された（全国で2校のみ）。
- ②本学の全学横断型教育プログラムである「データサイエンス・プログラム」が、文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」の認定を受けた。今後、生成AIなどの先端的な情報技術の進展を踏まえ、教育内容及び授業方法の継続的な見直しを行い、授業の質の維持・向上に取り組んでいく。
- ③電動車椅子を使用する重度の障がいがある生徒がオープンキャンパスの参加を希望したため、DEIAの理念に基づき、その受け入れ体制を整備した。また、その生徒は、在籍する特別支援学校長の推薦を受けて学校推薦型入学者選抜試験に志願したため、受験に際しての合理的な配慮を実施した。さらに、合格した当該生徒の入学後の学修に関わる支援計画を策定するとともに環境の整備を行った。
- ④社会貢献ボランティア支援センターにおける新たな取り組みとして、フードバンク事業を実施する地域のNPO団体と協働し、生活困窮世帯等に対して食料支援を実施してもなお余剰となった食品を学生が引き受ける活動を開始した。食べることで食品ロス削減に貢献するボランティア活動（通称「食ベボラ」）に取り組んだ。令和6年度は計7回開催し、学生は延べ約1,750人が参加した。
- ⑤自己点検・評価の一環として、教員1人ひとりの1年間の活動に関する振り返りと令和7年度に向けた課題を整理するため、「教育・研究・社会貢献活動一覧」に自己評価欄を追加した。令和6年度分の「教育・研究・社会貢献活動一覧」から自己評価欄の記載を開始した。

2024（令和6）年度

教育・研究・社会貢献活動一覧

福岡県立大学

【 凡 例 】

- (1) この「教育・研究・社会貢献活動一覧」は、2024（令和6）年度、福岡県立大学に専任教員として在籍した者を対象とし、2025（令和7）年2月の時点で、1人あたり2頁を目安に報告をまとめている。
- (2) 「主な研究分野」は、専門研究者向けではなく、一般の方向けの自己PRとして記載している。
- (3) 「研究業績」は、過去3年間分を記載している<2022（令和4）年度～2024（令和6）年度>。業績数が多い教員については、一部省略している場合がある。
- (4) 「外部研究資金」は、2024（令和6）年度に資金を得ているものを記載している。
- (5) 「受賞」は、2024（令和6）年度の実績を記載している。
- (6) 「所属学会」は、2024（令和6）年度の所属状況を記載している。
- (7) 「担当授業科目」は、原則として2024（令和6）年度の担当授業を記載している。なお、助手については、補助業務を担当している授業科目を記載している。
- (8) 「社会貢献活動」は、2024（令和6）年度の状況を記載している。
- (9) 「学外講義・講演」は、2024（令和6）年度の実績を記載している。学会での講演は、「研究業績」欄に記載し、ここにはそれ以外のものを記載している。また、会場は学内であっても、学外者向けのものはこちらに含まれている。なお、大学等での非常勤講師は含まれていない。
- (10) 「附属研究所の活動等」は、2024（令和6）年度の状況を記載している。

<目 次>

【掲載順】

両学部ともに職名順とし、同一職名内は姓の50音順である。

〈人間社会学部〉

1 教授	池田	孝博	1
2 教授	石崎	龍二	4
3 教授	岩橋	宗哉	7
4 教授	上野	行良	9
5 教授	岡本	雅享	11
6 教授	小嶋	秀幹	13
7 教授	佐野	麻由子	16
8 教授	杉野	寿子	19
9 教授	Stuart	Gale	23
10 教授	住友	雄資	26
11 教授	堤	圭史郎	28
12 教授	藤澤	健一	31
13 教授	本郷	秀和	33
14 教授	村山	浩一郎	36
15 教授	森脇	敦史	39
16 教授	吉岡	和子	41
17 准教授	池	志保	44
18 准教授	伊勢	慎	47
19 准教授	井上	奈美子	50
20 准教授	奥村	賢一	53
21 准教授	河本	恵美	56
22 准教授	河野	高志	58
23 准教授	小山	憲一郎	60
24 准教授	坂無	淳	63
25 准教授	柴田	雅博	66
26 准教授	寺島	正博	68
27 准教授	中原	雄一	71
28 准教授	中村	晋介	74
29 准教授	廣田	久美子	76

30 准教授	松岡	佐智	79
31 准教授	麦島	剛	82
32 准教授	陸	麗君	85
33 准教授	鷺野	彰子	88
34 講師	黒川	すみれ	91
35 講師	小林	亮太	94
36 講師	櫻井	晋伍	96
37 講師	菅原	航平	99
38 講師	董	秋艶	102
39 講師	畑	香理	104
40 講師	宮原	和沙	107
41 助教	岡本	浩美	110
42 助教	古賀	なな子	112
43 助教	二見	妙子	114
44 助手	佐藤	繁美	117

〈看護学部〉

1 教授	石田	智恵美	119
2 教授	江上	千代美	122
3 教授	尾形	由起子	125
4 教授	田吹	香子	128
5 教授	永嶋	由理子	130
6 教授	波止	千恵	132
7 教授	福田	和美	135
8 教授	松浦	賢長	138
9 教授	村方	多鶴子	141
10 准教授	芋川	浩	143
11 准教授	加藤	法子	146
12 准教授	四戸	智昭	149
13 准教授	杉野	浩幸	151
14 准教授	田中	美樹	153
15 准教授	富崎	ゆかり	156
16 准教授	中井	裕子	158
17 准教授	原田	直樹	160
18 准教授	三浦	由紀子	163

19	准教授	山下	清香	166
20	准教授	山田	美幸	169
21	准教授	吉田	静	171
22	講師	石田	都乃	174
23	講師	於久	比呂美	176
24	講師	小野	順子	178
25	講師	梶原	由紀子	181
26	講師	小出	昭太郎	184
27	講師	塩田	昇	186
28	講師	手島	聖子	188
29	講師	藤野	靖博	190
30	講師	宮本	いずみ	192
31	講師	村田	和子	196
32	講師	安河内	静子	198
33	講師	安永	薫梨	200
34	講師	吉川	未桜	202
35	助教	猪狩	崇	205
36	助教	植田	愛	207
37	助教	鹿嶋	聡子	209
38	助教	清原	智佳子	211
39	助教	笹山	万紗代	213
40	助教	清水	夏子	215
41	助教	新	友子	217
42	助教	田原	千晶	219
43	助教	中村	美穂子	221
44	助教	平塚	淳子	224
45	助教	廣瀬	理絵	227
46	助教	松山	美幸	229
47	助教	御手洗	みどり	231
48	助教	村上	香織	233
49	助教	山口	馨子	236
50	助教	吉田	麻美	238
51	助手	石田	祐子	241
52	助手	大場	美緒	243

人間社会学部／こどもコース	職名	教授	氏名	池田孝博
---------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

1992.3 筑波大学大学院修士課程体育研究科修了（体育学修士）、應義塾中等部（教諭）、佐賀短期大学（准教授）を経て、2009.4 本学着任 2009.3 福岡大学大学院スポーツ健康科学研究科博士課程後期修了（博士（スポーツ健康科学）） 2017.4 福岡県立大学大学院人間社会学研究科子ども教育専攻 特別研究担当教員 2023.10 鹿屋体育大学連携大学院 客員教授
 発育発達学、体育・スポーツ測定評価学、スポーツ統計学

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 田中美樹・吉川未桜・吉田麻美・中原雄一・杉野寿子・池田孝博，入院中の子どもを支える保育士と看護師の専門性を活かした協働（第1報）－業務内容の現状分析－．福岡県立大学看護学部紀要，20：9-20，2023.
- ・ 吉川未桜・田中美樹・吉田麻美・中原雄一・杉野寿子・池田孝博，入院中の子どもを支える保育士と看護師の専門性を活かした協働（第2報）－協働の現状と課題－．福岡県立大学看護学部紀要，20：21-32，2023.
- ・ 井手裕子・伊勢慎・池田孝博，保育者の困り感への対応における知識・技術獲得の現状と課題．福岡県立大学人間社会学部紀要：31(2)：17-33，2023.
- ・ 田中美樹・吉川未桜・吉田麻美・杉野寿子・中原雄一・池田孝博，新型コロナウイルス感染症拡大による入院中の子どもを支える上での看護師と保育士の困難感．福岡県立大学人間社会学部紀要：31(2)：85-93，2023.
- ・ 池田孝博，福岡県立大学生ドイツ派遣に関わる事前調査報告．福岡県立大学人間社会学部紀要：31(2)：95-107，2023.
- ・ 杉野寿子・吉川未桜・田中美樹・吉田麻美・池田孝博・中原雄一，入院中の子どもの権利と家族のQOLに関する課題．福岡県立大学人間社会学部紀要，31(1)：71-80，2022.
- ・ 伊勢慎・池田孝博・櫻井国芳・古橋啓介，子どもの道徳・規範意識と運動に関する一考察．福岡県立大学人間社会学部紀要，31(1)：81-90，2022.
- ・ Nakahara-Gondoh, Y., Tsunoda, K., Fujimoto, T., Ikeda, T., Effect of encourageing greater physical activity on number of steps and psychological well-being of university freshmen during the first COVID-19-related emergency in Japan. Journal of physical education and sport. 22(10): 2598-2603, 2022
- ・ 中原雄一・池田孝博，コロナ禍における大学新入生の歩数と精神的健康度の実態：2020年度と2021年度で相違はみられるのか．大学体育スポーツ学研究．19: 94-99，2022.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 池田孝博・前田英樹，スポーツサーフェイスについて考える：剣道場を事例として．九州体育・スポーツ学会第73回大会（長崎大学），2024.
- ・ 池田孝博・中原雄一，福岡県 KDB システム・データのレセプト分析に基づく子どもの疾病の特徴：福岡市・北九州市および筑豊地域の比較から．日本体育・スポーツ・健康学会第74回大会（福岡大学），2023.

- 池田孝博, 大学生の中高時代の部活動経験とスポーツの重要度の関連. 九州体育・スポーツ学会第 72 回大会 (J:COM ホルトホール大分) ,2023.
- 池田孝博, 英国及び米国の剣道実践者による稽古環境のサーフェイスに関する評価. 日本武道学会第 56 回大会 (大阪教育大学) ,2023.
- Ikeda, T., An investigation into the effect of play upon the development of social skills and engagement in physical activity among Japanese children aged 10–12. 28th Congress of the European College of sport science (ECSS), 2023.
- Ikeda, T. and Aoyagi, O., Investigating the motivational factors and preferences affecting attitudes toward physical activity and physical education among South Korean and Japanese children in late childhood. Korean Conference of Growth and Development (Chosun University), 2023. Invited Lecture
- 池田孝博, 理想的な部活動のあり方とスポーツの価値および達成動機の関連. 九州体育・スポーツ学会第 71 回大会 (九州保健福祉大学) ,2022.
- Ikeda, TO., Ikeda, TA., Sakaguchi, H., Annoura, T., Aoyagi, O., Hong, Y., Han, N., Choi, T., Nam, Y., Koo, K., Seo, Y., The characteristics of general malaise/indefinite complaints in Japanese children as examined by latent class analysis. 27th Virtual congress of the European College of sport science (ECSS), 2022.

③過去の主要業績

- 池田孝博・本多壮太郎・岩切公治・太田順康・大坪壽・前阪茂樹・鍋山隆弘・八木沢誠・瀧田伸吾・青柳領, 剣道場の床面塗装とスポーツ傷害・障害および床面の機能性に関する主観的評価の関連. 武道学研究, 45(1): 23-34. 2012. (学会優秀論文賞 受賞)
- Ikeda, T. & Aoyagi, O. Relationships between test characteristics and movement patterns, physical fitness, and measurement characteristics: suggestions for developing new test items for 2- to 6-year-old children. Human Performance Measurement5: 9-22, 2008. (学会賞 受賞)

5. 所属学会

日本体育・スポーツ・健康学会, 日本発育発達学会, 日本体育測定評価学会, 日本体育科教育学会, 日本学校保健学会, 日本健康心理学会, 日本武道学会 (理事、九州支部・支部長), 日本武道学会剣道分科会, 九州体育・スポーツ学会, The European College of sport science (ECSS : ヨーロッパスポーツ科学会), 日本保育者養成教育学会, 韓国発育発達学会 (理事)

6. 担当授業科目

<学 部> 健康科学実習Ⅰ・1単位・1年・前期, 健康科学実習Ⅱ・1単位・1年・後期, 体育Ⅰ・1単位・2年・通年, 体育Ⅱ・1単位・3年・通年, 幼児と健康・2単位・3年・前期、保育内容の指導法・健康・2単位・3年・後期, 演習・2単位・3年・通年, 卒業論文・6単位・4年・通年
 <大学院> 教育課題研究 B・2単位・1年・後期, 子ども教育研究法Ⅰ・2単位・1・2年・前期, 子ども教育研究法Ⅱ・2単位・1・2年・後期, 特別研究Ⅰ・Ⅱ・4単位・1-2年, 地域教育課題演習・1単位・2年・前期, 子ども教育実践実習Ⅰ・1単位・1年・後期, 子ども教育実践実習Ⅱ・1単位・2年・前期

10. 今年度の自己評価

教育においては、保育者養成の専門教育において、積極的に学外授業を取り入れた教育実践を行った。研究においては大学が協定している福岡県 KDB システムのデータを活用した研究成果を日本体育・スポーツ・健康学会第 74 回大会において公表した。また、日本武道学会の九州支部長として、福岡県九州産業大学において日本武道学会第 56 回大会（実行委員長）を開催した。

人間社会学部／ 総合人間社会コース・地域社会コース	職名	教授	氏名	石崎 龍二
------------------------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

自然や社会におけるさまざまな現象に関する数理モデルのコンピュータ・シミュレーションやデータの統計解析を行っています。特に、非平衡系に現れるカオスや散逸構造の統計的性質について、理論のおよび数値的な観点から研究を進めています。

博士（理学）の学位を取得しており、主な研究テーマとして、①カオスや乱流における拡散現象の解析、②非定常時系列における異常検知の手法開発、③物理学の視点・手法を用いた経済現象の解明に取り組んでいます。

研究は「非線形科学」を中心に展開しています。この分野では、物理現象、生命現象、経済現象などに見られる複雑な運動形態の解析を行い、カオス、フラクタル、自己組織化臨界現象といった従来の概念に加え、機械学習や大規模データ解析の進展により、より高度な数理モデルを用いた解析が進められています。コンピュータを活用した解析を取り入れ、新しい統計的手法の開発を行い、その成果を社会科学へ応用していきたいと考えています。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- Ryuji Ishizaki, Masayoshi Inoue, Kazuhiro Fukushima, “Time series analysis and stochastic processes modeling using explosive eruption data from Japan’s Sakurajima volcano”, *Physica A*, Vol. 659, 130313, 2025.
- 石崎龍二「国保データベース（KDB）システムを活用した疾病別医療費の地域差分析－2022（令和4）年度の福岡県市区町村を対象として－」, 『福岡県立大学人間社会学部紀要』, 第33巻第1号, pp.95-105, 福岡県立大学, 2024年10月.
- Ryuji Ishizaki, Masayoshi Inoue, “Short-term Kullback–Leibler divergence analysis to extract unstable periods in financial time series”, *Evolut. Inst. Econ. Rev.*, Vol. 21, pp.227-236, 2024.
- 石崎龍二, 寺島正博, 廣田久美子「高齢者通所介護事業所における福祉関連機器・用具の現状と課題－A県における質問紙調査によるニーズと課題の分析－」, 『福岡県立大学人間社会学部紀要』, 第32巻第2号, pp.71-83, 福岡県立大学, 2024年3月.
- 藤澤健一, 石崎龍二, 佐藤繁美「教育委員会との連携を通じた教育方法と情報通信技術にかかわる学生支援」, 『福岡県立大学人間社会学部紀要』, 第32巻第2号, pp.97-104, 福岡県立大学, 2024年3月.
- 寺島正博, 廣田久美子, 石崎龍二「特例子会社における業務支援のためのICTツール導入の実績と課題－インタビュー分析から見る障害者雇用と効率化の展望－」, 『福岡県立大学人間社会学部紀要』, 第32巻第2号, pp.23-29, 福岡県立大学, 2024年3月.
- 石崎龍二「福岡県立大学人間社会学部における「プログラミング概論」の教育効果（2022年度）－PythonとJavaScriptの基礎的なスキル習得と授業形式の比較－」, 『福岡県立大学人間社会学部紀要』, 第32巻第1号, pp.21-35, 福岡県立大学, 2023年10月.
- 藤澤健一, 石崎龍二, 佐藤繁美「教育方法と情報通信技術にかかわる教員養成の取り組み－教職課程コアカリキュラムと本学における実践－」, 『福岡県立大学人間社会学部紀要』, 第32巻第1号, pp.109-118, 福岡県立大学, 2023年10月.

- ・ 石崎龍二, 佐藤繁美「福岡県立大学人間社会学部における統計演習の教育効果 (2022 年度)」, 『福岡県立大学人間社会学部紀要』, 第 31 巻第 2 号, pp.59-72, 福岡県立大学, 2023 年 3 月.
- ・ 石崎龍二「福岡県立大学人間社会学部におけるプログラミング教育の教育効果 (2020 年度)」, 『福岡県立大学人間社会学部紀要』, 第 31 巻第 1 号, pp.103-113, 福岡県立大学, 2022 年 10 月.
- ・ 寺島正博, 石崎龍二, 柴田雅博「保育所・認定こども園における ICT 導入の実績とそれに伴う業務効率の意識—A 県におけるアンケート調査を通じて—」, 『福岡県立大学人間社会学部紀要』, 第 31 巻第 1 号, pp.57-70, 福岡県立大学, 2022 年 10 月.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 石崎龍二, 福島和洋, 井上政義「地震データを用いた火山噴火活動の確率過程モデル」2024 年度 MIMS 現象数理学研究拠点共同研究集会「社会物理学とその周辺」(対面とオンライン開催), 2024 年 12 月.
- ・ 石崎龍二「保存力学系における写像の次元とカオス」第 130 回日本物理学会九州支部例会 (福岡工業大学), 2024 年 11 月.
- ・ 石崎龍二, 福島和洋, 井上政義「桜島火山における噴火活動と火山性地震の統計的性質」日本物理学会第 79 回年次大会 (2024 年) (北海道大学), 2024 年 9 月.
- ・ 石崎龍二, 井上政義「金融時系列データの短期情報量に基づく変動性と異常検知」MIMS 現象数理学研究拠点 共同研究集会「Data-driven mathematical Sciences : 経済物理学とその周辺」(対面とオンライン開催), 2024 年 9 月.
- ・ 石崎龍二, 井上政義「金融時系列データの短期統計量に基づく特徴抽出と分析」日本物理学会 2024 年春季大会 (オンライン開催), 2024 年 3 月.
- ・ 石崎龍二, 福島和洋, 井上政義「火山噴火の確率過程モデリングと噴火間隔の時系列解析」日本物理学会 2024 年春季大会 (オンライン開催), 2024 年 3 月.
- ・ 石崎龍二, 福島和洋, 井上政義「火山の噴火活動の確率過程モデル」2023 年度 MIMS 現象数理学研究拠点共同研究集会「社会物理学とその周辺」(対面とオンライン開催), 2023 年 12 月.
- ・ 石崎龍二, 秦浩起, 井上政義「桜島の噴火間隔データから見る活動状態の時間変動」第 129 回日本物理学会九州支部例会 (長崎大学), 2023 年 12 月.
- ・ 石崎龍二, 井上政義「火山噴火における噴火間隔の時系列の統計的性質」日本物理学会第 78 回年次大会 (2023 年) (東北大学), 2023 年 9 月.
- ・ 石崎龍二, 井上政義「局所情報量に基づく金融時系列データの特徴抽出と分析手法」経済物理学とその周辺 2023 (明治大学中野キャンパス), 2023 年 9 月.
- ・ 石崎龍二, 井上政義「火山噴火時系列における間欠性の統計的性質」日本物理学会 2023 年春季大会 (オンライン開催), 2023 年 3 月.

② 過去の主要業績

- ・ Ryuji Ishizaki, Toshikazu Shinba, Go Mugishima, Hikaru Haraguchi and Masayoshi Inoue, “Time-series analysis of sleep-wake stage of rat EEG using time-dependent pattern entropy”, Physica A, Vol. 387 No.13, pp. 3145-3154, 2008.
- ・ 駒澤勉・橋口捷久・石崎龍二『新版 パソコン数量化分析』, 朝倉書店, 1998 年.
- ・ Ryuji Ishizaki, Takehiko Horita, Tatsuharu Kobayashi and Hazime Mori, “Anomalous Diffusion Due to Accelerator Modes in the Standard Map”, Progress of Theoretical Physics, Vol. 85 No. 5,

pp. 1013-1022, 1991.

3. 外部研究資金

科学研究費補助金・基盤研究 (C) (研究代表者)、研究課題名「非定常時系列に対する異常判別・検知のための時系列解析法の開発と実証」(課題番号: 23K04290)、交付金額: 3,250 千円、2023 年度～2025 年度.

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本物理学会、アメリカ物理学会 (APS)、日本心理学会、日本公衆衛生学会

6. 担当授業科目

教養演習・1 単位・1 年・前期、数学概論・2 単位・1 年・前期、情報科学・2 単位・1 年・後期、情報数学・2 単位・2 年・前期、プログラミング概論・2 単位・2 年・後期、データ処理とデータ解析 I・1 単位・3 年・前期、公共社会学研究 I・1 単位・3 年・前期、データ処理とデータ解析 II・1 単位・3 年・後期、公共社会学研究 II・1 単位・3 年・後期、教育方法と情報技術・1 単位・3 年・後期、卒業論文・6 単位・4 年・通年

7. 社会貢献活動

公益財団法人飯塚研究開発機構 筑豊地域医療・福祉関連支援委員会委員
田川市図書館協議会委員
一般財団法人田川広域観光協会役員

8. 学外講義・講演

「地域医療費の実態: 福岡県内市区町村の疾病別医療費の比較と分析」福岡県国民健康保険団体連合会と福岡県立大学によるデータ分析共同研究事業に関する研修会 オンデマンド(録画) 配信(令和 7 年 2 月 26 日(水)～令和 7 年 3 月 12 日(水))

9. 附属研究所の活動等

令和 6 年度研究奨励交付金データサイエンス研究「国保データベース (KDB) システムを活用した傷病別医療費の地域差分析」研究代表者

10. 今年度の自己評価

特に力を入れた取り組みとして、教育面では、2024 年 8 月 27 日付で文部科学省より「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度 (リテラシーレベル)」に認定された本学の全学横断型教育プログラムである「データサイエンス・プログラム」の教育内容の見直し作業に取り組みました。研究面では、本学と福岡県国民健康保険団体連合会との業務協定に基づき、大規模データである KDB システムを活用したデータ分析を進め、その成果を研究論文としてまとめました。

人間社会学部／人間形成学科・心理コース	職名	教授	氏名	岩橋宗哉
---------------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

1992年 九州大学大学院教育学研究科教育心理学専攻博士課程単位取得後退学。教育学修士。九州大学教育学部助手（心理教育相談室主任兼務）、緑風会水戸病院臨床心理士、久留米大学医学部神経精神医学講座助手を経て、2001年より福岡県立大学に勤務。

(1) 主に病院において精神分析的な心理療法を行ってきた。対象関係論的な観点から治療関係の中でクライアントの内的世界と転移を理解し、それをもとに治療的な関わりや理解の伝え方を検討することに最も関心がある。(2) 古事記や夏目漱石後期3部作などを神話や文芸作品を対象に精神分析的な観点からの検討を行なっている。また登場人物や作者の病跡学的な研究も行なっている。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

<論文>

- ・ 岩橋宗哉 『彼岸過迄』の二人の主人公 日本病跡学雑誌 第106号 2023年12月
- ・ 岩橋宗哉 『彼岸過迄』須永との比較からみた敬太郎の造形についての検討 日本病跡学雑誌 第104号 2022年12月

<分担執筆>

- ・ 春日由美・五十嵐亮編「現場で役立つ教育相談入門」第12章第3節成人期の心理的不適応, 第13章第1節心理療法の学派と心理療法. 2023年11月

② その他最近の業績

<学会発表>

- ・ シンポジウム「漱石の文学研究とパトグラフィとサルトグラフィ」
岩橋宗哉 『彼岸過迄』の二人の主人公 第70回 日本病跡学会総会 大阪 2023年7月

<翻訳>

- ・ M. ホジャット・A. モイヤー「友人関係の心理学」 第12章 友人関係における侵害, 赦し, 報復
金子書房. 東京. 2024年2月

② 過去の主要業績

- ・ 岩橋宗哉「対象とのとの同一化を創造的に機能させる基盤としての結合対象へーよい対象との失われた共通基盤を求めてー」 福岡県立大学心理臨床研究 第7巻 2015年3月
- ・ 岩橋宗哉「「対象喪失」とその乗り越えに向かう神話としての古事記上巻（I）ー「不在の現実」についての「見るなの禁止」から「居場所」の形成へー」 福岡県立大学心理臨床研究 第5巻 2013年3月
- ・ 岩橋宗哉「結合両親像によって破壊され創造される自己の方向感覚ー精神分裂病者との心理療法過程からー」 心理臨床学研究 第17巻第6号 2000年2月

3. 外部研究資金

なし

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本心理臨床学会、日本精神分析学会、日本人間性心理学会、日本病跡学会

6. 担当授業科目

(学部) 心理学的支援法・2単位・2年・後期、心理実習Ⅰ・1単位・通年、臨床心理学概論・2単位・3年・前期、心理演習・2単位・3年・後期、演習・2単位・3年・通年、心理実習Ⅱ・1単位・3～4年、心理実習Ⅲ・1単位・3～4年、教育相談・2単位・4年・前期、卒業論文・6単位・4年・通年、(大学院) 臨床心理基礎実習A・1単位・1年・前期、臨床心理基礎実習B・1単位・1年・通年、臨床心理面接特論・2単位・1年2年・前期、臨床心理学特論・4単位・1年・通年(後期担当)、臨床心理実習・1単位・2年・通年、心理実践実習A・10単位・1～2年・通年、心理実践実習B・2単位・1～2年・通年、特別研究Ⅰ・4単位・1年・通年、特別研究Ⅱ・4単位・2年・通年

7. 社会貢献活動

- ・久留米大学病院精神神経科附属カウンセリングセンター 臨床心理士
- ・福岡県臨床心理士会 代議員
- ・田川市教育支援委員会 委員長
- ・日本病跡学会 理事

8. 学外講義・講演

なし

9. 附属研究所の活動等

心理教育相談室 相談室委員

10. 今年度の自己評価

研究については、「<行人>における漱石の探求と中断—男性が女性に与えた損傷への罪悪感とその回避を巡って—」を日本病跡学会に投稿中である。教育については、例年通り、講義・演習・実習を担当し、7名の卒業論文と2名の修士論文の指導を行なった。大学院の臨床指導であるスーパービジョンを今年度も数多く行なった。社会貢献では例年通りの心理臨床に関わる仕事に加えて、昨年度までの日本心理臨床学会誌「心理臨床学研究」編集委員を終え、新たに日本病跡学会の理事となった。今年度も今までと同様に活動できた。

人間社会学部	職名	教授	氏名	上野行良
--------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

人間関係に関する心理学を研究しています。

個人が生きやすくなるために必要な人間関係や心のあり方、そして個人を不幸にする社会の問題や個人の思考・行動・感情の分析をしたいと考えています。

(最終学歴：東京都立大学人文科学研究科博士課程心理学専攻単位取得退学 学位：文学修士)

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 上野行良 (2024) 「わかりやすく伝えようープレゼンテーション」(「レポートの書き方入門'24」福岡県立大学)

②その他最近の業績

〈雑誌〉

- ・ 上野行良 (2023) 「つらいなと思ったとき」医療労働, 664.

③過去の主要業績

- ・ 上野行良 (2006) 「感情心理学」(山岡重行編著『サイコナビ 心理学案内』ブレーン出版)
- ・ 上野行良・中村晋介・麦島剛・本多潤子(2006) 「非行の抑制要因と促進要因-福岡県の青少年非行に関する調査」福岡県立大学奨励研究報告書 V. 25.
- ・ 上野行良 (2003) 「ユーモアの心理学—人間関係とパーソナリティ」サイエンス社

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本心理学会、日本社会心理学会

6. 担当授業科目

〈学部〉

対人心理学・2単位・1年・前期、心理学概論・2単位・1年・前期、人格心理学・2単位・1年・後期、社会心理学・2単位・1年・後期、心理学研究法・2単位・2年・後期、演習(人間形成学

科)・2単位・3年・通年、卒業論文・6単位・4年・通年

〈大学院〉

社会心理学特論・2単位・修士1年・前期、特別研究・4単位・修士1～2年・通年

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

国立病院機構、岡山医療センター、長崎県立看護学校、福岡県スポーツ推進委員研修大会など

9. 附属研究所の活動等

10. 今年度の自己評価

令和6年度は学部長としての職務と役割を優先しつつ、教育活動に影響が及ばないように努めました。
そのため、研究および社会貢献については最小限の取り組みとなりました。

人間社会学部／地域社会コース	職名	教授	氏名	岡本雅享
----------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

1997年横浜市立大学大学院国際文化研究科修士課程修了。2000年一橋大学大学院社会学研究科博士課程修了。国際学修士。社会学博士。1991～93年、中国の北京師範学院（現在、首都師範大学）、中央民族大学民族語言三系（現在、中央民族大学少数民族語言学院）に留学、少数民族二言語教育の研究・調査を行う。2008年度、San Francisco State University (College of Ethnic Studies, Japanese American Studies)でVisiting Scholar。学内外で”Hidden Diversity of the Japanese People”に関する講演等を行う。2012年度から明治学院大学国際平和研究所（PRIME）研究員。

1989年以来、在日コリアンを中心とするマイノリティ・ライツの研究・活動に従事してきた。国連ECOSOC NGOでの3年間の勤務を含め、ジュネーブ国連欧州本部を中心とした国連人権活動に報告・提言の提出、会議への参加・発言等を通じて参加。2000年代後半から、明治以降のNation Buildingの中で非ヤマト世界と位置付けられてきた出身地の出雲や東北のエミシ、南九州のクマソ＝ハヤトなどの視点から、同質社会幻想で覆われてきた日本人（国籍者）の内なる多様性を解き明かし、日本人意識の脱構築（マジョリティ意識の転換）とマイノリティ・ライツの保障による多文化主義の構築にかかる研究を試みている。また日系移民を通してみるハワイ社会の多様性、新たな原住民（先住民族）の承認や民族語の復権・維持を図る台湾、日本と同様、移民の増大に伴い、多文化社会へ移行しつつある韓国などの研究者との交流も続けてきている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- 岡本雅享・上村英明・窪誠・朴金優綺・朴君愛『マイノリティ・ライツ—国際規準の形成と日本の課題』現代人文社、2024年3月（共著）
- 岡本雅享「일본 Nation Building 의 탈구축—비(非) 야마토 민족 서발턴의 주체화 시도에 주목하면서」『일본연구（日本研究）』第98号、2023年12月
岡本雅享『越境する出雲学—浮かび上がるもうひとつの日本』筑摩選書、2022年（単著）
- 岡本雅享「ミホスミに光を！プロジェクト」の意義と成果『福岡県立大学人間社会学部紀要』31巻1号、2022年10月

②その他最近の業績

- 岡本雅享編『福岡県内外の外国籍住民と多文化施策に関する調査』（2024年度福岡県立大学人間社会学部公共社会学科社会調査実習調査報告書）2025年3月
- 岡本雅享「日本のネーション・ビルディングで隠された多様性」韓国外国語大学校日本研究所第4回国際シンポジウム招聘講演、2023年6月10日、ソウル

③過去の主要業績

- 『出雲を原郷とする人たち』藤原書店、2016年（単著）
- 『民族の創出』岩波書店、2014年（単著）
- 『中国の少数民族教育と言語政策』増補改訂版、社会評論社、2008年（単著）

3. 外部研究資金

科学研究費補助金（基盤研究C）「台湾の民主主義路線と民族政策—大陸中国との差異化を図る中で」
2024～2028年、350万円、研究代表者

4. 受賞

5. 所属学会

日本平和学会、日本社会学会、移民政策学会、エミシ学会

6. 担当授業科目

政治学・2単位・1年・前期、国際政治学・2単位・1年・後期、多文化社会論・2単位・2年・前期、
東アジア関係史・2単位・2年・後期、公共社会学研究・4単位・3年・通年、卒論指導・4単位・4年・
通年、社会調査実習・4単位・通年

7. 社会貢献活動

川崎町総合計画及び川崎町総合戦略推進委員会 委員長
田川市経営評価改革推進委員会 副委員長
飯塚研究開発機構 理事

8. 学外講義・講演

Masataka Okamoto, The Hidden Diversity of the Japanese People: Deconstructing Japan's Nation-Building
Process, University of Michigan Center for Japanese Studies Thursday Noon Lecture Series, October 10, 2024
岡本雅享「越境する出雲学—北部九州との関係に注目して」北九州市立自然史・歴史博物館歴史友の
会講演会、2025年2月8日

9. 附属研究所の活動等

2024年度研究奨励交付金プロジェクト研究（国際研究）「ハワイのダイバシティ社会と日系人—歴史・
現状とアイデンティティ・信仰をめぐって」（研究代表者）

10. 今年度の自己評価

代理で担当した公共社会学科社会調査実習の報告書『福岡県内外の外国籍住民と多文化施策に関する
調査』に相当な精力を注ぎ、社会的にも有益な報告書ができたと思う。附属研究所の研究奨励交付金
によるプロジェクト研究（国際研究）の2年目を研究代表者として遂行すると同時に、研究代表者と
なった5年間の科学研究費補助金（基盤研究C）をスタートさせるなど、外部資金による研究活動を
推進した。

人間社会学部／心理コース	職名	教授	氏名	小嶋秀幹
--------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

社会精神医学、精神保健学を主な研究分野としている。特に、地域住民や対人援助職者に対する精神障害の啓発教育、自殺予防教育に取り組んでいる。こころに生じる問題、精神障害をいかにわかりやすく伝えるか、その研修方法、教材開発に興味を持っている。近年は、演劇やゲームによる啓発教材作成に取り組み、福岡県内の自殺対策研修会等で実践している。その他、勤労者の精神保健、依存の心理、児童・思春期の精神保健（不登校・ひきこもり、自傷、虐待）、司法精神医学（精神鑑定）、高齢者の精神的健康のあり方などにも興味を持って研究・実務をしている。

保有学位：博士（医学）

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・ 小嶋秀幹：うつ病になった勤労者の回復の道筋を考えるすごろくゲームの開発、福岡県立大学心理臨床研究 17 ; 19 - 27, 2025.
- ・ 守口典行, 吉岡和子, 小嶋秀幹：老年期男性における年齢に応じた心理的適応方略の変化—国立大学農学部卒業者・国家公務員（農学系）退職者を対象にした調査、臨床心理学 24（2）；224-234, 2024.
- ・ 小嶋秀幹：共生社会を考えるカードゲーム「色んな人の気持ち（somebody's feelings）」開発の試み、福岡県立大学心理臨床研究 16 ; 17 - 25, 2024.
- ・ 小嶋秀幹：こころをつなぐ～身近な人に自殺の危険が迫ったら～. 翔雲社, 2022.
- ・ 小嶋秀幹：自殺予防啓発劇の実践報告～大学生のうつ病編～. 福岡県立大学心理臨床研究 14 巻 ; 23-34, 2022.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 小嶋秀幹：うつ病になった勤労者の回復までの道筋を考えるためのすごろくゲームの開発. 第 31 回日本産業精神保健学会（北九州）、2024 年.
- ・ 小嶋秀幹：福岡県中間市における自殺予防啓発劇 10 年間の試みと今後に向けて. 第 46 回日本自殺予防学会（熊本）、2022 年.

<教材開発>

- ・ 小嶋秀幹：うつ病になった勤労者の回復の道筋を考えるオンラインすごろく. 公益財団法人科学技術融合振興財団 2021 年度研究助成成果物、2024 年. (<https://www.mediaimpact.co.jp/hukushoku/>)
- ・ 小嶋秀幹：色んな人の気持ち（somebody's feelings）のカードゲーム教材. 公益財団法人中山隼雄科学技術文化財団調査研究助成成果物、2023 年、2024 年.
- ・ 小嶋秀幹：うつ病かるた. 科学研究費基盤研究（C）2021～2024 年研究成果物、2023 年.

<その他>

- ・ 「北九州市職員の心の健康づくりのための計画（第四期）」評価及び「北九州市職員の健康づくりのための計画（第一期）に向けて」調査報告書. 2025 年 1 月.
- ・ 医療観察法精神鑑定書 2 件、2025 年 1 月、2 月.
- ・ 小嶋秀幹：共生社会を考えるカードゲーム“色んな人の気持ち somebody's feelings”. 人間と遊び財団レポート 2022 ; 14-15, 公益財団法人中山隼雄科学技術文化財団、2023 年.

③過去の主要業績

- ・ 小嶋秀幹：民生委員からみた自殺対策の現状と課題—自由記述内容の質的分析から—。自殺予防と危機介入 34 (1) ; 41-47, 2014.
- ・ 小嶋秀幹：民生委員が関わった自殺事例のプロセスインタビュー内容の質的分析—。日本社会精神医学会雑誌 22 (2) ; 92 - 105, 2013.
- ・ 小嶋秀幹：自殺の危険が切迫した人と関わる際の心構えとは—地域の事例を通して考えたこと—。自殺予防と危機介入 32 (1) ; 68-71, 2012.

3. 外部研究資金

- ・ コミュニケーションロボットを使用した体験的なうつ病教育教材の開発と効果検証。科学研究費基盤研究 (C) 、2024~2026年、研究代表者、403万円
- ・ 共生社会を考えるゲーム「色んな人の気持ち-somebody's feelings」の更なる実装化を目的とした研究。中山隼雄財団委託研究、2024~2025年、研究代表者、200万円
- ・ 「北九州市職員の心の健康づくりのための計画 (第四期) 」評価及び「北九州市職員の健康づくりのための計画 (第一期) 」に向けての調査と提言。北九州市委託研究、2024年、研究代表者、50万円

4. 受賞

なし。

5. 所属学会

九州精神神経学会評議員・編集委員、日本精神神経学会精神科専門医

日本精神神経学会、日本臨床心理士会、日本社会精神医学会、日本自殺予防学会、日本司法精神医学会、日本アルコール・アディクション医学会、日本心理臨床学会、日本産業精神保健学会、九州精神神経学会、福岡県臨床心理士会 各会員

6. 担当授業科目

<学部>精神保健学・2単位・1年・前期、不登校ひきこもり援助論・2単位・1年・前期 (分担)、医学概論 (人体の構造と機能および疾病) ・2単位・1年・後期、心理実習Ⅰ・1単位・2年・通年、精神保健学Ⅰ・2単位・2年・前期、精神保健学Ⅱ・2単位・2年・後期、公認心理師の職責・2単位・2年・後期 (分担)、心理実習Ⅲ・1単位・3-4年・通年、演習・2単位・3年・通年、精神医学Ⅰ (精神疾患とその治療Ⅰ) ・2単位・3年・前期、精神医学Ⅱ (精神疾患とその治療Ⅱ) ・2単位・3年・後期、卒業論文・6単位・4年・通年

<大学院>臨床心理基礎実習B・1単位・1年・通年、心理実践実習A・10単位・1-2年・通年、心理実践実習B・2単位・1-2年・通年、特別研究Ⅰ・4単位・1年・通年、保健医療分野における理論と支援の展開・2単位・1年・前期、臨床心理基礎実習A・1単位・1年・前期、産業・労働分野に関する理論と支援の展開・2単位・1年・後期、特別研究Ⅱ・4単位・2年・通年

7. 社会貢献活動

福岡県自殺対策協議会委員、福岡市自殺対策協議会委員長、香春町いじめ防止等対策委員会委員長、

北九州いのちの電話理事、嘱託産業医（北九州市、田川市）、嘱託医（ホームレス自立支援センター北九州、田川児童相談所）、産業医科大学医学部非常勤講師、措置入院鑑定医、心神喪失等医療観察法判定医

8. 学外講義・講演

- ・うつ病の勤労者の回復プロセスについて、福岡県立大学心理臨床研究会、7月
- ・学生のメンタルヘルス、福岡県看護教員研修、9月
- ・大切な人からのSOSサインに気づき寄り添う、宇美町自殺対策研修、9月
- ・若者の自傷と市販薬乱用、粕屋管内保健師自殺対策研修、10月
- ・色んな人の気持ちを考えてみよう、須恵高校出前授業、11月
- ・大学生のこころの危機、福岡教育大学自殺対策研修、11月
- ・自殺対策について、福津市職員自殺対策研修、11月
- ・精神医学の基礎知識、北九州いのちの電話相談員養成研修、11月、12月
- ・うつ病から復帰までの道のり、オンラインすごろくで学ぶ 京都市上京区の会社が精神科医と共同開発、京都新聞、2025年1月
- ・こころの健康と自殺予防、嘉麻市GK研修、3月

9. 附属研究所の活動等

なし。

10. 今年度の自己評価

今年度は、科研費の助成を受け、コミュニケーションロボットを使用したうつ病教育教材の開発を開始した。科学技術融合振興財団研究助成を受け、うつ病になった勤労者の回復の道筋を考えるオンラインすごろくを作成、発表した。北九州市職員（所属長、衛生管理者）を対象としたアンケート調査を実施し、報告書にまとめた。医療観察法の精神鑑定を2件担当した。中山隼雄財団から委託を受けて、共生社会を考えるゲーム教材を開発中である。

人間社会学部／公共社会学科・地域社会コース	職名	教授	氏名	佐野麻由子
-----------------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

2006年3月立教大学大学院社会学研究科社会学専攻博士課程修了。博士（社会学）の学位を取得。お茶の水女子大学非常勤講師、フェリス女学院大学非常勤講師、立教大学社会学部助教等を経て2012年10月に本学着任。

主な研究分野は、社会学の中でもジェンダー、開発。「社会的課題を解決するための意図的な社会変革はどのような条件下で可能か」という関心のもと、(1) ネパールをフィールドに社会的達成における男女の非対称性を生み出す社会構造、その維持/変革につながる要因の社会学的分析、(2) 左研究の知見の開発援助政策への応用および還元に取り組んでいます。

博士前期課程在籍中の2000～2001年に立教大学派遣交換留学生としてネパール国立パドマ・カンニャ・キャンパス・ウイメンズ・スタディ・コースに在籍。また、2003～2005年の期間に日本学術振興会特別研究員奨励費でネパールでのフィールドワークを実施するなど、長年ネパール社会に関わってきました。現在は、ネパールにおける「失われた女性たち（男児選好による女兒の中絶、少女売買、女兒の育児放棄）」の促進要因を解明することに取り組んでいます。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・ 佐野麻由子, 2024, 「政界再編, 汚職問題に揺れたダハール政権」『2024 アジア動向年報』IDE-JETRO アジア経済研究所, 497-520.
- ・ 佐野麻由子, 2023, 「ネパールにおける「開発社会学」「開発の社会学」の輪郭」『ソシオサイエンス』29 (1), 78-97.
- ・ 佐野麻由子, 2023, 「資源エネルギー開発としての炭坑——旧産炭地田川から見た日本の「発展」と「開発」経験, 佐藤寛編『戦後日本の開発経験』, 明石書店, 80-100.
- ・ 佐野麻由子, 2023, 「ダハール政権の劇的誕生で幕を降ろした選挙の年」『2023 アジア動向年報』, IDE-JETRO アジア経済研究所, 504-526.
- ・ 佐野麻由子, 2023, 「ネパールにおける「開発社会学」「開発の社会学」の輪郭」早稲田大学先端社会科学研究所紀要『ソシオサイエンス』29 (1), 78-97.
- ・ 田村慶子・佐野麻由子 編著, 2022, 『変容するアジアの家族——シンガポール、台湾、ネパール、スリランカの現場から』, 明石書店.

② その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 堤圭史郎・佐野麻由子・黒川すみれ「「公共」を冠する葛藤と向き合う：福岡県立大学人間社会学部公共社会学科のあゆみ」第97回日本社会学会大会（京都産業大学）テーマセッション「公共社会学の課題と可能性」2024年11月9日。
- ・ Mayuko SANO: “Nepal’s Transitional Development and Son Preference’s Future”, NSA International Conference 2023 International Conference on Good Governance and Social Transformation in Nepal, 2023.9.2 (Pokhara, Nepal)

③過去の主要業績

- ・ 佐野麻由子, 2023, 「途上社会の貧困, 開発, 公正」宮島喬・佐藤成基・小ヶ谷千穂編『改訂版国際社会学』, 有斐閣, 167-183 (2015年第一刷発行).
- ・ 佐野麻由子, 2018, 「それでも息子が欲しい」?—ネパールにみる過渡期的発展と男児選好の未来」山田真茂留編著『グローバル現代社会論』, 文眞堂, 137-153.
- ・ 佐野麻由子, 2012, 「開発・発展におけるジェンダーと公正—潜在能力アプローチから」宮島喬・杉原名穂子・本田量久編『公正な社会とは—教育、ジェンダー、エスニシティの視点から』人文書院, 240-258.

3. 外部研究資金

科学研究費補助金・基盤研究(C) 研究課題名「過渡期的発展段階における男児選好の構造的要因についての研究」(課題番号 20K12463) (令和2~5年度) (研究代表者)

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本社会学会、関東社会学会、国際開発学会、国際ジェンダー学会

6. 担当授業科目

社会学概論・2単位・1年・後期、国際社会学A・2単位・2年・前期、国際社会学B・2単位・2年・後期、国際協力論・2単位・1年・後期、NPO論・2単位・3年生・前期、公共社会学研究ⅠⅡ・2単位・3年・前後期、卒業論文・6単位・4年・通年。

7. 社会貢献活動

田川市協働事業提案制度審査会委員長 (2024年)
田川市産業振興会議・実務者責任者会議部会員 (2024年)
田川市デジタル田園都市構想総合戦略有識者会議委員 (2024年)
添田町総合戦略検証委員会委員長 (2024年)

8. 学外講義・講演

佐野麻由子, 「地域社会学—発見、分析、提言—を実践的に学ぼう」, 令和6年度田川飛翔塾, 源じいの森, 2024年8月17日.
佐野麻由子, 「内発的発展論からみた石井記念友愛社の活動—輪・和・環と福祉と芸術の融合—」, II 2024年度 友愛社セミナー, ホテル四季亭, 2024年8月25日.
佐野麻由子, 出前講義「甘いチョコレートのほろ苦いお話」門司学園高等学校, 2024年12月3日.
佐野麻由子, 出前講義「甘いチョコレートのほろ苦いお話」小倉商業高校, 2024年12月14日.

9. 附属研究所の活動等

令和 6 年度研究奨励交付金（国際研究）「社会変動期にあるネパールの若年層の抑うつや自殺の増加と階層差の関連：日本との比較から」研究分担者

10. 今年度の自己評価

研究、教育、学内運営、社会貢献のいずれにおいても一生懸命に取り組んだ。特に、研究については、科学研究費（研究代表者）に加え、令和 6 年度研究奨励交付金（国際研究）（研究分担者）に採択され、日本とネパールをつなぐ国際共同研究に着手することができた。社会貢献活動については、石井記念友愛社のセミナーでの講演や令和 6 年度田川飛翔塾、高校での出前講義の機会をいただき、本学の広報に貢献できたと思う。

人間社会学部／人間形成学科・こども コース	職名	教授	氏名	杉野 寿子
--------------------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

私はこれまで国内外のさまざまな場所・地域で、困難な状況で生活をされている人々と多く出会い、交流しながらソーシャルワーク実践をしてきました。それらの出会いから「誰もが安心して主体的に暮らす」ことを研究テーマにしています。地域に根ざした取り組みやネットワーク構築に関する研究、開発途上国における福祉課題に関する研究、対人援助専門職のソーシャルワーク実践に関する研究を行っています。近年深い関心を持っているのは、保育者のソーシャルワーク実践に関する研究です。本学では、子どもとその家庭の背景をふまえ、地域での子育て支援を重視できる保育者を養成しています。

福祉社会科学修士。保育士・社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・ 吉川未桜・田中美樹・吉田麻美・中原雄一・菅原航平・杉野寿子「保育学生と看護学生が協同制作した医療絵本の評価と課題」人間社会学部紀要第33巻第2号，2025年3月
- ・ 田中美樹・吉川未桜・吉田麻美・杉野寿子・中原雄一・池田孝博「入院中の子どもを支える保育士と看護師の専門性を活かした協働 第3報－協働のためのコンピテンシー－」福岡県立大学看護学部紀要第22巻，2025年3月
- ・ 杉野寿子・牧海月「保育所等における外国にルーツのある子どもとその家庭への支援」保育ソーシャルワーク学研究第9号，2023年12月
- ・ 田中美樹・吉川未桜・吉田麻美・中原雄一・杉野寿子・池田孝博「入院中の子どもを支える保育士と看護師の専門性を活かした協働 第1報－業務内容の現状分析－」福岡県立大学看護学部紀要第20巻，2023年3月
- ・ 吉川未桜・田中美樹・吉田麻美・中原雄一・杉野寿子・池田孝博「入院中の子どもを支える保育士と看護師の専門性を活かした協働 第2報－協働の現状と課題－」福岡県立大学看護学部紀要第20巻，2023年3月
- ・ 田中美樹・吉川未桜・吉田麻美・杉野寿子・中原雄一・池田孝博「新型コロナウイルス感染症拡大による入院中の子どもを支える上での看護師と保育士の困難感」福岡県立大学人間社会学部紀要第31巻2号，2023年3月
- ・ 杉野寿子・吉川未桜・田中美樹・吉田麻美・池田孝博・中原雄一「入院中の子どもの権利と家族のQOLに関する課題」福岡県立大学人間社会学部紀要第31巻第1号，2022年
- ・ 吉浦朱音・杉野寿子「保育所でのソーシャルワーク実践－日常の子育て支援からの考察－」保育ソーシャルワーク学研究第8号，2022年
- ・ 杉野寿子「乳児院での実習」『福祉施設実習テキストブック』栗山宣夫・小林徹編著，建帛社，2022年
- ・ 杉野寿子「福祉型障害児入所施設での実習」『福祉施設実習テキストブック』栗山宣夫・小

林徹編著，建帛社，2022年

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 田中美樹・吉川未桜・吉田麻美・杉野寿子・古野憲司「療養中のこどもの”こころの準備”を支えるための絵本プロジェクト」第33回日本外来小児科学会（岐阜）2024年9月
- ・ 稲葉美由紀・杉野寿子・西垣千春「国際ソーシャルワークと社会発アプローチ持続可能な共生社会の実現に向けてー」日本社会福祉学会第71回秋季大会特定課題セッションⅢ，2023年10月
- ・ 横尾美智代・櫛直美・杉野寿子「医学部医学科を除く大学・短期大学の研究倫理審査委員会の状況に関する研究」日本生命倫理学会ポスター発表，2023年12月
- ・ 杉野寿子・牧海月「保育所における外国にルーツのある子どもとその家庭への支援ー保育者へのアンケートとインタビュー調査よりー」日本保育ソーシャルワーク学会第8回研究大会口頭発表，2023年1月

② 過去の主要業績

- ・ 杉野寿子・吉田茂・佐藤陽子「保育者のソーシャルワークの意識に関する研究：意識調査からみた保育者の認識と実践の関係」保育ソーシャルワーク学研究第5号，2019年
- ・ 杉野寿子・稲葉美由紀「フィリピンの貧困と社会開発的アプローチあるソーシャルビジネスの取組みからー」地域福祉サイエンス第3号，2016年
- ・ 杉野寿子「ヨルダンにおける障害に関する意識調査ー近年の意識傾向を探るー」社会福祉科学研究第4号，2015年

3. 外部研究資金

なし

4. 受賞

なし

5. 所属学会

- ・ 日本社会福祉学会
- ・ 日本地域福祉学会
- ・ 日本保育ソーシャルワーク学会
- ・ 日本ソーシャルペダゴジー学会
- ・ 日本ソーシャルワーカー協会

6. 担当授業科目

〈学部〉

社会福祉Ⅰ（2単位・1年後期）、社会的養護Ⅰ（2単位・2年前期）、子ども家庭支援論（2単位・2年後期）、子育て支援（1単位・4年前期）、社会福祉Ⅱ（2単位・4年後期）、保育実習指導Ⅰ（2単位・2～3年通年）、保育実習指導Ⅱ-B（2単位・3年後期）、保育実習Ⅰ（4単位・3年前期）、保育実習Ⅱ-B（2単位・3年後期）、演習（2単位・3年通年）、卒業論文（6単位・4年通年）

〈大学院〉

子どもソーシャルワーク研究（2単位・前期）、子どもソーシャルワーク実践研究（2単位・後期）、教育課題研究B（2単位・後期）、子ども教育実践実習Ⅱ（1単位・前期）、子ども教育実践実習Ⅰ（1単位・後期）地域教育課題演習（2単位・前期）、特別研究（4単位・1～2年）

7. 社会貢献活動

- ・ 田川市子どもの権利救済委員会委員長
- ・ 香春町子ども・子育て会議会長
- ・ みやこ町子ども・子育て会議会長
- ・ 福岡県教育振興審議会社会教育部会委員
- ・ 福岡県教育振興審議会学校教育部会委員
- ・ 行橋市保育園整備等検討委員会委員
- ・ 京築教育事務所発達障がい児等教育継続支援事業巡回相談員
- ・ 築上郡教育支援委員会主催教育相談・教育診断委員
- ・ 福岡県幼児教育アドバイザー

8. 学外講義・講演

- ・ 北九州市保育士等キャリアアップ研修（基礎）「保護者支援・子育て支援」講師
- ・ 北九州市保育所（園）中堅保育士研修「保護者に対する相談援助について」講師
- ・ 吉富町保育士研修「子どもの権利と子どもの最善の利益を考えよう」講師
- ・ 吉富町保育士研修「保護者に対する相談援助の方法と技術」講師

9. 附属研究所の活動等

- ・ 2024年度研究奨励交付金（COC研究）「療養中の子どもの“心の準備”を支えるための絵本プロジェクト」（研究代表者）
- ・ 2023年度研究奨励交付金（重点領域研究）「子どもの最善の利益のための看護師と保育士の協働と連携に関する研究」（研究代表者）
- ・ 2023年度研究奨励交付金（COC研究）「炭鉱閉山による児童の問題から引揚孤児問題へー福岡県を中心に」（研究分担者）

- ・ 公開講座Ⅱ「満州から博多・佐世保港に引揚げてきた子どもたち～二人の体験談を交えて～」実行委員，2024年2月17日

10. 今年度の自己評価

- ・ 保育士養成において実践現場での理解を深めるため、実務家を招いての授業展開や学外授業を取り入れるなどをすべての科目で取り入れた。学生からも好反応であったとともに、地域で活躍する実践家との人脈を広げることができ、今後の教育研究においても好影響となった。
- ・ 看護学部と人間社会学部こどもコースの学生及び教員をメンバーとする医療絵本作成のプロジェクトを立ち上げ活動することにより、学部を超えた相互学習の場を提供することができ、今後の多職種連携における課題を検討する機会にもなった。

人間社会学部／基盤教育センター・ 総合人間社会コース	職名	教授	氏名	Stuart Gale
-------------------------------	----	----	----	-------------

1. 教員紹介・主な研究分野

Stuart Gale was born and raised in Hertfordshire, England. After graduating from The University of Leeds with a BA in history, he came to Japan in the spring of 1993 to pursue a career in teaching. He returned to the UK to study for a Master's degree in English language teaching at The University of London, passing with a distinction grade in 2002, and has since taught at Fukuoka Women's University, Fukuoka University, Kyushu University, Kyushu Sangyo University, and Seinan Gakuin University. He joined Fukuoka Prefectural University as a full-time faculty member in the spring of 2007 and was awarded a professorship in 2018. He teaches a variety of English-language and liberal arts subjects in FPU's General Education Center within the Faculty of Integrated Human Studies and Social Sciences.

Stuart Gale's research activities encompass three main areas of enquiry, the first concerning the development of critical thinking skills in Japanese university students. Aside from designing courses in pursuit of this objective, he has also authored the textbooks *Provoke a Response: Critical Thinking through Data Analysis* (2016) and *Japan Goes Global! Thinking Critically about Japanese Popular Culture* (2018). His second area of research concerns academic writing and how it may be taught more effectively to Japanese university students. This (action) research is conducted in university writing classes and involves a process of ongoing evaluation and modification. The results of this research have been incorporated into the academic writing textbook *Structure, Structure, Structure: The Best Guide to Reading and Writing Ever* (2012) and FPU's virtual learning website. Stuart Gale was invited to present on the subjects of teaching academic writing and the enhancement of critical thinking skills at the Fukuoka ALT Skills Development Conference in 2012 and 2013, and the Oita ALT Skills Development Conference in 2014. His third and final area of research concerns the development of study-abroad and online exchange programmes and the facilitation of intercultural communicative competence.

2. 研究業績

①最近の著書・論文

.

②その他最近の業績

<学会発表>

.

③過去の主要業績

- Gale, S. (Feb., 2019). Putting the critical cat among the patriotic pigeons: guiding principles for the teaching of critical thinking as a precursor to critical writing in the Japanese EFL classroom. *Journal of the Faculty of Integrated Human Studies and Social Sciences Fukuoka Prefectural University*, Vol. 20, No. 1, pp. 1-13.
- Gale, S. (Sept., 2019). Evaluating a university preparation course for a short-term study abroad program in terms of its ability to alleviate student anxiety prior to departure. *Journal of the Faculty of Integrated Human Studies and Social Sciences Fukuoka Prefectural University*, Vol. 28, No. 1, pp. 1-25.

- Gale, S. (Feb., 2020). Addressing a supposed deficiency: a critical thinking and process-writing methodology for Japanese EFL. *Journal of the Faculty of Integrated Human Studies and Social Sciences Fukuoka Prefectural University*, Vol. 28, No. 2, pp. 19-40.

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

Japan Association of Language Teachers (Fukuoka Chapter, Critical Thinking Special Interest Group);
Asia TEFL

6. 担当授業科目

リーディング・ライティング上級(1)・1単位・1年・前期

リーディング・ライティング上級(2)・1単位・1年・後期

スピーキング・リスニング上級(1)・1単位・1年・前期

スピーキング・リスニング上級(2)・1単位・1年・後期

総合英語上級(1)・1単位・2年・前期

総合英語上級(2)・1単位・2年・後期

英語 IV(1)・1単位・3年・前期

英語 IV(2)・1単位・3年・後期

海外語学実習事前指導・1単位・1~4年・後期

海外語学実習・1単位・1~4年・後期

Introduction to Studying in English・1単位・1~2年・前期

Advanced English Achievement・1単位・3~4年・後期

グローバル社会論 (補助)・1単位・1~4年・後期

Postgraduate Presentation Skills Development in English・1単位・大学院生・後期

7. 社会貢献活動

Stuart Gale hosts bi-monthly, two-hour discussion group meetings at the university. These meetings run all year round—even when university classes are not in session—and are attended by high school English teachers, business leaders and other local citizens. The meetings are designed to facilitate the further development of their English-language and critical thinking skills in a relaxed and stimulating academic environment.

8. 学外講義・講演

【6月3日】出前講義・入試説明会等

電気ビルみらいホール

福岡市中央区渡辺通 2-1-82 電気ビル共創館 3階

9. 附属研究所の活動等

As the head of Fukuoka Prefectural University's International Exchange Committee (国際交流推進部会長), Stuart Gale is the de facto head of the International Exchange Center (国際交流センター) and, by extension, a member of the Affiliated Research Center's management committee (附属研究所運営部会).

10. 今年度の自己評価

Despite his research activities being curtailed by his extensive teaching and administrative duties at Fukuoka Prefectural University (see above), in the Reiwa 6 academic year, Stuart Gale oversaw every facet of a revamped and improved 2-week study abroad programme to the UK; provided a combined total of 48 classroom hours to a combined total of approximately 30 local citizens; oversaw in conjunction with other International Committee members (1) the running of online exchange events and programmes with universities in China and the United Kingdom, and (2) the establishment of a new partner relationship with a university in South Korea.

人間社会学部／社会福祉学科	職名	教授	氏名	住友雄資
---------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

厚生労働省の発表によると、わが国には300万人を超える精神障害者がいます。精神科病院に入院している精神障害者は約35万人ですので、大多数は地域で生活しています。しかし、差別・偏見を受けやすい精神障害者や家族は、地域で生活しづらい状況が続いています。そこで、ソーシャルワークの視点から、精神障害者が地域で生活しやすい援助・支援法の開発とそれを下支えする社会環境を構築する方法を研究しています。そのためにはケアマネジメントという技術とケアマネジメントが有効に機能するシステムが不可欠で、両者を統合した地域サポートシステムを構築する研究をおこなっています。またケアマネジメントを担う福祉専門職が必要になりますので、その観点から精神保健福祉士等をどのように養成するかということも研究しています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 住友雄資（2023）「精神保健福祉領域におけるソーシャルアクションの課題—2022年の精神保健福祉法等改正から—」『福岡県立大学人間社会学部紀要』32（1），37-53.
藤原朋恵・住友雄資（2022）「女性精神保健福祉士の『仕事と子育ての両立』に関する研究動向と課題」『人間科学』4，1-9.

②その他最近の業績

〈書評〉〈教育実践報告〉

- ・ 住友雄資（2025）「書評 狩野俊介・野村照幸編著『危機がチャンスに変わるクライシス・プラン入門』中央法規出版」『福岡県立大学人間社会学部紀要』33（2），151-158.
- ・ 住友雄資（2024）「書評 波名城翔『自殺者を減らす！ゲートキーパーとしての生き方』新評論」『福岡県立大学人間社会学部紀要』33（1），107-112.
- ・ 鬼塚香・住友雄資（2022）「2021年度教育実践報告『精神保健福祉演習』—『なりきりプレゼンテーション』導入の効果と課題—」『福岡県立大学人間社会学部紀要』30（2），77-85.

③過去の主要業績

- ・ 住友雄資（2007）『精神保健福祉士のための地域生活支援活動モデル』金剛出版。（単著）
- ・ 住友雄資（2001）『精神科ソーシャルワーク』中央法規出版。（単著）

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

一般社団法人日本社会福祉学会 査読委員
日本精神障害者リハビリテーション学会 査読委員
日本ソーシャルワーク学会 査読委員
日本職業リハビリテーション学会
日本地域福祉学会
一般社団法人日本精神保健福祉学会

6. 担当授業科目

(学部)

教養演習・2単位・1年・前期, 精神保健福祉の原理Ⅱ・2単位・2年・後期, 精神保健福祉制度論・2単位・3年・後期, ソーシャルワークの理論と方法F・2単位・3年・後期

(大学院)

社会福祉研究法・2単位・前期, 質的研究法・1単位・前期, 精神保健福祉研究A・2単位・前期, 精神保健福祉研究B・2単位・後期, 特別研究・4単位・通年

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

10. 今年度の自己評価

精神保健福祉士養成関係授業では, テキストを基礎としつつ詳細な資料集を作成・活用し, 具体例で解説するために新聞記事や視聴覚教材等を用いた. そのことにより学生の理解度が高まったと考える. 大学院では, 詳細なレジュメを作成・活用して講義すると同時に, 論文読解や研究法に関する演習を行い, 修士論文執筆のための道筋を示して大学院生の教育・研究に寄与したと考える.

人間社会学部／地域社会コース	職名	教授	氏名	堤 圭史郎
----------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

2008年、大阪市立大学大学院文学研究科後期博士課程単位取得退学。2009年、博士（文学）を取得。2010年4月より本学に着任。2011年、共著書『ホームレス・スタディーズ—排除と包摂のリアリティ』により、第7回日本都市社会学会賞（磯村記念賞）を共同受賞。2014年、「多重債務経験者等の生活問題に関する調査研究—福岡県立大学人間社会学部公共社会学科の社会調査実習」により、一般社団法人社会調査協会から第4回社会調査協会賞『社会と調査』賞を受賞。

社会学の立場から貧困問題・都市問題・地域問題を研究している。とりわけホームレスの人々をめぐる様々な「問題」について研究してきた。近年は、生活困窮者支援と地域社会の関係、生活困窮者支援モデルに関する研究を行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 堤圭史郎・相川陽一,2024,「小規模非合併農協による地域生活文化圏の形成と課題—主に下郷農業協同組合の歴史と実践に基づいて」西村雄郎・岩崎信彦編著『地方社会の危機に抗する<地域生活文化圏>の形成と展開』東信堂: 754-791.
- ・ Tsutsumi,K.(2024). Process of Social Acceptance of Facilities for the Poor. Institute of Social Theory and Dynamics. *Social Theory and Dynamics*,5, 70-86.
- ・ Tsutsumi,K.(2023). The Past and Present Homeless Issues in Japan. Aoki H and Ishioka T (Eds.). *The Bottom Worker in East Asia: Composition and Transformation Under Neoliberal Globalization (Studies in Critical Social Sciences, 262)*. Netherlands: Brill, 230-256.
- ・ 堤圭史郎,2023,「ホームレス化をヘッジする—ある支援付き住宅の取り組み」『社会分析』50: 73-90.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 堤圭史郎・佐野麻由子・黒川すみれ,「『公共』を冠する葛藤と向き合う—福岡県立大学人間社会学部公共社会学科のあゆみ」, 第97回日本社会学会大会, 京都産業大学, 2024年11月9日.
- ・ 堤圭史郎,「ホームレス問題における認識と制度化—都市住民に着目して」, 第96回日本社会学会大会, 立正大学, 2023年10月9日.
- ・ 堤圭史郎,「ホームレス問題と『地域共生社会』—貧者の施設の受容過程」, 西日本社会学会第81回大会, 熊本大学, 2023年5月21日.

<シンポジウム>

- ・ 西日本社会学会第82回大会シンポジウム「就労をめぐる不安定さと困難」(登壇者: 打越正行・金本 佑太・二階堂裕子。コメンテーター: 王美玲・堤圭史郎), 久留米大学, 2024年5月25日.

<研究報告書等>

- ・ 堤圭史郎編,2024,『田川市における学校再編と部活動の地域移行—教員の経験と評価 (2023年度福岡県立大学人間社会学部公共社会学科社会調査実習調査報告書)』.
- ・ 堤圭史郎,2023,「第3章 経済・就労の状況」福岡県『令和5年年度隣保館人権課題把握調査報告書』: 406-458.
- ・ 特定非営利活動法人抱樸,2023,『支援付き住宅の複合モデル「プラザ抱樸」の拡充と整備事業 事業

評価報告書』。(第I章3節、第II章、第V章、第VI章2節を執筆)

<書評>

- ・ 堤圭史郎,2024,「川口泰司著『寝た子はネットで起こされる!?—ネット人権侵害と部落差別』福岡県人権研究所『リベラシオン』193: 104-108.
- ・ 堤圭史郎,2022,「橋本和孝・吉原直樹・速水聖子編著『コミュニティ理論と社会思想』『社会分析』49.: 110-1.
〈一般誌論稿〉
- ・ 堤圭史郎,2024,「貧困のリアリティを社会に育む」『2023年度ヒューマンアルカディア特別展集 Vol.2 第56回特別展 SDGs—持続可能な開発目標と人権』福岡県人権啓発情報センター: 45-6.
- ・ 堤圭史郎,2024,「貧困」『2023年度ヒューマンアルカディア特別展集 Vol.2 第56回特別展 SDGs—持続可能な開発目標と人権』福岡県人権啓発情報センター: 55.

③過去の主要業績

- ・ 堤圭史郎,2019,「貧者の施設と地域社会—施設コンフリクトと『良好な関係』」『理論と動態』12: 78-94.
- ・ 奥田知志・稲月正・垣田裕介・堤圭史郎,2014,『生活困窮者への伴走型支援—経済的困窮と社会的孤立に対応するトータルサポート』明石書店.
- ・ 青木秀男編, 2010,『ホームレス・スタディーズ—排除と包摂のリアリティ』,ミネルヴァ書房. (序章「ホームレス・スタディーズへの招待」、5章「家族規範とホームレス—扶助か桎梏か」(妻木進吾と共著)を執筆)

3. 外部研究資金

- ・ 文部科学省, 科学研究費補助金(基盤研究C),「参加包摂型社会の諸類型: 多様化する生活困窮者支援の射程と課題」, 課題番号 24K05287, 2024~27年度, 3,380千円, 研究代表者.

4. 受賞

なし

5. 所属学会

関西社会学会(専門委員)、地域社会学会、西日本社会学会(監査)、日本社会学会、日本社会病理学会、日本社会分析学会(理事)、日本都市社会学会、貧困研究会、ソシオロジ同人

6. 担当授業科目

教養演習・1単位・1年・前期、社会学A・2単位・1年・前期、社会学B・2単位・1年・後期、社会病理学・2単位・2年・前期、公共社会学研究Ⅰ・1単位・3年・前期、公共社会学研究Ⅱ・1単位・3年・後期、社会変動と社会問題・2単位・3年・後期、卒業論文・6単位・4年・通年、日本事情B・オムニバス・留学生・前期、地域問題研究・2単位・大学院・前期、地域問題演習・2単位・大学院・後期、特別研究Ⅰ・4単位・大学院・通年、特別研究Ⅱ・4単位・大学院・通年、フィールドワーク・2単位・大学院・通年

7. 社会貢献活動

- ・ 飯塚市人権問題市民意識調査検討会議・委員
 - ・ 一般社団法人日本伴走型支援協会・伴走型支援研究会・委員
 - ・ 川崎町地域公共交通会議・副会長
 - ・ 香春町地域公共交通会議・委員
 - ・ 添田町子ども・子育て会議・会長
 - ・ 田川市社会教育委員の会議・副会長
 - ・ 田川市地域公共交通会議・副会長
 - ・ 特定非営利活動法人くまもと相談所・評価アドバイザー
 - ・ 特定非営利活動法人社会理論・動態研究所・研究員、『理論と動態』編集委員
 - ・ 福岡県人権啓発情報センター企画委員会・委員
 - ・ 福智町地域公共交通会議・委員
- 等

8. 学外講義・講演

- ・ 別府校区人権尊重推進協議会研修『SDGs と人権』にて講師，福岡市立別府公民館，2024年7月25日。

9. 附属研究所の活動等

なし

10. 今年度の自己評価

講義では、学生が学んだ知識を活用し、社会的諸問題を地に足をつけて社会科学的に考える経験を積めること、卒業論文作成のために必要な学術論文の読み方・書き方が身につくことを重視しています。これらをはじめ日々の教育活動では、社会に出て自分自身で主体的に学び続けられる基盤となる力を、学生が身につけられるよう心がけており、反省とともに一定の手応えも感じているところです。

私はこれまで生活困窮者支援団体の事業評価や研究に協力を続けてきました。私たちの社会の仕組みが生み出す様々な不利により、生きづらさを抱えながら生きている人びとが、それでも安心して暮らしていける地域社会を築くための条件についても研究を続けています。

人間社会学部／公共社会学科	職名	教授	氏名	藤澤健一
---------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

教育学を専攻しています。教育制度・政策史を基軸として、師範学校史、教員養成史、教員研修史 教員団体・組織史を歴史的に追究しています。修士（教育学）。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・ 沖縄県教育庁文化財課史料編集班編『沖縄県史 各論編7 現代』（共著）沖縄県教育委員会、2022年7月、309-310頁
- ・ 「近代沖縄における女性教員政策史—沖縄県女教員研究会の役職者への登用をめぐる」(単著) 沖縄文化協会『沖縄文化』第53巻第1号(第125号)、2023年1月、22—41頁(査読あり)
- ・ 「近代沖縄における生活扶助を通じた教員の組織化過程—教員互助会の設置と運営」(単著) 法政大学沖縄文化研究所『沖縄文化研究』第51号、2024年3月(査読あり)

② その他最近の業績

- ・ 論評：布村育子・広田照幸「一九五〇年代前半の日教組における平和教育—その模索と頓挫」日本教育史研究会『日本教育史研究』第43号、2024年8月、36—44頁

③ 過去の主要業績

- ・ 編著『沖縄の教師像—数量・組織・個体の近代史』榕樹書林、2014年3月
- ・ 編著『移行する沖縄の教員世界—戦時体制から米軍占領下へ』不二出版、2016年10月

3. 外部研究資金

研究代表者：科学研究費補助金基盤研究(B)「米軍占領下の沖縄における現職教員研修制度の再構築過程に関する研究」20H01631(2020年度～2024年度)、総額(直接経費)6760千円

4. 受賞

該当なし。

5. 所属学会

日本教育制度学会会員、日本教育政策学会理事、日本教育行政学会会員、日本教育学会会員 日本教育史研究会会員

6. 担当授業科目

教育学概論B・2単位・1年前期、教師論・2単位・1年後期、教育史・2単位・2年前期、学校インターンシップ・2単位・3年、教育実習事前事後指導・2単位・3年後期から4年前期、中学校教育実習・4単位・4年、高校教育実習・4単位・4年、教職実践演習・2単位・4年後期、公共社会学研究Ⅰ・2単位・3年前期、公共社会学研究Ⅱ・2単位・3年後期、卒業研究・4年・6単位、教育課題研究A・2単位、地域教育課題研究・2単位、学校教育歴史研究・2単位、学校教育理論研究・2単位、子ども教育実践実習Ⅰ、Ⅱ・各1単位、特別研究Ⅰ、Ⅱ・各4単位

7. 社会貢献活動

田川市奨学生選考委員会委員長、田川市教育事務点検評価委員会委員長、添田町教育委員会事務点検評価委員

8. 学外講義・講演

長崎県立長崎南高等学校未来デザインスクール出前講義（2024.10.22）

9. 附属研究所の活動等

該当なし。

10. 今年度の自己評価

研究活動は、研究代表として受領した科研費5ヶ年計画の最終年度に相当し、報告書および編著作の最終的な取りまとめに傾注しました。教育活動は、教職課程の運営を軸として、とくに教員採用試験の前倒しなどにともない、諸種の学生支援に従事しました。社会貢献では、高校への出前講義、各種委員会委員としての業務に従事しました。いずれもおおむね順調に進行しました。

人間社会学部／社会福祉コース	職名	教授	氏名	本郷 秀和
----------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

研究テーマとして、1)高齢者のニーズに応える生活支援サービス（特に NPO 法人が提供するサービスと経営）、2)高齢者の権利擁護（例：介護サービスの評価や苦情解決、高齢者虐待の予防と対応、認知症高齢者の地域支援等）、3)高齢者ソーシャルワーク（サービス開発の推進方法や管理運営等）、6)ソーシャルワーク教育（海外含む）、7)介護人材確保に関するものなどがあります。また、福祉事業を行う法人での実務経験（相談・介護・経営）や各種審議会等の経験もあるため、研究成果と経験を生かした授業ができればと思います。博士（社会福祉学・吉備国際大学大学院社会福祉学研究科）。

2. 研究業績〈過去3年〉

① 最近の著書・論文等

- 1) 本郷秀和・飯干真冬花・松岡佐智,「実習領域別にみる相談援助実習の課題」,福岡県立大人間学人間社会学部.『福岡県立大学 人間社会学部 紀要』,第31巻第1号,2022.10.
- 2) 川井大輝・本郷秀和,「QOL と高齢期の変化に関する一考察」,福岡県立大学人間社会学部.『福岡県立大学 人間社会学部 紀要』,第31巻第1号.2022.10.
- 3) 飯干真冬花・本郷秀和・松岡佐智,「感染症流行後の相談援助実習の課題と実習指導者への期待」『福岡県社会福祉士会研究誌』(福岡県社会福祉士会), 2023.3.
- 4) 本郷秀和,「第14章 相談援助の目的と方法 -ソーシャルワークの視点から-」「第16章 保健医療福祉に関する諸問題の例」,鬼崎信好・本郷秀和編,『コメディカルのための社会福祉概論 第5版』,講談社,2023.3
- 5) 本郷秀和,「第1章 高齢者の定義と特性」「第2章 高齢者の生活実態と社会環境」,川村匡由編,『入門高齢者福祉』,ミネルヴァ書房,2023.3.
- 6) 本郷秀和・田中将太・梶原浩介,「介護系NPOにおける制度外サービス開発のポイントを探る -過去調査と2法人の事例検討を通じて-」(株)北陸社,『地域ケアリング』Vol.25 No.5,(株)北陸社,2023.4.
- 7) 本郷秀和・梶原浩介・畑香理・大場敬太,「イタリア ボローニャにおける社会的協同組合の状況」(株)北陸社,『地域ケアリング』Vol.26 No.4,2024.(株)北陸社,2024.3.
- 8) 本郷秀和・梶原浩介,「介護系NPOにおける制度外サービスの開発プロセスに関する研究」『日本の地域福祉』第37巻,日本地域福祉学会,2024.3.
- 9) 本郷秀和・畑香理・梶原浩介,「ソーシャルワーカー養成教育を巡る状況①<イタリア編>」,『地域ケアリング』Vol.26.No.4.2024.(株)北陸社、2024.7.
- 10) 大場敬太・本郷秀和,「児童虐待の動向にみる基本的課題と方向性 -養護者による児童虐待を巡る若干の考察-」福岡県立大学人間社会学部.『福岡県立大学 人間社会学部 紀要』第33巻第1号, 2024.9.
- 11) 本郷秀和,「高齢者虐待」,山縣文治・岡田忠克・鶴浦直子編著,『よくわかるシリーズ 新版よくわかる 社会福祉』,ミネルヴァ書房,2025.3.
- 12) 本郷秀和(研究代表)ほか7名,「地域包括ケアシステムの推進に伴う介護系NPOの役割とソーシャルワーク」,2019-2023年度、科学研究費補助金【基盤研究C】最終報告書,2025.3. ※(科研費研究報告書)
- 13) 本郷秀和「第9章 社会的協同組合:Societa Dolce(ソシエタ・ドルチェ)」,梶原浩介(研究代表),「地域共生社会の推進に伴う家族会の役割とソーシャルワーク」(※2019-2023年度 科研費報告書)

② その他最近の業績

- 1) 福岡県立大学社会福祉学会 シンポジウム「子ども家庭福祉をめぐる現状と課題」(会場:福岡県立大学 講堂) コーディネーター,2022.12.
- 2) 日本社会福祉学会 全国フォーラム シンポジウム「地域共生社会を問う-共生の社会に向けた社会福祉実践から-」(会場:久留米大学),コーディネーター,2023.3.
- 3) 本郷秀和,【書評】「竹本与志人著『認知症のある人への経済支援-介護支援専門員への期待-』」日本社会福祉学会『社会福祉学』第64巻第2号,2023.9.
- 4) 福岡県立大学社会福祉学会 シンポジウム「ソーシャルワークの実践から価値を問い直す」コーディネーター (会場:福岡県立大学)2023.12.9.
- 5) 末永卓也・本郷秀和,「精神科等医療機関による精神障害者の復職支援に関する実態と意識」,第31回日本産業精神保健学会ポスター報告(会場:産業医科大学 ラマツィーニホール).2024.6
- 6) 本郷秀和,「高齢者介護サービスを実施するNPO法人の変化とソーシャルワーク -日本における過去3回の全国調査の比較検討を通じて-」,中国社会学会社会福祉研究専門委員会 2024年 東アジアフォーラム報告(会場:中華人民共和国・福建省 廈門大学),2024.12. ※招待報告
- 7) 日本社会福祉学会九州地域ブロック研究大会「福祉人材を巡る動向と課題」、シンポジスト(会場:鹿児島国際大学) 2024.12.21
- 8) 藤永海里・本郷秀和,「児童発達支援センターが特別支援学校に行う情報提供の現状と課題に関する研究」,日本社会福祉学会九州部会第65回研究大会(会場:鹿児島国際大学).2024.12.
- 9) 本郷秀和・楊慧敏,日本社会福祉学会「日中韓3か国における学術交流報告 -中国社会学会社会福祉研究専門委員会 2024年度 東アジアフォーラムに参加して-」『学会ニュース』第98号,2025.2.

③ 過去の主要業績

- ・ 本郷秀和,『高齢者虐待と介護支援専門員』,中央法規、2020年3月.

3. 所属学会

1) 日本社会福祉学会(副会長・国際学術交流促進委員会 委員長・九州地域ブロック運営委員・機関誌「九州社会福祉学」査読・編集委員、機関誌「社会福祉学」編集・査読委員)、2) 日本地域福祉学会、3) 日本介護福祉学会、4) 日本高齢者虐待防止学会、5) 日本社会福祉士会、6) 福岡県立大学社会福祉学会(副会長)。

4. 担当授業科目

〈学部〉「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ」(2単位・1年後期)、「ソーシャルワーク演習 A」(1単位・1年後期)、「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」(3単位・2年通年)、「ソーシャルワークの理論と方法 B」(2単位・2年前期)、「高齢者福祉論」(2単位・2年前期)、「ソーシャルワーク演習 C」(1単位、2年前期)、「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ」(3単位・3年通年)、「ソーシャルワーク実習」(4単位・3年通年)、「社会福祉学演習」(4単位・3年通年)、「ソーシャルワーク演習 D」(1単位・3年後期)、「福祉専門職特講 A」(2単位・3年後期・オムニバス)、「卒業論文」(6単位・4年通年)、「福祉専門職特講 B」(2単位・4年前期・オムニバス)。

〈大学院〉「特別研究Ⅰ」(2単位・1年通年)、「高齢者福祉研究Ⅰ」(2単位・1年前期)、「量的研究法」(1単位・1年前期)、「高齢者福祉研究Ⅱ」(2単位・1年後期)、「フィールドワーク」(2単位・1年後期)、「特別研究Ⅱ」(2単位・2年通年)

5. 社会貢献活動

1)福岡県社会福祉審議会 審議委員. 2)福岡県社会福祉審議会 老人福祉専門分科会 会長. 3)福岡県社会福祉審議会 地域福祉支援計画専門分科会 会長. 4)福岡県高齢者保健福祉計画(第10次)策定検討委員会 会長. 5)福岡県身体拘束ゼロ作戦推進会議 委員長. 6)福岡県人権施策推進講話会専門部会 委員. 7)福岡県国民健康保険団体連合会 介護給付費等審査委員会 審査部会長. 8)福岡県国民健康保険団体連合会 介護給付費等審査委員会 副会長. 9)福岡県国民健康保険団体連合会 介護サービス苦情処理委員. 10)福岡県社会福祉協議会 外部評価審査委員会委員. 11)福岡県社会福祉協議会 運営適正化委員会委員. 12)福岡県社会福祉協議会 運営適正化委員会 委員苦情処理小委員会 委員. 13)福岡県嘉麻市 地域福祉計画策定委員会 委員. 14)福岡県嘉麻市社会福祉協議会 地域福祉権利擁護事業 運営審議会委員. 15)福岡県嘉麻市社会福祉協議会 権利擁護支援 運営委員会委員. 16)福岡県宗像市 介護保険運営協議会 委員. 17)福岡県田川市 地域包括ケアシステム推進協議会 認知症支援部会 委員. 18)福岡県川崎町 地域包括支援センター運営協議会 会長. 19)福岡県ひきこもり対策連絡調整会議 会長. 20)福岡県大野城市 介護保険運営協議会 会長. 21)福岡県大野城市 大野城市地域密着型サービス運営委員会 会長. 22)福岡県大野城市 大野城市地域包括支援センター運営協議会 会長. 23)福岡県精神保健福祉センター 福岡県ひきこもり対策連絡調整会議 委員. 24)日本社会福祉学会 機関誌「社会福祉学」編集委員・査読委員. 25)日本社会福祉学会 全国理事・副会長・運営委員. 26)日本社会福祉学会 国際学術交流促進委員会 委員長. 27)日本社会福祉学会 秋季大会 国際学術シンポジウム 責任者. 28)日本社会福祉学会 九州地域ブロック発行「九州社会福祉学」査読委員. 29)日本高齢者虐待防止学会機関誌「高齢者虐待防止研究」査読委員. 30)NPO 法人 地域たすけあいの会 理事他.

6. 学外講義・講演等

1)令和6年度 福岡県人権相談従事者研修「福祉相談と記録」(福岡県主催)講師(会場:財福岡県人権啓発情報センター)(6月4日). 2)社会福祉法人慈愛会 職員研修 テーマ「福岡県高齢者保健福祉を巡る動向と介護人材確保を巡る課題」講師(会場:特別養護老人ホーム 富の里. 8月21日). 3)本郷秀和,「忍博次先生を偲んで」日本社会福祉学会「学会ニュース」第98号,2025.2.

7. 附属研究所の活動等

1)福岡県立大学 不登校・ひきこもりサポートセンター長. 2)附属研究所調整部会 委員. 3)附属研究所 公開講座小部会. 4)IR推進室会議. 5)IRサイクル総合会議. 6)博士課程設置検討委員会. 7)配慮を要する学生支援(学生総合支援センター運営部会関係). 8)福岡県立大学社会福祉学会副会長.

人間社会学部／社会福祉コース	職名	教授	氏名	村山浩一郎
----------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

私の研究分野は「地域福祉」で、取得学位は社会学修士です。「地域福祉」は児童福祉や高齢者福祉などの対象者別の福祉分野ではなく、地域住民が主体となり、専門機関や行政と協働しながら、援助を必要とする人を地域で支えたり、地域の共通課題の解決に取り組んだりする、地域を基盤とした福祉実践のあり方を意味しています。私の研究テーマは、このような「地域福祉」を推進するための様々な実践や方法を検討することです。具体的には、①地域住民を主体とする様々な地域福祉活動の実際と、それを支援する社会福祉協議会の役割について、②地域生活課題を解決するための包括的な支援体制と、それを整備する行政の役割や地域福祉計画の策定方法などについて研究を行っています。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・ 村山浩一郎「市町村における福祉計画の総合化の実際と今後の課題－大牟田市と福智町を事例として－」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第33巻第2号，2025年3月
- ・ 村山浩一郎『地域共生社会の実現に向けた地域福祉計画の策定方法に関する研究』日本学術振興会科学研究費助成事業（基盤研究C 課題番号19K02217）報告書，2025年3月
- ・ 村山浩一郎「第9章 地域福祉」，鬼崎信好・本郷秀和編著『コメディカルのための社会福祉概論 第5版』，講談社，2023年2月

② その他最近の業績

- ・ （学会発表）村山浩一郎「市町村における福祉計画の総合化の実際と今後の展望－大牟田市と福智町を事例として」日本社会福祉学会九州地域ブロック第65回研究大会 第〇分科会，2024年12月
- ・ 村山浩一郎「包括的な支援体制をどう捉えるか」，社会福祉法人福岡県社会福祉協議会 市町村社協委員会・専門委員会（委員長：村山浩一郎）『社会福祉協議会と包括的な支援体制～これからの福岡県内社協に必要な視点・求められる役割』，社会福祉法人福岡県社会福祉協議会 市町村社協委員会・専門委員会，2023年1月
- ・ 村山浩一郎「福祉協力員意識調査結果からみえてきたこと」，北九州市社会福祉協議会『福祉協力員意識調査結果報告書2021』，北九州市社会福祉協議会，2022年5月

③ 過去の主要業績

- ・ 村山浩一郎「地域福祉計画策定ガイドラインにおける策定方法の変化－新旧ガイドラインの比較より」，『福岡県立大学人間社会学部紀要』第29巻第1号，2020年10月
- ・ 九州社会福祉研究会編（編集委員：岩井浩英，江口賀子，大山朝子，片岡靖子，門田光司，河谷はるみ，鬼崎信好，倉田康路，滝口真，田畑洋一，茶屋道拓哉，本郷秀和，村山浩一郎）『21世紀の現代社会福祉用語辞典＜第2版＞』，学文社，2019年6月
- ・ 村山浩一郎「『進行管理』の視点から見た地域福祉計画の特徴と課題：3自治体の第1期計画と第2期計画の比較から」，『リハビリテーション連携科学』第14巻2号，リハビリテーション連携科学学会，2013年12月

3. 外部研究資金

- ・2019年度－2024年度, 日本学術振興会科学研究費助成事業【基盤研究C】, 研究課題: 「地域共生社会の実現に向けた地域福祉計画の策定方法に関する方法」 (研究代表: 村山浩一郎, 交付金額: 78万円), 研究代表者
- ・2019年度－2024年度, 日本学術振興会科学研究費助成事業【基盤研究C】, 研究課題: 「地域包括ケアシステム推進下における介護系NPOの役割」 (研究代表: 本郷秀和, 交付金額: 442万円), 研究分担者

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本社会福祉学会 (九州地域ブロック運営委員), 日本地域福祉学会 (地方委員), 日本社会学会, 福祉社会学会, リハビリテーション連携科学学会, 日本福祉教育・ボランティア学習学会

6. 担当授業科目

<学部> 社会福祉学概論Ⅰ (2単位・1年・前期), ソーシャルワーク演習B (2単位・2年・通年), ソーシャルワーク実習指導Ⅰ (2単位・2年・通年), ソーシャルワーク実習A (2単位・2年・後期), 地域福祉論Ⅰ (2単位・2年・後期), 社会福祉学演習 (2単位・3年・通年), ソーシャルワーク実習指導Ⅱ (1単位・3年・通年), ソーシャルワーク実習B (4単位・3年・通年), 地域福祉論Ⅱ (2単位・3年・前期), ソーシャルワーク演習D (1単位・3年・後期), 卒業論文 (6単位・4年・通年)

<大学院> 特別研究Ⅰ (4単位・1年・通年), 研究倫理 (1単位・1年・通年), フィールドワーク (2単位・1～2年・通年), 地域福祉研究A (2単位・1～2年・前期), 地域福祉研究B (2単位・1～2年・後期), 特別研究Ⅱ (4単位・2年・通年)

7. 社会貢献活動

- ・芦屋町地域福祉計画推進委員会 委員長
- ・遠賀町地域福祉計画推進委員会 委員長
- ・大牟田市健康福祉推進会議 会長
- ・苅田町地域福祉推進委員会 委員長
- ・北九州市社会福祉審議会 委員 (地域支援専門分科会 会長)
- ・北九州市地域福祉振興協会 副会長
- ・北九州市社会福祉協議会 総合企画委員会 委員長 (兼アドバイザー)
- ・小竹町地域福祉計画策定委員会 委員長
- ・志免町社会福祉協議会 ボランティア育成・福祉団体等助成金配分審査会 会長
- ・田川市地域包括ケアシステム推進協議会・保健 (予防) ・生活支援部会 部会長
- ・田川市地域福祉計画推進会議 会長
- ・福岡県社会福祉協議会 市町村社協委員会 専門委員会 委員長
- ・福智町地域福祉計画・地域福祉活動計画 アドバイザー
- ・福津市福祉施策策定審議会 会長
- ・水巻町福祉施策推進協議会 会長

- ・みやこ町地域福祉総合計画審議会 会長
- ・宗像市社会福祉協議会 第5次地域福祉活動計画策定委員会 委員長
- ・行橋市みんなで支えあう行橋市福祉のまちづくり推進委員会 委員長（兼実務者会議座長）
- ・行橋市成年後見制度利用促進委員会 委員長

8. 学外講義・講演

- ・飯塚市役所 重層的支援体制整備事業に関する研修会 講師
- ・水巻町社会福祉協議会 市民後見人・法人後見従業者養成講座 講師
- ・大野城市社会福祉協議会 第23回南地区コミュニティ「福祉交流のつどい」 講師
- ・ちくしの福祉村運営委員会（共催：筑紫野市・筑紫野市社会福祉協議会）「ちくしの福祉村」公開講座（第2回） 講師
- ・宗像市社会福祉協議会 福祉教育セミナー 講師
- ・福智町社会福祉協議会 地域づくり研修会 講師
- ・北九州市社会福祉協議会 ふくしのまちづくり講座（八幡東区大蔵第一地区） 講師
- ・福岡県立中間高等学校 高校訪問
- ・北九州市社会福祉協議会 ふくしのまちづくり講座（若松区江川校区） 講師
- ・小郡市民生委員児童委員協議会 研修会 講師
- ・中間・遠賀地区社会福祉協議会連絡協議会 役職員研修会 講師
- ・福岡県社会福祉協議会 市町村社会福祉協議会会長・常務理事・事務局長研修会 講師
- ・福岡県社会福祉協議会 市町村社会福祉協議会事務局長会議 講師

9. 附属研究所の活動等

- ・附属研究所重点領域研究「生活習慣病の重症化によるCKD(慢性腎臓病)のリスクアセスメントー地域包括ケアシステム構築に向けたGISを活用ー」（研究代表者：尾形由起子）、研究分担者

10. 今年度の自己評価

「社会貢献活動」や「学外講義・講演」に記載しているとおり、今年度は福岡県内の多くの市町村の地域福祉行政や社会福祉協議会の活動に関わらせていただいた。このような社会貢献活動から得られた知識や経験、ネットワークを学部の実習教育や就職活動支援、大学院での研究指導などに活かすことができた。また、特に地域福祉計画の策定過程への参画は自身の研究活動にも活かされ、科学研究費報告書や関連論文等の研究成果につながった。今後も社会貢献活動を教育・研究活動に活かせるよう工夫を続けていきたい。

人間社会学部／総合人間社会コース	職名	教授	氏名	森脇敦史
------------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

憲法学を専攻しており、特に情報と法との関わり合いを中心的な研究課題としている。電子通信技術の発達をもたらす問題に対して、表現の自由という観点から個別事例においてどのような解決を図るべきなのか、またどのような制度設計を行うことが最も適切な権利配分を人々に行うことになるのかということ考察している。また近年は、アメリカの表現の自由法理が形成された歴史的背景、司法審査の正当化根拠についても研究を進めている。

学位：修士（法学）

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 君塚正臣・森脇敦史（編）『ベーシックテキスト憲法 第4版』法律文化社、2023年9月

②その他最近の業績

<学会発表>

・

③過去の主要業績

- ・ 森脇敦史「言論活動への政府資金助成に対する憲法上の規律」、阪大法学第53巻1号113～142頁、2003年
- ・ 森脇敦史「キャス・サンズティン リスクと不確実性の憲法学」駒村圭吾・山本龍彦・大林啓吾（編）『アメリカ憲法学の群像 理論家編』255～274頁、尚学社、2010年1月
- ・ 森脇敦史「ヒューゴ・ブラック 歴史は繰り返すか？」山本龍彦・大林啓吾（編）『アメリカ憲法の群像 裁判官編』145～170頁、尚学社、2020年6月

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

関西アメリカ公法学会、関西憲法判例研究会、九州公法判例研究会、情報ネットワーク法学会

6. 担当授業科目

法学・2単位・1年・前期、教養演習・1単位・1年・前期、憲法・2単位・1年・後期、入門・数字で見る日本社会・2単位・1年・後期、社会人基礎力演習・1単位・2年・前期、現代社会論C（情報社会と法）・2単位・2年・後期、問題解決演習・1単位・2年・後期、法律学概論Ⅰ・2単位・3年・前期、公共社会学研究Ⅰ・1単位・前期、法律学概論Ⅱ・2単位・3年・後期、個人情報法制・

2 単位・後期、公共社会学研究Ⅱ・1 単位・後期、卒業論文・6 単位・通年、日本事情 B（分担）・2 単位・留学生・前期、日本事情 A（分担）・2 単位・留学生・後期

7. 社会貢献活動

田川市情報公開・個人情報保護審議会委員（会長）

築上町個人情報保護審査会委員（会長）

福智町情報公開審査会委員（会長）

福智町個人情報保護審査会委員（会長）

古賀市情報公開・個人情報保護審議会委員

古賀市行政不服審査会委員

玄界環境組合情報公開・個人情報保護審議会委員

玄界環境組合行政不服審議会委員

粕屋北部消防本部行政不服審議会委員

粕屋北部消防本部情報公開・個人情報保護審議会委員

田川市立病院倫理委員会

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

10. 今年度の自己評価

教育については、コメントシートにより学生の理解度を随時把握しながら、授業内で復習を兼ねたまとめを採り入れることで、学習効果の定着を図ることができた。研究については、十分に進められたとは言い難く、来年度に向けて計画的に調査等を行う。社会貢献については、地方公共団体の審議会等への運営参加を通じて、専門家としての知見を活用した貢献を実施できた。

人間社会学部／ 人間形成学科・心理コース	職名	教授	氏名	吉岡和子
-------------------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

2004年3月に九州大学大学院人間環境学府博士後期課程を満期退学し、2007年2月に九州大学より博士（人間環境学）の学位を授与されました。臨床心理士として、医療機関（精神科）、保健福祉センター、学生相談室などに勤務後、2006年10月に本学に着任しました。

主な研究領域は、①対人関係における自己表出の在り方②アサーショントレーニング・プログラムの実践③心理アセスメントを用いた本人や家族への心理的援助に関する研究です。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<著書>

・マハザド・ホジャット アン・モイヤー（編）吉岡和子・田中健夫・細川理香・仲嶺実甫子・中園照美・吉田加代子・真崎由美子・岩橋宗哉・児玉恵美・富田真弓（訳）宮崎弦太（解題）（2024）『友人関係の心理学：生涯にわたる多様な友情の考察』金子書房

・吉岡和子（2023）春日由美・五十嵐 亮編（2023）『現場で役立つ教育相談入門：子どもたちの幸せのために』第4章 第3節／第12章 第1節，4節 北樹出版

<論文>

・守口典行・吉岡和子・小嶋秀幹（2024）「老年期男性における年齢に応じた心理的適応方略の変化：国立大学農学部卒業生・国家公務員（農学系）退職者を対象にした調査」『臨床心理学』24，224-234.（査読有）

・山下雅子・中山政弘・後藤理恵・渋谷明子・豊田梨紗・中島亜矢菜・宮崎圭祐・吉岡和子（2022）「アウトリーチ型の子育て支援の意義と課題—COVID-19 禍の子育て支援—」『福岡県立大学心理臨床研究』14，35-43.（査読無）

・吉岡和子（2022）「ロールシャッハ法を味わうために」『福岡県立大学心理臨床研究』14，57-75.（査読無）

<その他>

・吉岡和子（2024）「人生の転機における友人関係」特集：転機の心理学「こころ」のための専門メディア 金子書房

②その他最近の業績

<学会発表>

・Kazuko Yoshioka, Emi Kodama（2022）Drawings in Draw-Your-Family-as-an-Animal Test and Evaluation of Impressions of Self and Parent. ECP 2022, 17th European Congress of Psychology（5-8.July）online（Ljubljana, Slovenia）.

・福田恭介・早見武人・吉岡和子・田中直也・志堂寺和則・松尾太加志（2022）Go/No-Go 課題時の瞬目発生・抑制の発達の検討 第40回日本生理心理学会大会・日本感情心理学会第30回大会 合同大会 2022 2022.5.27～29（関西学院大学）

③過去の主要業績

< 著書 >

・高橋紀子・吉岡和子編（2010）「心理臨床，現場入門：初心者から半歩だけ先の風景」ナカニシヤ出版.

・吉岡和子・高橋紀子編（2010）「大学生の友人関係論：友だちづくりのヒント」ナカニシヤ出版.

< 論文 >

・吉岡和子（2007）「友人関係での自己表出における葛藤」『心理臨床学研究』24（6），723-728.

・吉岡和子（2002）「友人関係の理想と現実のズレ及び自己受容から捉えた友人関係の満足感」『青年心理学研究』13，13-30.

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本青年心理学会 日本心理臨床学会（代議員） 日本教育心理学会 日本ロールシャッハ学会（常任理事） 日本パーソナリティ心理学会 日本精神分析学会 九州心理学会（理事）

6. 担当授業科目

< 学部 > 心理実習 I・1 単位・2 年・通年（共同），心理学的支援法・2 単位・2 年・後期（共同），公認心理師の職責・2 単位・2 年・後期（分担），心理実習 II・1 単位・2 年・前期（共同），心理演習・2 単位・3 年・後期（共同），心理実習 III・1 単位・3 年後期（共同），家族心理学（社会・集団・家族心理学）・2 単位・4 年・前期，教育相談（幼児教育）・2 単位・4 年・前期（分担），演習・2 単位・3 年・通年，卒業論文・6 単位・4 年・後期

< 大学院 > 家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践・2 単位・1・2 年・前期，臨床心理基礎実習 A・1 単位・1 年・前期（共同），臨床心理基礎実習 B・1 単位・1 年・通年（共同），臨床心理査定演習 II・2 単位・1 年・後期，臨床心理実習 I（心理実践実習 A）・10 単位・1・2 年・通年（共同），臨床心理実習 II・1 単位・2 年・通年（共同），心理実践実習 B・2 単位・1・2 年・通年（共同），心理療法特論・2 単位・2 年前期（分担）特別研究 I・2 単位・1 年・通年，特別研究 II・2 単位・2 年・通年

7. 社会貢献活動

- ・一般社団法人 福岡県臨床心理士会 事務局長
- ・日本ロールシャッハ学会 常任理事／機関誌編集委員会委員長
- ・一般社団法人 日本心理臨床学会 代議員
- ・一般社団法人 日本臨床心理士会 代議員
- ・九州心理学会 理事
- ・福岡県臨床心理士会・福岡県公認心理師会連絡協議会 事務局長
- ・NPO 法人九州大学こころとそだちの相談室 理事／相談員
- ・九州大学総合臨床心理センター 面接指導員

- ・福岡女学院大学大学院 心理査定委託相談員
- ・西九州大学臨床心理相談センター 研究員

8. 学外講義・講演

- ・西田川高校 出前講義「性格検査で自分を知ろう」5月23日
- ・北九州LD等発達障害親の会 すばる勉強会「アサーション」8月25日
- ・福岡県市町村研修所「カウンセリング・マインド養成研修」9月24日、25日
- ・福岡県女性相談所 婦人保護事業新任者研修「DV相談と支援」10月1日
- ・一般社団法人福岡県精神科病院協会 OT・PT会 令和6年度第2回研修会「自分も相手も大切にする自己表現：アサーションを身に着けよう」10月12日
- ・筑水会病院 ハラスメント研修「自分も相手も大切にする自己表現：アサーションを身に着けよう」3月12日

9. 附属研究所の活動等

<心理教育相談室>

- ・相談室室長
- ・相談室紀要編集委員会小部会
- ・福岡県立大学心理臨床研究会の企画と運営
- ・お父さんとお母さんの学習室（ペアレントトレーニング）の企画と運営

<人間社会学部紀要>

- ・査読担当

10. 今年度の自己評価

研究：2つの学会誌への投稿準備をしている段階である。2024年2月に出版した翻訳書の一般向けの紹介を兼ねてコラムを執筆した。教育：臨床心理士・公認心理師養成を中心に取り組んだ。学会活動：日本ロールシャッハ学会の機関誌編集委員長として第28巻を刊行した。また、九州心理学会第85回大会の事務局長を務めた。社会貢献：例年の活動に加えて、出前講義と他職種の研修講師を担当した。以上、学内運営も含めて、2024年度の活動は充実したものであったと評価する。

人間社会学部／人間形成学科・心理コース	職名	准教授	氏名	池 志保
---------------------	----	-----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

2014年より福岡県立大学人間社会学部および人間社会学研究科専任講師、2019年より専任准教授として大学教育に従事しています。研究では「臨床及び発達における創造性」を柱とし、1. 創造性に関する個人と環境との発達の相互交流、2. 創造性とパーソナリティとの関連を主な研究テーマとしています。心理臨床のフィールドは医療及び教育です。病院臨床では、医療法人おくら会藤戸病院の常勤心理職を経て、医療法人弘恵会ヨコクラ病院非常勤心理職、現在は川谷医院にて非常勤心理職として兼業に従事しています。教育臨床では福岡県中学校スクールカウンセラーを経て、本学学生相談室にて学生相談員・学生相談室部会長を兼任してきました。その他、西南学院大学大学院非常勤講師（2016年度集中「発達心理学特論」）、九州歯科大学口腔保健学科非常勤講師（2018年度より現在まで。前期「総合医科学」）など。2007年九州大学大学院人間環境学府博士後期課程単位取得後退学。人間環境学修士。臨床心理士・公認心理師・精神保健福祉士・日本精神分析学会認定心理療法士。

2. 研究業績

① その他最近の業績

<学会発表>

- Shiho Ike (Presenter), Amy Joelson (Discussant), Katrina Boggiano (Moderator), The Ambiguity of Living Creativity as an Artist and the Therapist's Selfobject Functions, 43rd Annual IAPSP International Conference Paper Session1 in Washington, DC, 2022.
- 池志保（司会者）日本心理臨床学会第42回大会口頭発表（発表者：本田賢介，指定討論者：富樫公一），2023.
- 小泉誠（企画者・話題提供者：甲子園大学）・池志保（司会者）・宮本淳（話題提供者：愛知医科大学）・荻野基介（話題提供者：垂水病院）・井ノ崎敦子（話題提供者：徳島大学）・角田豊（指定討論者：京都連合教職員大学院/京都産業大学）「間主観的自己心理学入門①」日本心理臨床学会自主シンポジウム，2024.
- 池志保（企画・司会者・話題提供者）・森さち子（話題提供者：慶應義塾大学）・小泉誠（話題提供者：甲子園大学）・Greg Kolodziejczak（話題提供者：アメリカ・プライベートオフィス）・山崎篤（指定討論者：JPS精神分析的精神療法家センター）。「間主観性理論と発達臨床」日本精神分析学会第70回大会教育研修セミナー，2024.
- 池志保（司会者）日本精神分析学会第70回大会研修症例2，2024.

<翻訳>

- <講演記録（日本語訳）> トーマス・A・コフト（海外招聘講師），翻訳者：池志保（翻訳監修）・外山敬・西山豪. 精神分析と語られない歴史—なぜ精神分析家は文化を無視できないのか—, 精神分析研究 66 (4), pp.413-421, 2022.

- ・ <コラム>
- ・ 池志保（単独）先人に訊ねる日本の心理臨床学史：北山修先生に訊く，一般社団法人心理臨床学会「日本心理臨床学会 40 周年記念誌—その歴史と記録—」，2022.
- ・ 池志保（単独）恋愛関係の終焉の意味，日本心理臨床学会広報誌「心理臨床の広場」第 16 巻 30 号，2023.

② 過去の主要業績

<著書>

- ・ Martin Goßmann, Andrea Harms(Herausgeber), Shelley Doctors, Roger Fire, Jackie Gotthold, Hana Grinberg, Amy Joelson, Shiho Ike, Karin J. Lebersorger, Thomas A. Kohut, Amanda Kottler, Frank M. Lachmann, Karin J. Lebersorger, Jane Lewis, Joseph D. Lichtenberg, Krise und Kreativität. BRANDES & APSEL, 2019.

<学会発表>

- ・ Presenters: Jacqueline Gotthold, Amy Lebersorger, Karin Lebersorger, Shiho Ike, Martin Gossmann & Koichi Togashi. Politics Enters the Therapy Playroom: From Anna Freud to Ornstein to... 41st IAPSP Annual International Pre-Conference, Vienna, 2018.

<外部研究資金>

- ・ 日本心理臨床学会 2022 年度国際交流助事業助成（国際学会発表）採択，“The Ambiguity of Living Creativity as an Artist and the Therapist’s Selfobject Functions” 開催地：アメリカ合衆国（ワシントン D.C.） 43rd Annual IAPSP Conference in Washington, DC（研究代表者：池志保）。

3. 外部研究資金

Shiho Ike, IAPSP Early Career Professional Scholarship, \$750.00 for expenses related to attending the conference, an additional \$500.00 travel costs and complimentary registration for any virtual conference etc., from October 1st, 2023 to October 1st, 2024.

4. 受賞

5. 所属学会

日本心理臨床学会、日本発達心理学会、日本精神分析学会、日本教育心理学会、日本病蹟学会、IAPSP (International Association for Psychoanalytic Self Psychology)、IARPP (The International Association for Relational Psychoanalysis and Psychotherapy) (各正会員)

【その他の研究会】NAPI 精神分析的間主観性研究グループ（運営委員）、日本精神分析学会認定福岡精神分析研究会、JAPSP 日本精神分析的自己心理学研究会（各正会員）

6. 担当授業科目

【学部】 発達心理学 I-A (2 単位・前期)、発達心理学 I-B (2 単位・前期)、発達心理学 II (2 単位・後期)、心理的アセスメント (2 単位・後期)、心理実習 I (1 単位・通年)、心理実習 II (1 単位・前期)、心理実習 III (1 単位・後期)、公認心理師の職責 (2 単位・後期)、演習 (2 単位・通年)、卒業論文 (6 単位・通年)

【大学院】 発達心理学特論 (2 単位・前期)、臨床心理査定演習 I (心理的アセスメントに関する理論と実践) (2 単位・前期)、臨床心理面接特論 I (心理支援に関する理論と実践) (2 単位・前期)、臨床心理基礎実習 A (1 単位・前期)、臨床実践実習 B (2 単位・通年)、臨床心理実習 I (心理実践実習 A) (10 単位・通年)、臨床心理実習 II (1 単位・通年)、研究倫理 (1 単位・通年)

7. 社会貢献活動

【役員】

日本心理臨床学会国際交流委員会委員 (2024 年度より現在)、日本精神分析学会運営委員 (2024 年度より現在)、NAPI 精神分析的間主観性研究グループ運営委員 (2019 年度より現在)、日本精神分析学会認定福岡精神分析研究会運営委員 (2022 年度より現在)

【査読】

心理臨床学研究

8. 学外講義・講演

【講義】

ウィニコット・フォーラム 2024 (シンポジスト). 「オンラインで繋がる遊ぶことと現実」(2024 年 11 月 23 日).

JAPSP 日本精神分析的自己心理学研究会講演 (講師). 「自己心理学再入門: 自己対象ってなんだっけ」(2024 年 11 月 24 日).

福岡精神分析研究会系統講義 (講師). 「共感はどこまで可能か、他者性について-共感の精神分析的理論の展開」(2025 年 3 月 1 日).

9. 附属研究所の活動等

福岡県立大学心理教育相談室 相談室委員

人間社会学部／人間形成学科・ こどもコース	職名	准教授	氏名	伊勢 慎
--------------------------	----	-----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

岡山大学大学院教育学研究科学校教育専攻幼児教育講座修了、修士（教育学）。広島大学大学院教育学研究科教育人間科学専攻（博士課程）単位取得満期退学。

修了後、保育士として保育園で3年間働き、その現場での経験を生かし授業や研究を進めています。特に保育実習Ⅰ（保育所）を担当しているため、現場での基本的なことから核となる子ども理解、指導案等の書き方などの指導に力を入れています。また、主な研究分野は、保育学、幼児教育学です。近年では、保育者の前向きな働き方（職場環境等含む）に着目した研究を中心に行っており、研究の成果を生かし、保育所、幼稚園等での園内研修やその他の研修も行っています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 高口知浩、伊勢慎、井手裕子「早期離職保育士への復職支援に関する質的研究」、福岡県立大学人間社会学部紀要、第33巻2号、2025
- ・ 伊勢慎、小山憲一郎：「保育士の勤務継続を支える要因尺度作成に関する研究」、保育学研究、第61巻第2号、2023
- ・ 井手裕子、伊勢慎、池田孝博「保育者の困り感への対応における知識・技術獲得の現状と課題 - 課題解決のための情報収集とソーシャルスキルに着目して -」、福岡県立大学人間社会学部紀要、第31巻2号、2023
- ・ 高口知浩、伊勢慎「同僚性の形成に向けた取り組みの変化について - コロナ禍前後の比較 -」、福岡県立大学人間社会学部紀要、第31巻第1号、2022
- ・ 伊勢慎、池田孝博、櫻井国芳、古橋啓介「子どもの道徳・規範意識と運動に関する一考察」、福岡県立大学人間社会学部紀要、第31巻第1号、2022
- ・ 七木田敦、上村眞生、岡花祈一郎、伊勢慎、その他：『子ども家庭支援論ー子どもを中心とした家庭支援ー』教育情報出版、2022

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 原口直美、伊勢慎「集団保育における個と集団の育ちの両立を志向する保育者の課題と介入方法の検討」日本保育者養成教育学会第9回研究大会、2025
- ・ 伊勢慎、小山憲一郎、中原雄一「アフターコロナにおける幼稚園4歳児が地域を活性化する町探検実践の試行」日本乳幼児教育学会第34回大会、2024
- ・ 中原雄一、伊勢慎、小山憲一郎「コロナ禍後における保育士の精神的健康度とその要因」日本乳幼児教育学会第34回大会、2024
- ・ 伊勢慎、高口知浩、井手裕子「Trial of Urban revitalization Starting with Regional Exchange in Japanese Kindergarten」国際幼児教育学会第45回大会、2024
- ・ 小山憲一郎、伊勢慎、中原雄一「コロナ禍でエッセンシャルワーカーとして働き続けた保育士を心理的に支えたものに関する検討」第65回日本心身医学会総会、2024
- ・ 高口知浩、伊勢慎、「園を辞めたが保育を辞めなかった保育士から探るやりがいー離職を経験した3年

③過去の主要業績

- ・ 中坪史典、山下文一、松井剛太、伊藤嘉余子、立花直樹、伊勢慎、その他：『保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典』（第1部⑤労働環境）、ミネルヴァ書房、2021
- ・ 伊勢慎「私立保育園保育士の長期勤務要因に関する研究」、国際幼児教育研究第26巻、2019
- ・ 中坪史典、境愛一郎、濱名潔、保木井啓史、伊勢慎、サトウタツヤ、安田裕子『質的アプローチが拓く「協働型」園内研修をデザインする 保育者が育ち合うツールとしてのKJ法とTEM』、ミネルヴァ書房、2018

3. 外部研究資金

科学研究費助成事業（基金分）基盤研究C：「アフターコロナ時代における保育士の新しいメンタルヘルス対策の実行手法の検討」（代表）、2021-2023

4. 受賞

5. 所属学会

日本保育学会、国際幼児教育学会（理事）、日本子ども社会学会、日本質的心理学会、日本乳幼児教育学会、日本混合研究法学会

6. 担当授業科目

（学部）

保育者論・2単位・1年・後期、保育内容総論・2単位・2年・前期、保育カリキュラム論・2単位・2年・後期、保育実習指導Ⅰ・2単位・2～3年・通年、演習・2単位・3年・後期・通年、保育実習Ⅰ・4単位・3年・前期、乳児保育Ⅱ・2単位・3年・前期、保育方法論・2単位・3年・後期、保育実習指導Ⅱ-A・1単位・3年・後期、保育実習Ⅱ-A・2単位・3年・後期、卒業論文・6単位・4年・通年、保育・教職実践演習（幼稚園）・2単位・4年・後期、保育内容演習・2単位・4年・後期

（大学院）

教育課題研究A・2単位・修士1年・前期、子ども教育カリキュラム研究・2単位・修士1年・前期、子ども教育実践方法研究・2単位・修士1年・後期、特別研究Ⅰ・4単位・修士1年・通年

7. 社会貢献活動

香春町教育委員会評価委員委員長、国際幼児教育学会理事、北九州市児童福祉施設等第三者評価委員会専門委員

8. 学外講義・講演

熊毛地区保育連合会職員研修会講師、北九州市保育士研修「領域・言葉」講師、ECEQ公開保育研修園アドバイザー

9. 附属研究所の活動等

10. 今年度の自己評価

教育・授業においては、概ね良好な授業評価をいただいております、これからも保育士として必要なスキルや保育所での実習に関する内容を丁寧に指導していきたい。しかし、授業時間外での学習時間が相対的に短い授業もあり、課題を安易に増やすのではなく、学生がより学びたい、深めたいというテーマを提示し促していきたい。研究においては、継続的に行っているものに加え、新たなテーマを模索しながら進めていきたい。その上で、研究で得た知見を社会貢献の一部として還元することを次年度も力を入れて進めていきたい。

人間社会学部／人間社会学科・総合コース	職名	准教授	氏名	井上奈美子
---------------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

主な研究分野：①キャリア形成、人的資源管理、ワークライフバランス、リーダーシップ、女性活躍推進、男女共同参画、若年者雇用

②企業団体連携インターンシップ、企業連携課題解決演習、キャリア教育アクティブラーニングの開発、初年次教育インターンシップ

学生が、社会課題を自ら発見し、解決に向かうために考え、実践するという課題解決型授業を企業や団体と共に展開しています。長年、企業や行政との連携インターンシップの開発に力を入れてきました。学生は、社会で働き生きる人々から、人間力を学びます。企業や団体や土地の魅力を実感し、未来への希望と意欲を抱き、社会で活躍する人材を送り出すための教育と研究を行っています。授業では、学生らが主体的に行政のビッグデータ分析をしたり、福岡・佐賀・熊本を中心とした九州の企業の魅力を発見したりする実践的なアクティブラーニングも行っています。学位（経済学博士：九州大学大学院）

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- 井上奈美子「地方大学における地域連携インターンシップ教育プログラムの開発」福岡県立大学人間社会学部 紀要、第 31 巻、第 1 号、2022 年 10 月
- 井上奈美子「食品専門高校における弁当メニュー開発と道の駅での販売体験プログラムが生徒に与えた影響」福岡県立大学人間社会学部紀要 第 32 (1), 85-95, 2023 年 10 月
- 井上奈美子「女性リーダーのキャリア形成と意識に関する研究」福岡県立大学人間社会学部紀要 第 33, No. 2, 19-32, 2025 年 10 月

②その他最近の業績

<学会発表>

- 井上奈美子「元炭鉱地域の男女共同参画アンケートに見る現状と課題」、日本ビジネス実務学会、九州ブロック研究会、2022 年
- 井上奈美子「元炭鉱地域の男女共同参画アンケートに見る現状と課題」、日本ビジネス実務学会、全国研究大会、2022 年
- 井上奈美子「大学生を対象とした組織開発理論を応用した PBL 講義の実践：学習効果とストレスの探求」、日本創造学会、全国研究大会、2023 年
- 井上奈美子「学内グループ学習とインターンシップ連動学習の創造性の比較」、日本ビジネス実務学会、全国研究大会、2023 年
- 井上奈美子「女性の本音と就業実態から探る女性の管理職登用の課題」九州経済学会、研究大会、2023 年
- 井上奈美子、藤井 厚紀「大学 1 年次から 3 年次までの段階的キャリア開発 プログラムの設計」日本工学教育学会研究会、2024 年

- ・ 井上奈美子「大学生が抱く将来のライフ・キャリア・イメージを検証する」日本創造学会研究年次大会、2024年
- ・ 井上奈美子「大学生が抱く将来のライフ・キャリア・イメージとキャリア教育の課題」日本ビジネス実務学会、2025年

③過去の主要業績

- ・ 学生の「力」をのばす大学教育第12章「女子大学生の組織学習を通じたキャリア形成に関するフィールドリサーチ」地域創造研究叢書唯学書房、愛知東邦大学地域創造研究所(183ページ)、2014年
- ・ 「女性リーダー育成プログラムの開発と実践～九州女性ビジネススクールの成果と課題～」『日本ビジネス実務論集』第33号、日本ビジネス実務学会、67-76頁、2015年
- ・ “Women’s career life in contemporary Japan.” IAEVG International Conference 2015 国際キャリア教育学会、2015年

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

- ・ 日本ビジネス実務学会会員（九州四国ブロック幹事）・九州経済学会 ・日本キャリア教育学会
- ・ 日本創造学会・日本工学教育学会

6. 担当授業科目

情報と職業1単位2年・前期、社会人基礎力演習2単位・1年2年・前期、教養演習2単位・1年・前期、プレインターンシップ2単位・1年2年・前期、ライフキャリア論2単位・1年2年・前期、キャリア教育論2単位・3年・前期、人的資源管理論2単位・2年前期、組織マネジメント2単位・3年・前期、問題解決演習2単位・2年3年・後期、グローバル社会論2単位・2年・後期、日本事情2単位・後期、卒業論文・通年、学内業界研究会

7. 社会貢献活動

田川市男女共同参画推進協議審議会 会長（審議会、女性リーダー育成研修講師、男女共同参画市民意識調査など）、久留米六つ門大学、特定非営利法人久留米10万人女子会フォーラムアドバイザー、高校生向けキャリア講話（キャリア）、企業や行政機関のパワハラ・セクハラ研修講師、日本経営者協会参与

8. 学外講義・講演

一般社団法人日本経営協会女性ビジネススクール女性リーダー育成プログラム講師 久留米六つ門大学 講師 「日本企業における SDG s の取り組み」 田川市男女共同参画推進センターゆめっせ主催「女性リーダー育成研修会」講師 あすばる男女共同参画フォーラム 2021 特定非営利法人久留米 10 万人女子会主催「コロナ後を どう生きる？～育児、介護の地域力をあげて私たちが望む社会へ」2021 年 11 月 28 日 企画& ワークショップ講師、田川市男女共同参画推進主催女性リーダー育成講師

9. 附属研究所の活動等

公開講座「職場におけるハラスメント問題を考える」～パワハラを起こさないために～講師
令和 7 年 3 月 5 日福岡県立大学附属研究所

10. 今年度の自己評価

- ・認証評価でプレインターンシップの授業を評価された。
- ・すべての授業にデータ分析や IT スキルの活用を新たに導入し、アクティブラーニングの教育設計をバージョンアップさせた。これによって、アクティブラーニングへの学生の満足度を上げることができた。
- ・全授業、毎週、学生からの質問コメントを回収（入力方式）し、翌週までにすべて返答した。これによって、学生の理解度を落とさず、授業を計画通り進めることができた。
- ・学生と企業がオンライン上で対話のできる業界研究会などの機会を増やし、学生のキャリア形成や就業先の理解に貢献した。
- ・プレインターンシップや 3 年生のインターンシップ先との対話を増やし、インターンシップの内容を向上させ、派遣先によって体験のばらつきが出ないように調整した。また、終了後にも受け入れ先との話し合いを実施し、問題点や改善点、受け入れ先からの要望についてヒアリングを行い、教育効果の向上に努めた。
- ・学部生に加え、大学院生の就職活動支援、模擬面接などを行い、内定に貢献した。

人間社会学部／社会福祉学科・社会福祉コース	職名	准教授	氏名	奥村 賢一
-----------------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

同志社大学大学院社会学研究科社会福祉学専攻博士後期課程修了。博士（社会福祉学）。

主な研究テーマは以下の三点です。一点目は、「学校ソーシャルワーク実践に関する研究」です。不登校をはじめとする種々の教育課題を改善していくため、スクールソーシャルワーカーに求められる専門的役割や機能について実証研究を中心に行っています。二点目は、「児童虐待防止に向けた家族支援に関する研究」です。児童虐待を早期発見・未然防止していくための家族支援に関する具体的方法について研究を行っています。三点目は、「知的障害・発達障害（児）者の地域生活支援に関する研究」です。知的障害・発達障害（児）者の地域生活の充実に向け、地域の有機的ネットワークを活用した社会資源の開発・開拓および障害特性に対応したソーシャルワーク実践を研究しています

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 奥村賢一（2023）「スクール（学校）ソーシャルワーク教育課程・実習プログラムの変遷と展開課題ー福岡県立大学における教育実践報告からの検討ー」『福岡県立大学人間社会学部紀要』 32(1), 143-154.
- ・ 奥村賢一（2023）「障害者権利条約第24条「教育」の改善勧告（総括所見）を受けてー日本の特別支援教育とインクルーシブ教育システムの課題ー」公益社団法人日本知的障害者福祉協会『障害福祉研究さぼーと』70(2) 38-44.
- ・ 金澤ますみ・奥村賢一・郭理恵。野尻紀恵編（2022）『三訂版 スクールソーシャルワーカー実務テキスト』, 学事出版.

②その他最近の業績

〈学会発表等〉

- ・ 奥村賢一（2025）「スクールカウンセラー協会に期待すること」シンポジスト，一般社団法人福岡県スクールカウンセラー協会設立記念シンポジウム，西南学院大学.
- ・ 奥村賢一（2025）「【学校×福祉】連携のパラドックスーソーシャルワークの視点からー」基調講演，日本学校教育相談学会広島支部研究会，広島大学.
- ・ 奥村賢一・原田直樹・河野高志ほか（2024）「令和5年度文部科学省委託調査スクールソーシャルワーカーの常勤化に向けた調査研究 調査研究報告書」238.

③過去の主要業績

- ・ 門田光司・奥村賢一（2009）『スクールソーシャルワーカーのしごとースクールソーシャルワーカーのための実践ガイド』中央法規出版.
- ・ 奥村賢一（2009）「不登校児童生徒の状況改善に向けた家族支援の有効性に関するー考察ーパワー相互作用モデルを基盤にした学校ソーシャルワーク」『学校ソーシャルワーク研究』第4巻.
- ・ 奥村賢一（2009）「ストレングスの視点を基盤にしたケースマネジメントの有効性に関するー考察ー軽度知的障害者の地域生活支援実践を通して」『社会福祉学』第50巻，第1号.

3. 外部研究資金

文部科学省（令和6年度いじめ対策・不登校支援等推進事業）「いじめ・不登校等の未然防止に向けた魅力ある学校づくりに関する調査研究」，400万円，2024年度。

科学研究費（基盤研究C）「子スクール（学校）ソーシャルワーク実習・実習指導プログラムの開発」117万円，2021年度～2024年度。

4. 受賞

5. 所属学会

日本社会福祉学会、日本学校ソーシャルワーク学会、日本ソーシャルワーク学会、日本子ども虐待防止学会、福岡県立大学社会福祉学会

6. 担当授業科目

【学部】不登校・ひきこもり援助論・2単位・1年・前期、子供学習支援論・1単位・1年・後期、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・2単位・2年・通年、子ども家庭福祉論A・2単位・2年・前期、ソーシャルワーク実習指導Ⅱ・1単位・3年・通年、ソーシャルワーク実習A・2単位・2年・後期、ソーシャルワーク実習B・4単位・3年・通年、社会福祉学演習・4単位・3年・通年、ソーシャルワーク演習D・1単位・3年・後期、学校ソーシャルワーク論・2単位・3年・後期、学校ソーシャルワーク実習指導・1単位・3年～4年・通年、学校ソーシャルワーク実習・2単位・4年・後期、子ども家庭福祉論B・2単位・3年・後期、卒業論文・6単位・4年・通年、福祉専門職特講A・2単位・3年～4年・後期

【大学院】特別研究Ⅰ・4単位・1年、特別研究Ⅱ・4単位・2年、子ども家庭福祉研究A・2単位・1・2年・前期、子ども家庭福祉研究B・2単位・1・2年・後期

7. 社会貢献活動

日本学校ソーシャルワーク学会・代表理事

一般社団法人福岡県スクールソーシャルワーカー協会・会長

福岡県教育委員会スクールソーシャルワーカー・スーパーバイザー

福岡市教育委員会スクールソーシャルワーカー・スーパーバイザー

日本ソーシャルワーク学会学会賞選考委員会・委員

福岡市こども・子育て審議会・委員

福岡市社会的養育あり方検討会・委員

福岡市多様な学び検討会議・副委員長

福岡市いじめ防止対策推進委員会・委員

大牟田市いじめ防止対策委員会 委員長

香春町いじめ防止等対策委員会・副委員長

田川市要保護対策地域協議会代表者会議・委員

宗像市要保護対策地域協議会代表者会議・委員

宗像市子どもの権利救済委員会・委員

福岡県立博多青松高等学校いじめ重大事態対策委員会・委員

福岡県警察本部少年課・専門アドバイザー

8. 学外講義・講演

令和6年度田川市社会福祉大会「子どもの権利と地域の役割ーソーシャルワークの視点からー」田川市民会館，2025年2月。

土曜講座第1部 AI 活用で描く対人援助職の未来「スクールソーシャルワーカー養成の実際と課題」立命館大学，2024年12月。

令和6年度福岡県不登校児童生徒支援強化事業研修体制整備における研修会「教育支援センターに求められる役割」福岡県教育センター，2024年12月。

北九州市民生委員児童委員協議会令和6年度主任児童委員研修会「子どもの権利と地域の役割」ウェルとばた，2024年12月。

たがわ教育フェス「シン・こどもまんなか社会について考えるーソーシャルワークの視点からー」いしかね Palette，2024年9月。

令和6年度やない教育の日「気になる子どもの見立てと手立てーソーシャルワークの視点からー」アクティブやない，2024年8月。

第32回宗像地区「同和」教育研究集会「こどもの権利とおとなの役割」福津市中央公民館，2024年8月。

令和6年度短期研修「不登校の未然防止に向けたスクリーニングの必要性」久留米市教育センター，2024年8月

一般社団法人糸島市青年会議所青少年健全育成事業公開セミナー「地域で育むこどもの未来ー子どもの権利とおとなの役割ー」オンライン，2024年7月。

朝倉市小中学校PTA研修会こどもの明日を考える講演会「思春期のこどもと寄り添うおとなー子育てからの親育ちー」朝倉市総合市民センター，2024年6月。

9. 附属研究所の活動等

不登校・ひきこもりサポートセンター教員スタッフ

10. 今年度の自己評価

新たな教職課程検討ワーキンググループのメンバーとして、高等学校教諭一種免許状（福祉）の認可申請手続き等を担当し、新規教職課程を開設することができた。また、学務部会員として、人間社会学専攻の設置に向けた変更申請手続き等を行い、令和7年度からの新たな大学院の組織体制の整備に務めた。また、社会福祉コースでは、ソーシャルワーク実習 A・B における実習先の新規開拓を行い、児童分野の新しい施設・事業所での実習が可能になった。

人間社会学部／総合人間社会コース	職名	准教授	氏名	河本 恵美
------------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

研究分野は、海事英語及び海事英語教育である。研究内容は、海難事故報告書や管制官の交信データを収集し、母語に干渉された英語の誤用表現を分析している。また、海上交通における海難事故や海上での被害を防止するために、日本と韓国間による海事英語や海事文化の比較研究も行い、日韓海上交通管制官の外国船への対応を文化面からも検証している。2017年度には、「日韓海事文化比較研究」をテーマにした博士論文を執筆し、Ph.D（学術博士）の学位を取得した。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ “The Effectiveness of Maritime English Learning Program: An Investigation of Misused Expressions and First-Language Interference among Japanese Vessel Traffic Operators”（単著）『Journal of World Ocean Development』 published by World Ocean Development Institute at Korea Maritime and Ocean University (2023年3月31日)
- ・（教育実践報告）2022年度社会福祉学科における福祉英語の取り組み—講義内容と効果的な学習法—, 福岡県立大学人間社会学部紀要 第32巻 第1号 pp. 131-142. (2023年10月1日)
- ・

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 2022年11月20日「[日本人VTS運用管制官が使用する海事英語—日本語に干渉された誤用表現の分析と効果的学習法—] 日本人類言語学会発表
- ・
- ・

③過去の主要業績

- ・ <博士論文>A Comparative Study of Maritime Cultures: A Study of the Actions and Procedures of Vessel Traffic Service Officers in Japan and Korea (2017年3月)
- ・ "A Comparative Study of the Actions and Procedures of Korean and Japanese Vessel Traffic Service Officers"（共著）『Journal of World Ocean Development』 published by World Ocean Development Institute at Korea Maritime and Ocean University, Vol. 26. pp. 200-227. (2017)
- ・ “A Comparative Study of Communication Styles: A Study of the Differences and Similarities of Communication Patterns in Japan and Korea”, 北九州市立大学大学院社会システム研究科『社会システム研究』第16号 (2018)

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

- ・ 日本人類言語学会
- ・ 社会言語科学会

6. 担当授業科目

教養演習・1単位・1年・前期、リーディング・ライティング中級(1)・1単位・1年・前期、総合英語初級(1)・1単位・2年・前期、総合英語(2)・1単位・2年・前期、英語IV-(1)・1単位・3年・前期、日本事情 B・2単位・留学生・前期、リーディング・ライティング中級(2)・1単位・1年・後期、総合英語初級(2)・1単位・2年・後期、総合英語中級(2)・1単位・2年・後期、英語IV-(2)・1単位・3年・後期、日本事情 A・2単位・留学生・後期

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

10. 今年度の自己評価

R6 年度の教育活動は、前年度より英語が新カリキュラムとなったことから、新入生クラス分けテストを導入し、レベル別のクラス編成となった。また、内容の変更もあり、英語教員間で教材研究、クラス運営、クラス間での情報共有を行い、2年間で円滑に新カリキュラムへの移行ができた。また、国際交流部会員として留学生履修科目「日本事情 A,B」の科目代表を務め、留学生が有意義に受講できるよう学生支援班の職員と協力し、支援を行った。

人間社会学部／社会福祉コース	職名	准教授	氏名	河野 高志
----------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

2006年3月京都府立大学福祉社会学部卒業。2012年3月京都府立大学大学院公共政策学研究科福祉社会学専攻博士後期課程修了。博士（福祉社会学）。京都府立大学、京都女子大学、神戸親和女子大学（現：神戸親和大学）の非常勤講師を経て、2012年10月に本学着任。専門はソーシャルワーク論、ケアマネジメント論です。これまでの研究では、①英米を中心としたケアマネジメントの発展過程の整理、②ミクロ・レベルからマクロ・レベルにおけるケアマネジメントの特徴の整理、③ソーシャルワークにおけるケアマネジメント展開の検討、④地域包括ケアシステムにおける多職種連携の促進要因の分析、⑤地域共生社会におけるソーシャルワーク実践の効果の検討を行ってきました。また、共同研究ではソーシャルワーク実践に活用するコンピュータ支援ツールの開発を行っています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- 河野高志（2023）「地域共生社会の実現に向けたソーシャルワークの機能と効果 ―重層的支援体制整備事業の促進に着目して―」『福岡県立大学人間社会学部紀要』31（2），pp.1-16.
- 西梅幸治・山口真里・加藤由衣・河野高志・中村佐織（2024）「ソーシャルワーク実践における過程展開に関する科学化 ―エコシステム視座の具体化に向けた試みに焦点化して―」『福祉社会研究』24，pp.31-48.
- 河野高志・山本大輔（2024）「ソーシャルワーク実践支援ツール『e スキャナー』によるアセスメントの意義 ―介護予防デイサービス事業所での調査を通して―」『ソーシャルワーク支援研究』1，pp.21-32.

②その他最近の業績

<学会発表>

- 山本大輔・河野高志（2023）「ソーシャルワーク実践におけるアセスメントについての研究 ―アセスメント支援ツール『e スキャナー』の試行と検討を通じて―」日本ソーシャルワーク学会 第40回大会，東北福祉大学，2023年7月8日.

③過去の主要業績

- 河野高志（2021）『ソーシャルワークとしてのケアマネジメントの概念と展開 -地域包括ケアシステムにみるミクロからマクロの実践-』株式会社みらい
- 河野高志（2021）「地域包括ケアシステムの構築における課題と進捗状況の検討 ―地域包括支援センターの全国調査を通して―」『社会福祉学』62（2），pp.76-90.
- 河野高志（2019）「地域包括ケアシステムにおける多職種連携の促進要因」『社会福祉学』60（1），pp.63-74.

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本社会福祉学会、日本ソーシャルワーク学会、日本リハビリテーション心理学会

6. 担当授業科目

《学部》

「社会福祉学概論Ⅱ」(2単位・1年・後期)、「ソーシャルワーク演習A」(1単位・1年・後期)、「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」(2単位・2年・通年)、「ソーシャルワークの理論と方法A」(2単位・2年・前期)、「ソーシャルワーク実習A」(2単位・2年・後期)、「社会福祉学演習」(2単位・3年・通年)、「ソーシャルワークの理論と方法D」(2単位・3年・前期)、「ソーシャルワーク演習C」(1単位・3年・前期)、「ソーシャルワーク演習D」(1単位・3年・後期)、「福祉専門職特講A」(3年・2単位・後期)、「卒業論文」(6単位・4年・通年)、「精神保健福祉援助実習」(5単位・4年・通年)、「精神保健福祉援助実習指導」(3単位・3～4年・通年)

《大学院》

「特別研究Ⅰ」(4単位・1年・通年)、「フィールドワーク」(2単位・1年・通年)、「ソーシャルワーク研究A」(2単位・1～2年・前期)、「ソーシャルワーク研究B」(2単位・1～2年・後期)、「特別研究Ⅱ」(4単位・2年・通年)

7. 社会貢献活動

直轄地区居住支援協議会 委員

一般社団法人日本社会福祉学会 第7期代議員

嘉麻市男女共同参画審議会 会長

直方市障がい者差別解消調整委員会 委員

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

10. 今年度の自己評価

社会福祉士・精神保健福祉士の実習教育において、特にグループ学習や反転学習を取り入れて事前・事後学習の方法を工夫したことが教育の充実や改善につながったと考える。今後も、2～4年次にかけて学修内容を効果的に積み上げられるような一貫した実習教育を行えるよう検討を続けたい。

大学院教育では、研究指導教員として対面やオンラインでの研究指導を丁寧に行うことで、修士論文の執筆や調査の実施を概ね順調にサポートすることができた。また、この研究指導を通して院生自身が努力した結果、学会発表や論文投稿を通して研究成果を公表することができ、院生・教員双方にとって得るものの多い1年になった。

人間社会学部／人間形成学科・心理コース	職名	准教授	氏名	小山憲一郎
---------------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

2013年3月鹿児島大学大学院医歯学総合研究科を修了。摂食障害患者の知能に関する研究を行い、学位（博士（医学））を取得。2015年10月に本学に着任しました。現在は、ストレス関連疾患における認知行動療法の研究、マインドフルネスとセルフコンパッションを中心にネガティブな感情の受容を促す心理療法の作用機序に関する実証研究を主に行っています。特に肥満症に対してマインドフルネスを用いた治療の効果やオベスティ・スティグマについての研究に参加しており、2020年に Mindfulness Based Eating Awareness Training (MB-EAT) の Qualified Instructor を取得しています。公認心理師・臨床心理士です。また、ゼミ生の学会発表、論文執筆・投稿を積極的にサポートしています。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

ポジティブな映像と抑うつ的音楽の関係フレームづけに関する心理学的実験 高倉雄大・小山憲一郎
福岡県立大学心理臨床研究, 17巻 2025 3月発刊予定

- ・ 減量のための集団療法にマインドフルネスを使用した経験と今後の可能性について 小山憲一郎
日本心療内科学会誌 Vol. 28, No. 3, 2024, 23-30.
- ・ マインドフルネスを用いた肥満症治療はリバウンドを防止できるか？ 野崎剛弘・小山憲一郎・横山寛明・西原智恵・小牧元・須藤信行 日本心療内科学会誌 Vol. 28, No. 3, 2024, 38-45.
- ・ペアレントトレーニングを応用した特別支援教育スキルアップ ワークショップ 吉岡 和子, 中藤広美, 小山 憲一郎, 福田 恭介, 古賀ななこ 福岡県立大学 心理臨床研究 16, 35-53, 2024
- ・ 保育士の勤務継続を支える要因尺度作成に関する研究 伊勢 慎, 小山 憲一郎 保育学研究 61 (2), 161-172, 2023-12-31
- ・ Hunger Rumination Scale 開発のパイロット研究 —MB-EAT に関する基礎研究— 小山憲一郎 福岡県立大学人間社会学部紀要 32 (1), 55-64, 2023-10
- ・ 困難克服過程で受けた支えに対する感謝が成人期以降の時間的展望に及ぼす影響 - 世代継承性を育む体験の一つとしての子育てに着目して - 下満 由貴, 小山 憲一郎 福岡県立大学心理臨床研究 15 7-16, 2023-03-31
- ・ デイタッチトでマインドフルな気づきは、直接的かつ即時的にポジティブ感情を高める作用を持っている；小確幸発見体験という Positive Side Effect of the Detached Mindfulness 小山 憲一郎, 穴繁 結奈 福岡県立大学人間社会学部紀要 31 (2), 35-46, 2023-03-01
- ・ コミュニケーション回避としての発言抑制発生機序モデルの検討 小山, 憲一郎, 尾首, 優花 福岡県立大学心理臨床研究 14 3-11, 2022-03-31
- ・ 減量・代謝改善手術のためのメンタルヘルス・ガイドブック 2022 評価と対応に関する Q&A 日本肥満症治療学会メンタルヘルス・行動医学部会 Kindle

② その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・ 九州心理学会 第85回大会公開講座 講座A：マインドフルネスという古くて新しい心の在り方：や

わらかく、強く、やさしい在り方 小山憲一郎

- ポジティブな映像と抑うつ的音楽の関係フレームづけに関する心理学的実験
高倉雄大 小山憲一郎 第24回 日本認知療法・認知行動療法学会@福岡
 - 困難克服過程で受けた支えに対する感謝体験尺度作成の試み 下満由記 小山憲一郎 第24回 日本認知療法・認知行動療法学会@福岡
- 大学生の就職活動場面におけるストレスの緩和に関する研究-ディタッチト・マインドフルネスとあいまいさへの非寛容に着目して- 竹田健人 小山憲一郎 第24回 日本認知療法・認知行動療法学会@福岡
- 肥満症に対する認知行動療法およびマインドフルネスのアップデート&トークセッション 第42回 日本肥満症治療学会メンタルヘルス行動医学部会セミナー@横浜 小山憲一郎
- シンポジウム 1 肥満症の闇と光〜スティグマとマインドフルネスの観点から〜 S1-2 肥満症のセルフスティグマからの回復—マインドフルネスの実践を通して— 小山憲一郎 第31回西日本肥満研究会@久留米

② 過去の主要業績

The relationship between premorbid intelligence and symptoms of severe anorexia nervosa restricting type. Keizaburo Ogata, Ken Ichiro Koyama, Takamasa Fukumoto, Suguru Kawazu, Mihoko Kawamoto, Eriko Yamaguchi, Yuuki Fuku, Marie Amitani, Haruka Amitani, Ken Ichiro Sagiya, Akio Inui, Akihiro Asakawa. *Int J Med Sci.* 2021 Feb 4;18(7):1566-1569. doi: 10.7150/ijms.53907. eCollection 2021.

- Keizaburo Ogata, Ken Ichiro Koyama, Marie Amitani, Haruka Amitani, Akio Inui (2018)
Case Report: The Effectiveness of Cognitive Behavioral Therapy with Mindfulness and an Internet Intervention for Obesity: A case series *Frontiers / Nutrition*
- Intelligence quotient and cognitive functions in severe restricting-type anorexia nervosa before and after weight gain. Ken Ichiro Koyama, Akihiro Asakawa, Toshihiro Nakahara, Haruka Amitani, Marie Amitani, Masaki Saito, Yuka Taruno, Takahiro Zoshiki, Kai-Chun Cheng, Daisuke Yasuhara, Akio Inui, *Nutrition* ;28:1132-1136. 2012 (学位論文)

3. 外部研究資金

- 科研費 オベシティスティグマの多施設実態調査-肥満に対する差別的感情が診療に及ぼす影響-
2023 - 2026 分担研究者
- 科研費 アフターコロナ時代における保育士の新しいメンタルヘルス対策の実行手法の検討 2021-
2024 分担研究者
- 科研費 マインドフルネス食観トレーニングに関する基礎研究 研究代表者 2021 - 2025

4. 受賞

特記事項なし

5. 所属学会

日本認知療法・任地行動療法学会 日本肥満症治療学会 日本心身医学会 日本マインドフルネス学会 日本保育学会

6. 担当授業科目

健康・医療心理学 障害児・障害者心理学 臨床心理学特論 臨床心理面接特論 II 公認心理師の職責 不登校・引きこもり支援論など

7. 社会貢献活動

日本肥満症治療学会メンタル行動医学部会 委員 同委員会 オベスティブ・スティグマ小部会委員
査読: Bio Psychosocial Medicine, Review Editor on the Editorial Board of Eating Behavior (specialty section of Frontiers in Psychology and Frontiers in Nutrition), 福岡県立大学心理臨床研究

8. 学外講義・講演

特記なし

9. 附属研究所の活動等

特記なし

10. 今年度の自己評価

学内運営、教育へ労力を割いた分、論文執筆と投稿が目標に到達しなかった。

1. 教員紹介・主な研究分野

私の研究分野は社会学とジェンダー研究です。現在の具体的な研究テーマとしては、1つめに高等教育と専門職におけるジェンダー平等についてです。研究者など複数の専門職を取り上げ、キャリア各段階でのジェンダー差やワーク・ライフ・バランスについて研究しています。2つめに、コミュニティと子育てについてです。日本の子育ての事例やイギリスでのコミュニティ開発についても研究をしています。3つめに、大学教育における学生の主体的な参加を促す技法についてです。これまで学生が実際にデータを集め分析する科目を教えてきました。他科目でもファシリテーションなどの手法を取り入れています。取得学位（修士（文学））。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- 河野銀子・大濱慶子・坂無淳・後藤みな・イプトナー・カロリン・鈴木宏昭・ミラー・ジェリー，2024，「女子の理系進路選択事情——中国・シンガポール・ドイツ・アメリカ調査から」『ポリモルフィア』9: 50-8.
- 坂無淳，2024，「公的統計からみる日本の専門職と性別職域分離」『福岡県立大学人間社会学部紀要』32(2): 31-41.
- 坂無淳，2022，「キャリアとワーク・ライフ・バランス——家事・育児とジェンダー」櫻井義秀編著『ウェルビーイングの社会学』北海道大学出版会，145-62.

② その他最近の業績

<学会発表>

- 坂無淳，2023，「シンガポールの高大接続の特徴と女性のSTEM専攻——学生・卒業生・大学教員へのインタビュー調査から」課題研究発表：女子の理系進路選択拡大に向けたSTEM分野の高大接続，日本科学教育学会第47回年会（於愛媛大学），9月18日.
- 坂無淳，2022，「第2章 シンガポールの教育・子育てに関する政策と価値観」『変容するアジアの家族』出版記念セミナー（於北九州市立男女共同参画センター・ムーブ），5月15日.

<報告書・書評・評論・エッセイ>

- 坂無淳，2024，「書評 北海道ジェンダー研究会編『ジェンダーで読み解く北海道社会——大地から未来を切り拓く女性たち』」『現代社会学研究』37: 87-90.
- 坂無淳，2023，『高等教育におけるジェンダー・バランスの不均衡とその是正に関する実証研究』2018-2022年度科学研究費補助金研究成果報告書（18K12939），福岡県立大学.
- 坂無淳，2023，「2022年度KFAWアジアジェンダー研究者ネットワークセミナー 第2章 シンガポールの教育・子育てに関する政策と価値観——メリトクラシーとジェンダーの観点から」『アジア女性研究』32: 25-6.
- 坂無淳編，2023，『福岡県内の自治体における男女共同参画の状況に関する調査——田川市での行政・団体への調査から』報告書』福岡県立大学人間社会学公共社会学科.

③過去の主要業績

- Bolton, Matthew, 2018, *How to Resist: Turn Protest to Power*, London: Bloomsbury Publishing . (藤井敦史・大川恵子・坂無淳・走井洋一・松井真理子訳, 2020, 『社会はこうやって変える!——コミュニティ・オーガナイズング入門』法律文化社.) 翻訳担当: 第4章, 第6章, 第7章
- 坂無淳, 2015, 「大学教員の研究業績に対する性別の影響」『社会学評論』65(4): 592-610.
- 坂無淳, 2014, 「都市における保育の共同——埼玉県新座団地の共同保育の事例から」『立教大学コミュニティ福祉研究所紀要』2: 61-80.

3. 外部研究資金

科研費, 基盤C (研究代表者), 現代日本の専門職化と性別職域分離に関する社会学的研究, 4420千円, 2023~2027年度

科研費, 基盤B (研究分担者, 研究代表者: 宇井美代子), 人文社会科学系研究者のジェンダー平等の実態と改善に関する研究, 9620千円, 2022~2024年度

4. 受賞

該当なし

5. 所属学会

日本社会学会, 日本ジェンダー学会, 日本教育社会学会, 北海道社会学会, 西日本社会学会, ISA (International Sociological Association), RC32 Women, Gender, and Society, RC04 Sociology of Education

6. 担当授業科目

データ分析の基礎・2単位・1年・前期, 教養演習・1単位・1年・前期, 統計学・2単位・1年・後期, 社会統計学Ⅰ・2単位・2年・前期, 社会統計学Ⅱ・2単位・2年・後期, 社会調査実習Ⅰ・2単位・2年・前期, 社会調査実習Ⅱ・2単位・2年・後期, ジェンダー論・2単位・3年・前期, 公共社会学研究Ⅰ・Ⅱ・各1単位・3年・前後期, 社会福祉学演習・2単位・3年・通年, 演習・2単位・3年・通年, 卒業論文・6単位・4年・通年

7. 社会貢献活動

飯塚市男女共同参画推進委員会委員・会長

福岡県福智町男女共同参画審議会委員

田川市男女共同参画センター運営委員・ゆめっせフェスタ実行委員

8. 学外講義・講演

坂無淳, 2024, 「男らしさからもっと自由に——“らしさ”にしばられない生き方」令和6年度男性のための男女共同参画事業『生涯現役』応援セミナー, 主催 大野城まどかぴあ(男女平等推進センターアスカーラ)・実施団体 大野城共生ネットワーク(於大野城まどかぴあ), 10月26日.

坂無淳, 2024, 「ジェンダーの視点で社会を再認識する」令和6年度太宰府市男女共同参画職員研修, 太宰府市(プラムカルコア太宰府), 9月5日, 10月4日.

9. 附属研究所の活動等

該当なし

10. 今年度の自己評価

教育では、データ分析や社会統計学、ジェンダーに関する講義内容の充実と改善を引き続き行い、ゼミや社会調査実習では学生が自身で調査や研究を行うことができるようになることに注力し指導を行った。研究では、代表である科研費の研究のほか、他大学の研究者との共同研究も進めることができた。社会貢献では、福岡県内の複数の自治体の男女共同参画に関する委員や、市民や自治体職員向けの講演や研修の機会を得て、地域や行政の方々と活発に情報交換することができた。

人間社会学部／総合人間社会コース	職名	准教授	氏名	柴田 雅博
------------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

1999年九州大学大学院システム情報科学研究科修士課程を修了、2005年同大学大学院同研究科博士後期課程を単位取得退学。2005年博士(工学)取得。財団法人九州システム情報技術研究所に勤務後、九州大学システム情報科学研究科に戻り研究員を勤める。2012年フェリス女学院大学情報センター助手を勤めたのち、2015年本学人間社会学部講師に着任する。

専門は自然言語処理という人間が日常使っている言葉(自然言語)をコンピュータで解析し他の処理に応用する研究である。その中で私は特にWWW上にある膨大なテキストデータを利用し、そこから言語知識を獲得し、英日のフレーズ翻訳知識を収集したり対話処理に応用したりといったことを行っている。そのほか、情報教育、プログラミング教育に関する研究も行っている。

本学では情報学教育を中心として、教育プログラム「データサイエンス・プログラム」に携わっている。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・ 寺島正博, 石崎龍二, 柴田雅博「保育所・認定こども園におけるICT導入の実績とそれに伴う業務効率の意識」, 福岡県立大学人間社会学部紀要, Vol.31, No.1, pp.57-70, (2022.10).
- ・ 柴田雅博, 増満誠, 中本亮「受講者の視点を踏まえた効果的なオンライン授業の検討」, 福岡県立大学人間社会学部紀要, Vol.31, No.2 (2023.3).
- ・ 柴田雅博「福岡県立大学人間社会学部における初年次情報リテラシー教育の効果(2023年度)」, 福岡県立大学人間社会学部紀要, Vol.32, No.2 (2024.3).

② その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 大久保淳子, 森久美子, 柴田雅博, 坂無淳「情報活用能力育成の現状と課題 —プログラミング教育を視点とした就学前段階からの体系的なカリキュラム編成について—」, 日本乳幼児教育学会第33回大会 (2023.12).

③ 過去の主要業績

- ・ 柴田雅博, 富浦洋一, 田中省作: 「Web上の語の共起性に基づいたコロケーションの翻訳支援」, 情報処理学会論文誌, Vol.46, No.6, pp.1479-1491, (2005.6).
- ・ 柴田雅博, 富浦洋一, 西口友美: 「雑談自由対話を実現するためのWWW上の文書からの妥当な候補文選択手法」, 人工知能学会論文誌, Vol.24, No.6, pp.507-520, (2009.9).
- ・ M. Shibata, T. Funatsu, Y. Tomiura: “Extraction of Alternative Candidates for Unnatural Adjective-Noun Co-occurrence Construction of English”, Procedia - Social and Behavioral Sciences, Vol.27, pp.32-41, (2011.11).

3. 外部研究資金

なし

4. 受賞

なし

5. 所属学会

情報処理学会, 電子情報通信学会, 人工知能学会, 言語処理学会, 日本情報教育学会

6. 担当授業科目

「教養演習」(1単位)1年・前期, 「情報処理の基礎と演習」(2単位)1年・前期, 「情報処理応用演習」(1単位)1年・後期, 「Webデザイン演習」(1単位)2年・前期, 「情報ネットワーク論」(2単位)2年・後期, 「情報ネットワーク演習」(1単位)2年・後期, 「データベース論」(2単位)2年・後期, 「マルチメディア論」(2単位)2年・後期, 「グローバル社会論」(2単位)2年・後期(オムニバス), 「プログラミング演習」(1単位)3年・前期, 「情報検索システム論」(2単位)3年・後期, 「情報と職業」(1単位)3年・前期(教職科目)

7. 社会貢献活動

なし

8. 学外講義・講演

筑豊市民大学オープン講座「続・AIは何を考えるのか?」(2025.2).

9. 附属研究所の活動等

令和6年度研究奨励交付金(横断型教育プログラム開発研究)「データサイエンス・プログラムにおける高大接続教育を意識したICT教育の推進」研究分担者

10. 今年度の自己評価

昨年度から始まった「マルチメディア論」「情報ネットワーク演習」に対して授業内容のブラッシュアップを行い、また今年度から始まった「情報と職業」について授業内容の検討・授業準備に力を注ぎました。

数理・データサイエンス・AIリテラシーレベルの認定に伴う情報教育への充実にも努めています。

人間社会学部／社会福祉学科・社会福祉コース	職名	准教授	氏名	寺島 正博
-----------------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

取得学位：博士（学術）

主な研究対象については、知的障害者のグループホーム（以下、GHと省略する）従事者における専門職性、および、無自覚の障害者虐待等である。

GH従事者の専門職性については、近年の「地域生活移行」の風潮に伴いGHは増加の一途を辿っている。しかし、利用者の増加に伴いニーズは多様化をみせ、その範囲は拡大し続けているにも関わらず、それを受け止めるGH従事者の専門職性が必ずしも追いついていないと言えない。「GH従事者は専門職と成り得るのか」といった研究テーマを設定し、歴史研究や理論研究、さらには、実態解明の研究を基に専門職への道筋について探究してGH従事者の専門職性を実証的に検討している。

また、昨今、新聞等が大きく報道しているように、障害者への虐待は重大な人権侵害となる。この障害者虐待に対し、国内外で未だ明らかにされていない無自覚の虐待（障害福祉サービス従事者・養護者・使用者が自覚をせずに障害者へ行う虐待）に着目し、その実態を明らかとし、無自覚の虐待の防止に向けた支援モデルの研究を行っている。

具体的には、障害福祉サービス従事者や市町村虐待防止センター職員等が、無自覚の虐待に対し、被害者（障害者）と加害者（障害福祉サービス従事者（同僚）・養護者・使用者）にどのような意識を持ち、どのような支援を展開し、どのような支援課題を抱えているのか、また、無自覚の虐待の発生要因と個人属性や環境がどのような関係性にあるのかを明らかとし、無自覚の虐待の防止に向けた支援モデルの構築を行っている。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・（単著）寺島正博「養護者による障害者虐待へのアプローチ：市町村障害者虐待防止センター職員の実践ガイドラインと影響要因」（査読有）『発達障害支援システム学研究』第23巻第1号，2024年，35-44頁。
- ・（単著）寺島正博「基幹相談支援センター職員における『養護者による障害者虐待』への対応支援に関する研究－虐待対応経験を持つ職員の全国意識調査を基に－」（査読有）『障害理解研究』第J23号，2022年，1-13頁。
- ・（共著）寺島正博・廣田久美子・石崎龍二「特例子会社における障害者支援ICTシステムの現状と課題－全国アンケート調査による管理者と一般職員の認識の違いを中心に－」『福岡県立人間社会学部大学紀要』第33巻第2号，2025年。
- ・（共著）寺島正博・廣田久美子・石崎龍二「特例子会社における業務支援のためのICTツール導入の実績と課題-インタビュー分析から見る障害者雇用と効率化の展望-」『福岡県立人間社会学部大学紀要』第32巻第2号，2024年，23-29頁。
- ・（共著）石崎龍二・寺島正博・廣田久美子「高齢者通所介護事業所における福祉関連機器・用具の現状と課題－A県における質問紙調査によるニーズと課題の分析－」『福岡県立人間社会学部大学紀要』第32巻第2号，2024年，71-83頁。
- ・（共著）寺島正博、石崎龍二、柴田雅博「保育所・認定こども園におけるICT導入の実績とそれに伴う業務効率の意識 - A県におけるアンケート調査を通じて - 」『福岡県立人間社会学部大学紀要』第

31 卷第 1 号, 2022 年, 57-70 頁.

② その他最近の業績

<解説集>

- ・ (共著)『2025 社会福祉士国家試験過去問解説集』中央法規, 2024 年.
- ・ (共著)『2025 精神保健福祉士国家試験過去問解説』中央法規, 2024 年.
- ・ (共著)『2024 社会福祉士国家試験過去問解説集』中央法規, 2023 年.
- ・ (共著)『2024 精神保健福祉士国家試験過去問解説』中央法規, 2023 年.
- ・ (共著)『2023 社会福祉士国家試験過去問解説集』中央法規, 2022 年.
- ・ (共著)『2023 精神保健福祉士国家試験過去問解説集』中央法規, 2022 年.

③ 過去の主要業績

- ・ (単著) 寺島正博『障害者の地域移行への援助ーグループホーム従事者の専門職性』文芸社, 2012 年.
- ・ (単著) 寺島正博「障害福祉サービス従事者における『養護者による障害者虐待』の支援に関する研究ー全国訪問系サービス事業所のアンケート調査を通してー」(査読有)『発達障害者支援システム学研究』第 19 巻第 2 号, 2020 年, 103 - 113 頁.
- ・ (単著) 寺島正博「障害福祉サービス従事者における『無意識の不適切行為』に関する研究ー目撃従事者の観点によるその発生・増幅要因とその意識化要因の検討ー」(査読有)『障害理解研究』第 19 号, 2018 年, 11-20 頁.

3. 外部研究資金

なし

4. 受賞

なし

5. 所属学会

- ・ 日本社会福祉学会
- ・ 日本ソーシャルワーク学会
- ・ 日本発達障害学会
- ・ 日本発達障害支援システム学会
- ・ 日本障害理解学会

6. 担当授業科目

<学部>障害者教育総論・2 単位・1 年・後期、障害者福祉論・2 単位・2 年・前期、精神保健福祉の原理 I・2 単位・2 年・前期、ソーシャルワーク実習指導 I・2 単位・2 年・通年、ソーシャルワーク実習指導 II・2 単位・3 年・通年、ソーシャルワーク演習 B・2 単位・2 年生・通年、ソーシャルワーク演習 C・1 単位・3 年・前期、ソーシャルワーク演習 D・1 単位・3 年・後期、社会福祉学

演習・2単位・3年～4年・後期～前期、卒業論文・6単位・4年・通年

<大学院>障害者福祉研究B・2単位・1・2年・後期

7. 社会貢献活動

- ・福岡県障がい者施策審議会 会長
- ・福岡県強度行動障がい者支援協議会 会長
- ・田川地区障がい者自立支援協議会 会長
- ・田川市障がい者福祉基本計画等策定・推進委員会 会長
- ・糸田町公共交通会議 副委員長
- ・みやこ町地域福祉総合計画審議会 委員
- ・糸田町地方創生人口減少対策委会 委員

8. 学外講義・講演

- ・長崎南高校のSSH事業「未来デザインスクール」講師
- ・久山療育園公開講座「障がい福祉サービス事業所で起こる無自覚の不適切行為の理解」講演
- ・宗像市障害者虐待防止研修会「障がい者虐待防止体制の構築～無自覚な不適切行為の理解と対応策の検討～」講演
- ・福岡市障がい者虐待防止センター研修会「虐待対応における専門性について『養護者による障害者虐待へのアプローチ』」講演
- ・FBS（9月12日）「めんたいワイド」内の国立病院機構大牟田病院事件の特集において出演
- ・NHK（12月6日）の18時10分から、また、KBCの14時からと18時からのニュースの中で「分身ロボットを活用した大学生との交流事業」が放送され出演

9. 附属研究所の活動等

- ・「保健福祉分野における業務改善のための情報ネットシステム・モデル開発」令和5年度研究奨励交付金（COC研究）研究代表者，578,300円（令和6年度），令和5年度～令和6年。
- ・令和5年度採択附属研究所研究奨励交付金プロジェクト研究COC研究（2年目）「保健福祉分野における業務改善のための情報ネットシステム・モデル開発－特別支援学校高等部における情報教育を生かした就職支援－」成果発表。

10. 今年度の自己評価

令和6年度の研究・社会貢献活動において、障害者福祉の実践的課題に焦点を当て、研究と社会貢献の両面で積極的に取り組んだ。研究面では、市町村障害者虐待防止センター職員の実践ガイドラインとして、無自覚の障害者虐待に関する調査を進め、査読付き論文の発表を行った。社会貢献では、障がい者施策審議会や自立支援協議会の会長を務め、地域福祉の発展に寄与した。また、講演活動やメディア出演を通じ、障害者支援の重要性を広く社会に発信した。今後も、研究と実践の橋渡しを行い、より実効性のある支援モデルの構築に努める所存である。

人間社会学部	職名	准教授	氏名	中原 雄一
--------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

運動やスポーツ活動を含めた身体活動の重要性について研究を行っており、青年期を中心に幼児から勤労者まで幅広く検討している。また、健康運動指導士やジュニアスポーツ指導員、健康経営エキスパートアドバイザー等の資格を活かし、運動指導や助言なども行っている。 学位：博士（体育学）

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 吉川未桜、田中美樹、吉田麻美、中原雄一、菅原航平、杉野寿子（2025）保育学生と看護学生が協同制作した医療絵本の評価と課題。福岡県立大学人間社会学部紀要, 33(2): 印刷中.
- ・ 田中美樹、吉川未桜、吉田麻美、杉野寿子、中原雄一、池田孝博（2025）入院中の子どもを支える保育士と看護師の専門性を活かした協働：第3報～協働のためのコンピテンシー～. 福岡県立大学看護学部紀要, 22: 印刷中.
- ・ 中原雄一、神藤隆志、北濃成樹、永田康喜、植木貴頼、具志堅武、永松俊哉、鈴川一宏（2023）男子高校生の1年次初期段階におけるスポーツクラブ活動状況と身体組成および体力の関連：中学時代の活動状況を考慮した検討。運動とスポーツの科学, 29(1): 85-93.
- ・ Jindo T, Kitano N, Nagata K, Nakahara-Gondoh Y, Suzukawa K, Nagamatsu T. (2023) Correlates of early attrition from school sports clubs in male senior high school students: a 2.4-year follow-up study. *Frontiers in Sports and Active Living, section Sport Psychology Vol. 5*.
- ・ 神藤隆志、北濃成樹、永田康喜、中原（権藤）雄一、鈴川一宏、永松俊哉（2023）質問紙で調査した福岡県の私立男子高校生の身体活動。運動疫学研究, 25(1): 124-125.
- ・ 田中美樹、吉川未桜、吉田麻美、中原雄一、杉野寿子、池田孝博（2023）新型コロナウイルス感染症拡大による入院中の子どもを支える上での看護師と保育士の困難感。福岡県立大学人間社会学部紀要, 31(2): 85-93.
- ・ 田中美樹、吉川未桜、吉田麻美、中原雄一、杉野寿子、池田孝博（2023）入院中の子どもを支える保育士と看護師の専門性を活かした協働：第1報。福岡県立大学看護学部紀要, 20: 9-20.
- ・ 吉川未桜、田中美樹、吉田麻美、中原雄一、杉野寿子、池田孝博（2023）入院中の子どもを支える保育士と看護師の専門性を活かした協働：第2報。福岡県立大学看護学部紀要, 20: 21-32.
- ・ Nakahara-Gondoh Y, Tsunoda K, Fujimoto T, Ikeda T. (2022) Effect of encouraging greater physical activity on number of steps and psychological well-being of university freshmen during the first COVID-19 related emergency in Japan. *Journal of Physical Education and Sport*, 22(10): 2598-2603.
- ・ 杉野寿子、吉川未桜、田中美樹、吉田麻美、池田孝博、中原雄一（2022）入院中の子どもの権利と家族のQOLに関する課題。福岡県立大学人間社会学部紀要, 31(1): 71-79.
- ・ 中原雄一、池田孝博（2022）コロナ禍における大学新入生の歩数と精神的健康度の実態：2020年度と2021年度で相違はみられるのか。大学体育スポーツ学研究, 19: 94-99.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 中原雄一、伊勢慎、小山憲一郎（2024）コロナ禍後における保育士の精神的健康度とその要因。日本乳幼児教育学会第34回大会（盛岡）

- ・ 伊勢慎、小山憲一郎、中原雄一 (2024) アフターコロナにおける幼稚園 4 歳児が地域を活性化する町探検実践の試行. 日本乳幼児教育学会第 34 回大会 (盛岡)
- ・ 中原雄一、角田憲治、藤本敏彦 (2024) 大学 1 年生の体力と身体活動量、精神的健康度—運動部活動の参加状況の違いから—. 第 78 回日本体力医学会大会 (佐賀)
- ・ 中原雄一、角田憲治、藤本敏彦 (2024) 大学生における高校時代の体育に抱く印象とは?. 日本体育・スポーツ・健康学会第 74 回大会 (福岡)
- ・ 池田孝博、中原雄一 (2024) 福岡県 KDB システム・データのレセプト分析に基づく子どもの疾病の特徴—福岡市・北九州市および筑豊地域の比較から—. 日本体育・スポーツ・健康学会第 74 回大会 (福岡)
- ・ 藤本敏彦、中原雄一、角田憲治 (2024) 高等学校における体育実技授業の実態調査. 日本体育・スポーツ・健康学会第 74 回大会 (福岡)
- ・ 小山憲一郎、伊勢慎、中原雄一 (2024) コロナ禍でエッセンシャルワーカーとして働き続けた保育士を心理的に支えたものに関する検討. 第 65 回日本心身医学学会総会 (東京)
- ・ 大西栄理、中原雄一、池田孝博 (2023) 幼児期における一過性の運動介入における実行機能の変化. 九州体育・スポーツ学会第 72 回大会 (大分)
- ・ 中原雄一、角田憲治、藤本敏彦 (2023) 大学生における入学時の体力レベル別にみた精神的健康度の縦断的变化: 4 年間の追跡調査. 日本体育・スポーツ・健康学会第 73 回大会 (京都)
- ・ 藤本敏彦、中原雄一 (2023) 高等学校における体育実技授業の実態調査: 高等学校教員を対象としたアンケート調査から. 日本体育・スポーツ・健康学会第 73 回大会 (京都)
- ・ 神藤隆志、北濃成樹、永田康喜、中原雄一、具志堅武、鈴川一宏、永松俊哉 (2023) 男子高校生における運動部活動の早期離脱と学校生活ウェルビーイング、ストレス対処力の縦断的関連. 日本体育・スポーツ・健康学会第 73 回大会 (京都)
- ・ 中原雄一、神藤隆志、北濃成樹、永田康喜、植木貴頼、永松俊哉、鈴川一宏 (2022) 運動・スポーツ活動参加の違いが男子高校生における体力および体組成に及ぼす影響—中学時代と現在の参加状況からの検討. 第 77 回日本体力医学会大会 (オンライン)
- ・ 中原雄一、角田憲治、藤本敏彦 (2022) 大学入学時の体力レベル別にみた精神的健康度の変化: 入学時から卒業間際にかけての追跡研究. 日本体育・スポーツ・健康学会第 72 回大会 (千葉)
- ・ 藤本敏彦、中原雄一、坂本譲、西脇雅人、島本英樹、黒川修行 (2022) 高等学校における体育実技授業の実態調査: 大学生を対象としたアンケート調査から. 日本体育・スポーツ・健康学会第 72 回大会 (千葉)

③過去の主要業績

- ・ 中原雄一、西脇雅人、藤本敏彦、池田孝博 (2019) 大学体育における実技と講義の同時受講が大学生の健康度・生活習慣に与える影響. 大学体育スポーツ学研究, 16: 13-18.
※ 大学体育優秀論文賞 受賞
- ・ 中原(権藤)雄一、角田憲治、甲斐裕子、朽木勤、内田賢、永松俊哉 (2016) 勤労者における介護の有無と精神的健康度、身体活動量に関する検討. 厚生指針, 63(5): 1-6.
※ 第 18 回川井記念賞 受賞
- ・ Gondoh Y, Tashiro M, Itoh M, Masud M, Sensui H, Watanuki S, Ishii K, Takekura H, Nagatomi R, Fujimoto T. (2009) Evaluation of individual skeletal muscle activity by glucose uptake during pedaling exercise at different workloads using positron emission tomography. J Appl Physiol. 107(2): 599-604.

3. 外部研究資金

科研費 基盤研究 (C) (分担) 研究課題「幼児期における戸外の遊びと生活を促す仕組みと仕掛けに関する研究」交付金額 4,290 千円, 令和 4 年度～令和 8 年度.

科研費 基盤研究 (C) (分担) 研究課題「アフターコロナ時代における保育士の新しいメンタルヘルス対策の実行手法の検討」交付金額 4,030 千円, 令和 3 年度～令和 6 年度.

4. 受賞

該当なし

5. 所属学会

日本体力医学会 (評議員)、日本体育・スポーツ・健康学会、日本運動生理学会、日本発育発達学会、日本運動・スポーツ科学学会、日本健康学会、九州体育・スポーツ学会

6. 担当授業科目

<学 部> 健康科学実習Ⅰ・1単位・1年前期、健康スポーツ論・2単位・1年前期、教養演習・1単位・1年前期、健康科学実習Ⅱ・1単位・1年後期、子どもの保健・2単位・1年後期
演習・2単位・3年通年、卒業論文・6単位、4年通年

<大学院> 特別研究Ⅰ・4単位・1年通年、子どもの身体教育研究・2単位・1年前期、教育課題研究 B・2単位・1年後期、子ども教育実践実習Ⅰ・1単位・1年後期、子ども身体教育演習・2単位・1年後期、特別研究Ⅱ・4単位・2年通年、地域教育課題演習・2単位・2年前期、子ども教育実践実習Ⅱ・1単位・2年前期、

7. 社会貢献活動

- ・ 福岡県糸田町運動・スポーツ習慣化促進事業準備委員会 副委員長
- ・ 福岡県香春町部活動地域移行検討委員会 委員
- ・ 九州地区大学体育連合 理事
- ・ 日本体力医学会北九州地方会 幹事
- ・ 九州地区大学体育協議会 評議員
- ・ 第 78 回日本体力医学会大会組織委員会 組織委員

8. 学外講義・講演

該当なし

9. 附属研究所の活動等

令和 6 年度 附属研究所プロジェクト研究 (COC 研究) : 研究課題名「療養中の子どもの“こころの準備”を支えるための絵本プロジェクト」研究分担者 (研究代表者: 杉野寿子)

10. 今年度の自己評価

研究活動として、筆頭で学会発表を 3 件行い、さらに、大学と福岡県国民健康保険団体連合会の共同研究事業の一環として実施されている KDB のデータを利用した研究についても行った。また、社会貢献活動では、自治体の委員や学会の学術大会の組織委員として積極的に関わった。

人間社会学部／総合人間社会コース	職名	准教授	氏名	中村晋介
------------------	----	-----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

- 1.若者の意識・世代間ギャップに関する研究：「他者」を理解するための技法を洗練させてきた社会学や社会人類学に基づいて、現代の日本に生きる若い世代の社会意識（恋愛観，社会観，就業観，インターネットに対する意識など）の解説を試みています。
- 2.ジェンダー論・結婚観に関する研究：日本社会における「女性の社会進出」や「非婚社会の行く末」について、社会学的な観点から研究しています。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・ 中村晋介「クラブ・ギャル系」女子学生のジェンダー観・性差観『福岡県立大学人間社会学部紀要』vol.33-1:17-32, 2024年10月.
- ・ 「女子大学生・専門学校生のファッション選好——2017年度の調査より」『福岡県立大学人間社会学部紀要』Vol.32-1:1-20, 2023年10月.

②その他最近の業績

<学会発表>

.

③過去の主要業績

- ・ 中村晋介「女子大学生・専門学校生の恋愛積極性・恋愛観に関する比較研究」『現代の社会病理』No.34:75-89, 2019年10月.
- ・ 中村晋介「日本人がオリンピックで日本代表を応援するのは当たり前か？」友枝敏雄ほか編『社会学で描く現代社会のスケッチ』みらい:47-55, 2019年8月
- ・ 中村晋介「大学生と恋愛——恋愛に対する積極性の促進要因と阻害養親に着目して」『現代の社会病理』No.31:95-108, 2016年10月.

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本社会学会，日本社会病理学会，日本発達心理学会，日本青年心理学会，日本家政学会，日本社会分析学会，西日本社会学会

6. 担当授業科目

プレ・インターンシップ・2 単位・1 年・前期, 教養演習・1 単位・1 年・前期, 社会調査法・2 単位・1 年・後期, 社会学史Ⅰ・2 単位・2 年・前期, 社会学史Ⅱ・2 単位・2 年・後期, 質的調査法・2 単位・2 年, 後期, 現代社会論A (ジェンダー・世代)・2 単位・2 年・前期, グローバル社会論・2 単位・2 年・後期, 日本事情A・2 単位・留学生, 前期, 福祉専門職特講・2 単位・3~4 年・後期

7. 社会貢献活動

川崎町子ども・子育て会議 議長
福岡県立飯塚研究開発センター 入居審査委員
NPO 福祉用具ネット 理事
九州大学社会学同窓会 常任幹事
筑豊市民大学 アドバイザー

8. 学外講義・講演

「知っているようで知らないオリンピック」筑豊市民大学, 2024 年 7 月 20 日
「占いはなぜ『あたる』のか」春日高等学校, 2024 年 9 月 11 日

9. 附属研究所の活動等

10. 今年度の自己評価

教育活動：学生からの「授業評価アンケート」の得点はどの講義においても良好であり、この面で大学に貢献できた。

研究活動：2010 年代後期より研究してきた、福岡県の女子大学生・専門学校生が抱く意識について、これまで未着手だった部分も論文にすることができた。

社会貢献活動：NPO, ヴォランティア・アソシエーションの運営に関わった。

人間社会学部／社会福祉コース	職名	准教授	氏名	廣田久美子
----------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

2009年3月九州大学大学院法学府公法・社会法学専攻博士後期課程単位取得退学。2018年4月に本学着任。専門分野は社会法（社会保障法）。

主な研究課題：障害のある人の雇用保障と就労支援保障を研究している。とくに、日本の障害者の就労支援のあり方について、障害者総合支援法、障害者雇用促進法等の雇用保障法制を中心として、就労支援の中心となっている、就労継続支援給付の現状と課題、支援つき雇用等の雇用促進施策との連携、賃金・工賃と公的給付の関係などについて、障害者権利条約第27条の「労働によって生計を立てる権利」の保障という観点から検討を行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 廣田久美子「障害厚生年金を対象とした離婚時の年金分割制度」福岡県立大学人間社会学部紀要第33巻第1号、2024年
- ・ 寺島正博・石崎龍二・廣田久美子「特例子会社における業務支援のためのICTツール導入の実績と課題 —インタビュー分析から見る障害者雇用と効率化の展望—」福岡県立大学人間社会学部紀要第32巻第2号、2024年
- ・ 平部康子・木村茂喜・脇野幸太郎・廣田久美子『地域生活を支える社会福祉と法』放送大学教育振興会、2023年

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・ 廣田久美子「発達障害者の就労支援保障」日本職業リハビリテーション学会、2023年8月26日（神奈川県立保健福祉大学）
- ・ 廣田久美子「ドイツ就労支援における近年の動向」日本職業リハビリテーション学会、2022年8月28日（オンライン）

③過去の主要業績

- ・ 廣田久美子「障害者就労における働き方の変化—訓練等給付」山田晋・西田和弘・石田道彦・平部康子・丸谷浩介編『新たな時代の社会保障法』法律文化社、2022年
- ・ 廣田久美子「発達障害のある人の就労支援と所得保障—ドイツ労働生活参加給付を参考にして」福岡県立大学人間社会学部紀要第29巻第2号、91-102頁、2021年
- ・ 廣田久美子「障害者の就労支援と所得保障」日本社会保障法学会編『社会保障法』第33号、法律文化社、131-144頁、2018年

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本社会保障法学会、
日本労働法学会
日本職業リハビリテーション学会
日本障害法学会

6. 担当授業科目

社会福祉学演習・2単位・3年・通年、相談援助実習指導Ⅰ・2単位・2年・通年、相談援助実習指導Ⅱ・1単位・3年・通年、社会保障論Ⅰ・2単位・1年・前期、権利擁護と成年後見制度・2単位・3年・前期、福祉専門職特講B・2単位・3年・前期、社会保障論Ⅱ・2単位・1年・後期、公的扶助論・2単位・2年・後期、ソーシャルワーク演習D・2単位・3年・後期、福祉専門職特講A・2単位・3年・後期、卒業論文・6単位・4年・後期

7. 社会貢献活動

福岡県職業能力開発審議会委員
福岡県総合計画審議会委員
福岡県県営住宅管理審議会委員
田川市部落差別解消審議会会長
飯塚市職員倫理審査会委員
飯塚市政務活動費審査会委員
福岡県地域活性化雇用創造プロジェクト推進協議会構成員
福岡市障がい者差別解消推進会議委員
福岡市障がい者差別解消審査会委員
福岡県私立学校審議会委員
香春町個人情報保護審査会会長
香春町情報公開審査会委員

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

10. 今年度の自己評価

原著論文1本（単著）と研究ノート1本（共著）を執筆し、次年度の学会報告の準備と編著者としての教科書の刊行準備を進めることができた。社会活動においても、さまざまな地域の審議会や審査会の委員や会長として、地域貢献活動を行うことができた。また、教育活動においては、オンデマンドと対面での授業ともにスムーズに進めることができ、学生からのフィードバックも得て、充実した教育や指導を行うことができた。次年度も、今年度の研究や教育、社会活動を継続して行っていきたいと考えている。

人間社会学部／社会福祉コース	職名	准教授	氏名	松岡 佐智
----------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

久留米大学大学院比較文化研究科後期博士課程修了，博士（保健福祉学）。

私は現在、高齢者福祉と社会福祉教育を主な研究分野としています。高齢者福祉分野では、自らの意見を表明出来にくい認知症高齢者等の権利擁護を推進していく必要性を踏まえ、「高齢者虐待の防止に向けた課題」について研究を進めています。特に、虐待通報・相談等件数及び虐待判断件数は増加傾向にある入所施設の職員に焦点を当て、「施設内虐待防止に向けたセルフチェックシステムの開発」について研究に取り組んでいます。

また、社会福祉教育分野では、社会福祉士の実習教育のあり方にも取り組んできました。これまでの具体的な取組みとして、「福岡県内の社会福祉施設におけるボランティアの受入れ実態に関する調査研究」、「福岡県立大学社会福祉学科学生のボランティア意識に関する調査研究」及び「社会福祉士養成における相談援助実習の実習内容の課題」等の研究を実施してきました。今後も継続して、社会福祉専門職養成としての実習のあり方や学生に対する実習教育方法、及び実習受入れ側の施設等との連携のあり方等を研究テーマとして取り組んでいきたいと考えています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 松岡佐智（2025）「第1部-第2章第1節 福岡県：特定非営利活動法人地域福祉を支える会そよかぜ」、「第II部第4章第4節 保険外相談と社会福祉士の配置について」本郷秀和・梶原浩介・松岡佐智・島崎剛・畑香理・田中将太・鬼崎信好・青柳壮悟・大場敬太『地域包括ケアシステムの推進に伴う介護系NPOの役割とソーシャルワーカー制度外サービスの役割と開発を中心にー 報告書』（科研費報告書），7-8，169-171.
- ・ 松岡佐智（2023）「第11章精神保健福祉」鬼崎信好・本郷秀和編『コメディカルのための社会福祉概論 第5版』講談社，165-178.
- ・ 飯干真冬花・本郷秀和・松岡佐智（2023）「感染症流行下の相談援助実習の課題と実習指導者への期待ーA大学における2013-2021年度実習後アンケート調査を通じてー」『福岡県社会福祉士会研究誌』2-12.
- ・ 本郷秀和・飯干真冬花・松岡佐智（2022）「実習領域別にみる相談援助実習の課題ーA大学における2013-2021年度実習後アンケート調査の概観ー」『福岡県立大学人間社会学部紀要』31(1), 91-102.
- ・ 松岡佐智（2022）「介護老人福祉施設における施設内虐待防止策に関する一考察ー施設長インタビュー調査からー」『九州社会福祉学』第18号，33-47.

②その他最近の業績

<学会発表>

・

③過去の主要業績

- ・ 松岡佐智（2021）「施設内虐待の発生要因と予防策に対する介護老人福祉施設職員の認識の比較ー施設長・生活相談員・主任介護職員による自由記述の分析ー」『九州社会福祉学』第17号，15-28
- ・ 松岡佐智・本郷秀和（2020）「介護老人福祉施設における施設内虐待防止に向けた課題ー施設内虐待

の要因に対する施設長・生活相談員・主任介護職員の認識の比較」『高齢者虐待防止研究』16(1), 55-67.

- ・ 松岡佐智・本郷秀和・畑香理・田中将太 (2018) 「高齢者虐待における地域包括支援センターと介護支援専門員の連携の意義と課題-地域包括支援センター におけるインタビュー調査を通して-」『高齢者虐待防止研究』14(1), 36-48.

3. 外部研究資金

①2020－2024 年度 科学研究費補助金 (学術研究助成基金助成金) 若手研究, 交付金額 1690 千円「施設内虐待の兆候発見に向けたセルフチェックシートの開発に関する研究」, 研究代表者.

②2019－2024 年度科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 基盤研究 C, 交付金額 4,420 千円, 「地域包括ケアシステム推進下における介護系 NPO の役割」, 本郷秀和・鬼崎信好・村山浩一郎・松岡佐智・畑香理・田中将太・梶原浩介・島崎剛.

4. 受賞

5. 所属学会

日本社会福祉学会, 日本高齢者虐待防止学会, 日本地域福祉学会, 日本介護福祉学会、福岡県立大学社会福祉学会 (理事・事務局長)

6. 担当授業科目

「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ」(2 単位・1 年前期), 「ソーシャルワーク演習 A」(1 単位・1 年後期), 「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」(2 単位・2 年通年), 「ソーシャルワークの理論と方法 C」(2 単位・2 年後期), 「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ」(1 単位・3 年通年), 「ソーシャルワーク実習 A」(2 単位, 2 年後期), 「ソーシャルワーク実習 B」(4 単位, 3 年通年), 「ソーシャルワーク演習 D」(1 単位, 3 年後期), 「社会福祉学演習」(4 単位, 3 年通年), 「福祉専門職特講 A」(2 単位, 3 年後期), 「福祉専門職特講 B」(2 単位, 4 年前期), 「卒業論文」(6 単位・4 年後期)

7. 社会貢献活動

- ・ 福岡県日常生活自立支援事業契約締結審査会 委員
- ・ 直方市高齢者保健福祉協議会 会長
- ・ 福岡県社会福祉士会 ばあとなあ不正再発防止策策定委員会 委員

8. 学外講義・講演

(公財) 福岡県人権啓発情報センター 人権相談従事職員研修「対人援助技法Ⅲ (演習)」

9. 附属研究所の活動等

10. 今年度の自己評価

今年度は、ソーシャルワーク実習の ICT 化を目指し、実習支援システム導入の検討において中心的な役割を担い、2025 年度からの導入を実現しました。また、福岡県立大学リカレントセミナーの主担当として、企画運営を手がけ、本学卒業生や福岡県内の福祉従事者を対象としたリカレント教育に貢献しました。

人間社会学部／人間形成学科・ 心理コース	職名	准教授	氏名	麦島 剛
-------------------------	----	-----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

【発達障害・ストレス関連疾患・加齢についての生理心理学的研究】

ADHD や自閉症などの発達障害、統合失調症等に見られる注意に関する障害、ストレスに関連する疾患、および認知症には、中枢神経機能の変化が関与する。そこで、神経生理学・行動薬理学・学習心理学の手法と理論を用いて、薬物による中枢神経系の活動変化・ストレス負荷・神経系の先天性異常が、電気生理学的神経活動・学習・社会行動・不安に対してどのような影響をもつのかを検討している。具体的には、おもに、以下について探求している。1) ADHD・統合失調症にみられる前注意過程を含む注意障害と catecholamine 神経系の活動異常との関連を電気生理学的に解明すること。2) ADHD を併発するとみられるてんかんモデル動物を用いて、ADHD における衝動性と不注意をオペラント学習理論と行動薬理学により解明すること。3) benzodiazepine 受容体サブタイプによる不安やストレス反応への関与の違いの解明。4) 老齢動物の注意機能・情動行動・記憶への認知改善薬（認知症治療薬）等の効果の解明と、これに基づく老年心理学領域での考察。これらの研究は、理論的進歩のみならず、より効果的な治療薬の開発や、より構造化された心理療法（行動療法）の開発の一助となると考えられる。また老年学や教育心理学の立場から総合科学的考察を行っている。修士（人間科学）早稲田大学。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 麦島 剛 (2022). 『精神薬理学』大浦賢治(編)実践につながる新しい教養の心理学 Pp.229-241. ミネルヴァ書房
- ・ 麦島 剛 (2025). 『学習の生理学的基礎』『生物学的制約と進化』吉野俊彦 (編) 読んでわかる学習心理学 印刷中. サイエンス社
- ・ 麦島 剛 (2023). 羅針盤としての行動分析学の発展を期して J-ABA ニュース. 110, 11.
- ・ 麦島 剛 (2023). ADHD (注意欠如・多動症) モデル動物を用いた薬物療法・応用行動分析・ニューロフィードバック療法の相乗化. 細胞, 55, 652-656.
- ・ Moridera, A., Fujihara, H., Yoan, C., Mugishima, G. Fujiki, N. (2024). Effects of sleep deprivation on sleep and sleep electroencephalogram in secretin-receptor knockout mice. Neuroscience Research, 200, 41-47.
- ・ 麦島 剛 (2024). 神経経済学と行動薬理学. 臨床精神薬理, 27, 1233-1234.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 竹明玲菜・榛葉俊一・吉井光信・砂原里南・坪井芹菜・久保浩明・森寺亜伊子・井上真澄・東 華岳・麦島 剛 ADHD モデルとしての EL マウスにおける脳内自己刺激と脳波周波数への VI および DRL スケジュールの効果. 2022 年 9 月 日本心理学会第 86 回大会
- ・ 砂原里南・榛葉俊一・吉井光信・竹明玲菜・細谷終斗・坪井芹菜・久保浩明・森寺亜伊子・井上真澄・東 華岳・麦島 剛 DDY マウス及び EL マウスの脳内自己刺激における電気刺激強度及び自発脳波の θ/β 比に関する検討. 2022 年 9 月 日本心理学会第 86 回大会
- ・ 坪井芹菜・水流百香・久保浩明・吉田 萌・森寺亜伊子・永井友幸・砂原里南・竹明玲菜・吉井光信・

麦島 剛 ADHD モデル動物 EL マウスの確率割引課題における リスク指向性と衝動性の関連. 2022 年 9 月 日本心理学会第 86 回大会

- ・ 麦島 剛・中田萌絵・砂原里南・竹明玲菜・坪井芹菜・吉井光信・井上真澄・東 華岳 画像解析を用いた ADHD モデル動物 EL マウスの オープンフィールドにおける社会的行動. 2022 年 9 月日本心理学会第 86 回大会
- ・ 水流百香・坪井芹菜・甲斐田茉那・吉田萌・久保浩明・永井友幸・森寺亜伊子・中本百合江・吉井光信・麦島 剛 確率割引における ADHD モデルマウスの選択行動の Logue et al. (1984)式を用いた検討. 2022 年 9 月 日本行動分析学会第 40 回年次大会
- ・ 水流百香・榎田佳菜・竹明玲菜・吉田 萌・久保浩明・永井友幸・森寺亜伊子・中本百合江・吉井光信・麦島 剛 高確率大報酬条件を含む確率割引における双曲線関数モデルを用いたマウス選択行動の検討. 2023 年 9 月 日本行動分析学会第 41 回年次大会
- ・ 竹明玲菜・榛葉俊一・吉井光信・久保浩明・水流百香・森寺亜伊子・井上真澄・東華岳・麦島 剛 ADHD モデルマウスの DRL 事態での衝動的反応における脳内自己刺激と餌ペレット強化子の比較検討. 2023 年 9 月 日本行動分析学会第 41 回年次大会
- ・ 麦島 剛・久保浩明・永井友幸・水流百香・吉田 萌・竹明玲菜・平田うの・森寺亜伊子・東華岳・井上真澄・中本百合江・吉井光信 高確率大報酬条件を含む確率割引におけるマウス選択行動の報酬量と報酬確率の感受性. 2023 年 9 月 日本行動分析学会第 41 回年次大会
- ・ 麦島 剛・吉井光信・竹明玲菜・梅原聡吾・久保浩明・森寺亜伊子・井上真澄・東 華岳・榛葉俊一 ADHD モデル動物 (EL マウス) の脳波 θ/β 比の時間変化および改善薬 methylphenidate 投与の効果. 2023 年 9 月 日本心理学会第 87 回大会
- ・ 竹明玲菜・榛葉俊一・吉井光信・久保浩明・森寺亜伊子・井上真澄・東 華岳・麦島 剛 EL マウスの脳波スペクトルと θ/β 比の ADHD 脳波特性との相似性. 2023 年 9 月 日本心理学会第 87 回大会
- ・ Moridera, A., Shinba, T., Kubo, H., Mugishima, G. D-index in order to prove dissimilarity in ERPs by paired stimuli in ADHD model rats. July 21-26, 2024, 33rd International Congress of Psychology, Prague, Czech Republic.
- ・ 麦島 剛・今尾 佳乃子・端口 弓月・名蔵 央夏・水流 百香・吉田 萌・竹明 玲菜・永井 友幸・森寺 亜伊子・久保 浩明. ADHD モデル EL マウスの僅差の遅延条件を含む遅延割引の双曲線関数による分析と atomoxetine 投与効果. 2024 年 9 月. 日本行動分析学会第 42 回年次大会
- ・ 端口 弓月・今尾 佳乃子・名蔵 央夏・水流 百香・吉田 萌・竹明 玲菜・永井 友幸・森寺 亜伊子・久保 浩明・麦島 剛. モデル動物 EL マウスを用いた僅差の選択を含む遅延割引課題における遅延および報酬量の感受性と atomoxetine 投与効果. 2024 年 9 月. 日本行動分析学会第 42 回年次大会
- ・ 竹明 玲菜・榛葉 俊一・森寺 亜伊子・久保 浩明・東 華岳・井上 真澄・麦島 剛. ADHD モデル動物 EL マウスに対する脳内電気報酬を用いたニューロフィードバック療法の有効性. 2024 年 9 月. 日本心理学会第 88 回大会

③過去の主要業績

- ・ 麦島 剛・榛葉俊一・山本健一・星野忠夫 (1997) 自動画像解析で捉えた dopamine 系活動亢進によるラットの行動変化. 動物心理学研究, 47, 91-98.
- ・ Shinba, T., Shinozaki, T., Mugishima, G. (2001) Clonidine immediately after immobilization stress prevents long-lasting locomotion reduction in the rats. Progress in Neuro-Psychopharmacology and Biological Psychiatry. 25, 1629-40.
- ・ 麦島 剛 (2009) 第 10 章 学習. 西本武彦・大藪泰・福沢一吉・越川房子 編著『現代心理学入門 進

化と文化のクロスワード』川島書店.

5. 所属学会

日本心理学会、日本生理心理学会、日本動物心理学会、日本神経精神薬理学会、日本行動分析学会、早稲田大学心理学会

日本生理心理学会 評議員

6. 担当授業科目

生理心理学及び神経心理学 2 単位, 2 年後期、学習心理学及び言語の習得 2 単位, 2 年前期、心身科学 2 単位, 2 年前期、加齢基礎論 2 単位, 2 年後期 2 年, 心理学実験 I 2 単位, 2 年前期、心理学実験 II 2 単位, 2 年後期、心理学研究法, 2 単位, 2 年後期、老年心理学 2 単位, 3 年後期、演習 2 単位, 3 年前期・3 年後期・4 年前期、卒業論文指導 6 単位, 4 年、神経生理学特論 2 単位, 修士 1 年、老年心理学特論 2 単位, 修士 1 年、特別研究 4 単位, 修士 1 年、特別研究 4 単位, 修士 2 年

7. 社会貢献活動

- ・福岡県立大学生協同組合 理事長
- ・日本生理心理学会 評議員
- ・日本行動分析学会第 40 回年次大会委員長

8. 学外講義・講演

九州大学 文学部 心理学講義VI (神経・生理心理学)

北九州市立大学 文学部 生理心理学

産業医科大学 医学部 医学科 系統解剖学各論

9. 附属研究所の活動等

2023・2024 年度 奨励研究交付金 重点領域研究 芋川浩・麦島剛「神経再構築とその細胞・組織・個体が創生する神経情報の理解への挑戦 —神経情報を医療機器に直結できる BMI 技術に向けた基盤研究—」

10. 今年度の自己評価

学術研究とは問いの深化であり、問いの深化によりぶれない中心軸を形成するものであると考えられる。そのためには常に学術的フロンティアに自らを置くことが求められる。またアイデアの豊かさが問いの深化に必須である。さらには研究に要する技術の深化と革新が求められる。今年度は、電気生理学および行動薬理学の実験とデータ解析の深化を行った。新しいアイデアとして脳の一部に局限する物質が複数の神経疾患を包括する可能性を突き止め、むらのない文献研究で矛盾がないことを確認した。また老朽化した実験装置について、電気回路を設計して試作を繰り返して工学的実験を重ねて実用化した。ゼミ指導に関して上記の最新の学術研究を活用した。講義科目については、授業内容に関わる最新の学術論文に基づき刷新した。また社会貢献の一例としては、大学生協を代表して事業連合の各種会議に出席して結局的に提言し、学内でも役目を一つ一つこなし、

人間社会学部・地域社会コース	職名	准教授	氏名	陸麗君
----------------	----	-----	----	-----

1. 教員紹介・主な研究分野

1997年6月、一橋大学大学院社会学研究科博士課程を修了し、博士（社会学）の学位を取得。その後、農林水産省農業総合研究所（現・農林水産政策研究所）海外部特別研究員、中国・華東理工大学社会与公共管理学院准教授を経て、2019年4月に本学へ着任。

初期の研究では、高度経済成長に伴う日本の地域社会の構造変化に着目し、「個」と「共同」の視点からアプローチを行った。その後、この枠組みを用いて、日本社会との比較を通じて、改革開放後の中国における地域社会の変容の解明に取り組んできた。

近年は、グローバル化の進展に伴う都市コミュニティと移民問題に焦点を当てた研究を推進している。主な研究テーマとして、日本における外国人問題、特に華僑・華人の起業、外国人の集住とコミュニティ形成などを挙げることができる。また、中国の大都市圏の発展や都市基層社会の変容、さらには日中コミュニティの比較研究にも取り組んでいる。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・ 陸麗君, 2023, 「中国長江デルタ地域都市圏の発展と域内の一体化に関する考察」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第32巻第1号: 73-84.
- ・ 陸麗君, 2023, 「中国系住民を対象とする有効な調査方法」『空間・社会・地理思想』第26号: 73-75.

② その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 陸麗君, 2024, 「トランスナショナル起業と起業家たちの戦略—日本における華人華僑起業家の事例を中心に」, 東アジア日本研究者協議会 第8回学術国際大会, 淡江大学（台湾）2024年11月9日.
- ・ 陸麗君, 2024, 「在日華人华侨的创业及其影响」（中国語）, 中国社会学会 2024年学術大会, 中国ハルビン工業大学 2024年7月6日.
- ・ 陸麗君, 2024, 「新中間層華僑の集住と地域コミュニティ」, 都市・農村越境コミュニティ国際研究会, （招待あり）龍谷大学 2024年1月19日.
- ・ 陸麗君・野村侑平・朱澤川・水内俊雄, 2023, 「日本におけるニューカマー新中間層の集住型定住：華人華僑の事例を手掛かりに」, 東アジア日本研究者協議会 第7回学術国際大会, 東京外国語大学 2023年11月4日.
- ・ 丸山真央・陸麗君, 2023, 「東アジアのシティ・リージョナリズムの再検討に向けて—「国家主導」的都市圏形成論を越えて—」 東アジア日本研究者協議会 第7回学術国際大会, 東京外国語大学 2023年11月4日.
- ・ 陸麗君, 2023, 「中国基層社会における居民委員会の「治理」モデル—町内会との比較の視点から」, （招待あり）コミュニティ政策学会関西支部研究会, 花園大学 2023年11月12日.
- ・ 陸麗君, 2023, 「中国系住民の集住と地域社会—大阪市における中国系住民の集住を中心に」, 第96回日本社会学会, 立正大学 2023年10月8日.

<報告書など>

- ・ 陸麗君, 2024, 「華僑華人の新中間層持ち家居住と地域社会—大阪市と川口市・蕨市における華僑華人の集住コミュニティ調査を通して」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第33巻第1号: 85-94.

- ・ 陸麗君, 2024, 「Jiixin Zhong. Japanese War Orphans : Abandoned Twice by The State, Routledge, Contemporary Japan Series (English Edition) (書評)」『日中社会学研究』第 31 号 : 98-100.

② 過去の主要業績

- ・ 陸麗君, 2019, 「第 6 章「対立」から「融合」と「管理」へ—流動人口のネットワークをめぐる流入地での戦略」南裕子・閻美芳編著『中国の「村」を問い直す』明石書店 : 176-198.
- ・ 陸麗君, 2019, 「第 1 6 章インナーシティの新華僑と地域社会」鯉坂学・西村雄郎・丸山 真央ほか編著『さまよえる大都市・大阪 —「都心回帰」とコミュニティー』東信堂 : 316-324.

3. 外部研究資金

- ・ 文部科学省 科学研究費補助金 (基盤研究 C) 「在留外国人のトランスナショナル起業とその社会的影響—華人・華僑起業者を中心に」(研究課題番 : 21K01906) 2021-2024 年度 2,210 千円
研究代表者
- ・ 文部科学省 科学研究費補助金 (基盤研究 B) 「生活困窮者自立支援の実践に見る社会包摂原理の日本の受容に関する学際的探究」(研究課題番 : 21H00636) 2021-2024 年度 17,160 千円
研究分担者 (研究代表者 : 水内俊雄・大阪市立大学)
- ・ 文部科学省 科学研究費補助金 (基盤研究 C) 「大都市ガバナンス改革の都市政治社会学的研究」(研究課題番 : 20K02089) 2020-2023 年度 4,290 千円 研究分担者 (研究代表者 : 丸山真央・滋賀県立大学)
- ・ 文部科学省 科学研究費補助金 (基盤研究 C) 「東アジアのシティ・リージョナリズムの政治社会学的基礎研究」(研究課題番 : 24K05310) 2024-2026 年度 4,550 千円 研究分担者 (研究代表者 : 丸山真央・滋賀県立大学)

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本社会学会、地域社会学会、日中社会学会、関西社会学会、都市社会学会

6. 担当授業科目

都市社会学・2 単位・2 年・前期、中国の社会と文化・2 単位・1 年と 2 年・後期、中国語Ⅱ-(1)A・1 単位・2 年・前期、中国語Ⅱ-(1)B・1 単位・2 年・前期、中国語Ⅱ-(2)A・1 単位・2 年・後期、中国語Ⅱ-(2)B・1 単位・2 年・後期、中国語Ⅲ-(1)・1 単位・3 年・前期、中国語Ⅲ(2)・1 単位・3 年・後期、公共社会学研究Ⅰ・1 単位・3 年・前期、公共社会学研究Ⅱ・1 単位・3 年・後期、卒業論文・6 単位・4 年・通年

7. 社会貢献活動

田川市都市計画審議会 委員

田川市石炭・歴史博物館等運営協議会 委員

8. 学外講義・講演

なし

9. 附属研究所の活動等

なし

10. 今年度の自己評価

公共社会学研究の教育において、地方自治体の「大学生等フィールドワーク・イベント実施推進事業補助金」の申請などを通して、精力的に学生たちとともに現地調査を実施した。また、調査の事前・事後指導を通じて、学生たちは公共社会学の視点から地域社会の課題を研究し、実践的な学修効果を高めるとともに、アクティブ・ラーニングの充実にもつなげることができた。研究面では、学会発表や論文投稿を通じて、これまでの研究成果を公表してきた。さらに、研究成果は日本経済新聞や読売新聞にも取り上げられ、広く社会に発信された。教育と研究の両面で充実した1年となった。

人間社会学部／人間形成学科・こどもコース	職名	准教授	氏名	鷺野彰子
----------------------	----	-----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

大阪教育大学教育学部教養学科芸術専攻音楽コース卒業、ニューヨーク州立大学パーチェス・カレッジ大学院及びデン・ハーグ王立音楽院大学院修了、大阪大学大学院文学研究科博士課程後期修了、博士（文学）。2011年より本学に就任。スタンフォード大学人文科学大学院客員研究員（2016年度）。

ピアノ及び歴史的楽器（クラヴィコード、フォルテピアノ）の演奏活動、また19世紀の演奏様式を研究している。昨今は20世紀初期の演奏会で弾かれた即興の前奏演奏がどのようなものであったかといった研究や、Sonic Visualiser等のソフトを用いて20世紀初期の歴史的録音やピアノロールに遺された演奏を解析して演奏実践を分析する研究を行っている。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・ 鷺野彰子, 2023, 「ヨゼフ・ホフマン（1876-1957）の即興的前奏演奏」『阪大音楽学報』19, 47-73.
- ・ 鷺野彰子, 2023, 「ヴィルヘルム・バックハウス(Wilhelm Backhaus)の即興的前奏演奏」『音楽表現学』21, 1-20.
- ・ 鷺野彰子, 2023, ‘The Mazurka in Chopin’s Waltz, Op. 42: Investigating the Discrepancies between Rosenthal’s Performances, his Score Notations, and his Explanations as to how the Piece should be Played.’ “The Element of dance in music of the first half of the nineteenth century” The Fryderyk Chopin Institute, 179-203.
- ・ 鷺野彰子, Craig Stuart Sapp, 2024, 「ヨゼフ・ホフマン(1876-1957, Josef Hofmann)のピアノロール編集：デュオ＝アート (No. 6401-6) の編集痕跡の分析」『福岡県立大学紀要』32/2, 1-21.
- ・ 鷺野彰子, 2024, 「特別支援教科書『おんがく☆』（星本）と小学校音楽教科書の表記の差異」『福岡県立大学紀要』32/2, 55-64.
- ・ 鷺野彰子, 櫻井晋伍, 2025 「保育内容「表現」における動画教材製作の教育実践：学生のICT機器の活用力と協働力を育成する授業方法」『福岡県立大学紀要』33/2, 53-66.
- ・ 鷺野彰子, 2025, 「編集された演奏記録の解析：ヨゼフ・ホフマンによるショパン《ワルツ》Op. 42のピアノロール」『阪大音楽学報』21, 1-15.

② その他最近の業績

〈学会発表〉

【研究発表】Akiko Washino, Analyzing Piano Rolls and Acoustic Recordings of Chopin’s Op. 15 No. 2 in Order to Investigate How Tempo Rubato Was Applied by Performers born in the 19th Century, 2nd Global Piano Roll Meeting, Hochschule der Künste Bern, 2022年6月18日.

【研究発表】鷺野彰子「20世紀前半の演奏会における即興の前奏演奏実践例の分析」日本音楽学会第73回大会，西南学院大学，2022年11月27日。

【研究発表】鷺野彰子「20世紀前半の即興の前奏演奏実践例とそれを取り巻く要因の関係性」日本音楽表現学会第21回大会，京都女子大学，2023年6月18日。

【研究発表】鷺野彰子「楽譜に記譜された即興的前奏演奏」日本音楽学会第74回大会，聖徳大学，2023年11月4日。

【研究発表】鷺野彰子「ピアノロールの計量的解析による演奏分析」シンポジウム「音楽家のためのComputational Musicology」，神戸大学，2023年11月23日。

【研究発表】Akiko Washino, Craig Stuart Sapp, Traces of Josef Hofmann Editing His Own Piano-Roll Recording of Chopin's Waltz op. 42 (Duo-Art 6401-6), 3rd Global Piano Roll Meeting, Sydney Conservatory of Music(SCM), University of Sydney, 2024年7月27日。

【研究発表】鷺野彰子「フランシス・プランテ (Francis Planté, 1839-1934) の演奏に具現化されたショパンのテンポ・ルバート」シンポジウム「演奏を読む」，大阪大学中之島芸術センター，2024年12月8日。

【研究発表】鷺野彰子「同一演奏家による同一演奏曲の差異をどう評価するか」，情報処理学会音楽情報科学 (MUS) 研究会，九州大学，2025年3月8日。

【一般誌論稿・雑誌記事】鷺野彰子，2022，レコード誕生物語第52回「現代に通じるモダニスト。J. ホフマンのザ・ゴールドデン・ジュビリー・コンサート」『レコード芸術』2022年4月号，64-68。

【一般誌論稿・雑誌記事】鷺野彰子，2022，「グレン・グールドの演奏とノイズ」及びディスク・レビュー『レコード芸術』2022年11月号，49，51，54，57。

【一般誌論稿・雑誌記事】鷺野彰子，新譜月評担当『レコード芸術 ONLINE』2024年10月より毎月

③過去の主要業績

- 【演奏】鷺野彰子「シューベルトとヴォジーシェク」ザ・フェニックスホール 2007年2月，大倉山記念館 2007年1月。
- 【演奏】鷺野彰子「モーツァルトとショパン～隠れた水脈～」衍芸館 2008年10月，ザ・フェニックスホール 2008年10月。
- 【演奏】鷺野彰子「クラヴィコード and/or ピアノ」ザ・フェニックスホール 2009年12月。

3. 外部研究資金

令和4年度-令和8年度 科学研究費補助金・基盤(B)

- 「20世紀前半の歴史的演奏とピアノロールの演奏解析によるルバート奏法分析」(課題番号：22H00629) 研究代表者 14,560,000円

4. 受賞

5. 所属学会

日本音楽学会 日本音楽表現学会

6. 担当授業科目

(学部)

音楽Ⅰ・2単位・1年・通年、音楽Ⅱ・1単位・2年・前期、音楽Ⅲ・1単位・2年・後期、
幼児と表現B・1単位・3年・前期、保育内容の指導法・表現B・1単位・3年・後期、
演習・2単位・3年・通年、卒業論文・6単位・4年・通年、
保育内容演習・2単位・4年・後期、保育・教育実践演習(幼稚園)・2単位・4年・後期
(大学院)

子ども音楽教材研究・M1年・2単位・前期、子ども音楽表現研究・M1年・2単位・後期、
教育課題研究B・M1年・2単位・後期、子ども教育実践実習Ⅰ・M1年・2単位・後期、
子ども教育実践実習Ⅱ・M2年・2単位・前期、地域教育課題研究・M2年・2単位・前期、
特別研究・M1～2年・4単位・通年

7. 社会貢献活動

福岡県文化芸術振興審議会委員

8. 学外講義・講演

【新聞】鷺野彰子，2022，「膨大な数の蓄音機とSPレコードコレクション」『大阪日日新聞』
2022年6月21日版，8.

9. 附属研究所の活動等

10. 今年度の自己評価

本年度は自身が代表である科学研究費補助金・基盤(B)「20世紀前半の歴史的演奏とピアノロールの演奏解析によるルバート奏法分析」(2022-2026年度)の中間年度にあたることから、日本音楽学会より助成を受けて大阪大学で国際シンポジウムを開催した。また、本年度10月より月刊『レコード芸術ONLINE』の新譜月評を担当している。

人間社会学部／公共社会学科・地域社会コース	職名	講師	氏名	黒川すみれ
-----------------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

2020年3月お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科博士後期課程修了。博士(社会科学)。東京大学社会科学研究所特任助教等を経て、2022年4月より本学に着任。

主な研究分野：家族社会学、計量社会学、労働社会学

女性が家族役割を担いながら、どのように職業キャリアを形成していくのかを研究しています。結婚、出産、就業など、人生におけるさまざまな出来事によって生じる地位や役割の移行に焦点をあてるライフコース研究です。マクロな社会変動とミクロな個人生活史との関連に着目した、社会学的研究に取り組んでいます。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・ 黒川すみれ, 2024, 「日本における女性の職業キャリア研究の動向と課題」『福岡県立大学人間社会学部紀要』33(1): 73-83.
- ・ 黒川すみれ, 2023, 「女性のライフコース—結婚と就業」吉武由彩(編)『入門・福祉社会学：現代的課題との関わりで』学文社, 71-92.
- ・ 黒川すみれ, 2023, 「コロナショック後の所得変動」樋口美雄／労働政策研究・研修機構(編)『検証・コロナ期日本の働き方：意識・行動変化と雇用政策の課題』慶応義塾大学出版会, 249-266.
- ・ 黒川すみれ, 2023, 「職場や働き方をめぐる個別労働紛争の男女比較分析」佐藤岩夫・阿部昌樹・太田勝造(編)『現代日本の紛争過程と司法政策—民事紛争全国調査 2016-2020』東京大学出版会, 430-446.

② その他最近の業績

<学会発表・セミナー等>

- ・ 堤圭史郎, 佐野麻由子, 黒川すみれ 「「公共」を冠する葛藤と向き合う—福岡県立大学人間社会学部公共社会学科のあゆみ」第97回日本社会学会大会 2024年11月.
- ・ 黒川すみれ, 「Rで学ぶ系列分析入門」立教大学社会情報教育研究センター『第13回社会調査フォーラム』2023年12月.
- ・ 黒川すみれ, 「夫婦の就業経歴がウェルビーイングに及ぼす影響」第75回数理社会学会大会 2023年8月.

<報告書・書評等>

- ・ 黒川すみれ, 2024, 「室井研二・山下亜紀子(編)『シリーズ生活構造の社会学2 社会の変容と暮らしの再生』(書評)」『西日本社会学会年報』22: 81-82.
- ・ 黒川すみれ編, 2023, 『「北九州市の暮らしと仕事に関する調査」報告書』2022年度福岡県立大学人間社会学部公共社会学科社会調査実習調査報告書.

③ 過去の主要業績

- ・ 黒川すみれ, 2021, 「コロナショックの所得格差拡大への影響：社会階層の視点から」樋口美雄／労働政策研究・研修機構 編『コロナ禍における個人と企業の変容：働き方・生活・格差と支援策』慶應

義塾大学出版会、261-280.

- ・ 黒川すみれ, 2020, 「女性活躍推進と不本意非正規労働」『東京女子大学社会学年報』第8号, 1-16.
- ・ Kurokawa, Sumire, “Re-Defining Women’s Social Status By Optimal Matching of Occupational Career,” 19th International Sociological Association World Congress of Sociology, Canada Toronto, Poster, July, 2018.

3. 外部研究資金

日本学術振興会科学研究費助成事業 若手研究 (研究代表者) 研究課題名「女性の職業キャリア研究における系列分析手法の応用」(課題番号 22K13543), 交付金額: 3,250 千円, 令和4年度~令和6年度.

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本社会学会 (研究活動委員会委員)、日本家族社会学会、数理社会学会 (研究活動委員)、International Sociological Association RC28 (Social Stratification and Mobility)、西日本社会学会、日本社会分析学会

6. 担当授業科目

公共性の社会学・2単位・1年・前期、家族社会学A・2単位・2年・前期、家族社会学B・2単位・2年・後期、社会調査実習Ⅰ・2単位・2年・前期、社会調査実習Ⅱ・2単位・2年・後期、福祉社会学・2単位・3年・前期、社会学の分析法B・2単位・3年・後期、公共社会学研究Ⅰ・1単位・3年・前期、公共社会学研究Ⅱ・1単位・3年・後期、卒業論文・6単位・4年・通年

7. 社会貢献活動

行橋市総合計画審議会 委員

田川市後藤寺駅前整備基本計画策定会議及び後藤寺駅前整備基本コンセプト検討部会 委員

飯塚市情報公開審査会 委員

飯塚病院倫理委員会 委員

8. 学外講義・講演

なし

9. 附属研究所の活動等

なし

10. 今年度の自己評価

社会調査士の実習教育において、グループ単位の基礎学習と調査地のフィールドワークを繰り返し実施することにより、修得した知識を調査の実践に結びつけることを意識できるような授業の組み立てができた。実習を通して田川市内の地域が抱える課題を明らかにしたり、地域住民とのつながりを広げることで、自らも当事者として課題に向き合う姿勢を身につけることをサポートできたと考える。また、実習授業では田川市と連携したアンケート調査を実施したことで、都市計画検討のためのデータ提供にもつながり、地域への貢献も果たせたと考える。

人間社会学部 / 人間形成学科・心理コース	職名	講師	氏名	小林亮太
-----------------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

2021年3月に広島大学教育学研究科を修了し（博士：心理学）、福岡県立大学人間社会学部の講師として大学教育、研究に従事しています。研究テーマは、大きく感情制御と内受容感覚の2つです。まず、感情制御については、普段の生活の中で感じるネガティブな感情（例：不安、怒り）をどうしたら緩和することができるのか？ どういった方略が有効なのか？といったことを検討してきました。今後はこうした感情制御のメリットを追求するとともに、そのデメリット（弊害）の解明や日常応用について研究をしていきたいと考えています。

次に、内受容感覚についてですが、そもそも内受容感覚という用語は、身体内部の反応（例：心臓の鼓動、胃の収縮）に関する感覚を意味します。そしてたとえば、不安なときに心臓がドキドキするように、あるいは怒っているときに腸が煮えくり返ると表現するように、この内受容感覚は感情と密接に結びついています。これまで私はこうした内受容感覚への意識（注意）の向きやすさと感情体験の関連について研究を行ってきました。現在は、内受容感覚への意識を簡単に測定できる尺度を作成することに力を注いでおり、子ども向けの尺度も作成していければと思案しています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- Horinouchi, H., Liu, X., Kabir, R. S., Kobayashi, R., Haramaki, Y., & Kambara, T. (2024). Get the picture: Learning referents in a single-day context. *Word*, 70(1), 22–43. <https://doi.org/10.1080/00437956.2023.2299070>
- Nozaki, Y., & Kobayashi, R. (2024). Instrumental Motives in Emotion Regulation of One's Own and Others' Anger: Testing Cross-Cultural Similarities and Differences Between European Americans and Japanese. *Journal of Cross-Cultural Psychology*, 55(2), 189–215. <https://doi.org/10.1177/00220221231212176>
- 小林亮太・小田真実・岩佐康弘・則武良英 (2023). 青年期前期・中期における学習習慣と社会情緒的コンピテンス、メタ認知の関連 福岡県立大学人間社会学部紀要, 32, 65-72.

②その他最近の業績

<学会発表>

- Kobayashi, R. (2024). Cost of Cognitive Reappraisal: Does the regulation of anxiety reduce motivation to prepare? 33rd International Congress of Psychology.
- 小林亮太・本多樹 (2024). 児童・生徒用内受容感覚の気づき尺度の作成の試み 日本心理学会第88回大会
- 小林亮太・林優希 (2024). 反すうの持続性の測定の試み: 意図的熟考に焦点を当てた検討九州心理学会 85回大会

③過去の主要業績

- 小林亮太 (2022). Topics3 感情制御の伝染 (pp.74-75) / Topics5 安静時脳活動と感情制御 (pp.125-126) 有光興記 (監修) 感情制御ハンドブック 北大路書房

- ・ 小林亮太・本多樹・町澤まろ・市川奈穂・中尾敬 (2021) 日本語版 Body Perception Questionnaire-Body Awareness (BPQ-BA) 超短縮版の作成 —因子構造, および信頼性, 妥当性の検討— 感情心理学研究, 28, 38-48.
- ・ Kobayashi, R., Shigematsu, J., Miyatani, M., & Nakao, T. (2020). Cognitive reappraisal facilitates decentering: A longitudinal cross-lagged analysis study. *Frontiers in Psychology*, 11:103.

3. 外部研究資金

日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究 (22K13818): 児童生徒の内受容感覚の気づき: 尺度作成から介入まで (代表) 2022.4-2025.3

4. 受賞

5. 所属学会

日本心理学会, 日本感情心理学会, 日本認知心理学会, 日本社会心理学会, 日本認知・行動療法学会, 九州心理学会

6. 担当授業科目

教養演習・1単位・1年・前期(共同), 心理実習Ⅰ・1単位・2年・通年(共同), 心理学統計法・2単位・2年・前期, 心理学実験Ⅰ・2単位・2年・前期(共同), 心理学実験Ⅱ・2単位・2年・後期(共同), 心理学研究法・2単位・2年・後期(共同), 教育心理学概論・2単位・2年・後期, 認知心理学(知覚・認知心理学)・2単位・3年・前期, 心理実習Ⅱ・1単位・3年・通年(共同), 演習・2単位・3年・通年, 認知心理学特論・大学院・前期, 心理統計法特論・大学院・後期

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

10. 今年度の自己評価

2024年度は主な研究分野にも記載した感情制御, および内受容感覚についての調査・実験を進めました。感情制御のデメリットについては実験室実験を行っており, 来年度中に結果を公表予定です。内受容感覚については子ども版尺度の開発を進め, 本年度の学会にて報告と議論を行いました。

人間社会学部／こどもコース	職名	講師	氏名	櫻井 晋伍
---------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

東京藝術大学美術学部絵画科日本画専攻卒業、同大学院美術研究科芸術学専攻美術教育分野修了、修士（美術）。

水彩画の表現技法を用いた絵画制作研究を行っている。また、幼児の造形教育について、保育現場の協力を得て、製作活動と鑑賞教育に関する調査研究を行っている。

授業では、保育士および幼稚園教諭養成のための造形表現関連科目を担当している。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

<論文>

- ・櫻井晋伍「保育者養成課程における陶芸作品製作－土粘土の特性に対する体験的理解を意図して－」基礎造形（日本基礎造形学会誌），第 33 号，2025 年 2 月
- ・鷺野彰子、櫻井晋伍「保育内容『表現』における動画教材製作の教育実践：学生の ICT 機器の活用力と協働力を育成する授業方法」福岡県立大学人間社会学部紀要，第 33 巻第 2 号，2025 年 3 月
- ・上田真由美、櫻井晋伍、福田恭介「保育実習時の『保育環境の構造化』・『保育現場における予期せぬ現実』と『ストレス』との関連」福岡県立大学人間社会学部紀要，第 33 巻第 2 号，2025 年 3 月
- ・櫻井晋伍「造形表現活動における記録写真と活動報告の力量育成－保育者養成課程の学生を対象にして－」基礎造形（日本基礎造形学会誌），第 32 号，2024 年 2 月
- ・櫻井晋伍、犬童昭久、王寺直子、栗山裕至、白石恵里、丁子かおる、樋口和美、前村晃「トーランスの創造性テストの再考と試行Ⅳ－大学生対象の調査と分析－」和歌山大学教育学部紀要，教育科学，第 74 集，2024 年 2 月
- ・櫻井晋伍「造形教育における壁面構成製作の実践－2 メートル四方程度の壁面を活用して－」福岡県立大学人間社会学部紀要，第 31 巻第 2 号，2023 年 3 月
- ・櫻井晋伍「保育者養成課程における木材を用いた教材製作に関する研究－素材の特性に着目して－」基礎造形（日本基礎造形学会誌），第 31 号，2023 年 2 月
- ・犬童昭久、王寺直子、栗山裕至、櫻井晋伍、白石恵里、丁子かおる、樋口和美、前村晃、宮崎祐治「トーランスの創造性テストの再考と試行Ⅲ－児童期（9～10 歳児）における調査と分析－」九州ルーテル学院大学紀要 VISIO，第 53 号，2022 年 12 月

<報告書>

- ・櫻井晋伍「土粘土の特性理解を促す陶芸作品製作－上野焼を鑑賞資料に活用して－」令和 5 年度研究奨励交付金研究成果報告書，2025 年 3 月
- ・櫻井晋伍「保育者養成における造形表現活動に関するプレゼンテーション能力育成－地域連携活動を通じた学生の学びに着目して－」令和 4 年度研究奨励交付金研究成果報告書，2024 年 3 月
- ・櫻井晋伍「筑豊地区の地域材を活用した木製玩具製作の教育実践－保育者養成課程における試み－」令和 3 年度研究奨励交付金研究成果報告書，2023 年 2 月

② その他最近の業績

<絵画作品出展>

- ・櫻井晋伍「刻」水彩画，第 79 回福岡県美術展覧会，福岡県立美術館 2024 年 9 月

- ・櫻井晋伍「寂静」水彩画，第32回全日本アートサロン絵画大賞展，国立新美術館 2023年2月，西宮市立市民ギャラリー 2023年3月
- ・櫻井晋伍「水韻」水彩画，第35回MBCサムホール美術展，鹿児島県歴史・美術センター黎明館 2022年9月－10月

<学会発表>

- ・櫻井晋伍、犬童昭久、王寺直子、栗山裕至、白石恵里、丁子かおる、樋口和美、前村晃、宮崎祐治「トーランスの創造性テストの再考と試行Ⅳ－大学生対象の調査結果及び幼児・児童との比較－」第45回美術科教育学会兵庫大会，2023年3月

③ 過去の主要業績

- ・櫻井晋伍「保育者養成課程における壁面構成の制作技能育成に関する考察－鑑賞教育を通じた実践－」大学造形美術教育研究第16号，2018年3月
- ・櫻井晋伍「幼稚園教育実習の造形活動に関する研究－学生の実践事例を通して－」久留米信愛女学院短期大学幼児教育学科研究紀要<信愛保育研究>，2017年10月
- ・櫻井晋伍「保育者養成課程における鑑賞教育に関する考察－日本画の構図と色彩に着目して－」久留米信愛女学院短期大学幼児教育学科研究紀要<信愛保育研究>，2017年10月

3. 外部研究資金

なし

4. 受賞

なし

5. 所属学会

- ・美術科教育学会
- ・日本美術教育学会
- ・日本基礎造形学会

6. 担当授業科目

<学部>造形Ⅰ・1単位・1年前期、教養演習・1単位・1年前期、造形Ⅱ・1単位・1年後期、幼児と表現A・1単位・2年前期、保育内容の指導法・表現A・1単位・2年後期、保育内容演習・2単位・4年後期、保育・教職実践演習（幼稚園）・2単位・4年後期、演習・2単位・3年通年、卒業論文・6単位・4年通年

<大学院>子ども造形表現研究・2単位・1年前期、子ども造形教材演習・2単位・1年後期、教育課題研究B・2単位・1年後期、子ども教育実践実習Ⅰ・1単位・1年後期、子ども教育実践実習Ⅱ・1単位・2年前期、地域教育課題演習・2単位・2年前期

7. 社会貢献活動

なし

8. 学外講義・講演

・常盤高等学校, 入試説明会, 2024年10月24日

9. 附属研究所の活動等

なし

10. 今年度の自己評価

研究活動については、論文3件（査読付き単著1件、査読無し共著2件）、絵画作品出展1件（審査あり）、報告書1件の研究業績を挙げた。概ね、順調に研究活動を進めることが出来た。

教育活動に関しては、授業アンケート（中間・終了時）において、造形表現関連科目の総合評価平均点は3.89点（4.0満点）であり、学生からの高い評価を得ることが出来た。

人間社会学部／人間形成学科・こども コース	職名	講師	氏名	菅原航平
--------------------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

これまで小学校・幼稚園教諭や保育士の養成に関わり、令和5年度に福岡県立大学に着任しました。

専門は心理学（臨床・発達）、保育学です。主な研究テーマは、インクルーシブな保育（特別支援教育）や保護者支援、保育者の研修、保育評価などです。特に現在関心をもって取り組んでいる研究テーマは、放課後児童クラブでの育成支援の質の向上であり、クラブに通う子どもやその保護者、放課後児童支援員等の皆さんのお役に立てるよう、行政、運営主体、支援員等の方に協力して頂きながら研修や育成支援の質に影響を与える要因、研修の効果についての調査等を進めています。

また、保育者を目指す学生に対して保育現場の実態に即した講義を行うために、保育現場との関係を大切にしながら様々な地域の園と保育の実践研究や園内研修に取り組んでいます。くわえて、公認心理師、臨床心理士としてこれまで自治体の乳幼児健診・発達相談のお手伝いや、園や学校、大学の相談室での子育て相談・教育相談を通しての社会貢献に取り組んでいます。

学位・資格：臨床心理修士（専門職学位）、公認心理師、臨床心理士

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- 菅原航平（2022）第8章 子ども家庭支援の内容と対象 太田光洋（編著）保育ニュー・スタンダード子ども家庭支援論—保育を基礎とした子ども家庭支援— pp.113-129 同文書院
- 菅原航平（2022）放課後児童クラブにおける OJT の状況と育成支援の質の関連 学童保育研究第 12 巻 pp.51-55
- 菅原航平（2023）放課後児童クラブにおける障害児支援や職員研修の現状—SACERS の特別支援に関する尺度と育成支援の質の関連— 別府大学短期大学部紀要第 42 号 pp.135-141
- 渡邊はるか・菅原航平・伊藤京子・大関美鈴・齊藤範子・助安明美・田中美貴・東保美香（2023）保育現場と協働した実践研究-令和4年度大分県保育事業研究大会分科会報告- 別府大学短期大学部幼児・児童教育研究センターセンターレポート 42 号 pp.17-22
- 菅原航平（2023）領域「人間関係」の視点から考える保育カリキュラム-「集団」での「生活」の視点からの考察- 別府大学短期大学部幼児・児童教育研究センターセンターレポート 42 号 pp.9-16
- 菅原航平（2024）知的障害児の心理及び生理、病理に関する研究の動向について-論文タイトルの量的な分析や教職コアカリキュラムにおける到達目標との関連からの考察- 福岡県立大学人間社会学部紀要第 32 巻第 2 号 pp.65-69
- 堀内孝一・八田信人・菅原航平・古賀なな子（2024）知的障害特別支援学校における小・中・高等部を通じた学びの連続性の構築-育成を目指す資質・能力の明確化とカリキュラム・マネジメントの推進を通して- 福岡県立大学人間社会学部紀要第 32 巻第 2 号 pp.105-114
- 菅原航平（2024）放課後児童補助員等に対する研修の実施状況 福岡県立大学人間社会学部紀要第 33 巻第 1 号 pp.67-71
- 吉川未桜・田中美樹・吉田麻美・中原雄一・菅原航平・杉野寿子（2025）保育学生と看護学生が協同制作した医療絵本の評価と課題 福岡県立大学人間社会学部紀要第 33 巻第 2 号
- 針金まゆみ・菅原航平（2025）「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と発達心理学との関連：スコーピング・レビュー 別府大学短期大学部紀要第 44 号

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 鈴木雄清・永田誠・菅原航平（2022）幼児期の養育者の養育態度と大学生のマインドセットとの関連
日本生活体験学習学会第24回研究大会(於 熊本県立大学)
- ・ 永田誠・菅原航平・大村綾（2023）ポストコロナ社会における「親の保育参加／家庭との連携」に関する考察—保育者対象の質問紙調査の結果から— 日本生活体験学習学会第25回研究大会(於 大分大学)
- ・ 菅原航平（2024）補助員等に対する研修の実施状況と特別に配慮が必要な子どもへの育成支援 日本学童保育学会第14回研究大会（於 東京家政学院大学）

③過去の主要業績

- ・ 菅原航平，福原美帆，山本智子，田中秀樹（2009）高校生に対する睡眠マネジメント(知識教育と自己調整法)の効果～学校現場での夜型化の防止への取り組み～日本心理学会第73回大会
(於 立命館大学)
- ・ 菅原航平，泉万里江，水田茂久，高木京子（2016）子ども発達支援士の養成～佐賀女子短期大学での取り組みから～佐賀女子短期大学研究紀要第50集 p.225-232
- ・ 菅原航平，宮地泰枝（2018）保育者による障害児支援におけるアセスメントと行動論的介入～自閉スペクトラム症と知的障害が併存する幼児への食事場面での援助～佐賀女子短期大学研究紀要 52 集 2号 pp.173-182

3. 外部研究資金

科学研究費助成事業、若手研究（研究代表者）、放課後児童支援員に対する発達障害児支援力向上のためのOJTの開発、910千円、研究期間(年度)2020－2024

科学研究費助成事業、基盤研究C（研究分担者）、ポストコロナ社会での質の高い保育と<子育て>過程での親の「学び」を支える保育参加、4680千円、研究期間(年度)2024－2026

4. 受賞

特記事項なし

5. 所属学会

日本睡眠学会、日本心理学会、日本認知・行動療法学会、日本生活体験学習学会（理事）、日本心理臨床学会、日本発達心理学会、日本LD学会、日本学童保育学会、日本保育学会

6. 担当授業科目

教養演習・1単位・1年・前期、こども家庭支援の心理学・2単位・2年・前期、幼児と人間関係・1単位・3年・前期、保育内容の指導法・人間関係・1単位・3年・後期、幼児理解の理論と方法・2単位・3年・後期、演習・2単位・3年・通年、教育相談（幼児教育）・2単位・4年・前期、保育・

7. 社会貢献活動

田川市子ども・子育て会議 委員長

8. 学外講義・講演

第48回全国学童保育指導員学校 講師

令和6年度佐賀県放課後子どもプラン研修会 講師

令和6年度佐賀県放課後児童支援員認定資格研修 講師

博多女子高等学校 進路講演会（出前講義）「子どもと遊び」講師

福岡県立博多青松高等学校（出前講義）「赤ちゃんがもっている能力の不思議」講師

佐賀女子高等学校「～SDGsの目標3「すべての人に健康と福祉を」から考える現代の日本の子どもの健康課題について～」講師

令和6年度佐賀県幼児教育・保育初任者研修園外研修 講師

9. 附属研究所の活動等

療養中の子どもの“こころの準備”を支えるための絵本プロジェクト（プロジェクト研究:COE研究）
研究分担者

10. 今年度の自己評価

研究活動については、こども家庭庁や文部科学省の行う調査研究事業に委員や協力研究者として参加したほか、附属研究所のCOE研究にも参加して看護学部を含む学内の教員との共同研究に積極的に取り組んだ。教育活動では、効果的な授業を目指してオンデマンド形式の授業実施に取り組み学生からも良好な評価を得た。社会貢献活動については、田川市の子ども・子育て会議委員長を務めたほか、高校生に対する出前授業の講師や公的な研修の講師などに積極的に取り組んだ。

人間社会学部／人間形成学科・こども コース	職名	講師	氏名	董 秋艶
--------------------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

2014年3月、九州大学大学院人間環境学府教育システム専攻博士後期課程満期退学。2015年3月、九州大学より博士（教育学）の学位を取得。九州大学大学院人間環境学研究院の学際企画室テクニカルスタッフ、同研究院教育学部門助教を経て、2019年4月に本学着任。

主な研究分野は、教育学・教育社会であり、中でも特に中国の女子教育制度化に交わる日中関係に関心があり、これまで主に当時の日中両国のヒトやモノなどの動きに関する資・史料を駆使し、中国の近代女子教育の制度化過程、その制度化過程をめぐる日中関係史を解明に取り組んできた。現在は、日清戦争後の中国における日本女子教育情報の経路に関する研究を進んでいる。また、中国の近代幼児教育成立に関する日中関係史の研究にも関心がある。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- なし

② その他最近の業績

<学会発表>

- 董秋艶「清末中国の幼児教育制度 ―吳汝綸の日本視察（1902）を手係に―」アジア教育学会 第38回研究例会 2025年3月24日

③ 過去の主要業績

- 董秋艶（2012）「日清戦争後中国における日本の女子教育情報―吳汝綸による日本視察（1902）を通して」『日本の教育史学』教育史学会紀要 第55号 72-83頁
- 董秋艶（2019）「中国における乳幼児教育の現状と課題」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第28巻 第1号、111-120頁
- 董秋艶（2021）「清末中国における日本の女子教育の情報 ―下田歌子の『新撰家政学』（1900）の中国語翻訳書に着目して」『教育基礎学研究』九州大学教育基礎学研究会、第18号、2021（令和3）年3月。

3. 外部研究資金

科学研究費補助金(基盤研究C) 研究課題「清末中国における日本の女子教育情報～湯劍訳の『新撰家政学』（1902）に着目して」（22k02316）（令和3年度―令和7年度）(研究代表者)

4. 受賞

なし

5. 所属学会

教育史学会、アジア教育学会、九州教育学会、日本保育者養成教育学会

6. 担当授業科目

<学部>教育学概論A・2単位・1年・前期、保育学・2単位・2年・前期、生涯教育論・2単位・2年・後期、教育制度論・2単位・3年・後期、幼稚園教育実習事前事後指導・1単位・3年前期から4年前期、保育・教育実践演習（幼稚園）・2単位・4年・後期、幼稚園実習Ⅰ・Ⅱ・4単位・3年・前・後期、その他。 <大学院>子ども教育制度研究・2単位・1年・前期、子ども教育制度演習・2単位・1年・後期、教育課題研究A・2単位・1年・前期、教育課題演習A・2単位・1年・後期、子ども教育実践実習Ⅱ・2単位・2年、地域教育課題演習・2単位・2年。

7. 社会貢献活動

本年度は、コロナ禍以降初めて対面で開催された福岡県私立幼稚園振興協会・福岡部会に参加しました。各大学の教員や幼稚園教諭と意見交換を行い、本学及びこどもコースの紹介を行いました。

8. 学外講義・講演

なし

9. 附属研究所の活動等

なし

10. 今年度の自己評価

教育活動と大学運営は順調に進んでおり、中国での史・資料調査を実施したことで、研究も少し前進しました。また、社会貢献活動の項でも述べたように、福岡県私立幼稚園振興協会・福岡部会の参加によって各大学の教員や幼稚園教諭と意見交換を行い、本学及びこどもコースの紹介を行いました。さらに、学生の就職支援にも繋がるよう、各園の保育者募集情報を本学に持ち帰ることができました。

人間社会学部／社会福祉コース	職名	講師	氏名	畑 香理
----------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

久留米大学大学院比較文化研究科後期博士課程修了、博士（保健福祉学）。

私は、これまで医療機関でソーシャルワーカーとして患者や家族への相談支援を行ってきた経験があることから、医療ソーシャルワーク実践について関心を持ち、研究に取り組んでいます。近年、日本の保健・医療・福祉の制度・政策面は大きく変化を遂げており、患者はもちろん、患者を支える家族への経済的・身体的・精神的負担は深刻です。また、入院患者の中には脳卒中・内臓疾患・骨折等の後遺症に伴う機能障害・介護者問題・住宅問題・金銭問題等、様々な理由で在宅生活を断念せざるを得なくなった方も少なくありません。入院患者が地域生活を再び安心して送れるような専門的支援やネットワーク構築等が求められています。医療ソーシャルワーカーは病院と地域社会をつなぎ、患者や家族を支援していく役割を担っており、今後ますます医療ソーシャルワーカーの専門的支援が求められると考えます。以上のことから、私は医療ソーシャルワークを基盤とした支援方法に関する研究をすすめ、実践上の課題等についてもこれから研究していきたいと考えています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 本郷秀和・梶原浩介・松岡佐智・島崎剛・畑香理・田中将太・鬼崎信好・青柳壮悟・大場敬太『地域包括ケアシステムの推進に伴う介護系 NPO の役割とソーシャルワーカー制度外サービスの役割と開発を中心にー』科学研究費助成事業 基盤研究 C 成果報告書, 2025 年 3 月.
- ・ 本郷秀和・畑香理・梶原浩介「ソーシャルワーカー養成教育を巡る状況①（イタリア編）」『地域ケアリング』26（8）, 2024 年 7 月.
- ・ 本郷秀和・梶原浩介・畑香理・大場敬太「イタリア ボローニャにおける社会的協同組合の状況ー地域包括ケアにおける高齢者福祉に関する取り組みを中心にー」『地域ケアリング』26（4）, 2024 年 4 月.
- ・ 畑香理「第 15 章 社会福祉の実践事例：多職種連携を基調とした医療ソーシャルワーカーの実践事例から」鬼崎信好・本郷秀和編『コメディカルのための社会福祉概論（第 5 版）』講談社, 2023 年 2 月.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 小嶋秀幹・石崎龍二・村山浩一郎・美谷薫・柴田雅博・畑香理・尾形由紀子・山下清香・小野順子・中本亮「地域包括ケアシステム構築に向けた GIS を活用した地域診断ー精神障害者の在宅療養実現を目指してー」令和 5 年附属研究所研究奨励交付金事業成果報告会口頭発表, 2024 年 2 月.

③過去の主要業績

- ・ 畑香理「大腿骨骨折を経験した高齢者の語りからみる生活課題とストレングスの特徴ー入院から退院後の在宅生活を中心にー」『福岡県立大学人間社会学部紀要』30（1）, 2021 年 10 月.
- ・ 畑香理・鬼塚香・住友雄資「2020 年度教育実践報告：『精神保健福祉援助実習指導』・『精神保健福祉援助実習』ーコロナ禍における教育実践と今後の課題ー」『福岡県立大学人間社会学部紀要』30（1）, 2021 年 10 月.
- ・ 畑香理「高齢の大腿骨骨折患者への支援に関する一考察ー患者の性別に着目した医療ソーシャルワーカーの支援の特徴ー」『厚生指針』68（7）, 2021 年 7 月.

3. 外部研究資金

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究 C, 交付金額 4,420 千円, 2019 年度～2024 年度「地域包括ケアシステム推進下における介護系 NPO の役割」本郷秀和・鬼崎信好・村山浩一郎・松岡佐智・畑香理・田中将太・梶原浩介・島崎剛.

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本社会福祉学会、日本保健福祉学会、日本ソーシャルワーク学会、日本保健医療社会福祉学会、日本高齢者虐待防止学会、日本地域福祉学会、日本医療ソーシャルワーク学会、福岡県立大学社会福祉学会（理事）

6. 担当授業科目

「ソーシャルワーク演習 B」(2 単位・2 年・通年)、「ソーシャルワーク実習指導 I」(2 単位・2 年・通年)、「保健医療論」(2 単位・2 年・前期)、「ソーシャルワーク実習 A」(2 単位・2 年・後期)、「精神保健福祉演習」(1 単位・2 年・後期)、「社会福祉学演習」(2 単位・3 年・通年)、「ソーシャルワーク実習指導 II」(1 単位・3 年・通年)、「ソーシャルワーク実習 B」(4 単位・3 年・通年)、「医療ソーシャルワーク論」(2 単位・3 年・前期)、「ソーシャルワーク演習 D」(1 単位・3 年・後期)、「精神保健福祉援助実習指導」(3 単位・3～4 年・通年)、「精神保健福祉援助実習」(5 単位・3 年～4 年・通年)、「卒業論文」(6 単位・4 年・通年)、「福祉専門職特講 B」(2 単位・4 年・前期)

7. 社会貢献活動

田川市国民健康保険運営協議会 副会長

田川市地域包括ケアシステム推進協議会 医療・介護・住まい部会 委員

福岡県介護保険審査会 三者合議体委員

飯塚市指定管理者評価委員会 委員長

飯塚圏域障がい者地域自立支援ネットワーク 委員

日本社会福祉学会 第 8 期代議員

福岡県立大学社会福祉学会 理事

8. 学外講義・講演

令和 6 年度福岡県人権相談従事者職員研修（技能向上コース）講師，テーマ「記録表現講座」（会場：福岡県人権啓発情報センター），2024 年 9 月。

9. 附属研究所の活動等

研究推進部兼任研究員、配慮を要する学生支援（学生総合支援センター運営部会関係）

10. 今年度の自己評価

教育面では、社会福祉士、精神保健福祉士の実習指導においてグループ学習やプレゼンテーションなどを積極的に取り入れたことで内容の充実を図ることができ、学生は豊かな自己表現力を身につけられたと思います。研究面では、国保データベース（KDB）を活用した研究において一定の成果があったため、継続して研究を進めています。社会貢献面では、主にリカレント教育に携わったことから、学生にとどまらず福祉専門職の学習支援にも力を注ぐことができた一年となりました。

人間社会学部／社会福祉学科・社会福祉コース	職名	講師	氏名	宮原 和沙
-----------------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

- ・長崎純心大学大学院人間文化研究科人間文化専攻博士後期課程修了・博士（学術・福祉）
- ・主な資格：社会福祉士，精神保健福祉士，介護福祉士，高等学校教諭専修免許状（福祉）（更新講習未講習），高等学校教諭一種免許状（公民）（更新講習未講習）等。
- ・研究分野：社会福祉学，生命倫理学。
- ・人間の生命（いのち）の始まりと終わりに関する研究（例えば、生殖補助医療に関する福祉倫理学的研究や患者の尊厳ある生や死へのソーシャルワーク・アプローチ等について）や，医療福祉に関する研究，第二次世界大戦後の引揚げ女性への非合法の中絶に関する女性福祉論の研究等を行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・宮原和沙（2022）「地域医療における医療ソーシャルワーカーの役割」，日本メディカルセンター，臨床透析 Vol.38 No.3, pp.71-75.
- ・松本 華穂，石井 有美子，宮原 和沙，田中 祐子，郷木 義子，貴志 知恵子，竹内 理恵，中村 雅子，奥田 紀久子（2022）「大学生における月経セルフケア行動の実態と情報源との関連」，教育保健研究，No.22, 11-22. [査読有]
- ・白山靖彦監修・執筆，志水朱，志水幸，二渡努，小口将典，北村美渚，稲田和也，松本望，五十嵐教行，柳沢志津子，宮原和沙，木村淳也，添田正揮，川島恵美，木村志保，中村裕子，市川哲雄，下山美由紀，季木明德，後藤崇晴，木下一雄，大宮秀淑，長谷川武史，古川奨，種村理太郎，薄井明，山下匡将（2023）『社会福祉士養成 基本テキスト 国試対応 第1巻（第2版）』（分担執筆／「第4章 ソーシャルワークの発展過程 第1節 慈善組織協会（Charity Organization Society：COS），第2節 リッチモンドの活動，第3節 セツルメント，第4節 ケースワークの発展，第5節 ソーシャルワークの形成過程」），日総研出版，pp.56-71.
- ・桃井克将，宮原和沙（2024）「ソーシャルワークを多角的に学ぶアクティブ・ラーニングー巨大紙飛行機づくりからー」，『児童学研究』第48巻，日本家政学会児童部会，2024年3月15日，pp.49-52.
- ・宮原和沙（2024）「医学史的観点からみる第二次世界大戦後の引き揚げ女性に行われた非合法中絶」，『医学史研究』第105号，2024年3月，pp.51-55.
- ・宮原和沙（2024）「（論文）第二次世界大戦後引揚げ女性に行われた非合法の中絶に関する研究（3）- 第三の引揚げ港に関する女性福祉の観点からの一考察 - 」，『純心福祉文化研究』2023 第17号，2024年3月31日，pp.1-6. 単著. [査読有]

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・宮原和沙，桃井克将（2022）「専門課程における初年次教育は、如何にあるべきか？」，SPOD（四国地区大学教職員能力開発ネットワーク）フォーラム 2022，示説発表，愛媛大学，ZOOM 開催。
- ・宮原和沙，桃井克将（2022）「ヤングケアラーに対する社会福祉士の役割における福祉倫理的考察」，第5回徳島県地域包括ケアシステム学会 学術集会，抄録集，p.17，示説発表，徳島大学蔵本キャンパ

ス 大塚講堂・ライブ配信 (ZOOM 開催).

- ・ 宮原和沙, 桃井克将 (2023) 「地域共生社会の時代におけるダブルケアの現状と課題-もう一つのダブルケアについて-」, 第 6 回徳島県地域包括ケアシステム学会 学術集会, 抄録集, p.22, 示説発表, 徳島大学蔵本キャンパス 大塚講堂.

③過去の主要業績

- ・ 宮原和沙 (2006) 「粕谷甲一のキリスト教福祉思想の一考察」, 長崎純心大学大学院人間文化研究科『人間文化研究第 4 号』, pp.29-41. [査読有]
- ・ 宮原和沙 (2007) 「『ヒト胚の倫理的身分』についての福祉哲学的考察」, 長崎純心大学大学院人間文化研究科『人間文化研究第 6 号』, pp.9-28. [査読有]
- ・ 宮原和沙 (2018) 「(短報) ソーシャルワークの一技法としてのスヌーズレンの位置付けに関する考察 -社会福祉士の立場から, ISNA 日本スヌーズレン総合研究所・『スヌーズレン教育・福祉研究第 2 号』, pp.76-80. [査読有]

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本社会福祉学会, 徳島県地域包括ケアシステム学会, 中国・四国学校保健学会, 福岡県立大学社会福祉学会

6. 担当授業科目

「ソーシャルワークの理論と方法 E」(2 単位・3 年・前期), 「社会福祉学演習」(2 単位・3 年・通年), 「精神保健福祉援助演習」(4 単位・3~4 年・通年), 「精神保健福祉援助実習指導」(3 単位・3~4 年・通年), 「精神保健福祉援助実習」(5 単位・3~4 年・通年), 「福祉専門職特講 B」(2 単位・4 年・前期).

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

10. 今年度の自己評価

教育においては、演習だけではなく、座学の授業においても学生が受け身の姿勢にならず、能動的に学修できるようグループワーク等のアクティブ・ラーニング（Active learning）を取り入れた。アクティブ・ラーニング実施においては、学生の授業への積極的参加を図るため、面白さもある内容としつつも、それをおこなう意図や意味付けを丁寧に説明した。あわせて、学生が自分の言葉で具体的に言語化（表現）できるように工夫した。

また、学生には積極的に声をかける等、話しやすい雰囲気を中心掛け、授業に関するだけでなく、さまざまな相談にも応じて学生の大学生活のサポートを行なった。

人間社会学部／社会福祉学科・福祉コース	職名	助教	氏名	岡本 浩美
---------------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

私は本学の社会福祉学科・人間社会学研究科【修士（社会福祉）】を卒業し、障がいがある方のスポーツ支援や不登校・ひきこもりに関する支援や大学生のボランティア活動のコーディネートに携わってきました。これらの経験をもとに、「不登校・ひきこもり児童生徒に対する大学生ボランティアの有用性の検討」、「こども家庭福祉を進めるための社会資源や専門的支援の活用方法における課題」、「障がいがある方のスポーツ支援」をテーマに研究を深めたいと考えております。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 奥村 賢一・原田 直樹・河野 高志・寺田 千栄子・岡本 浩美（2024）「令和5年度 文部科学省委託調査 スクールソーシャルワーカーの常勤化に向けた調査研究」調査研究報告書.
- ・ 岡本 浩美・奥村 賢一・河野 高志・原田 直樹・寺田 千栄子（2025）「スクールソーシャルワーカーが行う不登校の未然防止活動に関する考察—全国調査の結果に基づく実態分析から—」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第33巻第2号

②その他最近の業績

<学会発表>

③過去の主要業績

- ・ 松浦賢長・原田直樹・小嶋秀幹, 増満誠, 梶原由紀子・大場綾沙美・岡本 浩美（2017）.
「子供の支援者を目指す援助力養成ボランティア・ラダーの開発～援助力養成プログラムの実質化の推進～」『平成 27-28 年度 研究奨励交付金研究成果報告書』, 14-15
- ・ 原田直樹・本郷秀和・小嶋秀幹・奥村賢一・小山憲一郎・増満誠・梶原由紀子・仲村彩・岡本 浩美（2017）「不登校支援プロセスにおいて, 学校が大学生ボランティアに求める役割と大学生の学びに関する調査研究」『平成 27-28 年度 研究奨励交付金研究成果報告書』, 24-25
- ・ 原田直樹・岡本浩美・大場綾沙美・長谷川智子・梶原由紀子・田原千晶・松浦賢長（2018）
「不登校児童生徒への児童生徒への効果的な支援方法を検討する追跡調査—大学生の関わりを中心に—」『平成 26 年度～平成 29 年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）不登校児童生徒への効果的な支援方法を検討する追跡調査—大学生の関わりを中心に—研究成果報告書』

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本社会福祉学会
日本保健福祉学会
九州思春期研究会
福岡県立大学社会福祉学会
日本看護福祉学会

6. 担当授業科目

ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・2単位・2年・通年
ソーシャルワーク実習指導Ⅱ・1単位・3年・通年
教養演習・1単位・1年・前期
ソーシャルワーク演習D・1単位・3年・後期

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

初級パラスポーツ指導員養成講習会（R7.2月）

9. 附属研究所の活動等

10. 今年度の自己評価

福祉コースとしての主な担当は、ソーシャルワーク実習に関することです。学生の皆さんへの事前・事後指導や実習中の巡回指導の内容を教材の工夫や先生方からのアドバイス、また実習施設との連携を深めることにより、昨年度より充実することができたと感じております。研究においても先生方から多くのご指導・アドバイスを受けて進めることができた一年でした。

人間社会学部／人間形成学科・心理コース	職名	助教	氏名	古賀なな子
---------------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

2018年3月九州大学大学院人間環境学府実践臨床心理学専攻修了（臨床心理修士（専門職））。

2021年3月同大学院人間環境学府臨床心理学指導・研究コース博士後期課程を単位取得退学。

2023年4月より福岡県立大学に着任いたしました。これまで主に臨床心理学、特別支援教育を中心に学び、臨床では精神科クリニック、小学校、放課後等デイサービス、就労継続支援A型事業所、大学附属の相談機関などで、臨床心理士・公認心理師として勤務してきました。“人が人と繋がって共により良く生きること”や“その人やコミュニティがもつ力を活かすこと”に関心をもち、人間性心理学といわれる分野を中心に学んでいます。研究では主に、人と接する場面に不安を感じやすい方が、どのような経緯で支援に繋がるのか、社会資源や人をどのように捉えているのかについて調査を行っています。また、すべての人が平等に尊重される共生社会の実現を目指し、多様な教育的・福祉的ニーズをもっている子ども達・ご家庭等への臨床心理学的支援について日々考えています（特別支援教育、社会的養育など）。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 並木崇浩・山根倫也・白崎愛里・新村信貴・古賀なな子・田中将司(2025) 人間性心理学と私たちのこれまでとこれから，人間性心理学研究，第43巻第2号，印刷中。
- ・ 古賀なな子(2024) 人間性心理学の立場からみたインクルーシブ教育をめぐる理念への一考察，福岡県立大学心理臨床研究，第16巻，27 - 34。
- ・ 新村信貴・古賀なな子(2023) ファミリー・グループにおける経年参加児の体験とその内在的な仕組みに関する一考察－日常の支えに焦点を当てて－，九州大学総合臨床心理研究，第15巻，49 - 55。
- ・ 古賀なな子(2022) 社交不安症者がセルフヘルプ・グループへ継続参加に至る心理的過程，人間性心理学研究，第39巻第2号，155 - 167。

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 若手が考える人間性心理学研究のあり方－これからの担い手が抱く危機感と展望－，日本心理臨床学会第42回大会（自主シンポジウム）

③過去の主要業績

- ・ 古賀なな子(2019) 社交不安傾向と学齢期の養育態度の認知に関する研究，九州大学総合臨床心理研究，第10巻
- ・ 田中将司・古賀なな子・新村信貴・森陽平・金子周平(2020) 臨床心理学におけるオンラインインタビューの方法論と倫理的配慮，九州大学総合臨床心理学研究，第12巻，91 - 96。
- ・ 古賀なな子(2021) 社交不安症者の人的資源に着目した臨床心理学的支援に関する文献研究，九州大学心理学研究，第23巻，45 - 52。

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本心理臨床学会, 日本人間性心理学会, 九州臨床心理学会, 日本特殊教育学会, 日本育療学会

6. 担当授業科目

学部

教養演習・1単位・1年・前期

福祉心理学・2単位・1年・後期

心理学研究法・2単位・2年・後期(分担)

大学院

臨床心理基礎実習 A・1単位・1年・前期(共同)

臨床心理基礎実習 B・1単位・1年・通年(共同)

臨床心理実習 I(心理実践実習 A)・10単位・1~2年・通年(共同)

心理実践実習 B・2単位・1~2年・通年(共同)

7. 社会貢献活動

一般社団法人 特別養子縁組家庭支援団体 **Origin** 理事

九州大学大学院人間環境学府附属総合臨床心理センター心理教育相談部門 面接指導員

日本人間性心理学会第44回大会準備副委員長

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

福岡県立大学大学院心理教育相談室 主任 兼 相談室委員

お父さんとお母さんの学習室(ペアレントトレーニング)

10. 今年度の自己評価

福祉心理学では、出来る限り双方向的なコミュニケーションが出来るよう工夫し、一人ひとりの関心ごとに寄り添うことで、主体的な学びの促進を試みた。

大学院教育では、主に大学院附属の心理教育相談室にて地域の方のご相談を受けながら、院生の各実習(相談員としての事例担当、相談室運営、カンファレンスなど)をサポートすることができた。

人間社会学部／総合人間社会コース	職名	助教	氏名	二見妙子
------------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

障害学研究を土台としたインクルーシブ教育（保育）研究に励んでいます。1970年代に日本各地およびイタリア国で展開された障害児教育運動がその後の障害児教育制度や社会文化に与えた影響に興味があります。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・ 1. 「インクルーシブ教育（保育）の内容や方法に関する一考察—イタリアボローニャ市 AEMOCON の思想と実践から」共著（金子珠世・二見妙子）査読有り『公教育計画研究 15』2024年6月25日 公教育計画学会編八月書館。
- ・ 2. 「豊中市の教職員の意見表明権獲得のプロセスに関する研究—学閥弱体化／管理職権威形骸化／職場の民主化／障害児教育等の推進」単著令和5年10月『戦後日本の教職員組合と社会・文化（その5）令和4-8年度日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究（A）一般冷戦体制下の日本における教育運動の構造と機能に関する研究第二次報告書研究課題 22H00082』。
- 3. 「Dialoghi sui processi inclusivi: il movimento educativo degli anni Settanta in Giappone, l'esperienza di Toyonaka（国際的な視点とモデル／インクルーシブ・プロセスに関する対話：日本における1970年代の教育運動、豊中の経験）（査読有り）」共著令和5年9月 L'integrazione scolastica e sociale,n3-2023 共著（二見妙子 アントネツムーラ、イラリア・タトゥッリ、アンティコ・ルイジ・ズルル）
- 4. 「Family association in Italy: between roots and perspectives for inclusion」（査読有り）共著（二見妙子 アントネツムーラ。イラリア・タトゥッリ。アンティコ・ルイジ・ズルル）令和5年9月『公教育計画研究 14』
- 5. 『卒業論文集 2021 年度』（編二見妙子、阿久根桃香、瀬本紗来、立花淳乃、的場芽生、三好穂高、保武ひかり 2022年3月1日、植木印刷）。
- 6. 『イタリアのインクルーシブ教育に関する調査報告 1—令和3年度～令和5年度日本学術振興会科学研究費補助金若手研究「イタリア1971年118号法制定のために教育運動が果たした役割（課題番号 21K13617）研究成果第1次報告書』単著(2022年3月31日植木印刷)。
- 7. 『卒業論文集 2022 年度』（編集二見妙子、藤本実桜、高島優奈、森淵優花、森賀那奈、角田綾夏、山田美央、2023年3月1日、植木印刷）。

② その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 「インクルーシブ教育・保育の内容や方法に関する一考察」2023年度 障害学研究会九州沖縄部会 沖縄研究集会 2024年3月6日（水）— 3月7日（木）なは市民協働プラザ 2F 会議室
- ・ 「旧特殊教育研究所におけるインクルーシブ教育研究」令和6年度附属研究所奨励交付金事業成果報告会 2025年3月3日（発表予定）。
- ・ 「旧特殊教育研究所におけるインクルーシブ教育研究—1970年代を中心に」2024年度障害学研究会九州沖縄部会 熊本研究集会 2025年3月22日 23日（発表予定）。

③過去の主要業績

- ・ 『インクルーシブ教育の源流—1970年代の豊中市における原学級保障運動』(単：現代書館;2017年4月15日出版)。
『共に生きる教育』の運動における条件整備論の陥穽」堀正嗣編『共生の障害学』(2012年：第6章、明石書店)。
「インクルーシブ教育運動の構造分析—1970年代の大阪府豊中市における原学級保障運動の分析と教育運動を活性化させる戦略の解明」(熊本学園大学大学院社会福祉学研究科提出博士論文 2016年1月)。

3. 外部研究資金

- ・ 科学研究費助成事業、若手研究、「イタリア 1971 年 118 号法制定のために教育運動が果たした役割」、4,420,000 円、2021 年～2023 年
- ・ 科学研究費助成事業基盤研究(A) 22H00082 (共：代表廣田照幸) 冷戦体制下の日本における教育労働運動の構造と機能に関する研究、41860000 円、2022 年～2027 年

4. 受賞

なし

5. 所属学会

障害学会、社会福祉学会、公教育計画学会、子どもアドボカシー学会(一般会員)

6. 担当授業科目

特別支援教育・2年・1単位・前期。
特別な支援を必要とする子どもの理解・2年3年・1単位・後期
障害児保育・2年・2単位・後期。
教養演習・1年・2単位・前期

7. 社会貢献活動

家庭的保育室「はぐくみ・こころ・めばえ」苦情処理第3者委員会評価委員。
障害児を普通学校へ全国連絡会会員。
田川郡香春町子ども食堂「キッチン小春ちゃん」実行委員。
社団法人子ども情報研究センター会員

8. 学外講義・講演

「インクルーシブ教育について考える—1970年代の大阪府豊中市における原学級保障運動」福岡県弁護士会インクルーシブ勉強会講演 2025年2月13日。
「障害者の権利に関する条約とインクルーシブ教育」第50回佐賀県算数数学研究大会講 2024年8月31日。

9. 附属研究所の活動等

奨励研究に応募し「旧特殊教育研究所におけるインクルーシブ教育研究」について調査活動と資料分析に取り組んだ。

10. 今年度の自己評価

自分自身の研究を国際的に発展させる必要を感じたため、科研および民間の国際研究助成に3回応募した。助成金獲得には至っていないが、研究計画を書くことで研究仲間が増え、新たな知見を得ることもできた。これらを基に学部の長期派遣プログラムに応募し採用された。この点が本年度の自己評価の中心である。

人間社会学部／公共社会学科・地域社会コース	職名	助手	氏名	佐藤繁美
-----------------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

- 大原孫三郎における地域社会構想の研究
- 石井十次、岡山孤児院における地域社会構想の研究
- 地域の権力構造の研究

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 佐野麻由子,佐藤繁美,藤澤健一「福岡県立大学中高教職課程における教育方法の改善 —「田川飛翔塾」への参加は学生をどのように変える」,『福岡県立大学人間社会学部紀要』,第 33 巻第 2 号,pp.137-149,2025 年 3 月.
- ・ 田代英美,佐藤繁美「児嶋虜一郎初代理事長時代の石井記念友愛社と地域社会」,『石井十次資料館研究紀要』,第 25 号,pp.230-282,2024 年 8 月.
- ・ 田代英美,佐藤繁美「児嶋虜一郎初代理事長時代の石井記念友愛社の海外支援事業とその歴史的背景」,『石井十次資料館研究紀要』,第 25 号,pp.283-322,2024 年 8 月.
- ・ 藤澤健一,石崎龍二,佐藤繁美「教育委員会との連携を通じた教育方法と情報通信技術にかかわる学生支援」,第 32 巻第 2 号,pp.97-104,2024 年 3 月.
- ・ 藤澤健一,石崎龍二,佐藤繁美「教育方法と情報通信技術にかかわる教員養成の取り組み —教職課程コアカリキュラムと本学における実践—」,『福岡県立大学人間社会学部紀要』,第 32 巻第 1 号,pp.109-118,2023 年 10 月.
- ・ 藤澤健一,石崎龍二,佐藤繁美「教育方法と情報通信技術にかかわる教員養成の取り組み —教職課程コアカリキュラムと本学における実践—」,『福岡県立大学人間社会学部紀要』,第 32 巻第 1 号,pp.109-118,2023 年 10 月.
- ・ 石崎龍二,佐藤繁美「福岡県立大学人間社会学部における統計演習の教育効果 (2022 年度)」,『福岡県立大学人間社会学部紀要』,第 31 巻第 2 号, pp.59-72,福岡県立大学,2023 年 3 月.

②その他最近の業績

<学会発表>

.

③過去の主要業績

.

3. 外部研究資金

- 科学研究費助成事業(基盤研究(C))31 年度～6 年度 交付金額 4,420 千円
- 研究課題、「自立的地域社会」の構想と事業展開
- 大原孫三郎・石井十次の理念の継承と再構成 — (研究代表者)

4. 受賞

5. 所属学会

日本社会学会、関西社会学会、日本社会分析学会

6. 担当授業科目

社会調査実習Ⅰ（補助） 2単位・2年・実習・前期

社会調査実習Ⅱ（補助） 2単位・2年・実習・後期

データ処理とデータ解析Ⅰ（補助） 1単位・3年・演習・前期

プログラミング概論（補助） 1単位・2年・演習・後期

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

10. 今年度の自己評価

- ・ 新教職課程認定申請書作成、R7年度開設の教職課程が文科省より認定。
- ・ 『福岡県立大学人間社会学部紀要』を電子ジャーナル化。
- ・ 一般社団法人社会調査協会、社会調査実習科目助成金の獲得。
- ・ 伊万里市大学生等フィールドワーク・イベント実施推進事業補助金の獲得。
- ・ その他特記事項なし

看護学部／看護学科	職名	教授	氏名	石田 智恵美
-----------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

九州大学大学院人間環境学府 発達・社会システム専攻 教育学コース 博士後期課程 単位取得退学。

学習者に存在するであろう知識構造を想定し、知識の構造化を促進するための教授方略の研究・開発を行っている。具体的には、講義・演習・実習をつなぐための方略を授業で実践し、「わかる授業」を目指した授業研究を実施している。また、看護学生の既存の素朴概念に着目し、誤った知識を組み換えるための方略について研究を行っている。卒後教育の一環として、臨床の看護師を対象とした研究指導や、認定看護管理者教育課程（セカンドレベル）の研修において、看護職者の知識の構造化の促進を目指している。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・
- ・
- ・

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 石田智恵美 中本亮 看護学生の素朴概念に関する研究 日本教育工学会 2024 年春季全国大会 2023 年 3 月 熊本大学
- ・

③過去の主要業績

- ・ 石田智恵美 久米弘 看護学生のための知識の構造化のための講義・演習・実習連携評価モデル 大学教育第 10 号 九州大学高等教育総合開発研究センター pp.77-97. 2004.
- ・ 石田智恵美 看護学実習における臨床指導者を含めた教材化と教師の役割 九州大学大学院教育学コース院生論文集 飛梅論集第 6 号 pp.23-48. 2006.
- ・ 石田智恵美 動的なプログラム学習による学習者の知識の構造化に関する研究－会話による知識構造推測型の発問生成ストラテジーの効果－ 教育学習心理学研究 第 3 巻 第 2 号 pp.37-53. 2007.

3. 外部研究資金

科学研究費助成事業 基盤研究 C 23K09862 素朴概念が看護の知識獲得に与える影響に関する研究 2023年～2025年

4. 受賞

5. 所属学会

日本教育工学会, 日本看護科学学会, 日本看護学教育学会, 日本教授学習心理学会, 日本赤十字看護学会

6. 担当授業科目

<学部>

国際看護論・1単位・2年・後期, 健康科学・2単位・2年・後期, 専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年, 看護研究・2単位・3年・前期, 看護教育学・1単位・3年・前期, 教師論・2単位・3年・前期, 看護管理論・1単位・4年・後期, 統合実習・2単位・4年・通年, 卒業研究・2単位・4年・通年

<大学院>

看護教育学特論・2単位・1年・前期, 看護教育学演習・2単位・1年・後期, 看護教育学・2単位・1年・後期, 基盤看護学特別研究・8単位・1～2年・通年, マネジメント助産学特論・2単位・2年・前期, コミュニティ助産学特論・1単位・1年・後期, 助産学課題研究・4単位・1～2年・通年

7. 社会貢献活動

- ・嘉麻赤十字病院 研究指導 5月～3月まで1回/月 及び, 院内研究発表会の講評
- ・地方独立行政法人川崎町立病院評価委員 2022年8月～2024年7月

8. 学外講義・講演

認定看護管理者教育課程 セカンドレベル講師 「ヘルスケアサービス管理論」, 「看護組織管理論」

9. 附属研究所の活動等

10. 今年度の自己評価

大学院の「看護教育学特論」で、看護学生の誤った知識を組み換えるための授業の組み立てと方略を示し、「看護教育学演習」では、特論で得た授業内容を踏まえ知識を組み換える模擬授業を学生が実施するという新たな試みを行った。お互いの模擬授業の後ディスカッションすることで、他者に理解してもらうための授業目標の絞り込みや、学習者が迷いやすい事柄を推測して授業に組み入れることなど、実感してもらう演習となった。これらの結果は、今年度実施している科研（基盤C）への示唆へとつながっている。

看護学部／看護学科	職名	教授	氏名	江上千代美
-----------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

親のレジリエンスを高めるための家族支援に関する介入研究および親の養育レジリエンス醸成の解明：親の養育レジリエンスの向上を目指す介入とそのメカニズムを明らかにする研究を行っています。また、子育てスタイル、ストレス（生体指標と質問紙）、子どもの行動等の関係性を明らかにすることも行っています。トリプル P (positive parenting program) という認知行動療法を用いて、トリプル P を学んだ親は「子育てが楽しくなった。」「子育てに自信がついた」、「もう一人子どもを産んでみようかな。」という感想がよく聞かれ、未来を担う健全な子どもの育成や少子化対策にもつながっています。トリプル P の名前にも反映しているように子どもをもつ全ての親が楽しく学ぶことで健全な家族づくり、ひいては健全な街づくりを目指すことができます。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- Egami, C., Tanaka, M., Shiota, N., & Yamashita, Y. (2025). Association between parenting resilience and parenting and family adjustment of mothers of children with autism spectrum disorder. *International Journal of Developmental Disabilities*, 1-11.
- 塩田昇, 江上千代美. (2024). 発達障がい児の親と定型発達児の親の 3 次元型睡眠尺度「位相」「質」「量」の比較. 福岡県立大学看護学研究紀要, 21, 27-34.
- 塩田昇, 廣瀬理絵, 松山美幸, 加藤法子, 藏元恵里子, 田中美智子, 江上千代美. (2022). 「陣痛促進剤による薬害被害者」の講演を聞いた学生は薬害防止に向け何を思い・感じたか. 福岡県立大学看護学研究紀要, 19, 77-87.

②その他最近の業績

<学会発表>

- 塩田昇, 江上千代美, 田中美智子. (2022). 発達障がいのある子どもの親へのトリプル P による支援がストレスに及ぼす影響. 第 42 日本看護科学学会学術集会. 広島 (Web)
- 江上千代美, 塩田昇, 田中美智子. (2022). 発達障がいのある子どもの母親の養育レジリエンスの違いとストレスへの影響-POMS、唾液コルチゾール-. 第 42 日本看護科学学会学術集会. 広島 (Web)
- 江上千代美, 塩田昇. (2022). 発達障がいの診断前の未就学児をもつ親の子育てレジリエンスと子育ての適応. 第 81 回日本公衆衛生学会. 山梨 (Web)
- 江上千代美, 塩田昇. (2023). 発達障がいの診断前の未就学児をもつ親の子育てレジリエンスと子育ての適応. 第 82 回日本公衆衛生学会. つくば(Web)
- 江上千代美. (2023). 新しい生活様式での子育て支援. 第 21 回日本看護技術学会学術集会 (熊本)
- 田中美智子, 江上千代美, 松山美幸, 野末明希, 津田智子, 有松操, 長坂猛(2023).働く更年期女性の睡眠と QOL の関係.第 21 回日本看護技術学会学術集会 (熊本)
- Tanaka M, Nagasaka M, Egami C, Matuyama M, Nozue A (2024).Effect of patterns of RR intervals during sleep onset on sleep parameters and subjective evaluation of sleep in perimenopausal women. 第 101 回日本生理学会 (北九州)

③過去の主要業績

- Egami C, Morita K, Ohya T, Ishii Y, Yamashita Y, Mastuishi T.(2009). Developmental characteristics of visual cognitive function during childhood according to exploratory eye movements. Brain & Development, vol.31(10).
- Egami C, Yamashita Y, Tada Y, Anai C, Mukasa A, Yuge K, Nagamitsu S, Matsuishi T.(2015).Developmental trajectories for attention and working memory in healthy Japanese school-aged children. Brain & Development vol.37(9).
- Okabe R, Okamura H, Egami C, Tada Y, Anai C, Mukasa A, Iemura A, Nagamitsu S, Furusho J, Matsuishi T, Yamashita Y.(2015). Increased cortisol awakening response after completing the summer treatment program in children with ADHD. Brain & Development39 vol.7

3. 外部研究資金

- 基盤研究 (C) 発達障害のある子どもの保護者が直面する負の連鎖を断ち切る-養育レジリエンスの醸成-, 令和6年度～令和9年度 (研究代表者: 江上千代美) 2,730千円
- 基盤研究 (C) QOL向上を目指した睡眠調節機構を基盤とした睡眠パターンの分類化と支援の構築
研究代表者 田中美智子 4,680千円 (研究分担者: 江上千代美)
- 基盤研究 (C) 親支援プログラム受講によって保護者は地域の子育て支援資源と積極的につながれるか, 令和4年度～令和7年度 研究代表者加藤則子 4,030千円 (研究分担者: 江上千代美)

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本看護学教育学会会員, 日本看護研究学会会員, 日本看護技術学会会員, 日本看護科学学会, 日本生理学会会員, 日本公衆衛生学会

6. 担当授業科目

<学部>

「生態機能看護学Ⅰ」(2単位・1年・前期)、「生態機能看護学Ⅱ」(2単位・1年・後期)、「生態機能看護学Ⅲ」(1単位・4年・後期)、「生態病態看護学実験」(1単位・2年・前期)、「病態看護学Ⅱ」(2単位・2年・前期)、「基礎看護学実習Ⅱ」(2単位・2年・前期)、「健康科学」(1単位・2年・後期)、「統合実習」(2単位・4年・通年)、「専門看護学ゼミ」(2単位・3年・通年)、「卒業研究」(2単位・4年・通年)

<大学院>

「実験看護学特論」(2単位・1～2年・前期)、「実験看護学演習」(2単位・1～2年・後期)、「看護研究法」(2単位・1年・前期)、「ウィメンズヘルスト論」(1単位・1年・前期)、「ウィメンズヘルス演習」(1単位・1年・前期)、「課題研究」(4単位・1～2年・通年)、「特別研究」(4単位・1～2年・通年)

7. 社会貢献活動

- 田川市政治倫理審査会
- 田川市指定管理者選定委員会

- ・ 飯塚市指定管理者選定委員会等

8. 学外講義・講演

- ・ 福岡県基本的生活習慣習得事業（小竹町、北九州市、田川市、中間市、久留米市）
- ・ あさくら前向き子育て応援事業

9. 附属研究所の活動等

- ・

10. 今年度の自己評価

生活者をイメージできるよう教材を駆使したリアリティのある授業を目指しています。今年度は学内にある教材等を十分に活用できていない面がありました。来年度はこれらを十分に活用したいと存じます。

看護学部／看護学科・保健師コース	職名	教授	氏名	尾形由起子
------------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

2004年広島大学大学院保健学研究科博士課程修了し、博士（保健学）を取得後、本学看護学部助教授として着任。2009年度より教授に就任。前職福岡県保健師であり、超高齢社会において地域住民が住み慣れた地域で療養生活を意思決定するための公衆衛生看護活動に関心をもち、現在もその検証を行っている。具体的には、地域住民自らが、終の棲家に対する意思決定できる支援方法の検討について地域の多職種と共に協働しケアシステム構築に関する研究を行っている。その研究を基にした実践活動としては、住み慣れた地域で独居になっても、安心して暮らし続けることができるための地域でのシステムづくりについての活動を展開している。2024年度より附属研究所長として、大学全体の研究推進に努めている。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・ 尾形由起子，社会・環境と健康 公衆衛生学 2023年度，柳川洋，尾島俊之編著，医歯薬出版株式会社，2025
尾形 由起子，「自分らしく生きる」を支える公衆衛生看護活動を考える，日本公衆衛生看護学会誌 13 (1) 2024
- ・ 中村美穂子，山下清香，小野順子，吉田麻美，大塚文，岩崎玲奈，尾形由起子，入院早期から退院調整を開始している退院調整実施者の特徴，福岡県立大学看護学紀要，21, 1-8, 2024
山下 清香，中谷 久恵，尾形 由起子，小野 順子，中山 貴美子，山口 のり子，地域保健活動への住民参加を促進する行政保健師の技術，地域看護学会誌 26(1)，2023
- ・ 平塚淳子，猪狩崇，中村美穂子，小野順子，吉川未桜，吉田麻美，田中美樹，山下清香，櫛直美，尾形由起子，A 県における訪問看護ステーションの BCP 策定における現状と課題，福岡県立大学看護学紀要，19 卷，2023
吉川未桜，吉田麻美，平塚淳子，中村美穂子，大場美緒，小野順子，猪狩崇，山下清香，田中美樹，櫛直美，尾形由起子，新型コロナウイルス感染拡大における訪問看護ステーションの困難と対応，18 卷，2022
田中美樹，吉川未桜，尾形由起子，櫛直美，吉田麻美，小児訪問看護における訪問看護師の困難感と同行訪問研修の試み，福岡県立大学看護学紀要，18 卷，2022
小野順子，山下清香，中村美穂子，中本亮，櫛直美，田中美樹，吉川未桜，吉田麻美，尾形由起子，A 県における訪問看護ステーションの災害対策現状と課題-災害時の在宅医療継続にむけて-，福岡県立大学看護学紀要，18 卷，2022

② その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 尾形由起子，小野順子，，中村美穂子，石崎龍二，生活習慣病重症化による CKD の地域格差とリスクの検討，第 83 回日本公衆衛生学会学術集会
- ・ 小野順子，尾形由起子，石崎龍二，山下清香，中村美穂子，畑香理，精神障がい者の地域包括ケアシステム構築に向けた GIS 活用した地域診断. 第 83 回日本公衆衛生学会学術集会
- ・ A study on clarify the relation with perceptions regarding home care decision-making until the end-of-life of community residents.end-of-life care, decision-making, community, support, attachment ,

Yukiko Ogata, Junko Ono, Kiyoka Yamashita , Sukimoto Yuriko, Rika Hiroki, 26th East Asian Forum of Nursing Scholars 2023

Disaster Countermeasures at Home-Visiting Nursing Service Stations for Maintaining Home Care, Junko Ono , Yukiko Ogata , Naomi Ichiki , Kiyoka Yamashita, 26th East Asian Forum of Nursing Scholars 2023

A study on the actual situation and issues of end-of-life care for home-visit nurses, Naomi Ichiki , Yukiko Ogata, Junko Ono, Kiyoka Yamashita, 26th East Asian Forum of Nursing Scholars 2023

③ 過去の主要業績

- ・ 尾形由起子, 社会・環境と健康 公衆衛生学 2017 年度, 柳川洋, 尾島俊之編著, 医歯薬出版株式会社, 2024
- ・ 尾形由起子, 岡田麻里, 榎直美, 野口忍, 他, 終末期がん療養者の満足な在宅看取りを行った配偶者の介護体験, 地域看護学会誌, 20(2),2017
- ・ 尾形由起子, 榎直美, 小野順子, 他, 終末期がん療養者の配偶者による在宅看取り実現のためのセルフマネジメントに対する支援方法の検討—多職種フォーカス・グループインタビューの結果より—福岡県立大学看護学紀要,14,2017

3. 外部研究資金

・ 科研 (C) 研究代表者「退職期にある住民主体の看取り・看取られ力量形成プログラム開発」

・ 科研 (C) 共同研究者「過疎地における認知症高齢者を支援する協同的ケアモデルの開発」

・ 科研 (C) 共同研究者「地理情報システムを活用した地域診断に基づく PDCA の実践に関する研究」

・ 科研 (C) 共同研究者「訪問看護師の多職種協働による地域看取りケアの振り返り地域支援プログラムの開発」

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本公衆衛生看護学会, 日本公衆衛生学会, 日本地域看護学会, 日本在宅ケア学会, 日本看護科学学会, 日本看護研究学会, 日本学校保健学会, 日本看護技術学会, 日本医療・病院管理学会

6. 担当授業科目

【学部】

公衆衛生看護学Ⅰ(2単位)2年後期, 家族看護論(1単位)2年前期, 公衆衛生看護アセスメント論Ⅰ(1単位)3年後期, 公衆衛生看護学Ⅱ(2単位)4年前期, 公衆衛生看護アセスメント論Ⅱ(2単位)4年前期, 公衆衛生看護技術論Ⅰ(2単位)4年前期, 公衆衛生看護技術論Ⅱ(2単位)4年前期, 公衆衛生看護学Ⅲ(1単位)4年後期, 公衆衛生管理論(2単位)4年生後期, 組織協働活動論(2単位)4年後期, 公衆衛生看護学実習Ⅰ(1単位)4年前期, 公衆衛生看護学実習Ⅱ(4単位)4年後期,

【研究科】

地域看護学特別研究(2単位)修士1年前期, 地域看護学特別演習(2単位)修士1年後期, 看護研究法(2単位)修士1年前期, 看護政策論(2単位)修士1年前期

7. 社会貢献活動

- ・福岡県地域在宅推進協議会委員（H20年度～現在に至る）
- ・田川市地域支え合い体制づくり検討委員会（平成26年度～現在に至る）
- ・香春町地域福祉計画策定委員（委員長）（平成27年度～現在に至る）
- ・みやこ町健康づくり推進委員会（委員長）（平成27年度～現在に至る）
- ・東峰村地域福祉計画及び東峰村地域福祉活動計画策定委員会（委員長）
- ・北九州市人権施策審議会委員（平成27年～現在に至る）
- ・日本公衆衛生看護学会 理事および査読委員
- ・日本地域看護学会 評議委員および査読委員
- ・日本在宅ケア学会 査読委員
- ・日本看護研究学会 評議員
- ・日本看護科学学会 代議員
- ・田川市立病院評価委員会 委員
- ・田川地区在宅医療・会議連携推進事業

8. 学外講義・講演

- ・ 第12回日本公衆衛生看護学会 会長講演
- ・ 〃 メインシンポジウムA 座長
- ・ 附属研究所公開講座「いのちをつなぐ～地域でのあたたかな看取りに向けて～」2024. 12.14
- ・ 高校生向け出前講義「地域人々に対する看護活動」：福岡県立筑紫高等学校

9. 附属研究所の活動等

附属研究所長として、研究推進部の活動を進めている。また、重点研究として「生活習慣病の重症化によるCKD（慢性腎臓病）の地域格差とリスクの検討 - 地域包括ケアシステム構築に向けたGISの活用 -」福岡県立大学・福岡県国民健康保険団体連合会共同研究事業を実施している。

10. 今年度の自己評価

研究は、附属研究所奨励研究の推進および実施に努めている。また、科研代表者としての研究の調査を実施している。管理期保健師と共に、卒後教育を企画・実施・評価し学会発表の準備を行った。さらに、社会貢献として科研の「退職期にある住民主体の看取り・看取られ力量形成プログラム開発」の一環として、地域住民への会話による終の棲家に対する意思決定を推進する活動を進めている。

看護学部／看護学科	職名	教授	氏名	田吹香子
-----------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護学部・人間社会学部共通英語授業、看護学部の英語授業、看護学研究科の「英語文献購読特論」を担当。学生がいる教室は「パワースポット」だと信じている猫好き英語教員（犬も鳥も、生き物全般好き）。主にアメリカ文学（ポストモダン文学）、英語文学、効果的な英語教育方法・英語教育と文学の関係を研究。学術修士。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・ 「学生のスピーキング活動の動機づけになるものは何か—音読活動から話す意欲獲得への移行について—」(2024) 『人と文化と言語 XV 号』(2024)
- ・ 「教養英語の授業の可能性についての考察—代名詞の解釈をめぐる学生の自発的好奇心—」『人と文化と言語 XIV 号』(2023)
- ・ 「戦争は『何の顔』をしているのか—*Northern Lights* における『女性の声』の役割を考える」日本英文学会九州支部第 75 回大会 アメリカ文学シンポジウム Proceeding (2022)

② その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 「学生のスピーキング活動の動機づけになるものは何か—音読活動から話す意欲獲得への移行について—」日本人類言語学会第 24 回学術大会 (2024)
- ・ 「教養英語の授業の可能性についての考察—代名詞の解釈をめぐる学生の自発的好奇心—」日本人類言語学会第 23 回学術大会 (2023)
- ・ アメリカ文学シンポジウム「戦争に周縁はあるのか」「戦争は『何の顔』をしているのか—*Northern Lights* における『女性の声』の役割を考える」日本英文学会九州支部第 75 回大会 アメリカ文学シンポジウム (2022)

② 過去の主要業績

- ・ 「潰えゆく兵士の夢—『カチアートを追跡して』に見られる対抗文化的意識の挑戦と失敗」『九州英文学研究』第 27 号
- ・ 「語りの闇を超えて—*The Things They Carried* における語り手の苦悩と希望」『九州アメリカ文学』No. 51
- ・ 「権力の生産・管理構造の外へ—*The Nuclear Age* (1985) における抵抗者たち」『九州アメリカ文学』No. 50

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本英文学会、日本英文学会九州支部、日本アメリカ文学会、日本アメリカ文学会九州支部（監査）、日本人類言語学会(理事、事務局長、学術大会実行委員長)

6. 担当授業科目

リーディング・ライティング 初級 (1) ・1 単位 ・1 年 ・前期、スピーキング・リスニング 初級(1) ・1 単位 ・1 年 ・前期、総合英語 中級 (1) (B クラス、D クラス) ・1 単位 ・2 年 ・前期、リーディングⅢ ・1 単位 ・4 年 ・前期、リーディングⅢ ・1 単位 ・4 年 ・前期、リーディング・ライティング初級 (2) ・1 単位 ・1 年 ・後期、スピーキング・リスニング 初級 (2) ・1 単位 ・1 年 ・後期、総合英語 中級 (2) (B クラス、D クラス) ・1 単位 ・2 年 ・後期、英語文献講読特論 ・2 単位 ・大学院 1 年 ・前期

7. 社会貢献活動

- ・日本人類言語学会 理事・事務局長・学術大会実行委員長
- ・日本アメリカ文学会九州支部 監査

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

10. 今年度の自己評価

学部の英語の授業はさらに「進化」させる必要がありますが、学生のやる気やパワーに助けられ充実したものになりました。大学院の英語文献購読特論は、自身は英語の構造や内容は分かるけれど看護の分野には疎いので、院生の経験と高度な知識を「足して」ディスカッションをしながら専門的な論文のアブストラクトを多数読解することができ、エキサイティングでした。「もう少し」なのは研究です。英語教育だけでなく、頭の中にある文学の研究アイデアを形にしていきたいです。

看護学部／看護学科・看護コース	職名	教授	氏名	永嶋由理子
-----------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

平成 18 年久留米大学大学院心理学研究科（博士課程）人間行動学専攻単位取得満期退学。
 主な研究として、看護技術の熟達化を解明するために認知心理学を援用した実証研究に取り組んでいる。この研究は、平成 16 年度～平成 17 年度の科研(基盤研究(C))に採択されたが、引き続き平成 18 年度～平成 20 年度科研(基盤研究(C))においても採択されたことで、継続的に調査及び実験研究を進めてきた。関連研究で平成 23 年度～平成 25 年度科研(基盤研究(C))が採択されたことで、平成 24 年度は研究計画に沿って、看護技術の熟達化を思考の視点から客観的に解明するため、光イメージング脳機能測定装置を使用しプレ実験を行った。プレ実験を受け平成 25 年度は本実験を実施し、一部興味深い結果を得ることができた。平成 26 年度、新たに科研(平成 26 年度～平成 29 年度挑戦的萌芽研究)が採択され、引き続きメインテーマとしている看護技術の熟達化検証に取り組んだ結果、アイマークレコーダー装着での実験で視線の合理性(熟達に伴い無駄な視線の動きが減少する)が一部捉えられた。令和 1 年度に採択された科研(令和 1 年度～令和 5 年度基盤研究 C)においても、関連研究を引き続き実施し、実験の精度を高めつつ、科学的及び心理学的見地から研究に取り組んでいく予定である。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 佐多愛子,永嶋由理子. CDE 看護師の糖尿病療養指導スキルの実態とその検討,第 27 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会,大阪国際会議場,2022.
- ・ 鹿嶋聡子,永嶋由理子.看護系大学生のレジリエンスと達成動機の関連性の検討,第 42 回日本看護化学学会学術集会,広島国際会議場,2022.
- ・

② 過去の主要業績

- ・ 永嶋由理子,特集 意欲と主体性を育てる 実習計画・指導・記録評価のポイント,患者アセスメントと看護過程に関する評価のポイント. 看護人材育成, 8・9月号, p50-55, 2015.
- ・ 永嶋由理子,看護技術の熟達化における思考過程深化の解明,久留米大学大学院心理学研究科中間論文,P1-59,2006.
- ・ 永嶋由理子,山川裕子,血圧測定技術を構成する下位スキルの検討. 福岡県立大学看護学部紀要, 2(2),p1-8,2005.

3. 外部研究資金

科学研究費助成事業（基盤研究C），「看護技術の熟達形成に関わる促進要因の検討」，4万，研究代表，2019～2024年度.

4. 受賞

5. 所属学会

日本看護学会，日本看護科学学会，本看護研究学会，日本看護学教育学会，日本教育心理学会，日本協同教育学会

6. 担当授業科目

学部：基礎看護学概論・2単位・1年次・前期，基礎看護学実習I・1単位・1年次・前期，看護過程・1単位・2年次・前期，基礎看護学実習II・2単位・2年次・前期，専門看護学ゼミ・2単位・3年次・通年，卒業研究2単位・4年次・通年

大学院：看護理論・2単位・1年次・前期，看護心理学特論・1年次・選択，看護心理学演習・1年次・後期，課題研究・4単位・1～2年次・通年，基盤看護学特別研究・8単位・1～2年次・通年

7. 社会貢献活動

田川市住宅政策審議会委員

8. 学外講義・講演

福岡県看護教員養成指導者講習会講師，「看護論」の講義，2024年5月～6月

福岡県立大学看護実践教育センター特定行為研修講師，「臨床推論と看護診断」の講義2024年4月，8月.

9. 附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	教授	氏名	波止千恵
-----------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護師として、脳外科、外科病棟、循環器病棟での臨床経験後教員となり、その後3年間在宅介護支援センターの管理者として地域福祉、高齢者福祉に携わる。

熊本大学大学院 保健学教育部保健学専攻博士後期課程単位取得後退学

主な研究分野は訪問看護師の実践能力向上に関する研究

在宅酸素療法が必要な慢性閉塞性肺疾患（Chronic Obstructive Pulmonary Disease :COPD）患者が急性増悪を起こさず在宅療養を継続するための訪問看護の効果について研究しています。訪問する看護師の方が呼吸器疾患の療養者や家族の方に質の高い看護が提供できるための支援を目指しています。

2022（令和4）年度の看護基礎教育カリキュラム改正で、在宅看護論が「地域・在宅看護論」と名称変更されました。本学では1年次から段階的に「地域・在宅看護実習」を行い、看護師が病院だけでなく、地域の多様な場で活動し地域で暮らす人々の健康と暮らしを守る看護師の役割や活動について学び実践できることを目指しています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・
- ・
- ・

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ A study of the nutritional status of older people living in hilly and mountainous areas and attending exercise classes.
Junko hiratsuka, Takashi igari, Chie namitomi. The 16 th EAFONS 2023.Tokyo.
- ・
- ・

③過去の主要業績

- ・ 波止千恵,前田ひとみ（2020）. 在宅酸素療法を行っている COPD 患者の外来看護介入の効果 個別指導と訪問指導の比較, 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌,29（2） p 276-281.
- ・ 山崎律子、波止千恵、他（2017）. 医療機器を使用した在宅看護論演習の成果～酸素濃縮器と人工呼吸器を使用した体験型演習での学びを通して～純真学園大学雑誌号 7号 p55－62
- ・ 長弘千恵、前野有佳里、波止千恵、Bevan宏美（2010）. 日本介護保険の現状と課題-介護予防の視点から-, Korean Journal of Research in Gerontology（韓国老年学研究）、vol19、37-50.

3. 外部研究資金

- ・(研究代表者) 基盤研究 (C) COPD 患者のセルフマネジメント教育支援のための訪問看護プロトコール開発 交付金額：247 万 令和5年～令和7年度

4. 受賞

5. 所属学会

日本看護科学学会会員、日本看護研究学会会員、日本呼吸ケア・リハビリテーション学会会員、日本地域看護学会会員、日本看護学教育学会会員

6. 担当授業科目

(学部)

暮らしを知る実習：1単位・1年・後期、暮らしと保健福祉・看護：2単位・1年・後期、チーム医療論：1単位・1年・後期、家族看護学：1単位・2年・前期、地域・在宅看護論：2単位・2年・後期、暮らしの中の看護を知る実習：1単位・2年・前期、地域・在宅看護論演習：2単位・3年通年、在宅看護支援実習：3年次後期2単位、専門看護学ゼミ：2単位・3年次通年、卒業研究：2単位、4年次通年

(大学院)

在宅看護学特論、在宅看護学演習

7. 社会貢献活動

- ・田川市地域包括ケアシステム推進協議会専門部会部会員 医療・介護・住まい部会
- ・田川市地域包括ケアシステム推進協議会専門部会部会員 認知症支援部会
- ・ケアカフェ田川 (在宅医療多職種研修会：田川市と共同開催)：年間3回

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

10. 今年度の自己評価

・2022(令和4)年度の看護基礎教育カリキュラム改正で、地域の多様な場で活動し地域で暮らす人々の健康と暮らしを守る看護師の役割や活動を学ぶため新カリキュラムで1年次から4年次と毎年段階的に実習を行ない、暮らしの中の看護職の役割や地域包括ケアシステムでの多職種連携・協働について理解できるように実習内容の構築や実習施設との調整を行った。実習を経て学生は病気を持った人ではなく生活者として対象を捉えることができるよう変化している。

看護学部／看護学科・看護師コース	職名	教授	氏名	福田和美
------------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護師として集中治療室、外科病棟、呼吸器内科病棟での臨床経験のあと、佐賀大学大学院医学研究科看護学専攻（看護学修士）に進学し、手術を受けた乳がん患者の看護を行う看護師の共感に関する研究を行った。その後大学教員になり、九州大学大学院医学系学府保健学専攻に進学し、術後せん妄患者の家族への看護に関する研究を行い、博士課程を修了した（看護学博士）。現在は、術後せん妄の予防的ケアも含めたうえでの患者や家族の看護に関する研究を継続して行っている。また、成人看護学におけるシミュレーション教育に関する研究も行っている。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・ 福田和美、中尾久子：術後せん妄リスクの高い高齢者の家族と看護に関する文献検討，福岡県立大学看護学研究紀要，第22巻，p25-33.
- ・ 村田和子、福田和美：成人看護学演習におけるOSCEの現状と課題，福岡県立大学看護学研究紀要，第21巻，p17-25, 2024.
- ・ 高木美歩、福田和美：精神科訪問看護利用者が希望を語ることにつながった看護師の関り，日本地域看護学会誌，26巻1号，p84-91,2023.
- ・ 福田和美、中尾久子、村田和子：術後早期の看護ケアを行う看護師による家族に対する情報共有に関連したケア，The Journal of Nursing Investigation，第20巻1号，p33-43, 2022.

② その他最近の業績

<学会発表>

- ・ Kazumi Fukuda, Kazuko Murata, Hisako Nakao: Actual conditions of patient family participation in postoperative delirium care before and after COVID-19. 15th International Nursing Conference & 28th East Asian Forum of Nursing Scholars, 2025.
- ・ Kazuko Murata, Kazumi Fukuda, Hisako Nakao: Awareness of nurses on patient family participation in postoperative delirium care. 15th International Nursing Conference & 28th East Asian Forum of Nursing Scholars, 2025.
- ・ Keiko Yamaguchi, Kazumi Fukuda: Comparison of the motivations to learn by nursing students using different learning methods in the observation of postoperative patients. 15th International Nursing Conference & 28th East Asian Forum of Nursing Scholars, 2025.
- ・ 山口馨子，福田和美：看護場面における眼球運動計測機器を用いた観察に関する文献検討．第48回日本看護研究学会学術集会（愛媛：オンライン），2022.

③ 過去の主要業績

- ・ 福田和美，中尾久子：術後せん妄を発症した高齢患者の家族の体験，The Journal of Nursing Investigation,第13巻1,2号，p20-27,2015.
- ・ 渡邊美保，福田和美：がん患者を対象とした全人的苦痛に対するタクティールケアの効果，日本看護医療学会雑誌，第16巻2号，p40-48, 2014.
- ・ Kazumi Fukuda, Hisako Nkao : Effects of post-operative delirium of patients on family members

and their response, The Journal of Nursing Investigation, 第 11 卷 (1, 2 号), p 1-13, 2013.

3. 外部研究資金

- ・ 科学研究費助成事業 (基金分) 基盤研究 (C) 令和 2 年～6 年, 交付金額 3,120 千円, 研究課題: 情報提供を基盤とした術後せん妄に対する看護師と家族の協働的ケアプログラムの開発 (研究代表者)
- ・ 科学研究費助成事業 (基金分) 基盤研究 (C) 令和 6 年～9 年, 交付金額 3,250 千円, 研究課題: 虐待防止を目指し介護職員の心理的安全性を高めるプログラムの構築 (研究分担者)

4. 受賞

5. 所属学会

日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本クリティカルケア学会、日本がん看護学会、日本看護医療学会、日本老年看護学会、Sigma Theta Tau International、日本地域看護学会

6. 担当授業科目

<学部>

人間のライフステージと看護・1 単位・1 年・後期、健康レベルと看護・1 単位・1 年・後期、看護倫理学・1 単位・2 年・前期、成人老年看護学Ⅰ (急性期)・2 単位・2 年・後期、成人老年看護学Ⅱ (慢性期)、成人老年看護学Ⅲ (終末期)・2 単位・2 年・後期、セルフケア支援演習・1 単位・3 年・前期、クリティカルケア・周術期看護演習・1 単位・3 年・前期、成人老年急性期看護学実習・3 単位・3 年後期、成人老年慢性期看護学実習・3 単位・3 年後期、専門看護学ゼミ・2 単位・3 年・通年、看護研究・2 単位・2 年後期、卒業研究・2 単位・4 年生・通年

<大学院>

成人看護学特論・2 単位・1 年前期、成人看護学演習・2 単位・1 年後期、看護研究法・2 単位・1 年前期、ウイメンズヘルズ特論・1 単位・1 年前期、ウイメンズヘルズ演習・1 単位・1 年後期、臨床看護学特別研究・1～2 年・8 単位・通年、課題研究・1～2 年・4 単位・通年

7. 社会貢献活動

- ・ 福岡県看護協会 看護研究倫理審査委員会 委員長
- ・ 日本看護協会 第 55 回日本看護学会学術集会 抄録選考委員
- ・ 済生会福岡総合病院 特定行為研修管理委員会 外部委員

8. 学外講義・講演

- ・ 飯塚市立病院 看護過程研修会 講師
- ・ 飯塚市立病院 接遇研修会 講師

9. 附属研究所の活動等

10. 今年度の自己評価

研究に関しては、今までの研究成果を国際学会で発表することができた。また、研究テーマに関連した文献検討を行い論文化することができた。教育に関しては、新カリキュラムの科目が増え、授業内容の検討に苦慮したが、新カリキュラムのコンセプトに応じた授業ができた。社会活動に関しては、継続して看護現場や看護教育に貢献できる活動ができた。引き続き、研究、教育、社会貢献のバランスを取りながら、活動していきたい。

看護学部看護学科	職名	教授	氏名	松浦賢長
----------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

母子保健学者，思春期保健学者，性教育学者。保健学博士（東京大学）

東京大学を卒業後，同大学院に進学し，東京大学医学系研究科博士課程を修了（保健学博士）。日本総合愛育研究所母子保健研究部に研究員として勤務後，カリフォルニア大学バークレー校公衆衛生学部母子保健学教室に研究助手として勤務。帰国後，京都教育大学教育学部にて衛生学（学部）および学校保健学（大学院）を担当する助教授として教員養成に10年間携わる。再度，カリフォルニア大学バークレー校公衆衛生学部人口・家族計画学教室（マルコム・ポッツ教授）に助手として勤務し，平成15年度から本学看護学部開設と同時に地域看護学講座教授として着任した。その後，学部改組によりヘルスプロモーション看護学系学校保健領域（養護教諭養成課程を含む）教授を経て，看護学部教授。また，本学の附属図書館長を平成20年度から21年度まで兼務。平成22年度～23年度には，本学の4つのセンターを有する附属研究所長を兼務。平成24年度，不登校・ひきこもりサポートセンター長。平成25年度から，教員兼務理事を務める。

母子保健学：全国学会レベルでは，日本小児保健学会が10年に一度行う幼児健康度調査（令和3年度）の委員長を務めた。国レベルでは，わが国の母子保健（健やか親子21）については，第1回中間評価時（2005年），第2回中間評価時（2009年），最終評価時（2014年）に評価研究メンバーとして九州から只一人参画し，健やか親子21（第2次）策定に係った。また，長年にわたり厚生労働科学研究（山縣然太郎班）のメンバーとして政策研究を遂行してきている。わが国の産後うつ病の頻度の把握をはじめとして，研究成果が厚生労働行政政策に反映されている。また，わが国の乳幼児健診の標準化についてグランドデザインから関わり（山崎嘉久班），わが国で初めての全国標準問診項目の開発を担当した。現在は，成育医療基本法に基づく成育医療等基本方針の指標モニタリング研究に関わっている（山縣班）。また，思春期健診に向けた研究班に従事している（永光班）。県レベルにおいては，福岡県の乳幼児健診マニュアルの開発委員長を務めた。現在は，福岡県教育委員，福岡県性暴力対策会議座長，福岡市こども子育て審議会委員長，北九州市思春期保健連絡会会長などを拝命している。平成25年度（12月1日）には，第26回日本保健福祉学会学術集会を主催。本学を保健福祉学の拠点とするべく業績を発信中である。平成30年度健やか親子21全国大会（津市）にて，厚生労働大臣表彰を受けた。

思春期学：学会レベルでは，日本思春期学会（会員数約2,000名）の理事長および性の健康医学財団の幹事を務める傍ら，九州思春期研究会の会長として，山積する思春期の課題に取り組んでいる。国レベルでは，健やか親子21の指標の見直しを担当し，厚生労働省と文部科学省の協力のもと，慎重な性行動を予測する指標の開発を行い，国の施策に反映させた。また，思春期やせ症予防のためのマニュアル（全国版）を開発・出版した。日本版 **Bright Futures** 作成を目標とする研究班に分担研究者として従事した（岡班、永光班）。また，平成20年度からは文部科学省「質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）」に不登校の子どもたちへの援助力を養成するためのプログラムが採択され，推進責任者としてプログラムを実行した（～平成22年度）。県レベルでは，福岡県エイズ・性感染症対策委員を拝命し，また，北九州市の性感染症対策のための大規模調査（2007年）、久留米市の思春期問題調査（2014年）を担当した。平成23年度（8月26日～28日）には，第30回日本思春期学会

学術集会を主催した。

性教育学：学会レベルでは、いまだ学問として発展途上にあることから、性教育学を確立するべく、全国の若手研究者とともに性教育学構築フォーラムを主催し、わが国で初めてとなる性教育学の書籍を出版した。また、日本思春期学会（現在、理事長）の性教育認定講師養成プログラムの委員長を務めている。国レベルでは、カプラン・マイヤー法を初めて用いた日本人の性行動の分析をおこない、厚生労働省人口問題研究所等から評価を受けた。また、新しい学校性教育のスタイルである「カフェテリア方式」を開発し、全国に導入されている。現在は全国の若手研究者とともに「思いやり」と「共感」の違いに着目しつつ、脳科学・進化心理学の成果を利用し、性教育学モデルを組み立てている。県レベルでは、福岡県教育委員会の性教育関連事業の委員長等を務めている。現在は特別支援学校の性教育（性暴力被害防止教育）に取り組む。2026年11月には日本学校保健学会学術大会を福岡市にて主宰する。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・ Shin T., Matsuura K.: A perspective on the declining birthrate in Japan. *J Kyushu Society of Adolescentology*, 1: 22-26, 2024.
- ・ 安藤朗子, 原田直樹, 近藤洋子, 加藤則子, 堤ちはる, 阿部百合子, 大屋晴子, 松浦賢長. 乳幼児の発達とそれに関連する社会的要因の検討. *日本児童学会：児童研究 VOL.102* 14-23, 2023.
- ・ 松浦賢長. 思春期学を学問とするために. *思春期学*, 2023 ; VOL.41 NO1:73-74

3. 外部研究資金

- ・ こども家庭行政推進調査事業費補助金 成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業「成育医療等基本方針に基づいた指標・施策の中間評価、およびモニタリングに関する研究」班：30万円、（主任研究者：国立成育医療研究センター 山縣然太郎）. 分担研究者.
- ・ こども家庭科学研究費補助金 成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業「こどもの健やかな成長・発達のためのバイオサイコソシヤルの観点（身体的・精神的・社会的な観点からの切れ目のない支援の推進のための研究」班：50万円、（主任研究者：福岡大学永光信一郎教授）. 分担研究者.
- ・ 福岡県教育委員会不登校児童生徒等の早期発見・早期支援事業教育支援センターの総合的拠点機能形成に向けた調査研究事業：筑前町・小竹町・糸田町・福智町. 1,000万円. 責任者.

5. 所属学会

日本思春期学会（理事長）、日本学校保健学会（九州沖縄地区代表理事）、日本保健福祉学会（理事）、日本健康学会、日本看護科学学会、日本災害看護学会、日本公衆衛生学会、日本小児保健協会（幼児健康度調査委員長 R6 まで）、日本母性衛生学会、日本健康教育学会、日本民族衛生学会、日本性感染症学会、日本性科学会、九州学校保健学会（評議員）、東海学校保健学会、九州思春期研究会

6. 担当授業科目

<学部>

公衆衛生学、保健統計学、学校保健学、性教育学、教育方法論、健康教育論、養護実習（教育実習）、養護実習事前事後指導、教職実践演習、不登校ひきこもり援助論、子供学習支援論、教育と社会・地

域，看護倫理学

<大学院>

看護研究法，ヘルスプロモーション科学，ヘルスプロモーション看護学特別研究，思春期ヘルスプロモーション特論／同演習

10. 今年度の自己評価

不登校の大型研究事業を受託し、不登校（長期欠席）減少のノウハウをモデル化した。早期アプローチであるが、これは6月時点で不登校を予測して対応していくというモデルである。個別対応に加え、学校全体の取組の両親により、不登校減少が困難と言われた中学校において不登校数の減少を導くことができた。また、小学校低学年の不登校減少についてもノウハウをモデル化した。今後はこれらのノウハウを各地域の学校に導入していく予定である。

看護学部／看護学科	職名	教授	氏名	村方多鶴子
-----------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護師として大学病院で勤務後、教育の分野（高等学校衛生看護科・専攻科、医療技術短大、看護学部など）で長年働いてきました。その後、精神科を専門とする訪問看護ステーションにて看護師として勤務後、再び教育・研究の場に戻り、令和3年度に本学に着任しました。

研究分野としては、精神障害をもつ母親の子育てに関する研究などを行っていましたが、訪問看護ステーション勤務後は主に、精神科訪問看護ステーションにおける新任スタッフ育成に関する研究を行っています。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・
- ・

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・ 村方 多鶴子(2022):精神障害者を対象とした訪問看護を行う新任スタッフの成長プロセス、第12回日本在宅看護学会学術集会（Web開催）.
- ・ 村方多鶴子（2022）：精神障害者を対象とした訪問看護を行う新任スタッフ育成プログラムの開発ー管理者が新任スタッフに行っているサポートー、第42回日本看護科学学会学術集会（Web開催）.
- ・ 満島 杏子、加藤 法子、村方 多鶴子、永嶋 由理子（2024）：中小規模病院で働く看護職の職業的アイデンティティに達成動機、ワーク・エンゲイジメントが及ぼす影響

② 過去の主要業績

- ・
- ・
- ・

3. 外部研究資金

2024年度 基盤研究(C)（一般）、交付金額1,600千円、研究課題：新任訪問看護師育成プログラムの開発 ～精神科訪問看護に特化したプログラム～（研究代表者）

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本看護研究学会、日本看護科学学会、日本精神保健看護学会、日本社会精神医学会、
日本精神障害者リハビリテーション学会、日本在宅看護学会

6. 担当授業科目

〈学部〉看護倫理学・1単位・2年・前期、精神看護学・2単位・2年・後期、精神看護学演習・2
単位・3年・前期、地域・在宅看護論演習・2単位・3年・前期、精神看護学実習・2単位・3年
後期、卒業研究・2単位・4年・通年

〈大学院〉

課題研究・4単位・1年・通年、課題研究・4単位・2年・通年、特別研究・8単位・1年・通年

7. 社会貢献活動

福岡県覚醒剤・麻薬禍対策協議会委員

8. 学外講義・講演

- ・全国訪問看護事業協会：精神科訪問看護研修会ファシリテーター
- ・出前講義：県立京都高校
- ・進路相談会：北筑高校
- ・大学説明会：自由が丘高校
- ・福岡県消防学校：消防職員専攻教育救急科講義：精神障がい

9. 附属研究所の活動等

なし

10. 今年度の自己評価

科研費を獲得したが、予定のインタビューを行うに至らず、研究が進んでいない。次年度は計画的に
研究を行い、学会発表を行う。

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	芋川 浩
-----------	----	-----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

大阪大学 大学院・医学研究科を修了後(医科学修士)、名古屋大学 大学院理学研究科博士後期課程に進学・修了した(理学博士)。その後、岡崎国立共同研究機構・基礎生物学研究所にて日本学術振興会・特別研究員(PhD)、科学技術振興機構(JST) ERATO 吉里再生機構プロジェクト・グループリーダー、英国 University College London (UCL) 上級研究員、RIKEN 発生再生総合科学研究センター上級研究員を経て、2005年本学に着任。

現在、再生医療に関する研究を、脊椎動物で唯一手足などを再生できるイモリや、再生の王様であるプラナリアなどを用いて解析を進めている。

ヒトなどは、手足や臓器・器官を失うと、再生させることはできないが、イモリという有尾両生類は、手足や水晶体、網膜などを失っても、完全にもとに再生することができる。近年のめざましい生命科学の進歩により、四肢形成に関わる主要な遺伝子群もわかっており、実は、手足をもつ脊椎動物は、全く同じ遺伝子群を利用して手足を形成していることが分かっている。では、同じ遺伝子群を持っているのに、なぜイモリは再生できて、ヒトは再生できないのか？その難問を解明しようと研究を進めている。

ノーベル賞に輝いた iPS 細胞を使ってさえも 3次元の機能的な臓器・器官の形成に世界でまだ誰も成功していない。このような夢の再生医療の実現を再生の王様であるプラナリアやイモリから理解したいと考え、世界で2例目となる「イモリの培養細胞株」の樹立に成功した。これは、日本初のイモリ培養細胞株の樹立である。このイモリの細胞株を使って、現在試験管内での3次元組織構築、オルガノイド作成に挑んでいる。

また、医療に使える殺菌抗菌効果の解析も進めており、ヨーグルトやニンニク、長ネギ、わさび、ポッカレモンなどで興味深い結果も得て、科学研究費・基盤研究Cで再生医療以外の研究も進め、興味深い結果を得ている。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・ 芋川 浩 (単著)『ライフサイエンス 生命の神秘』木星舎, p1-143, 2022年(改訂)
- ・ 芋川浩, 赤星優梨子. ハチミツの殺菌抗菌効果の解析その2. 福岡県立大学看護学研究紀要 印刷中
- ・ 芋川浩, 岡本七海. カボスの殺菌・抗菌効果の解析. 福岡県立大学看護学研究紀要 21: 9-16, 2024
- ・ 芋川浩, 上鶴紗也. レモンとポッカレモンの殺菌・抗菌効果の比較解析. 福岡県立大学看護学研究紀要 20: 1-8, 2023
- ・ 芋川浩, 山井ゆり. ドクダミの殺菌・抗菌効果の解析 -揮発性成分の有効性-. 福岡県立大学看護学研究紀要 19: 25-33, 2022

② その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 芋川 浩. ハチミツの殺菌抗菌効果の解析 その2.
第50回日本看護研究学会 学術集会 奈良市 2024.
- ・ 芋川 浩. 柑橘類の殺菌抗菌効果の解析.
第49回日本看護研究学会 学術集会 仮想空間オンライン開催 2023.
- ・ 芋川 浩. レモンとポッカレモンの殺菌・抗菌効果の比較解析.
第48回日本看護研究学会 学術集会 松山市(対面・オンライン同時開催) 2022.

② 過去の主要業績

- Y. Imokawa & K. Yoshizato.
Expression of Sonic Hedgehog Gene in Newt Regenerating Limb Blastemas Recapitulates That in Developing Limb Buds.
Proc. Natl. Acad. Sci. USA 94, 9159-9164 (1997).
- Y. Imokawa, J. P. Brockes.
Selective Activation of Thrombin Is a Critical Determinant for Vertebrate Lens Regeneration.
Current Biology, 13, 877–881 (2003)
- 芋川 浩.
『皮膚創傷部治癒用組成物及び同皮膚創傷部治癒用組成物の製造方法』
日本国特許庁・特許公報(B2) p1-20, 2016年

3. 外部研究資金

芋川 浩 (単独研究) 科学研究費補助金 基盤研究(C)
「大災害時で使える新しい殺菌消毒法の開発」
課題番号 23K10320, 356.5 万円, 2023～2025 年度

4. 受賞

5. 所属学会

日本発生生物学会、日本分子生物学会、日本動物学会、日本看護研究学会

6. 担当授業科目

生物学・2単位・1年・前期、教養演習・2単位・1年・前期、遺伝学・2単位・1年・後期、看護
生化学・2単位・1年・後期、化学・2単位・1年・後期、生態病態看護学実験 A・2単位・2年生・
前期、生態病態看護学実験 B・2単位・2年生・前期、グローバル社会論・2単位・2年生、専門看
護学ゼミ・2単位・3年・通年、卒業研究・2単位・4年・通年、日本事情 A(日本科学事情 I&II)・
2単位・交換留学生・後期

7. 社会貢献活動

- ①宗像市・福津市による青少年育成事業の委員として、
海とマリンスポーツに親しむ推進事業を小中学生等に指導・教育している
- ②西南学院大学・非常勤講師 (科目名：生命科学 A(7), 生命科学 A(8), 生命科学 B(7),
生命科学 B(8))
- ③聖マリア学院大学・非常勤講師 (科目名：生物学)
- ④麻生看護大学校・非常勤講師 (科目名：異文化の理解と交流)

8. 学外講義・講演

- ① 2025年9月10日 熊本城ホール 入試説明会

9. 附属研究所の活動等

- ・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

10. 今年度の自己評価

受講者数の非常に多い「生物学」などにおいても、Moodle(e-learning)を用いた事前・事後学習および、オンラインでの小テスト等を工夫することで、学修内容の向上や能動的学習の充実につながったと考えている。今後も、大人数での講義でも学習効果をあげられるようにさらに検討改善を進めたい。社会貢献活動として、新型コロナ後の韓国短期文化研修プログラムの再開に加え、海外の新たな協定校締結に向けた協議を中心的な立場として鋭意進めてきた。

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	加藤法子
-----------	----	-----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

大学院を卒業後、看護師として大学病院の血液内科・麻酔科病棟で勤務を経て大学教育に携わることとなりました。平成 15 年 4 月より本学に着任し、主に基礎看護学の教育に携わっています。

研究は、基礎看護・看護技術・看護教育、ヘルスケアをキーワードに、看護技術の科学的検証や科学的根拠に基づいた技術教育プログラムの開発やヘルスケア向上を目指した研究に取り組んでいます。現在は主に、吸引技術に関する基礎的研究や教育方法に関する研究、成人女性の生理的むくみに関する基礎研究を行っています。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・ 塩田昇、廣瀬理絵、松山美幸、加藤法子、蔵元恵里子、田中美智子、江上千代美、「陣痛促進剤による薬害被害者」の講演を聞いた学生は薬害防止に向け何を思い・感じたか、福岡県立大学 看護学部研究紀要,19 巻,77—87,2022.
- ・ 加藤法子、2017 年-2022 年度科学研究費助成事業、基盤研究 (C) 経験値に基づいた吸引技術教育の検討 (研究代表者)、研究成果報告書、2023.
- ・

② その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 加藤法子、中島紀江、橋口暢子：成人女性の下肢のむくみに対する着圧ストッキングの着用効果に関する検討、第 44 回日本看護科学学会学術集会、熊本、2024.
- ・ 満島杏子、加藤法子、村方多鶴子、永嶋由理子：中小規模の看護職の職業的アイデンティティに達成動機、ワークエンゲイジメントが及ぼす影響、第 44 回日本看護科学学会学術集会、熊本、2024.
- ・

③ 過去の主要業績

- ・ 湊野由夏、永嶋由理子、加藤法子、藤野靖博、於久比呂美、宮崎千尋：基礎看護学教科書における人間の概念に関する検討. 福岡県立大学看護学研究紀要、17、2020.
- ・ 加藤法子:高齢者の栄養管理. 三原博光、松本百合美編著、豊かな老後生活を目指した高齢者介護支援、関西学院大学出版会、2013.
- ・ 加藤法子、湊野由夏、永嶋由理子: 高齢在宅酸素療法患者の自己効力感に影響を及ぼす要因の検討.福岡県立大学看護学研究要、4(2)、64-68.2007.

3. 外部研究資金

・加藤法子（研究代表者）科学研究費助成事業、基盤研究（C）、成人女性の下肢のむくみ発生予防・軽減に向けた弾性ストッキング着用プログラムの開発、交付金額 4,550 千円、2024 - 2028 年度

4. 受賞

5. 所属学会

日本看護協会、日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本看護技術学会、日本産業衛生学会 日本看護教育学会

6. 担当授業科目

<学部>

基礎看護学概論・2単位・1年・前期、基礎看護学実習Ⅰ・1単位・1年・前期、基礎看護技術論・2単位・1年・後期、看護過程・1単位・2年・前期、フィジカルアセスメント論・2単位・2年・前期、シンプトンマネジメント論・1単位・2年・後期、基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2年・通年、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、卒業研究・2単位・4年・通年、統合実習・2単位・4年・前期

<大学院>

看護理論・2単位・1年・前期、基礎看護学特論・2単位・1年・前期、基礎看護学演習：2単位・1年・後期、特別研究1～2年・8単位・通年

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

10. 今年度の自己評価

令和6年度は学部教育において新カリキュラム導入3年目であった。前年度の学生の反応や授業評価アンケートの内容をふまえ授業内容や方法を見直し、また科目間のつながりを意識した教育を行い、教育内容の充実を図った。加えて、アクティブラーニングを積極的に取り入れることで学生の主体的

な学びを促し、思考力や問題解決能力の向上、コミュニケーション力の向上などを目指した。また、実践的な学びに繋がるよう DX 教育などを取り入れ効果的な学習環境を提供できるよう努めたことから、一定の効果を得ることができたと実感している。大学院教育においては、基礎看護学特論・演習、看護理論を担当し、大学院生とのディスカッション等を通して、関連分野の深い知見が得られた。

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	四戸 智昭
-----------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

違法薬物、市販薬などの薬物乱用問題や依存（嗜癖）問題、インターネット依存やゲーム依存などの行為依存を主な研究対象にしています。どの依存症でも、陥りやすい人には共通点があります。家庭で両親から怒鳴りつけられていたり、家族や身近な人が依存症で苦しんでいたり、ACEs（子供時代の逆境的体験）を抱えているケースが多いです。さらに現代社会では、依存から抜け出しにくい環境になっています。家庭環境に問題があるだけでなく、学校や職場での不安やストレスから逃げるためにその環境から飛び出して、同じ背景を抱えた人たちが集まり、新たな関係依存（共依存）が生まれやすいこともあります。依存した結果より、その原因に目を向ける支援が大切です。お気軽にメールでご連絡ください。（E-MAIL：shinohe@fukuoka-pu.ac.jp）

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- 四戸智昭著. 「第3章資料を探そうー上手に本を探すテクニクー」. 『旅する大学生のガイドブックーレポートの書き方2024年度版』. 福岡県立大学教養演習テキスト出版会. 2024年4月.
- 柿原 愛、四戸 智昭. 「HSPとアダルト・チルドレンの関連性に関する一考察」. 『アディクションと家族』. 第37巻第2号. 日本嗜癖行動学会. 2022年7月.

② その他最近の業績

<エッセイ>

- 四戸智昭. 「世代間連鎖する家族問題」. 西日本新聞朝刊. opinion. 2024年2月4日
- 四戸智昭. 「依存するのは自己治療的行動だ」. 週刊SPA. 扶桑社. 通巻3811. 2024年4月2日号
- 四戸智昭. 「ひきこもりが消えた世界」. 『KHJ福岡楠の会だより』. 271号. KHJ福岡楠の会. 2025年1月

③過去の主要業績

- 四戸智昭 著. (単著). 『浪費を止める小さな習慣』. (2001). 光文社.
- 丸山久美子編著. 柏木哲夫、佐藤禮子、吉井光信、楯林義孝、石谷邦彦、平山正実、日野原重明、萬代隆、宮崎貴久子、小林美智子、丸山久美子、加藤淳、竹村和久、須田誠、南隆男、木島恒一、四戸智昭、大塚健樹、鈴木則子、小泉晋一、松井洋、西村洋一、作田明、小谷みどり. ” 第14章家族の孤立という危機ーディスコミュニケーションが生む家族の苦悩ー”. 『21世紀の心の処方学ー医学・看護学・心理学からの提言と実践ー』. (2008). 東京、アートアンドブレイン出版.
- 西日本新聞朝刊連載、家族百景II、四戸智昭、「不登校・ひきこもり考ー親子の視点から」2013年8月13日～12月24日（全19回）

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本嗜癮行動学会（学会誌編集委員）、日本社会福祉学会、日本地域福祉学会、日本アルコール関連問題学会、日本看護アディクション学会、子ども虐待防止学会、日本家族と子どもセラピスト学会

6. 担当授業科目

情報処理演習Ⅰ・2単位・1年・前期、教養演習・1単位・1年・前期、現代社会と嗜癮・2単位・1年・後期、不登校ひきこもり援助論・2単位・1年・前期、看護学研究・2単位・3年・後期、家族看護学・1単位・3年・前期、保健医療福祉行政論Ⅰ・1単位・2年・後期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、卒業研究・2単位・4年・通年、保健医療福祉行政論Ⅱ・2単位・4年・後期、日本事情B・留学生・前期、日本事情A・留学生・後期、大学院看護学研究法・2単位・1年・前期、大学院嗜癮行動学特論・2単位・1年・後期

7. 社会貢献活動

- ・福岡県覚せい剤・麻薬禍対策協議会・委員
- ・田川市いじめ問題対策委員会・委員長
- ・北九州市依存症対策連携会議・委員
- ・福岡県薬物再乱用対策推進会議・委員

8. 学外講義・講演

- ・福岡市立西福岡中学校、講演「ゲーム依存と生きづらさを抱える生徒への理解と必要な支援」、校内研修会、2024年7月
- ・学校カウンセリング研究会、講演「ひきこもりや不登校生徒の支援について」、2024年8月
- ・田川地区障がい者自立支援協議会、講演「共依存が子どもの成長に与える影響について」、2024年12月
- ・水巻看護助産学校、特別講義、2025年2月
- ・水俣市社会福祉協議会、講演「ひきこもりを支える地域のカー本人と家族が共に歩むための理解とサポートー」、2025年3月

9. 附属研究所の活動等

看護学部	職名	准教授	氏名	杉野 浩幸
------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

広島大学大学院工学研究科博士課程後期修了、博士（工学）。看護系教育機関における教員を対象とした学会発表支援・情報機器操作支援など、ICTを活用した研究・教育を行っている。現在の研究テーマは、1) 看護系教育機関における効果的な細菌学演習マニュアルの作成、2) 中堅看護従事者のための学会参加支援プログラムの開発、3) 看護師、看護学部教員を対象とした細菌培養実験の指導、4) 看護系教育機関における効率的な細菌学演習を支援するデータベースの構築と運用、5) 効率的な看護研究・教育を支援するデジタル素材無償配信システムの構築と運用

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ なし
- ・
- ・

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ なし
- ・
- ・

③過去の主要業績

- ・ H. Sugino, S. Furuichi, S. Murao, M. Arai and T. Fujii, Characterization of a *Rhodotorula*-lytic enzyme from *Paecilomyces lilacinus* having β -1,3-mannanase activity. 2004, Biosci. Biotechnol. Biochem. 68:757-760
- ・ H. Sugino, Y. Terakawa, A. Yamasaki, K. Nakamura, Y. Higuchi, J. Matsubara, H. Kuniyoshi, and S. Ikegami, Molecular characterization of a novel nuclear transglutaminase that is expressed during starfish embryogenesis. 2002, Eur. J. Biochem. 269:1957-1967
- ・ H. Sugino, M. Sasaki, H. Azakami, M. Yamashita, and Y. Murooka, A monoamine-regulated *Klebsiella aerogenes* operon containing the monoamine oxidase structural gene (*maoA*) and the *maoC* gene. 1992. J. Bacteriol. 174:2485-2492

3. 外部研究資金

文部科学省、学術研究助成基金助成金（科研費（基盤C））、効率的な看護研究・教育を支援するデジタル素材無償配信システムの構築と運用、1,800千円、2019年4月～2025年3月

4. 受賞

なし

5. 所属学会

なし

6. 担当授業科目

感染・免疫看護学演習・1単位・1年・後期、看護研究・2単位・2年・後期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、卒業研究・2単位・4年・通年

7. 社会貢献活動

なし

8. 学外講義・講演

なし

9. 附属研究所の活動等

なし

10. 今年度の自己評価

1) 科目責任者（看護研究、専門看護学ゼミ、卒業研究）についてシラバス作成、学生配属、教員との調整、成績処理を行い、2) 部会関連における膨大な作業、調整についても中心となっていくことで勤務時間の大半を費やした。研究活動については皆無であり科研研究も含めすべてを廃止せざるを得ない状況となり、研究、教育、社会貢献活動について偏った状態での業務となった点は大いに反省すべきである。

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	田中美樹
-----------	----	-----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

グリフィス大学（オーストラリア）保健科学学部卒業（学士）、名古屋大学大学院医学系研究科博士前期課程修了（修士）、西南学院大学大学院人間科学研究科博士後期課程（単位取得後退学）。

現在、入院中の子どものその子らしい生活（子どもの最善の利益）を支える保育士と看護師の協働に関する研究、検査や処置を受ける子どもの“こころの準備”を支えるための絵本プロジェクト研究を行っています。また、子どものソーシャルスキルやパラスポーツについて研究を進める予定です。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・ 田中美樹、吉川未桜、吉田麻美、杉野寿子、中原雄一、池田孝博. 入院中の子どもを支える保育士と看護師の専門性を活かした協働 第3報－協働のためのコンピテンシー－. 福岡県立大学看護学部紀要第22巻. 2025年3月
- ・ 吉川未桜、田中美樹、吉田麻美、中原雄一、菅原航平、杉野寿子. 保育学生と看護学生が協同制作した医療絵本の評価と課題. 人間社会学部紀要第33巻第2号. 2025年3月
- ・ 松尾ひとみ編集、小神野雅子、田中美樹、濱田裕子、平田美佳、藤田紋佳、本田真也、吉川未桜. 子どもの生活機能の発達とからだの仕組み-看護形態機能学の視点から-第2章「食べる」担当. 株式会社金芳堂（京都市）. 2024年3月31日
- ・ 田中美樹、吉川未桜、吉田麻美、中原雄一、杉野寿子、池田孝博. 入院中の子どもを支える保育士と看護師の専門性を活かした協働 第1報－業務内容の現状分析－. 福岡県立大学看護学部紀要第20巻. 2023年.pp9-20
- ・ 吉川未桜、田中美樹、吉田麻美、中原雄一、杉野寿子、池田孝博. 入院中の子どもを支える保育士と看護師の専門性を活かした協働 第2報－協働の現状と課題－. 福岡県立大学看護学部紀要第20巻. 2023年.pp21-32
- ・ 田中美樹、吉川未桜、吉田麻美、杉野寿子、中原雄一、池田孝博. 新型コロナウイルス感染症拡大による入院中の子どもを支える上での看護師と保育士の困難感. 福岡県立大学人間社会学部紀要第31巻2号. 2023年.pp85-93
- ・ 杉野寿子、吉川未桜、田中美樹、吉田麻美、池田孝博、中原雄一「入院中の子どもの権利と家族のQOLに関する課題」福岡県立大学人間社会学部紀要第31巻第1号. 2022年. pp71-79
- ・ 田中美樹、吉川未桜、尾形由起子、榎直美、吉田麻美. 小児訪問看護における訪問看護師の困難感と同行訪問研修の試み. 福岡県立大学看護学部紀要19巻.2022年. pp107-114

② その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 田中美樹、吉川未桜、吉田麻美、杉野寿子、古野憲司. 療養中のこどもの”こころの準備”を支えるための絵本プロジェクト. 第33回日本外来小児科学会. 岐阜. 2024年9月.
- ・ 吉川未桜、吉田麻美、田中美樹. 小児のフィジカルアセスメント技術の段階的習得を目指して-保育園年長クラスの子どものための演習参加の試み-. 第23回九州・沖縄小児看護教育研究会.2023年8月19日. 鹿児島市
- ・ 田中美樹、野村さちい、伊藤舞美、原田香奈、児玉和彦 教育セミナー「やってみたくなる！出来る

③過去の主要業績

- ・ 杉野寿子、田中美樹、吉川未桜、吉田麻美、中原雄一、池田孝博.保育士養成課程における保健・健康の学びに関する研究.福岡県立大学人間社会学部紀要 29 卷 1 号.2020 年.
- ・ 田中美樹. 保育所における慢性疾患をもつ子どもへの支援. 保育と保健 vol.19.no.2.2013 年.pp68-72
- ・ 田中美樹. NICU 退院時と母親への継続的育児支援に関する研究. 日本新生児看護学会 vol.13.no.1.2006 年.pp15-21

3. 外部研究資金

2024 年度 基盤研究(C) 研究分担者「親ががんと診断された子どものためのプレパレーションツール開発」

4. 受賞

5. 所属学会

日本小児保健協会、日本小児看護学会、日本外来小児科学会、日本子ども健康科学学会、日本保育園保健協議会、日本看護研究学会、日本家族看護学会、

6. 担当授業科目

《看護学部》

「人間のライフステージと看護」・1 単位・1 年・後期

「看護倫理学」・1 単位・2 年・前期、「小児看護学」・2 単位・2 年・後期

「小児看護学演習」・2 単位・3 年・前期、「小児看護学実習」・2 単位・3 年・後期

「専門看護学ゼミ」・2 単位・3 年・通年

「卒業研究」・2 単位・4 年通年

《人間社会学部》

「子どもの健康と安全」・1 単位・2 年・前期

7. 社会貢献活動

- ・ 北九州市児童福祉施設等第三者評価委員会委員 (2024～2026 年度)
- ・ 日本小児看護学会総務委員会委員
- ・ 田川市立幼稚園 3～5 歳児対象「いのちの授業」
- ・ 田川市青年会議所第 52 回ブロック大会こどもの職業体験「小児科ナースのお仕事！」ブース参加
- ・ 福岡市障がい者スポーツ協会ボランティアメンバー

8. 学外講義・講演

- ・福岡県 消防職員専科教育第 41 回救急科講義「小児・新生児」
- ・北九州市社会福祉研修所 令和 6 年度保健衛生・安全対策研修「保健計画の作成と活用・事故防止および健康安全管理」
- ・2024 年度田川市子育て支援センター子育て中の母親向けセミナー「こんなときどうするの?～」
- ・2024 年度田川市保育士会 保育士研修会「子どもの安全を守るために：感染症・アレルギー・誤飲時の対応」
- ・専門学校麻生飯塚大学校 家族看護学「医療的ケア児をもつ家族の看護」

9. 附属研究所の活動等

- ・福岡県立大学附属研究所研究奨励交付金（COC 研究）（新規）「療養中のこどもの“こころの準備”を支えるための絵本プロジェクト」
- ・附属研究所研究推進部会

10. 今年度の自己評価

教育活動では「小児看護学演習」において、保育園児の演習参加を取り入れながら、段階的手法を用いたことで効果的に小児看護技術習得へつながった。来年度も更なる工夫を続けていきたい。また、研究活動では、前年度までの研究奨励交付金（重点研究）で得た研究結果を全て論文発表することができた。さらに、新規の研究奨励交付金（COC 研究）においては、メンバーと協力しながら順調に進めることができた。今後は社会貢献につながる研究を計画していきたい。

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	富崎ゆかり
-----------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護師として大学病院およびがん専門病院で臨床経験を積んだ後、愛媛大学大学院医学系研究科看護学専攻へ進学し、がん治療に続発するリンパ浮腫を発症した患者の援助方法について研究を行いました（看護学修士）。その後、高知県立大学大学院健康生活科学研究科へ進学し、がんサバイバーのためのリンパ浮腫セルフマネジメントプログラム開発に取り組みました（看護学博士）。博士課程在学中に大学教員となり、看護教育に携わっています。

現在はがん治療後の後遺症であるリンパ浮腫に関する研究や、患者教育に関する研究に取り組んでいます。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・
- ・ 大西ゆかり，藤田佐和（2022）：リンパ浮腫の重症化予防のための患者教育指針の開発：社会的認知理論を実践に活用した患者教育を目指して，高知女子大学看護学会誌，47(2), 22-30.
- ・

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・
- ・
- ・

③過去の主要業績

- ・ 大西ゆかり（2010）：慢性の経過をたどる患者のセルフマネジメントの概念分析 リンパ浮腫のあるがん患者への活用，高知女子大学看護学会誌，35(1)，27 - 53.
- ・ 大西ゆかり，藤田佐和（2013）：がんサバイバーのためのリンパ浮腫セルフマネジメントプログラムの開発過程，高知女子大学看護学会誌，38(2)、50-61.
- ・ 大西ゆかり，藤田佐和（2013）：がんサバイバーのためのリンパ浮腫セルフマネジメントプログラムの開発と短期的評価，日本がん看護学会誌，30(1)，82-92.

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本がん看護学会、日本看護科学学会、日本看護研究学会、高知女子大学看護学会、日本リンパ浮腫治療学会

6. 担当授業科目

<学部>

成人老年看護学Ⅰ・2単位・2年・後期、成人老年看護学Ⅱ・2単位・2年・後期、成人老年看護学Ⅲ・2単位・2年・後期、専門看護学ゼミ・1単位・3年・通年、クリティカルケア・周術期看護演習・2単位・3年・前期、セルフケア支援演習・2単位・3年・前期、成人老年急性期看護学実習・3単位・3年・後期、成人老年慢性期看護学実習・3単位・3年・後期、統合実習・2単位・4年・通年、卒業研究2単位・4年・通年

<大学院>

成人看護学特論・2単位・1年前期、成人看護学演習・2単位・1年後期

7. 社会貢献活動

日本がん看護学会誌 査読委員

第39回日本がん看護学会学術集会 査読委員

高知女子大学看護学会誌 査読委員

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

10. 今年度の自己評価

新カリキュラムの演習と実習がスタートした。演習では担当グループの学生が事例患者に応じた看護過程の展開及び演習での課題が達成できるよう丁寧な指導を心がけた。実習では対象理解を深めるための助言や多忙な指導者に代わって学生とともに看護援助を実施することにより、実習目標の達成に尽力した。

大学院教育では、院生とともに文献を活用してテーマの理解を深めたり、ディスカッションポイントを絞って検討をしたりすることで、短時間での講義を効果的に進めることができた。

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	中井裕子
-----------	----	-----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

桜美林大学大学院国際研究科博士前期課程修了、修士（老年学）。成人老年看護学の教育に携わっています。主な研究分野は高齢者看護、周術期看護、看護教育です。主な研究テーマは高齢者を対象とした急性期・周術期看護、新卒看護師のリアリティショックを緩和する授業方法の検討です。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- 山口馨子，笹山万紗代，大場美緒，村田和子，中井裕子，福田和美．クリティカルケア実習における看護学生の体験－フォーカス・グループインタビューの分析－．福岡県立大学看護学研究紀要 2022；19：69-76
- 村田和子，笹山万紗代，福田和美，大場美緒，政時和美，山口馨子，中井裕子，古庄夏香．成人急性看護学実習におけるシミュレーション教育を取り入れたハイブリッド型学内実習の実践報告．福岡県立大学看護学研究紀要 2022；19：99-105
- 政時和美，大場美緒，古庄夏香，中井裕子，村田和子，笹山万紗代，山口馨子，福田和美．学内での対面とオンラインを組み合わせた成人慢性看護学実習の取り組み．福岡県立大学看護学研究紀要 2022；19：115-122

②その他最近の業績

<学会発表>

- 長聡子，増満誠，石橋曜子，平塚淳子，中井裕子，日高艶子，松浦賢長．エッセンシャルワーカーとしての看護師の継続する危機への適応力－看護師が体験した職場風土や組織体制－．日本看護科学学会第43回学術集会（山口）2023.
- .
- .

③過去の主要業績

- 中井裕子，榎本麻里，三枝香代子，堀之内若名．成人看護学急性期実習における看護技術教育の検討（第二報）．千葉県立衛生短期大学紀要 2009；27(1・2)：143-151.
- 中井裕子，堀之内若名，三枝香代子，榎本麻里．成人看護学急性期実習における看護技術教育の検討．千葉県立衛生短期大学紀要 2008；26(2)：105-112.
- 大谷則子，堀之内若名，中井裕子，榎本麻里．手術室見学実習における学び一二の実習形態の比較検討による考察－．OPE NURSING 2006；21(6)：98-108.

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本看護学会、日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本看護学教育学会、日本看護技術学会、日本老年社会科学会

6. 担当授業科目

人間のライフステージと看護・1単位・1年・後期、成人老年看護学Ⅱ（回復期・慢性期）・2単位・2年・後期、セルフケア支援演習・2単位・3年・前期、クリティカルケア・周術期看護演習・2単位・3年・前期、成人老年慢性期看護学実習・3単位・3年・後期、老年看護学実習Ⅱ・3単位・3～4年・通年、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、統合実習・2単位・4年・通年、卒業研究・2単位・4年・通年、成人看護学演習・2単位・院1年・前期

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

10. 今年度の自己評価

令和4年度新カリキュラムの学生が3年次を迎え、担当する演習と実習はそれに対応するよう見直しを行い実施した。同時に移行期にもあたるため、旧カリキュラムの学生の実習も実施したが、混乱なく完遂することができた。新カリキュラム導入年であるため課題も残ったが、次年度に向けた手がかりを大いに得ることができた。

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	原田 直樹
-----------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

福岡県立大学人間社会学部社会福祉学科を卒業、同志社大学大学院文学研究科社会福祉学専攻を修了。修士（社会福祉学）。社会福祉士、精神保健福祉士。

障害者福祉の現場を経験した後、福岡県立大学不登校・ひきこもりサポートセンターに専門研究員として勤務し、不登校・ひきこもりの児童生徒と家族、学校の支援に従事しました。その後 2010 年より看護学部の養護教諭養成担当の教員として着任しました。

主な研究分野は、①不登校・ひきこもり支援の理論と実践に関する研究、②不登校・ひきこもりの子どもの家族支援に関する研究、③学校を中心とした地域社会における子育て環境に関する介入的研究です。学校保健福祉の視点から、個人因と環境因との関係性に焦点を当て、子どもの保健福祉の向上を目的とした研究と教育に取り組んでいます

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・ 原田直樹. 不登校児童生徒を取り巻く環境と思春期の悩み. 思春期学 2024 ; 42(1) : 107-113
- ・ 原田直樹, 梶原由紀子, 田原千晶, 増満誠, 松浦 賢長. 元不登校児童生徒とその保護者の不登校をめぐる意識差と家族機能についての研究. 福岡県立大学看護学部紀要 2022 ; 19 : 1-12.
- ・ 梶原由紀子, 原田直樹, 田原千晶, 松浦 賢長. 養護教諭の危機対応に関する研修についての調査研究. 福岡県立大学看護学部紀要 2022 ; 19 : 57-68.

② その他最近の業績

<シンポジウム>

- ・ 原田直樹：こころ×いのち×こども～それぞれの「ま」の解釈と演出～不登校支援の現場から. 第 37 回日本看護福祉学会学術大会（福岡）. 2024.7.6
- 原田直樹：思春期の悩みの向き合い方とインターネット-不登校児童生徒を取り巻く環境と思春期の悩み. 第 42 回日本思春期学会学術集会（東京）. 2023.8.26

③過去の主要業績

- ・ 原田直樹, 野見山晴佳, 三並めぐる, 梶原由紀子, 松浦賢長. 中学校における発達障害が疑われる生徒に対する生徒指導に関する研究. 福岡県立大学看護学部紀要 2012 ; 10 (1) : 1-12.
- ・ 原田直樹, 梶原由紀子, 吉川美桜, 樋口善之, 江上千代美, 四戸智昭, 杉野浩幸, 松浦賢長. 不登校児童生徒の状況と対応に苦慮する点に関する調査研究—家庭支援へ向けての考察—. 福岡県立大学看護学部紀要 2011. ; 8 (1) : 11-18.
- ・ 原田直樹, 松浦賢長. 学習面・行動面の困難を抱える不登校児童・生徒とその支援に関する研究. 日本保健福祉学会誌 2010 ; 16 (2) : 13-22.

3. 外部研究資金

日本学術振興会科学研究費（基盤研究 C）「HSC を有する不登校児童生徒への教育・支援方法の検討に関する研究」（令和 4 年度～令和 7 年度）：研究代表者

日本学術振興会科学研究費（基盤研究 B）「エッセンシャルワーカーとしての看護師の継続する危機への適応力教育パッケージ開発」（令和 5 年度～令和 8 年度）：分担研究

4. 受賞

平成 27 年度福岡県立大学ベストティーチャー賞、2016 年 3 月、福岡県立大学
第 30 回日本保健福祉学会学術集会 優秀学会発表賞、2018 年 10 月、日本保健福祉学会

5. 所属学会

日本保健福祉学会（幹事長）、日本思春期学会（常務理事・幹事長）、日本小児保健協会、日本学校ソーシャルワーク学会、日本学校保健学会、日本看護科学学会 等

6. 担当授業科目

《学部》

「不登校・ひきこもり援助論」（2 単位・1 年・前期）、「公衆衛生学」（2 単位・1 年・後期）、「暮らしと保健福祉・看護」（2 単位・1 年・後期）、「教育と社会・地域」（1 単位・1 年・後期）、「子供学習支援論」（1 単位・1 年・後期）、「キャリア像確立講義Ⅰ」（1 単位・1 年・後期）、「保健統計学」（2 単位・2 年・前期）、「養護概説」（2 単位・2 年・後期）、「教育方法論」（1 単位・2 年・後期）、「健康科学」（2 単位・2 年・後期）、「災害看護学」（1 単位・2 年・後期）、「専門看護学ゼミ」（2 単位・3 年・通年）、「学校保健学」（1 単位・3 年・前期）、「健康教育論」（2 単位・3 年・前期）、「性教育学」（2 単位・3 年・前期）、「キャリア像確立講義Ⅱ」（1 単位・3 年・後期）、「卒業研究」（2 単位・4 年・通年）、「養護実習事前事後指導」（1 単位・4 年・前期）、「養護実習」（1 単位・4 年・前期）、「教職実践演習」（養護教諭）（2 単位・4 年・後期）

《大学院》

「思春期ヘルスプロモーション特論」（2 単位・大学院 1 年・前期）、「思春期ヘルスプロモーション演習」（2 単位・大学院 1 年・後期）、「データ解析演習」（2 単位・大学院 1 年・後期）

7. 社会貢献活動

日本保健福祉学会幹事長、日本思春期学会常務理事（庶務）、日本思春期学会幹事長、九州思春期研究会理事、福岡県不登校児童生徒支援会議委員、田川市立田川東中学校学校運営協議会委員、田川市立鎮西小学校学校評議員・学校関係者評価委員、福智町立赤池中学校区学校運営協議会委員、嘉麻市教育委員会点検評価委員、赤村子ども・子育て会議会長、特定非営利活動法人ひこうせん理事長 他

8. 学外講義・講演

- ・ 福岡県体育研究所 養護教諭継続研修「不登校児童生徒の理解と支援」講師
- ・ 田川市 NPO・ボランティア講座「ボランティアのいろはと傾聴」講師
- ・ 田川市職員協働力向上研修「市民のボランティア活動への理解と協働のための傾聴」講師
- ・ 田川市社会福祉協議会ふくし入門教室「ボランティア活動で広がるあなたの未来」講師
- ・ ファミリーサポートセンター会員養成講習会「子どもの発達」（複数）
- ・ 教育委員会及び学校での不登校支援の研修会（複数）
- ・ 小学校での児童対象の薬物乱用防止教室（複数） 他

9. 附属研究所の活動等

附属研究所運営部会（社会貢献・ボランティア支援センター長として参画）

10. 今年度の自己評価

毎回の授業においては双方向性・応答性のある授業づくりを心掛け、事前・事後学習の提出物や毎回の授業時のレスポンスカードを活用して、学生の学びの充実に向けた工夫と改善に取り組んだ。特に授業の改善については、学期の途中であっても柔軟に対応することを心掛け、学びの成果に対して、学生からも一定の満足度を得ることができたと考える。

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	三浦 由紀子
-----------	----	-----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護師として大学病院の小児科病棟勤務を経て大学院に進学し、修了後は、高度急性期病院や民間病院で看護管理者等の臨床経験を積みました（2009年小児看護専門看護師認定、2020年認定看護管理者認定）。令和2年度より教育現場に携わり、令和5年度本学に着任し、主に「医療安全」「看護管理学」の科目や実習を担当しています。

現在は、チームメンバーの一人ひとりが恐怖や不安を感じることなく、安心して発言や行動ができる状態である「心理的安全性」を高める看護管理者の関わりについての研究に取り組んでいます。チームメンバーが自分らしく、自分の持つ能力を発揮し、チームパフォーマンスの向上や質の高いケアの提供につながる看護管理者の関わりを探求しています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 中野 綾美（編著）、石浦 光世、佐東 美緒、萩原 綾子、染谷 奈々子、濱田 米紀、有田 直子、幸松 美智子、高谷 恭子、加藤 依子、三浦 由紀子：『ナーシング・グラフィカ小児看護学(2)小児看護技術』、第10章コラム p.264、メディカ出版、大阪（2025）
- ・ 岩崎順子、中村由美子、嶋岡暢希、高谷恭子、田村恵美、源田 美香、三浦由紀子、有田直子、佐東美緒、田之頭恵里、池添志乃、畦地博子、森下安子・中野綾美：小児のエンド オブ ライフに関わる看護師のコミュニケーションスキル、高知女子大学学会誌、第49巻第2号 p79～90、2024年6月

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 中村 由美子、岩崎 順子、嶋岡 暢希、高谷 恭子、田村 恵美、源田 美香、三浦 由紀子、有田 直子、佐東 美緒、田之頭 恵里、池添 志乃、畦地 博子、森下 安子、野嶋 佐由美、中野 綾美、共分散構造分析を用いた看護師の心理的 well-being の構造、第43回日本科学学会学術集会、2023
- ・ 有田直子、高谷恭子、田村恵美、田之頭恵里、佐東美緒、池添志乃、源田美香、中村由美子、三浦由紀子、嶋岡暢希、岩崎順子、鋤田 晃子、笹山 睦美、益守 かづき、中野 綾美：重度な障がいをもつ子どもと家族へのエンド オブ ライフケアにおける小児看護専門看護師の実践、日本小児看護学会第32回学術集会、2022

③過去の主要業績

- ・ 高谷恭子、中野綾美、星川理恵、益守かづき、佐東美緒、有田直子、田村恵美、清水称喜、関根光枝、三浦由紀子、首藤ひとみ、池添志乃、野嶋佐由美、「子どもの看取りの選択肢として臓器提供に直面する家族を支えるケアガイドラインの開発」、高知女子大学看護学会誌 VOL.40、NO.2、pp92～104、2015
- ・ 三浦由紀子、中野綾美：「幼児期にある気管支喘息の子どもをもつ親が用いる症状マネジメント

の方略」、高知女子大学看護学会誌、 Vol33,NO.1,pp64～73,2008

- ・ 三浦由紀子、中野綾美：幼児期にある気管支喘息の子どもを持つ親の「子どもの症状」の体験、高知女子大学看護学会誌』,Vol34,NO.1,pp109～116,2009

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本看護科学学会、日本小児看護学会、日本家族看護学会、高知女子大学看護学会

6. 担当授業科目

〈学部〉

教養演習・1単位・1年・前期、暮らしを知る実習1単位1年・後期、医療安全・1単位・2年・前期、専門看護ゼミ・2単位・3～4年・通年、看護管理論・1単位・4年・後期、卒業研究・2単位・通年、基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2～4年・通年、統合実習・2単位・4年・通年

〈大学院〉

看護管理学・2単位・1年・後期

7. 社会貢献活動

- ・ 福岡県看護協会代議員
- ・ 地方独立行政法人川崎町立病院評価委員

8. 学外講義・講演

- ・ 飯塚市立病院 ラダーレベルⅤ研修「問題解決技法の理解と展開1」 講師
「問題解決技法の理解と展開2」 講師
- ・ 飯塚市立病院 ラダーレベルⅢ研修「問題解決過程研修Ⅰ」 講師
「問題解決過程研修Ⅱ」 講師
- ・ 福岡県看護協会「ひとを育てる看護マネジメント～キャリア開発支援と人材育成～」研修 講師

9. 附属研究所の活動等

10. 今年度の自己評価

担当科目の教育において、学生の能力を育むために、心理的安全性を感じられる場づくりを心がけ、実践と知識をつなぐために、ゲーム手法の活用や経験学習サイクルを意識したグループワークや事前・事後課題、課題レポートの内容を工夫した。学生のレポートや授業評価などから、学生は、これまでの経験を振り返り、学んだ知識を活用して多角的に分析し次の看護実践を考えることができおり、学生の視野が広がり思考力育成につながったと考える。今後も、実践と知識をつなぎ、学生が主体的に考え学びに向かうことができるような教育内容・方法を検討していきたい。

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	山下清香
-----------	----	-----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

2002年まで福岡県の保健師として勤務しました。兵庫県立看護大学大学院修士課程修了後、2004年福岡県立大学看護学部に着任し、地域看護学及び公衆衛生看護学の教育研究に携わっています。

行政保健師の活動、保健師教育を主な研究分野とし、現在、住民参加を促進する行政保健師の技術向上めざす教育プログラムの開発に取り組んでいます。住民との協働による健康な地域づくりを推進する保健師の技術を明らかにし、効果的な基礎教育及び現任教育プログラムを開発したいと考えています。広島大学大学院医歯学保健学研究科博士後期課程満期退学。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 中村 美穂子, 山下 清香, 小野 順子, 吉田 麻美, 大塚 文, 岩崎 玲奈, 尾形 由起子. 入院早期から退院調整を開始している退院調整実施者の特徴. 福岡県立大学看護学研究紀要, 21 巻 2024 年 3 月
- ・ 山下 清香, 中谷 久恵, 尾形 由起子, 小野 順子, 中山 貴美子, 山口 のり子. 地域保健活動への住民参加を促進する行政保健師の技術. 日本地域看護学会誌, 26 巻 1 号, 2023 年 4 月
- ・ 平塚淳子・猪狩崇・中村美穂子・小野順子・吉川未桜・吉田麻美・田中美樹・山下清香・櫛 直美・尾形由起子. A 県における訪問看護ステーションの BCP 策定における現状と課題. 福岡県立大学看護学部紀要, 20 巻. 2023 年 3 月

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 古賀 未那子, 山下清香, 小野順子, 中村美穂子, 尾形由起子. 乳幼児の子育て期における父親への集団支援のあり方の検討 ～父親へのフォーカスグループインタビューを通して～. 第 13 回日本公衆衛生看護学会学術集会講演集 2025 年 1 月
- ・ 山口 忍, 大木 幸子, 加藤 欣子, 福本 久美子, 齋藤 泰子, 山下 清香, 尾形 由起子. 水俣病の歴史に学ぶ公衆衛生看護の役割と責任 会員間で語り合おう. 第 12 回日本公衆衛生看護学会学術集会講演集 2024 年 1 月
- ・ 中村 美穂子, 山下 清香, 小野 順子, 尾形 由起子. がん患者の退院支援における退院調整看護師の病棟看護師との連携に関する研究 退院調整看護師の認識による連携の促進因子. 日本看護研究学会雑誌 45 巻 3 号 2022 年 10 月
- ・ 吉田 麻美, 山下 清香, 小野 順子, 吉川 未桜, 田中 美樹, 岡田 麻里, 尾形 由起子. 歩ける医療的ケア児の母親の子育てに適応していくプロセスの検討. 日本看護研究学会雑誌 45 巻 3 号 2022 年 10 月
- ・ 金崎 美穂, 尾形 由起子, 山下 清香, 小野 順子, 中村 美穂子. 終末期がん患者の在宅移行期での退院前カンファレンスにおける退院調整看護師と訪問看護師の協働のあり方の検討. 日本看護研究学会雑誌 45 巻 3 号 2022 年 10 月

③過去の主要業績

- ・ 杉本 由利子, 山下 清香, 小野 順子, 香月 眞美, 山口 のり子, 尾形 由起子. 市町村保健師の発達障害児に対する連携技術の構成概念の検討. 日本地域看護学会誌 24 巻 2 号 2021 年 8 月
- ・ 檜橋 明子, 中村 美穂子, 小野 順子, 山下 清香, 手島 聖子, 尾形 由起子. 保健師の実践能力に対す

- ・ 出前講義：地域の人々に対する看護活動（田川高等学校）2024年7月
- ・ 出前講義：地域の人々に対する看護活動（飯塚高等学校）2024年6月
- ・ 模擬授業：地域の人々に対する看護活動（下関南高等学校）2024年7月

9. 附属研究所の活動等

- ・ 令和6年度附属研究所研究奨励交付金事業：生活習慣病の重症化による慢性腎臓病（CKD）のリスクアセスメント。

10. 今年度の自己評価

教育については、担当科目（新規科目含む）の教育計画、教育内容、教材等を精査し改善し、ルーブリックを作成して評価方法についても検討しました。研究については、住民参加を促進する保健師の技術に関する研究は論文投稿に向けて執筆を継続中です。新たにCKDの研究に参加しました。社会貢献については、管理期保健師を対象としたリカレント研修を開催しました。教育や研究の成果を地域の保健医療福祉の実践現場に役立てられるように今後も努力していきたいと思っています。

看護学部	職名	准教授	氏名	山田美幸
------	----	-----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護師として大学病院にて脳神経外科・眼科、皮膚科、血液・消化器内科に勤務した後、大学の教員になりました。その間、看護学修士を修得し、熊本大学大学院 保健学教育部保健学専攻博士後期課程を単位取得後退学しました。教員としてはこれまで「基礎看護学」を担当して来ましたが、令和5年度福岡県立大学に着任し、主として「看護の統合と実践」の科目を担当しています。新カリキュラムになり、これまで得た経験を3・4年生の教育にどのように繋いで深化させていくか、常に問いながら教育をしていきたいと考えています。

研究については、これまでに「特別養護老人ホームのターミナルケア」「子どもの入院に付き添い家族」「新卒看護師の離職防止に向けた支援」「独居高齢者の介護予防」「看護学生のリフレクション」「児童虐待防止の支援策」に関する研究に取り組んできました。現在は「介護施設における心理的安全性」に関する研究を行っています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・
- ・
- ・

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 前原宏美, 山田美幸 (2022) : 精神科看護師の行動制限における倫理的問題に関する文献的検討, 第17回医療の質・安全学会学術集会 (神戸: オンデマンド)
- ・
- ・

③過去の主要業績

- ・ 山田美幸, 津田紀子, 前田ひとみ (2015) : 看護学生が臨地実習におけるケアリング体験の意味を構築する過程, 日本看護教育学会誌, 第22巻第3号, p.1~12.
- ・ 岩本テルヨ, 山田美幸, 加瀬田暢子 (2009) : 特別養護老人ホーム在所者の最後の場の決定に関わる現状と課題ー全国調査を通してー, 山口県立大学学術情報, 第2号, p8~14.
- ・ 山田美幸, 前田ひとみ, 津田紀子, 串間秀子 (2008) 新卒看護師の離職防止に向けた支援の検討ー就職3か月の悩みと6か月の困ったことの分析ー, 南九州看護研究誌, 第6巻1号, p47~54.

3. 外部研究資金

科学研究費助成事業 (基金分) 基盤研究 (C) 令和6年~9年, 交付金額 3250 千円, 研究課題: 虐待防止を目指した介護職員の心理的安全性を高めるプログラムの構築 (研究代表者)

4. 受賞

5. 所属学会

日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本看護学教育学会、クリティカルケア学会

6. 担当授業科目

対人関係と看護・1単位・1年・前期、教養演習・1単位・1年・前期、暮らしを知る実習・1単位・1年・後期、看護倫理学・1単位・2年・前期、看護研究・2単位・2年・後期、基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2年・通年、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、統合実習・2単位・4年・通年、卒業研究・2単位・4年・通年、臨床看護学特別研究・1～2年・8単位・通年（研究指導補助教員）

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

10. 今年度の自己評価

特に今年度より担当をした「対人関係と看護」において、アクティブラーニングを取り入れた講義・演習を行うことによって、学生はコミュニケーションに関する知識や技術を身につけ、実習の対象者と関係を構築し効果を得ることができた。今後も経年的に学修内容が積み重ねていけるよう工夫をしたと考える。大学院教育は、指導教員とともに計画的に指導に携わり、順調に進めることができた。研究については外部研究資金を獲得することができたが、今年度は計画への取り組みが遅れたため、成果を発表することができていない。予定の計画を進めて行けるよう努めていきたいと考えている。

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	吉田 静
-----------	----	-----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

1998年から7年間、助産師として九州労災病院に勤務。2005年から1年間本学に臨時職員として勤務後、2007年本学に着任。2009年3月、福岡県立大学大学院修士課程修了、修士（看護学）。2021年3月、国際医療福祉大学大学院博士課程修了、博士（助産学）。

現在、子どもの喪失経験を持つ者の悲嘆過程と提供されるケアや支援、また医療者の支援を主な研究分野としている。特に、子どもの喪失経験を持つ人々へのケアやサポートの中心は「母親」にあり、「父親」は母親を支える役割を期待され、支援も等閑されやすい。そのためニーズを把握した上で子どもの喪失経験を持つ父親へ提供できるケアモデルを開発し、医療者の役割、課題等を明らかにする。また子どもを喪失した家族に携わる看護者へのケアや支援も検討している。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 吉田静, 安河内静子, 佐藤繭子, 清水夏子, 石村美由紀, 道園亜希. (2024). 学内における女性看護学実習に関する実践報告～妊娠期から子育て期にわたる母子との関わり～. 福岡県立大学看護学研究紀要第21巻, 35-42.
- ・ 吉田静, 佐藤香代. (2022). 子どもを喪失した父親の体験と看護者へ望む支援. 日本助産学会誌, 36(2), 212-242.
- ・ 吉田静, 佐藤香代. (2022). 子どもを亡くした父親の体験. インターナショナル Nursing Care Research, 21(2), 41-50.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 吉田静, 佐藤香代. (2022). 分娩取扱を中止した施設の推移とその背景. 第63回母性衛生学術集会, 兵庫.
 - ・ 香野友美花, 吉田静. (2022). 二分脊椎児を出産した母親の体験 - 母子愛着の視点から - (第1報). 第63回母性衛生学術集会, 兵庫.
 - ・ 香野友美花, 吉田静. (2022). 二分脊椎児を出産した母親の体験 - 母親が医療者に求める支援 - (第2報). 第63回母性衛生学術集会, 兵庫.
 - ・ 吉田静, 佐藤香代. (2022). 子どもを喪失した父親の体験と看護者に求めるケア. 第36回日本助産学会学術集会, 大阪 (オンライン).
- #### <講演、パネルディスカッション>
- ・ 第14回高知周産期こころの研究会. 「子どもを亡くした父親の語り」. (2025.3.29)

③過去の主要業績

<著書>

- ・ 鳥越郁代, 吉田静, 安河内静子, 佐藤繭子. (2022) 安心して新しい命を迎え産み育てていくために知っておきたい帝王切開のこと (小冊子).
- ・ 看護師国試2022ラピッドスタディ. (2021). 共著. 有限会社EDITEX.
- ・ 佐藤香代, 安河内静子, 吉田静, 佐藤繭子. (2012). 身体感覚活性化 (世にも珍しい) マザークラスの哲学と実践 医療者向けセミナー (DVD).

3. 外部研究資金

吉田静. 文部科学省研究費補助金 基盤研究 C. 臨床との協働による子どもを喪失した父親へのグリーフ支援プログラム開発に関する研究. 351 万円. 令和 2 年～令和 7 年.

鳥越郁代, 安河内静子, 吉田静, 佐藤繭子. 文部科学省研究費補助金 基盤研究 C. 教育と臨床の協働による帝王切開で出産するリプロダクティブヘルスのための出産準備教育プログラム開発. 286 万円. 平成 31 年～令和 6 年.

4. 受賞

5. 所属学会

日本助産学会, 日本母性衛生学会, 日本死の臨床研究会, 日本ウーマンズヘルス学会

6. 担当授業科目

<学部>

教養演習・1 単位・1 年・前期, 人間のライフステージと看護・1 単位・1 年・後期, リプロダクティブヘルス看護学実習・2 単位・3 年・後期, 専門看護学ゼミ・2 単位・3 年・通年, 卒業研究・2 単位・4 年・通年

<大学院>

助産実践学Ⅰ(妊娠期)・2 単位・1 年・前期, 助産学実践Ⅱ(分娩期)・4 単位・1 年・通年, 助産実践学Ⅲ(産褥期)・2 単位・1 年・前期, 助産実践学Ⅳ(ハイリスクケア)・2 単位・1 年・後期, ホリスティック助産学特論・1 単位・1 年・前期, ホリスティック助産学演習・1 単位・1 年・後期, コミュニティ助産学特論・1 単位・1 年・後期, 助産学課題研究・4 単位・1～2 年・通年, 助産学実習Ⅲ(継続ケア実習)・3 単位・2 年・通年, 助産学実習Ⅳ(ハイリスクケア実習)・1 単位・2 年・前期, 助産学実習Ⅴ(健康教育実習)・2 単位・2 年・通年

7. 社会貢献活動

- ・福岡県助産師会 研究倫理研修会 (2025.1.26)
- ・福岡県助産師会 国際助産師の日講演会 (2024.11.30)
- ・福岡市委託事業「働くママとパパの maternity school」(2024.4-2025.3)

8. 学外講義・講演

- ・クローズアップ現代 (NHK) 「亡くなくても大切な命 流産・死産“ペリネイタルロス”」(2024.10.9)
- ・福岡県助産師会北九州地区「研究をやってみよう」(2024.10.19, 11.17)
- ・北九州市立医療センター「私たちのグリーフケアを振り返り、考える。そして私を癒す。」(2024.9.23)
- ・福岡県看護協会、院内助産スキルアップ研修「喪失体験のある妊産婦とその家族の支援の実際〜グ

9. 附属研究所の活動等

10. 今年度の自己評価

リプロダクティブヘルス看護学の実習教育において、周産期の母子と家族へのケアだけでなく、幼少期から老年期まで人間の生涯を通じた性の健康へのケアや支援、病院と地域の連携を多角的な視点から学ぶことができるように工夫した。また、大学院での助産師教育では、シミュレーション教育を多用し、臨地実習を想定した瞬時の助産診断および助産技術の実践を繰り返し行ったことで教育の充実につながったと考える。今後も看護教育、助産教育ともに講義、演習、実習による段階的な積み上げ、効果的な学修ができるように工夫、改善を重ね、専門職者の育成に努める。

看護学部／看護学科	職名	講師	氏名	石田都乃
-----------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

総合病院に勤務し産科及び婦人科、小児科、NICU、混合病棟(脳神経外科・整形外科、形成外科、口腔外科)などを経験しました。その中で産後の家族との関りについて研究を行いました(看護学修士)。また、産後の生活への保健指導の検討を行うため、助産師と褥婦の両者の意見を取り入れたデータトライアングレーションの手法を用いて保健指導プログラムを開発し、介入研究を行いました(看護学博士)。現在、看護教育及び助産師教育に携わりながら研究を進めています。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・ 石田都乃・荒木田美香子(2023): 開業助産師の産後の生活を見据えた保健指導 家族看護学研究 第29巻 61-71

・
・

②その他最近の業績

<学会発表>

・
・
・

② 過去の主要業績

- ・ 石田都乃・渡邊竹美・小林康江・中込さと子(2018): 妊娠期から産後2か月まで継続的な助産ケアを実践した若手助産師の獲得した力 母性衛生 第59巻2号 596-603
- ・ 渡邊竹美・小林康江・中込さと子・石田都乃 (2016): 新人助産師が1年間で獲得した分娩管理能力 山梨大学看護学会誌 第15巻1号 43-50

・

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

6. 担当授業科目

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

10. 今年度の自己評価

今年度は研究論文投稿を行った。今後も研究をまとめ継続的に投稿していくことを考えている。

看護学部／看護学科	職名	講師	氏名	於久 比呂美
-----------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

2008年より福岡県立大学看護学部に所属。2011年福岡県立大学看護学研究科修了。現在は基礎看護学の教育に携わっています。主に1・2年生に関わるため、看護への興味・関心を引き出し、学習への動機づけを高める支援を心掛けています。

1) 看護師の自己成長に関する研究

これまで看護師の成長力をもたらす促進因子の一部について検討してきました。今後は、得られた研究知見に詳細な分析を積み重ねるとともに、他の促進因子の解明を引き続き進め、看護師に向けた教育プログラムの開発などを考えています。

2) 看護技術に関する研究

看護技術の科学的検証を行い、エビデンスに基づいた看護技術教育方法の開発に取り組んでいます。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・
- ・
- ・

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 於久比呂美、江崎千尋：臨床看護師の自己教育力における内的因子の関連、第42回日本看護科学学会学術集会、2022年12月。
- ・
- ・

③過去の主要業績

- ・
- ・
- ・

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本看護学教育学会

6. 担当授業科目

基礎看護技術論・2単位・1年・後期、シンプトンマネジメント論・1単位・2年・後期

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

10. 今年度の自己評価

主に携わった基礎看護学に関する演習において、看護に必要な基礎的知識を基盤に、理論的・倫理的に思考し、科学的根拠をもって看護実践ができる基礎的能力を育むこと、さらに柔軟な思考をもって看護を創造し、提供できる力を養えるよう関わってきました。このことは、低学年における演習教育の充実につながったと考えます。今後は、各学年で修得した学びが確実に積み重なってレベルアップできるよう横断的な教育の取り組みを検討していきたいと思っております。

看護学部／看護学科・公衆衛生看護学	職名	講師	氏名	小野順子
-------------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

九州大学大学院人間環境学府を修了（人間環境学修士）。福岡市で保健師として勤務し、公衆衛生看護活動（保健師）に従事する。その後、大学教員として保健師養成に従事し、2010年に福岡県立大学看護学部に着任。公衆衛生看護学分野で、地域診断、生活習慣病重症化予防、介護予防、在宅医療の推進、保健師教育に関する研究を行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

・ <論文>

・中村美穂子, 山下清香, 小野順子, 吉田麻美, 大塚文, 岩崎玲奈「入院早期から退院調整を開始している退院調整実施者の特徴」, 『福岡県立大学看護学紀要』, 21巻, pp.1-8, 福岡県立大学, 2024年3月.

・山下 清香, 中谷 久恵, 尾形 由起子, 小野 順子, 中山 貴美子, 山口 のり子「地域保健活動への住民参加を促進する行政保健師の技術」, 地域看護学会誌 26巻1号, 2023.

・平塚淳子, 猪狩崇, 中村美穂子, 小野順子, 吉川未桜, 吉田麻美, 田中美樹, 山下清香, 櫛直美, 尾形由起子「A県における訪問看護ステーションのBCP策定における現状と課題」, 『福岡県立大学看護学紀要』, 19巻, pp.41-47, 福岡県立大学, 2023年3月.

・小野順子, 山下清香, 中村美穂子, 中本亮, 櫛直美, 田中美樹, 吉川美桜, 吉田麻美, 尾形由起子. A県における訪問看護ステーションの災害対策の現状と課題-災害時の在宅療養継続に向けて-, 福岡県立大学看護学研究紀要, 19巻, 2022

・櫛直美, 尾形由起子, 小野順子, 中村美穂子, 大場美緒, 吉田麻美, 猪狩崇, 平塚淳子, 田中美樹, 吉川未桜, 山下清香. 在宅医療推進における訪問看護ステーション連携への取組に関する一考察. 福岡県立大学看護学研究紀要, 19巻, 2022

・吉川未桜, 吉田麻美, 平塚淳子, 中村美穂子, 大場美緒, 小野順子, 猪狩崇, 山下清香, 田中美樹, 櫛直美, 尾形由起子. 新型コロナウイルス感染拡大下における訪問看護ステーションの困難と対応. 福岡県立大学看護学研究紀要, 19巻, 2022

②その他最近の業績

<学会発表>

・小野順子, 尾形由起子, 石崎龍二, 山下清香, 中村美穂子, 畑香里. 精神障がい者の地域包括ケアシステム構築に向けたGISを活用した地域診断. 第83回日本公衆衛生学会総会, 2024年10月, 札幌.

・尾形由起子, 小野順子, 中村美穂子, 石崎龍二. 生活習慣病重症化によるCKDの地域格差とリスクの検討. 第83回日本公衆衛生学会総会, 2024年10月, 札幌.

・Junko Ono, Yukiko Ogata, Naomi Ichiki, Kiyoka Yamashita, Disaster Countermeasures at Home-Visiting Nursing Service Stations for Maintaining Home Care. 26th East Asian Forum of Nursing Scholars 2023

③過去の主要業績

<著書>

・尾形由紀子,山下清香,櫛直美,江上千代美,岡田麻里,小野順子,香月眞美,迫山博美,高原洋城,中村美穂子,檜橋明子,山口のり子,地域包括ケアをすすめる公衆衛生看護学 演習・実習,2019年9月,クオリティケア,p37-53,62-68,77-84,85-93

3. 外部研究資金

- ・科研費, 基盤研究 (C), 研究代表者, 地理情報システムを活用した地域診断に基づく PDCA サイクルの実践に関する研究, 3,770 千円, 2022-2025 年度
- ・科研費,基盤研究 (C), 研究分担者, 退職期にある住民主体の看取り・看取られ力量形成プログラム開発, 2,340 千円, 2023-2025 年度
- ・科研費, 基盤研究 (C), 研究分担者, 2030 年の生活実態に基づく救急医療の地域格差の解明と生活圏を踏まえた適正配置の提案, 4160 千円, 2024-2027 年度

4. 受賞

特になし

5. 所属学会

日本公衆衛生看護学会, 日本公衆衛生学会, 地域看護学会, 日本在宅ケア学会, 看護研究学会

6. 担当授業科目

【学部】

公衆衛生看護学Ⅰ (2 単位,2 年前期), 専門看護学ゼミ (2 単位,3 年通年), 公衆衛生看護アセスメント論Ⅰ (2 単位,3 年通年), 卒業研究 (2 単位,4 年通年), 統合実習 (2 単位,4 年通年), 公衆衛生看護アセスメント論Ⅱ (2 単位,4 年前期) 公衆衛生看護技術論Ⅰ (2 単位,4 年前期), 公衆衛生看護学Ⅱ (2 単位,4 年前期), 公衆衛生看護技術論Ⅱ (2 単位,4 年前期), 公衆衛生看護学実習Ⅰ (1 単位,4 年前期), 公衆衛生看護学Ⅲ (1 単位,4 年後期), 組織協働活動論 (2 単位,4 年後期), 公衆衛生看護管理論 (2 単位,4 年後期), 公衆衛生看護学実習Ⅱ (4 単位,4 年後期)

【大学院】 地域看護学特論 (2 単位,1 年前期)、地域看護学演習 (2 単位,1 年後期)

7. 社会貢献活動

- ・感染症の審査に関する協議会委員 (2017 年 4 月～現在)
- ・田川市男女共同参画審議会委員 (2019 年 4 月～現在)
- ・福岡県看護協会 看護の進路・進学支援委員会 委員 (2024 年度)

8. 学外講義・講演

- ・麻生看護大校, 暮らしの中の保健活動,母子保健 1 コマ

9. 附属研究所の活動等

- ・R6 年度附属研究所重点領域研究「生活習慣病の重症化による慢性腎臓病 (CKD) のリスクアセスメント」研究メンバー

10. 今年度の自己評価

<教育>

主に保健師課程科目を担当している。講義で修得した知識を活かして、演習で実践を試み、さらに実習での実践経験を重ねる事で保健師としての知識・思考・技術を段階的に深められるよう展開している。講義・演習・実習を連動させ保健師技術を繰り返し学ぶことで保健師を目指す学生が卒業時には自身の成長や達成感を強く感じていた。また、R6年度も継続して保健師として就職を希望する学生全員が行政保健師（正規職員）として就職した。今後も学生の卒業後のキャリア形成を見据えた教育支援を継続していく。

1. 教員紹介・主な研究分野

福岡県立大学大学院看護学研究科看護学専攻 修了（修士：看護学）

看護師として、重心障害児（者）病棟、消化器内科・小児科、大学保健室、高等学校で養護助教諭として勤務しました。児童生徒が心身共に健康で安全に学校生活を送ることができ、発達段階に応じた自己管理能力を身に付けるための支援として、また、現場の養護教諭先生方を支援するために研究に取り組む所存です。

【養護教諭の危機対応力向上や協働力の促進に関する研修プログラム開発】

養護教諭の危機管理力の研修開発に関して取り組んでいます。昨今、重度の障害がありつつも医療施設ではなく地域で暮らす子供が増えてきているとともに、地域の学校に通学する子供たちも増加しています。学校においては、子供たちの安全安心のために緊急時には専門的な対応が求められ、保健管理の中核を担う養護教諭の役割も大きいと考えます。また、感染症対策等の学校保健に関する組織活動の推進を考える上では、養護教諭と教職員との情報共有が必須となる一方で、内部組織だけでなく外部組織や保護者との連携も欠かせず、養護教諭がコーディネートを担うこともあり協働する力が不可欠であると考えています。このような点を踏まえ、現在、養護教諭の危機対応力向上や協働力の促進に関する研修プログラム開発に関する研究を行っています。

【特別支援学校養護教諭の特定行為におけるリスク認識に関する研究】

制度の改正に伴い教員を含む介護職員等が限定された特定行為を実施できるようになり、特別支援学校では、看護師と連携しながら教員が医療的ケアを実施しています。このような特別支援学校の養護教諭における特定行為に関する専門的な対応や事故やリスクに関する現状について調査研究を行いました。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

論文

- ・梶原由紀子（2024）．九州思春期研究会研究大会・ポストコンGRESS講演報告 『スマホ失明』と失明の「不確実性」、九州思春期研究会雑誌創刊号、Vol. 1. 27-32.
- ・梶原由紀子、原田直樹、田原千晶、松浦賢長（2022）．養護教諭の危機対応に関する研修についての調査研究、福岡県立大学看護学部研究紀要、第19巻57-68.
- ・原田直樹、梶原由紀子、田原千晶、増満誠、松浦賢長（2022）．元不登校児童生徒その保護者の不登校をめぐる意識差と家族機能についての研究、福岡県立大学看護学部研究紀要、第19巻1-12

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・加藤則子、田口美穂子、麻生保子、加藤典子、澤田いずみ、蓋 若エン、江上千代美、梶原由紀子、塩田昇：女性保護者の地域とつながる力と子育て支援資源活用に関する検討 第81回公衆衛生学会総会（山梨）2022年

③過去の主要業績

- ・ 著者
 - ・ 松浦賢長、原田直樹、榊原秀也、渡辺多恵子、梶原由紀子（他 62 名）（2021）；思春期学 基本用語集、学校保健に関する用語【医療的ケア、学校環境衛生、学校保健、学校保健安全法、健康観察、健康診断、健康相談、保健室、保健指導】について担当、講談社。
- ・ 衛藤隆、松浦賢長、近藤洋子、原田直樹、梶原由紀子 他（26 名）（2020）；1980 年から 10 年ごとの幼児健康度調査の結果と分析 子供の保健 小児保健に携わるすべての人に 食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、喘息 解説 p53, コラム p41, p54, p56, ジアース教育新社。
- ・ 梶原由紀子（2019）. 科研（若手 B）「インクルーシブ教育における養護教諭の危機対応力向上に関する短期研修プログラム開発」研究成果報告書, 1-67.

3. 外部研究資金

- ・ 科学研究費助成事業（基金分）（基盤研究 C 2022 年度～2024 年度）養護教諭の協働力を促進するための研修プログラム開発 156 万円（研究代表者 梶原由紀子）

5. 所属学会

日本思春期学会（理事）、日本保健福祉学会（幹事）、日本学校保健学会、日本看護研究学会、日本看護科学学会、日本公衆衛生学会、日本 LD 学会、日本学校救急看護学会（評議員）、日本災害看護学会、日本健康運動看護学会、九州学校保健学会、九州思春期研究会（理事）

6. 担当授業科目

教養演習・2 単位・1 年・前期, 不登校・ひきこもり援助論・2 単位・1 年・前期, 教育と社会・地域・1 単位・1 年・後期, 子ども学習支援論・1 単位・1 年・後期, 公衆衛生学・2 単位・1 年・後期, 暮らしと保健福祉・看護・2 単位・1 年・後期, 保健統計学・2 単位・2 年・前期, 養護概説・2 単位・2 年・後期, 教育方法論・1 単位・看護 2 年・後期, 健康科学・2 単位・2 年・後期, 学校保健学・1 単位・3 年・前期, 健康教育論, 2 単位・3 年・前期, 性教育学・2 単位・看護 3 年／人社 3 年・前期, 専門看護学ゼミ・2 単位・3 年・通年, 養護実習事前事後指導・1 単位・4 年・前期, 養護実習・4 単位・4 年・前期, 教職実践演習（養護教諭）・2 単位・4 年・後期, 卒業研究・2 単位・4 年・通年,

7. 社会貢献活動

- ・ 日本思春期学会, 理事
- ・ 九州思春期研究会, 理事
- ・ 日本学校救急看護学会, 評議員
- ・ 福岡県教育委員会 筑豊地区教育相談ネットワーク会議, 委員
- ・ 福岡県立西田川高等学校学校運営協議会委員
- ・ あすの筑豊を考える新 30 人委員会 嘉飯地区ブロック長
- ・ 学生防犯サークルオリオンズ（コーディネーター）

8. 学外講義・講演

・嘉麻市立山田中学校 規範意識講演会講師 「SNS等のネット上への情報発信について考える～自分も相手も大切にする力とは～」 2024年11月

・不登児童生徒等の早期発見・早期支援事業 第1回モデル地域連絡会議 R6.10月

・不登児童生徒等の早期発見・早期支援事業 第2回モデル地域連絡会議 R7.2月

9. 附属研究所の活動等

・不登校・ひきこもりサポートセンター教員スタッフ

10. 今年度の自己評価

2024年度は、学生教育（授業、実習、採用試験対策、アドバイザー学生支援）や社会貢献活動、不登児童生徒等の早期発見・早期支援事業において調査研究活動等を実践することができました。授業においては、アクティブラーニングを取り入れた授業方法も積極的活用していきましたが、課題が残る授業もあったことから、引き続きアクティブラーニングについても研鑽を重ね、学生が主体的に考えることができる授業実践に努めます。

看護学部／看護学科	職名	講師	氏名	小出 昭太郎
-----------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

教育については、学生が、社会学的な研究方法や「ものの見方」を臨床や政策などの実践に生かすことができるようになることを目標にしています。

主な研究分野は、第1に、保健医療・社会保障の制度・政策に関して、制度・政策策定者サイドの視点よりも市民・患者サイドの視点に基づいた歴史研究・理論的研究・調査研究を行ってきました。現在は、イギリスの医療保障財源の設計根拠に関する歴史研究を行っており、この研究においても主に市民・患者サイドの視点に着目しています。第2に、健康の社会的不平等に関する研究を行ってきました。特に、性・年齢層別の検討を行っています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・
- ・
- ・

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・
- ・
- ・

③過去の主要業績

- ・ 小出昭太郎・田村誠、「1991年英国 NHS 改革後の政府規制とその背景——「病院サービスの購入者」の設定に関する問題」、『病院管理』、第36巻第1号、1999年.
- ・ 小出昭太郎・田村誠、「イギリス NHS 成立時における財源調達方式の設計の根拠に関する考察」、『医療政策に関わる一般市民・医療従事者の価値判断とその論拠（平成10年度～平成12年度科学研究費補助金（基盤研究（B）（2））研究成果報告書）（研究代表者：田村誠）』、2001年.
- ・ 小出昭太郎・山崎喜比古、「収入と general health perceptions との関連の性・年齢による差異」、『要介護状態及び健康の形成過程における社会経済的要因の役割に関する実証的研究（平成14年度～平成17年度科学研究費補助金（基盤研究（A））研究成果報告書）（研究代表者：武川正吾）』、2006年.

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本保健医療社会学会、日本社会福祉学会、日本医療・病院管理学会、日本公衆衛生学会、日本看護研究学会、東北哲学会

6. 担当授業科目

<学部>

情報処理演習Ⅰ・1単位・1年・前期、情報処理演習Ⅱ・1単位・1年・前期、保健医療福祉の法と制度・1単位・1年・前期、保健社会学・1単位・1年・後期、看護研究・2単位・2年・後期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、卒業研究・2単位・4年・通年、保健医療福祉行政論Ⅱ・2単位・4年・後期、日本事情B・2単位・留学生・前期

<大学院>

看護政策論・2単位・修士1年・通年、データ解析特論・2単位・修士1年・前期

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

10. 今年度の自己評価

2024年度から「情報処理演習Ⅰ」「情報処理演習Ⅱ」（各半分弱）を新たに担当することになり、それに力を注ぎました。両科目が「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」を構成していることに伴う授業内容・方法の検討や調整も行いました。他の科目でも授業内容・方法の改善を行い、それらは受講者からのある程度良好な評価につながったとみていますが、残る課題については今後取り組んでいきたいと思っています。

看護学部／看護学科	職名	講師	氏名	塩田 昇
-----------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

1993年3月産業医科大学医療技術短期大学看護学科卒業。2016年3月九州工業大学大学院生命体工学研究科脳情報専攻博士後期課程修了。産業医科大学病院（看護師）、宗像看護専門学校（専任教員）、西南女学院大学看護学科（助教）を経て、2017年4月に本学着任。主に授業は生態機能看護学を担当しています。これまでの研究では①セルフケアの神経機構の解明、②発達障がい児の親と定型発達児の親の3次元型睡眠尺度「位相」「質」「量」の検討を行ってきました。また、共同研究では発達障がいのある子どもの親への支援、発達障がいのある子どもの親のレジリエンスの調査を行っています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- Egami, C., Tanaka, M., Shiota, N., & Yamashita, Y. (2025). Association between parenting resilience and parenting and family adjustment of mothers of children with autism spectrum disorder. *International Journal of Developmental Disabilities*, 1-11.
- 塩田昇, & 江上千代美. (2024). 発達障がい児の親と定型発達児の親の3次元型睡眠尺度「位相」「質」「量」の比較. *福岡県立大学看護学研究紀要*, 21, 27-34.
- 塩田昇, 廣瀬理絵, 松山美幸, 加藤法子, 藏元恵里子, 田中美智子, & 江上千代美. (2022). 「陣痛促進剤による薬害被害者」の講演を聞いた学生は薬害防止に向け何を思い・感じたか. *福岡県立大学看護学研究紀要*, 19, 77-87.

②その他最近の業績

<学会発表>

- 塩田昇, 江上千代美, 田中美智子. (2022). 発達障がいのある子どもの親へのトリプル P による支援がストレスに及ぼす影響. 第42日本看護科学学会学術集会. 広島 (Web)
- 江上千代美, 塩田昇, 田中美智子. (2022). 発達障がいのある子どもの母親の養育レジリエンスの違いとストレスへの影響-POMS、唾液コルチゾール. 第42日本看護科学学会学術集会. 広島 (Web)
- 江上千代美, 塩田昇. (2022). 発達障がいの診断前の未就学児をもつ親の子育てレジリエンスと子育ての適応. 第81回日本公衆衛生学会. 山梨 (Web)

③過去の主要業績

- Shiota, N., Narikiyo, K., Masuda, A., & Aou, S. (2016). Water spray-induced grooming is negatively correlated with depressive behavior in the forced swimming test in rats. *The journal of physiological sciences*, 66, 265-273.
- 塩田昇. (2016). セルフケア行動の神経行動学的・神経化学的研究. (博士論文).
- 塩田昇, 成清公弥, 増田明, 靄岡朋子, & 粟生修司. (2008). セルフケアの神経機構: グルーミングにおけるラット前頭前野のセロトニン・ドーパミン動態. *福岡県立大学看護学研究紀要*, 6(1), 1-8.

3. 外部研究資金

日本学術振興会，発達障害のある子どもの保護者が直面する負の連鎖を断ち切る-養育レジリエンスの醸成-，令和6年度～令和9年度（研究分担者：塩田 昇）

日本学術振興会，親支援プログラム受講によって保護者は地域の子育て支援資源と積極的につながれるか，令和4年度～令和7年度（研究分担者：塩田 昇）

4. 受賞

令和6年度福岡県立大学ベストティーチャー賞

5. 所属学会

日本看護学教育学会会員，日本看護研究学会会員，日本看護技術学会会員，日本看護科学学会，日本生理学会会員，日本心身医学会会員，日本公衆衛生学会

6. 担当授業科目

<学部>

「生態機能看護学Ⅰ」（2単位・1年・前期）、「生態機能看護学Ⅱ」（2単位・1年・後期）、「生態機能看護学Ⅲ」（1単位・4年・後期）、「生態病態看護学実験」（1単位・2年・前期）、「病態看護学Ⅱ」（2単位・2年・前期）、「基礎看護学実習Ⅱ」（2単位・2年・前期）、「看護倫理学」（1単位・2年・前期）、「統合実習」（2単位・4年・通年）、「専門看護学ゼミ」（2単位・3年・通年）、「卒業研究」（2単位・4年・通年）

<大学院>

「実験看護学特論」（2単位・1～2年・前期）

7. 社会貢献活動

- ・ 田川市男女共同参画センター運営委員
- ・ ゆめっせフェスタ 2025 実行委員会委員
- ・ 総合せき損センター 研究指導 4月～3月まで1回/月

8. 学外講義・講演

- ・ 高校訪問：自由が丘高等学校（2024.10.30）

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

10. 今年度の自己評価

生態機能看護学の授業において、特にアクティブラーニングとDXを取り入れて事前・事後学習と授業でのディスカッション方法およびインクルーシブな教材提示を工夫したところが教育の充実と改善につながったと考える。今後も、生態機能看護学の講義だけでなく実験やその他の授業・演習で授業改善を進めていきたい。

看護学部／	職名	講師	氏名	手島 聖子
-------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

養育者が安心して育児ができる環境を構築するために、子どもの発達過程に応じた養育者の育児ストレスや育児不安、育児ストレスに影響を与える個人的・社会的要因を短時間に把握できる質問紙を作成し、4カ月児の養育者と1歳6カ月児の養育者を対象に調査を実施してきました。近年は、被養育体験を基礎に形成された内的ワーキングモデルがどのようにして養育者に世代間伝達されるのか、養育者の成育歴における被虐待歴や親から愛されなかった思い、親との対立、厳格な親に育てられたなど環境要因が養育者自身の育児にどのような影響を与えられるのかについて検討しています。児童虐待予防における保健師の実践活動に活かせるよう研究を進めていきたいと考えています。

教育においては、在宅および地域で生活する人々を意識した教育が求められています。1年次からの関連する科目において、地域に暮らす人々の理解とそこで行われる看護について、学生とともに学びを深めていきたいと考えます。また、地域包括ケアシステムにおける多職種との連携・協働していくために、地域看護学の視点や方法論を取り入れ、地域の特性と健康課題をアセスメントする力を養うとともに、地域での活動の幅を広げていけるような学生の看護師教育に取り組んでいきたいと考えています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・
- ・
- ・

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・
- ・
- ・

③過去の主要業績

- ・ 手島聖子. (2002). 養育者の育児ストレスと育児支援システム：乳幼児健康診査を通した子育て支援と児童虐待の予防について. (財)安田生命社会事業団 2001年度研究助成論文集, 37, 30-38.
- ・ 手島聖子. 原口雅浩. (2003). 乳幼児健康診査を通した育児支援：育児ストレス尺度の開発. 福岡県立大学看護学部紀要, 1 (1), 15-27.
- ・ 手島聖子. (2007). 乳幼児健康診査を通した育児ストレス調査：育児ストレス尺度の信頼性と交差妥当性の検討, 家庭教育研究所紀要, 29, 77-83.

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本公衆衛生学会、日本看護科学学会、日本地域看護学会、日本心理学会、日本発達心理学会、日本公衆衛生看護学会、日本子ども虐待防止学会

6. 担当授業科目

教養演習・1単位・前期、暮らしを知る実習・1単位・1年・後期、暮らしの中の看護を知る実習・1単位・2年・前期、家族看護学・1単位・2年・前期、地域・在宅看護論・2単位・2年・後期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、在宅看護論演習・2単位・3年・通年、在宅看護支援実習・2単位・3年・後期、卒業研究・2単位・4年・通年

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

- ・福岡県立香住丘高等学校（2024.7.11）
- ・福岡県立新宮高等学校（2024.10.24）

9. 附属研究所の活動等

10. 今年度の自己評価

教育活動では、新カリキュラムで開始となった1年次の「暮らしを知る実習」、2年次の「暮らしの中の看護を知る実習」の科目責任者として、学生への教育に携わった。今後も学生が1年次から地域看護への学びを深め、対象を「患者」ではなく「生活者」として捉えることができ、心理的安全性を高められるよう、低学年から地域・在宅看護の要素を段階的に積み重ねていく教育の充実に努めていきたいと考える。

看護学部／看護学科	職名	講師	氏名	藤野 靖博
-----------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

生理学的指標などを用いて、看護技術がひとの体に及ぼす影響について明らかにして、臨床における看護援助に還元できるように努めていきたいと考えています。

デジタル技術を看護教育へ応用する方法について検討し、時代のニーズに合った基礎看護教育に活かしていきたいと考えています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 藤野靖博、山口馨子、松山美幸、梶原由紀子：看護教育におけるデジタル・トランスフォーメーションの具体的な教育手法の検討。福岡県立大学研究奨励交付金報告書，2023.

・
・

②その他最近の業績

<学会発表>

・
・
・

③過去の主要業績

- ・ 藤野靖博：ウォームアップが歩行運動時の循環応答・深部温度に及ぼす影響。日本人間工学学会看護人間工学部会誌（8），15-20. 2007.
- ・ 矢崎義雄、篠山重威、藤野靖博他：心不全下巻－最新の基礎・臨床研究の進歩。日本臨床社。2007.

・

3. 外部研究資金

研究代表者：文部科学省、科学研究費補助金（基盤研究 C）「カプサイシンジエルとサーキュレーターを用いた睡眠導入効果に関する実験検証」、2019～2024 年度

4. 受賞

5. 所属学会

6. 担当授業科目

基礎看護学実習Ⅰ・1単位・1年・前期、基礎看護技術論・2単位・1年・後期、基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2年・通年、看護過程・1単位・2年・前期、フィジカルアセスメント論・2単位・2年・前期、シンプトンマネジメント論・1単位・2年・後期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、卒業研究・2単位・4年・通年、統合実習・2単位・4年・通年、基礎看護学特論・2単位・大学院1～2年・前期、基礎看護学演習・2単位・大学院1～2年・後期

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

出前講義：福岡県立嘉穂高等学校、2024年11月29日（金） テーマ：看護の「技」について

9. 附属研究所の活動等

10. 今年度の自己評価

既存の知識に照らして推論・判断、そして実践ができる学生を育てるために、学生がなぜそのような行動・言動をするのかを意識に上らせ言語化できるように発問しながら講義・演習・実習指導をするように心がけ、一定程度の効果が得られているのではないかと考えます。またデジタル技術を授業の中に積極的に取り入れることで、時代のニーズに応えられる学生を育てる一助を担うことが出来ているのではないかと考えます。学部入学試験部会では、入試業務が円滑に回るような役割を微力ながら果たしているのではないかと考えます。

看護学部／看護学科	職名	講師	氏名	宮本 いずみ
-----------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

産業医科大学産業保健学部看護学科卒業後、産業医科大学病院で看護師として勤務した。九州大学大学院医学系学府保健学専攻看護学分野修士課程修了（看護学修士）。山口大学大学院医学系研究科保健学専攻博士後期課程を修了しました（保健学博士）。2010年より大学で看護教育に携わっています。現在、手術患者の褥瘡予防に関する研究を大学、企業、病院と共同で行っています。開発した「手術室看護師の看護実践能力評価尺度」の使用許諾についてはメール（E-mail：miyamoto@fukuoka-pu.ac.jp）にてご連絡ください。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 宮本いずみ, 中村海帆 (2025). 小学校から大学までの家庭と学校における性教育の実態と課題に関する文献検討, 福岡県立大学看護学研究紀要, 22, 47-54.
- ・ 宮本いずみ 編 亀田典宏 (2025). 周術期看護実践ガイドライン：褥瘡予防 Recommendation 3. 体圧分散マットレスの選定 Guidelines for Perioperative Practice : Pressure Injury Prevention, AORN eGUIDELINES 日本語版, 2(2), 18-23, Wiley.
- ・ 宮本いずみ 編 佐藤健斗 (2025). 周術期看護実践ガイドライン：褥瘡予防 Recommendation 7. 術後評価 Guidelines for Perioperative Practice : Pressure Injury Prevention, AORN eGUIDELINES 日本語版, 2(2), 24-26, Wiley.
- ・ 宮本いずみ 編 亀田典宏 (2025). 周術期看護実践ガイドライン：褥瘡予防 Recommendation 8. 小児患者 Guidelines for Perioperative Practice : Pressure Injury Prevention, AORN eGUIDELINES 日本語版, 2(2), 27-28, Wiley.
- ・ 宮本いずみ 編 (2024). 褥瘡リスクの高い手術患者にエビデンスに基づいた褥瘡予防のケアバンドルを用いた評価, AORN Journal 日本語版, 1(3), 2, Wiley.
- ・ 宮本いずみ 編 貝沼純 (2024). 手術部位感染 (SSI) を減らすための周術期担当者と感染予防担当者との関係の最適化, AORN Journal 日本語版, 1(3), 3-8, Wiley.
- ・ 宮本いずみ 編 佐藤明日美 (2024). 周術期看護師の QSEN コンピテンシーに対する認識, AORN Journal 日本語版, 1(3), 9-15, Wiley.
- ・ 宮本いずみ 編 (2024). 製造業者の添付文書とス波尔ディング分類を用いた周術期における超音波プローブの消毒方法の評価, AORN Journal 日本語版, 1(3), p16-22, Wiley.
- ・ 前田晃史, 宮本いずみ (2024). 【転載】すぐ実践に生かせる! 器械器具・薬剤の準備のプロを目指せ! 白内障手術, メディカ出版, 眼科ケア, 26 (1), 74-78.
- ・ 宮本いずみ (2023). 手術室看護師の看護実践能力を高める教育プログラムの構築. 山口大学大学院, 博士論文.
- ・ 宮本いずみ, 山勢博彰, 田戸朝美 (2023). 手術室看護師が認識している看護実践能力を高める効果的な継続教育の探求：テキストマイニングを用いた自由回答文の解析, 山口医学, 72 (1), 29-38.
- ・ 前田晃史, 宮本いずみ, 八田圭司, 池田知香 (2022). ベッド上で『JRC 蘇生ガイドライン 2015』推奨の背板と標準的な背板を用いた胸骨圧迫の質の比較, 日本臨床救急医学会誌, 25 (5), 789-796.
- ・ 宮本いずみ, 山勢博彰, 田戸朝美 (2022). 手術室看護師の看護実践能力評価尺度の開発, 日本クリティカルケア看護学会誌, 17, 80-88.

- ・ 前田晃史, 宮本いずみ (2022). オペ室のセッティング講座 整形外科手術の器械器具 橈骨遠位端骨折 (プレート固定), メディカ出版, OPE nursing, 37 (1), p72-77.
- ・ 前田晃史, 宮本いずみ (2022). オペ室のセッティング講座 整形外科手術の器械器具 大腿骨転子部骨折 (髓内釘), メディカ出版, OPE nursing, 37 (2), p56-60.
- ・ 前田晃史, 宮本いずみ (2022). オペ室のセッティング講座 整形外科手術の器械器具 大腿骨頸部骨折 (人工骨頭置換術), メディカ出版, OPE nursing, 37 (3), p52-58.
- ・ 宮本いずみ, 前田晃史 (2022). オペ室のセッティング講座 基本的な器械・器具, メディカ出版, OPE nursing, 37 (4), p68-76.
- ・ 宮本いずみ, 前田晃史 (2022). オペ室のセッティング講座 全身麻酔の薬剤, メディカ出版, OPE nursing, 37 (5), p66-72.
- ・ 宮本いずみ, 前田晃史 (2022). オペ室のセッティング講座 脊髄くも膜下麻酔と硬膜外麻酔時の薬剤と介助の方法, メディカ出版, OPE nursing, 37 (6), p46-52.
- ・ 前田晃史, 宮本いずみ (2022). オペ室のセッティング講座 消化器外科手術の器械器具 大腸 (腹腔鏡下大腸切除術), メディカ出版, OPE nursing, 37 (7), p58-65.
- ・ 前田晃史, 宮本いずみ (2022). オペ室のセッティング講座 眼科手術の器械器具 白内障手術, メディカ出版, OPE nursing, 37 (8), p60-65.
- ・ 前田晃史, 宮本いずみ (2022). オペ室のセッティング講座 胸部外科手術の器械器具 胸腔鏡下肺切除術, メディカ出版, OPE nursing, 37 (9), p56-61.
- ・ 前田晃史, 宮本いずみ (2022). オペ室のセッティング講座 耳鼻咽喉科手術の器械器具 内視鏡下鼻副鼻腔手術, メディカ出版, OPE nursing, 37 (10), p50-55.
- ・ 宮本いずみ, 丸岡聖路, 前田晃史 (2022). オペ室のセッティング講座 心臓血管外科手術の器械器具 心臓弁の手術・冠動脈バイパス手術, メディカ出版, OPE nursing, 37 (11), p56-61.
- ・ 宮本いずみ, 丸岡聖路, 前田晃史 (2022). オペ室のセッティング講座 脳神経外科手術の器械器具 開頭術, メディカ出版, OPE nursing, 37 (12), p64-68.

②その他最近の業績

<学会発表>

・

③過去の主要業績

- ・ 宮本いずみ 『まるごと やりなおしのフィジカルアセスメント チャートとイラストで見てわかる』第4章 胸腔鏡, 腹腔鏡術後患者の看護におけるフィジカルアセスメント, メディカ出版, 2015.
- ・ 宮本いずみ 『関連図と検査で理解する疾患 病態 生理パーフェクトガイド』婦人科系疾患 子宮がん (子宮頸がん, 子宮体がん), 卵巣がん, 総合医学社, p278-280, p281-284, 2017.
- ・ 宮本いずみ 『月刊ナ-シング』特集 これをする根拠は何?と聞かれてもすぐに答えられる!先輩には聞けない看護技術・ケアのなぜ?に答えられるようになる!学研メディカル秀潤社, p55-57, p61-62, p69-70, 2018.

3. 外部研究資金

- ・ 科学研究費補助金 (基盤研究 C), 研究課題「手術患者の褥瘡発生予測スケールの開発」, 交付金額 3,600 千円, 令和 7 年度~令和 10 年度 (研究代表者)

・学研究費補助金（若手研究），研究課題「MR（複合現実）を活用した手術シミュレーションによる手術看護教育の開発と検証」，交付金額 4,030 千円，平成 30 年度～令和 6 年度（研究代表者）

4. 受賞

5. 所属学会

日本看護科学学会，日本看護研究学会，日本看護教育学会，日本手術看護学会，日本クリティカルケア看護学会，日本救急看護学会

6. 担当授業科目

基礎看護学実習Ⅰ・1単位・1年・前期，基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2年・通年，フィジカルアセスメント論・2単位・2年・前期，看護過程・1単位・2年・前期，シンプトンマネジメント論・1単位・2年・後期，専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年，クリティカルケア・周術期看護演習・2単位・3年・前期（補助），地域・在宅看護演習Ⅰ・Ⅱ・2単位・3年生・前期（補助），小児看護学演習Ⅰ・Ⅱ・2単位・3年生・前期（補助），統合実習・2単位・4年・通年，卒業研究・2単位・4年・通年

7. 社会貢献活動

- ・日本手術医学会会誌 編集委員
- ・日本手術看護学会誌 査読委員
- ・日本看護学会誌 査読委員
- ・福岡県立大学生活協同組合 理事
- ・福岡県障がい者スポーツ大会開催に伴う救護業務（2024年5月19日）
- ・リカレント教育：田川市・田川医師会主催 ケア・カフェたがわ「看取りにおけるフィジカルアセスメント・特定行為について」講師（2024年10月4日）

8. 学外講義・講演

- 2024年7月6日 田川高校 高校訪問
- 2024年9月27日 南筑高校 高校訪問
- 2024年10月30日 進学相談会
- 2025年2月9日、2月16日 社会保険田川病院 看護研究発表会 講評
- 2025年3月11日 育徳館高校 高校訪問

9. 附属研究所の活動等

- ・令和6年度研究奨励交付金 若手研究，研究課題「術中体位における体圧可視化システムの予備的検討」交付金額 199 千円（研究代表者）

10. 今年度の自己評価

フィジカルアセスメントの横断教育では、基礎看護実習Ⅰにて「人間」の理解および対人関係能力に関する指導を行いました。2年生の「フィジカルアセスメント論」では、フィジカルアセスメント能

力向上を目的にフィジコを用いた演習・技術練習および教員による技術確認・指導を導入しました。2024年度はこれまで行っていなかった静脈血採血、静脈内注射・点滴静脈内注射の演習を行いました。3年生ではクリティカルケア・周術期看護演習、地域・在宅看護演習、小児看護学演習において、2年次のフィジカルアセスメントをベースとして各発達段階、健康レベルにある患者のフィジカルアセスメントの演習・指導を行いました。研究指導では、R5年度卒業生の卒業論文を論文化し公表しました。研究活動では、手術患者の褥瘡予防の研究として科研費と令和6年度研究奨励交付金を獲得し、ミズホ株式会社から研究機器の無償提供を受け、田川市立病院を研究フィールドとして共同研究の契約を締結し、産官学連携による研究に取り組んでいます。

看護学部／看護学科	職名	講師	氏名	村田和子
-----------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護基礎教育終了後、総合病院、大学病院で看護師として ICU, CCU, 心臓外科病棟で勤務しました。その後、大分大学大学院医学系研究科を修了（看護学修士）し、総合病院で院内教育、新人教育などの現任教育に携わりました。看護師のキャリア形成や循環器疾患を抱える患者の看護に興味をもち、現在では成人老年看護学の教育に携わり、シミュレーション教育を取り入れながら演習を行っています。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・ 村田和子, 福田和美 (2024) : 成人看護学演習における OSCE の現状と課題, 福岡県立大学看護学研究紀要, 第 21 巻
- ・ 福田和美, 中尾久子, 村田和子 (2022) : 術後早期の看護ケアを行う看護師による家族に対する情報共有に関連したケア, The Journal of Nursing Investigation, 第 20 巻, 第 1 号
- ・ 村田和子, 笹山万紗代, 福田和美, 大場美緒, 政時和美, 山口馨子, 中井裕子, 古庄夏香 (2022) : 成人急性看護学実習におけるシミュレーション教育を取り入れたハイブリッド型学内実習の実践報告, 福岡県立大学看護学研究紀要, 第 19 巻
- ・ 山口馨子, 笹山万紗代, 大場美緒, 村田和子, 中井裕子, 福田和美 (2022) : クリティカルケア実習における看護学生の体験－フォーカス・グループインタビューの分析, 福岡県立大学看護学研究紀要, 第 19 巻
- ・ 政時和美, 大場美緒, 古庄夏香, 中井裕子, 村田和子, 笹山万紗代, 山口馨子, 福田和美 (2022) : 学内での対面とオンラインを組み合わせた成人慢性看護学実習の取り組み, 福岡県立大学看護学研究紀要, 第 19 巻

② その他最近の業績

<学会発表>

- ・ Kazuko Murata, Kazumi Fukuda, Hisako Nakao : Awareness of Nurses on Patient Family Participation in Postoperative Delirium Care, Poster, 28th East Asian Forum of Nursing Scholars. 2025. KOREA
- ・ Kazumi Fukuda, Kazuko Murata, Hisako Nakao : Conditions of Patient Family Cooperations as Encouraged by Nurses Providing Postoperative Delirium Care, Before and After the Outbreak of COVID-19, Poster, 28th East Asian Forum of Nursing Scholars. 2025. KOREA
- ・

② 過去の主要業績

- ・ 小田正枝, 下舞紀美代, 安藤敬子, 中西順子, 村田和子, 古川秀敏, 古庄夏香他, 『大特集 看護計画まで見せます！実習でよく挙げる看護診断ベスト 10』, プチナース, 第 18 巻, 第 13 号, 2009, 照林社
- ・ 宇井進, 中川晋, 縦山幸彦, 廣谷隆, 田畑稔, 安藤恵美子, 川渕いづみ, 相良恭子, 星まき子, 菊川智恵, 伊勢田礼子, 村田和子, 中島千夏代, 立石由紀子, 『心疾患テクニカルチェックークリニカル

パスにみるナーシングケア』, 第I章(4)「大動脈弁膜症」, 第I章(8)「心不全」, 第I章(9)「感染性心内膜炎」, 第III章(3)「IABP」を担当, メディカ出版

.

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本看護学教育学会

6. 担当授業科目

成人老年看護学Ⅰ（急性期）・2単位・2年・後期、成人老年看護学Ⅱ（回復期・慢性期）・2単位・2年・後期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、クリティカルケア・周術期看護演習・2単位・3年・前期、セルフケア支援演習・2単位・3年・前期、成人老年急性期看護学実習・3単位・3年・後期、成人老年慢性期看護学実習・3単位・3年・後期、卒業研究・2単位・4年・通年、統合実習・2単位・4年・通年

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

10. 今年度の自己評価

成人老年看護学の講義では、学生が疾患や患者のイメージができるような事例を作成し、事例をもとに授業を行うことで、臨地実習前の学生にも理解できるよう工夫をしている。また、セルフケア支援演習やクリティカルケア・周術期看護演習ではシミュレーション教育をとり入れ、リアリティのある状況下で学生の思考力が高まるよう工夫したことが教育の充実につながったと考える。臨地実習では学生に既習の知識を想起してもらい、根拠に基づいたアセスメントや看護援助が行えるように丁寧に指導を行い、サポートすることができた。

看護学部	職名	講師	氏名	安河内 静子
------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

九州大学医学部附属病院周産母子センターで勤務(助産師), 福岡市保健福祉センターで勤務(保健師)した後, 2004年4月より本学に着任, 現在に至る。国際医療福祉大学大学院保健医療学専攻課程修了。女性がエンパワーメントしていく過程を支援するマザークラスの開催, 育児サロンの開催, 小中学校での性教育など思春期保健から女性のライフサイクルを見据えた教育活動を行ってきた。研究分野は妊産婦の禁煙プログラムに関する研究, 乳児の皮膚と洗浄法に関する研究などに取り組んできた。現在は, 妊娠期から産後の母親のボンディング支援に関する研究に取り組んでいる。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・ 吉田静, 安河内静子, 佐藤繭子, 清水夏子, 石村美由紀, 道園亜希. 学内における女性看護学実習に関する実践報告～妊娠期から子育て期に渡る母子との関わり～. 福岡県立大学看護学部紀要 2024 ; 21, 35-42.
- ・
- ・

② その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 安河内静子, 田嶋昌枝, 松山まどか, 永松美雪, 佐藤香代. 福岡県助産師会における産後ケア事業の実態と課題ー安全対策強化に向けてー. 日本母性衛生学会学術集会 2024.10.18 (宮崎)
- ・
- ・

② 過去の主要業績

- ・ 古田祐子, 安河内静子. 簡易型 S 皮膚洗浄法が肌トラブルを有する乳児と実施者である養育者に及ぼす影響, 福岡県立大学看護学部紀要 2016 ; 15, 11-20.
- ・ 安河内静子. 古田祐子, 佐藤香代. (2015) 大学院における助産師教育に対するニーズ調査, 福岡県立大学看護学部紀要 14, 福岡県立大学, 53-62.
- ・ 安河内静子, 佐藤香代, 吉田静, 石村美由紀, 森純子, 鳥越郁代. (2010) 医療者が「身体感覚活性化マザークラス」を体験した効果ー体験録の分析からー. 福岡県立大学看護学部紀要 7 (2), 63-71.

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本助産師会, 日本母性衛生学会, 日本助産学会, 日本思春期学会

6. 担当授業科目

【看護学部】教養演習・1単位・1年・前期、リプロダクティブヘルス看護学・2単位・後期、リプロダクティブヘルス看護学演習・1単位・3年・前期, リプロダクティブヘルス看護学実習・2単位・3～4年・通年、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年, 卒業研究・2単位・4年・通年.

【看護学研究科】基礎助産学演習・2単位・1年・通年、コミュニティ助産学特論・1単位・1年・後期、コミュニティ助産学演習・2単位・1年・後期、助産実践学Ⅰ・2単位・1年・前期、助産実践学Ⅱ・4単位・1年・通年、助産実践学Ⅲ・2単位・前期, 助産学実習Ⅰ・1年・前期・1単位、助産学実習Ⅱ・8単位・1年・後期、助産学実習Ⅲ・3単位・2年・通年、助産学実習Ⅳ・2単位・後期・助産学実習Ⅴ・1単位・2年・通年.

7. 社会貢献活動

日本思春期学会理事
福岡県田川保健所感染症診査協議会委員
福岡県助産師会理事（筑豊地区理事）

8. 学外講義・講演

福岡県助産師会主催「オンライン調査による倫理的配慮の実際」
福岡県助産師会主催「安全対策委員会研究報告」

9. 附属研究所の活動等

看護学部	職名	講師	氏名	安永薫梨
------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

2004年3月に福島県立医科大学大学院看護学研究科修士課程修了。

2004年4月より本学に着任。

現在、研究に関しては「統合失調症患者の暴力防止に向けたディエスカレーションにおける精神科看護師の実践」について取り組んでいます。

教育に関しては、学生が自分自身の内と外の安全感を確かめながら、自己理解、他者理解を深めると共に、オレム－アンダーウッドのセルフケアモデルを、精神疾患を持つ患者に対し、展開できるよう講義、演習、実習を行っています。

今後も、さらに精神疾患を持つ患者の力動的な理解を深め、患者が本当に求めているものは何か、を探求し、患者が望む生活の実現に向け、教育、研究、実践に取り組んでいきたいと思っております。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・ 安永薫梨(2025). 精神科看護師の心的安全空間生成に関する尺度開発に向けた因子分析.福岡県立大学看護学研究紀要,第22巻,p1-11.
- ・ 川野雅資,安永薫梨,他(2022). 精神科看護ポケットガイド,p16-19,東京：中央法規.
- ・

② その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 安永薫梨 (2024).精神科看護師による患者の暴力防止に向けた支援に関する文献検討.日本精神保健看護学会学術集会・総会プログラム・抄録集 34回 p157.
- ・ 安永薫梨, 宇佐美しおり(2023)精神科看護師の不安と心的安全空間生成との関連に関する文献検討.日本精神保健看護学会学術集会・総会プログラム・抄録集 33回 p126.
- ・
- ・ 松橋美奈, 宇佐美しおり, 石飛マリコ, 遠藤恵美, 森本早弥果, 安永薫梨, 山岡由実(2023) 高度実践看護を推進する科学的臨床事例研究.日本精神保健看護学会学術集会・総会プログラム・抄録集 33回,p65.
- ・ 安永薫梨.(2022).精神科看護師の不安に関するセルフケアについての文献検討. PASセルフケアセラピィ看護学会第5回大会抄録集,p20.
- ・

③ 過去の主要業績

- ・ 安永薫梨.(2015).「精神科看護における患者から看護師への暴力(Violence)」に関する文献レビュー. 日本精神保健看護学会誌, 24(1),1-11.
- ・ 安永薫梨.(2011). 精神疾患をもつ患者が看護師への暴力を思いとどまったその思いと試み.日本精神保健看護学会誌.20(2),21-27.
- ・ 安永薫梨.(2006). 精神科閉鎖病棟における患者から看護師への暴力の実態とサポート体制, 日本精神保健看護学会誌, 15(1), 96-103.

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本看護研究学会、日本精神保健看護学会、日本看護科学学会、日本看護学教育学会、日本看護協会、日本専門看護師協議会、日本精神科看護協会、日本こころの安全とケア学会

6. 担当授業科目

<学部>

環境への適応と看護・1単位・1年・後期、医療安全・1単位・2年・前期、精神看護学・2単位・2年・後期、精神看護学演習・2単位・3年前期、精神看護学実習・2単位・3年後期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、統合実習・2単位・4年・通年、卒業研究・2単位・4年・通年

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

出前講義：心の中の安全空間. 福岡県立新宮高等学校(2024.10.24).

9. 附属研究所の活動等

10. 今年度の自己評価

今年度の自己評価については概ね良好である。なぜなら、教育に関しては、精神看護学演習に電子カルテ教材を用いたシミュレーション教育を導入し、精神看護学実習での看護技術習得向上につなげることができた。研究に関しては、精神科看護師の心的安全空間生成に関する研究報告をまとめることができた。さらに、精神科看護師の暴力防止に向けた看護実践に関するデータ収集と分析を開始することができた。社会貢献については、高校で出前講義を行い、高校生の大学進学へのモチベーション向上に寄与できたためである。

看護学部／看護学科	職名	講師	氏名	吉川 未桜
-----------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

教育学修士、看護学学士。小児看護学教育方法、看護と保育の協働・連携、医療や健康・保健に関する絵本制作、看護職による子育て支援、小児訪問看護に関する研究などに取り組んでいる。小児看護学教育方法に関する研究では、学生が根拠ある適切な小児と家族への看護実践能力を身につける教育の探求を行っている。また、地域の幼稚園・保育園における健康教育や、保育と看護の協働に関する研究など、地域社会のあらゆる健康段階の子どもと家族が、より健康で健やかに成長発達できる看護支援の充実を目指している。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・ 吉川未桜. 田中美樹. 吉田麻美. 中原雄一. 菅原航平. 杉野寿子. 保育学生と看護学生が協同制作した医療絵本の評価と課題. 福岡県立大学人間社会学部紀要第 33 巻 2 号. 2025 年 3 月.
- ・ 田中美樹. 吉川未桜. 吉田麻美. 杉野寿子. 中原雄一. 池田孝博. 入院中の子どもを支える保育士と看護師の専門性を活かした協働 第 3 報－協働のためのコンピテンシー－. 福岡県立大学看護学部紀要第 22 巻. 2025 年 3 月.
- ・ 松尾ひとみ (編著) 小神野雅子. 田中美樹. 濱田裕子. 平田美佳. 藤田紋佳. 本田真也. 吉川未桜 (著). 子どもの生活機能の発達とからだの仕組み－看護形態機能学の視点から. 2024 年 3 月 31 日初版. 金芳堂.
- ・ 石原実結. 太田歩花. 堀田彩 (制作). 杉野寿子. 田中美樹. 吉川未桜. 吉田麻美. 池田孝博. 中原雄一 (変集). がんばれ！てんてきマン. 令和 5 年度福岡県立大学附属研究所研究奨励交付金重点領域研究. 子どもの最善の利益のための看護師と保育士の協働と連携に関する研究 (絵本プロジェクト). 2024 年 3 月 31 日初版. 福岡県立大学附属研究所.
- ・ 久保遥. 佐藤未唯. 白瀧姫翠 (制作). 杉野寿子. 田中美樹. 吉川未桜. 吉田麻美. 池田孝博. 中原雄一 (編集). MRI ってなあに?. 令和 5 年度福岡県立大学附属研究所研究奨励交付金重点領域研究. 子どもの最善の利益のための看護師と保育士の協働と連携に関する研究 (絵本プロジェクト). 2024 年 3 月 31 日初版. 福岡県立大学附属研究所.
- ・ 吉川未桜. 田中美樹. 吉田麻美. 中原雄一. 杉野寿子. 池田孝博. 入院中の子どもを支える保育士と看護師の専門性を活かした協働 第 2 報－協働の現状と課題－. 福岡県立大学看護学部紀要第 20 巻. 2023 年 3 月.
- ・ 田中美樹. 吉川未桜. 吉田麻美. 中原雄一. 杉野寿子. 池田孝博. 入院中の子どもを支える保育士と看護師の専門性を活かした協働 第 1 報－業務内容の現状分析－. 福岡県立大学看護学部紀要第 20 巻. 2023 年 3 月.
- ・ 田中美樹. 吉川未桜. 吉田麻美. 杉野寿子. 中原雄一. 池田孝博. 新型コロナウイルス感染症拡大による入院中の子どもを支える上での看護師と保育士の困難感. 福岡県立大学人間社会学部紀要第 31 巻 2 号. 2023 年 3 月.
- ・ 平塚淳子. 猪狩崇. 中村美穂子. 小野順子. 吉川未桜. 吉田麻美. 田中美樹. 山下清香. 櫛直美. 尾形由起子. A 県における訪問看護ステーションの BCP 策定における現状と課題. 福岡県立大学看護学部紀要第 20 巻. 2023 年 3 月.
- ・ 杉野寿子. 吉川未桜. 田中美樹. 吉田麻美. 池田孝博. 中原雄一. 入院中の子どもの権利と家族の QOL

に関する課題，福岡県立大学人間社会学部紀要第 31 卷 1 号，2022 年 10 月。

- 吉川未桜，吉田麻美，平塚淳子，中村美穂子，大場美緒，小野順子，猪狩崇，山下清香，田中美樹，櫛直美，尾形由起子，新型コロナウイルス感染拡大下における訪問看護ステーションの困難と対応，福岡県立大学看護学部紀要第 19 卷，2022 年 3 月。
- 田中美樹，吉川未桜，尾形由起子，櫛直美，吉田麻美，小児訪問看護における訪問看護師の困難感と同行訪問研修の試み，福岡県立大学看護学部紀要第 19 卷，2022 年 3 月。
- 櫛直美，尾形由起子，小野順子，中村美穂子，大場美緒，吉田麻美，猪狩崇，平塚淳子，田中美樹，吉川未桜，山下清香，在宅医療推進における訪問看護ステーション連携への取組に関する一考察，福岡県立大学看護学部紀要第 19 卷，2022 年 3 月。
- 小野順子，山下清香，中村美穂子，中本亮，櫛直美，田中美樹，吉川未桜，吉田麻美，尾形由起子，A 県における訪問看護ステーションの災害対策の現状と課題－災害時の在宅療養継続に向けて－，福岡県立大学看護学部紀要第 19 卷，2022 年 3 月。

②その他最近の業績

<学会発表>

- 田中美樹，吉川未桜，吉田麻美，杉野寿子，古野憲司，療養中のこどもの”こころの準備”を支えるための絵本プロジェクト，第 33 回日本外来小児科学会，岐阜，2024 年 9 月。
- 吉川未桜，吉田麻美，田中美樹，小児のフィジカルアセスメント技術の段階的習得を目指して－保育園年長クラスの子どもの演習参加の試み－，第 23 回九州・沖縄小児看護教育研究会，鹿児島，2023 年 8 月。
- 吉田麻美，山下清香，小野順子，吉川未桜，田中美樹，岡田麻里，尾形由起子，歩ける医療的ケア児の母親の子育てに適応していくプロセスの検討，日本看護研究学会第 48 回学術集会（オンライン）ポスター発表，2022 年 8 月。

③過去の主要業績

- 吉川未桜，青野広子，田中美樹，宮城由美子，赤ちゃん先生プログラムを取り入れた小児看護技術演習の効果，福岡県立大学看護学部紀要 13 卷 1 号，2016 年 3 月。
- 青野広子，吉川未桜，田中美樹，江上千代美，宮城由美子，小児看護技術支援における看護学部 4 年生の看護技術動作の傾向と感想の検討，福岡県立大学看護学部紀要 13 卷 1 号，2016 年 3 月。
- 吉川未桜，青野広子，田中美樹，宮城由美子，小児看護学演習における赤ちゃん先生プログラム導入の試み，福岡県立大学看護学部紀要 12 卷 1 号，2015 年 3 月。

3. 外部研究資金

文部科学省科学研究費補助金（基盤研究 C）研究代表者「親ががんと診断された子どものためのプレパレーションツール開発」R6 年度～R8 年度，130 万円

4. 受賞

5. 所属学会

日本看護科学学会. 日本小児看護学会. 日本看護研究学会. 日本小児保健協議会. 日本保育園保健学会. 日本子ども健康科学学会. 九州・沖縄小児看護教育研究会

6. 担当授業科目

小児看護学・2単位・2年・後期. 小児看護学演習・2単位・3年・前期. 小児看護学実習・2単位・3年後期. 統合実習・2単位・4年・通年. 専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年. 卒業研究・2単位・4年・通年. 小児看護学特論・2単位・M1～2年・前期

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

- ・博多女子高校出前講義「小児科の看護師さんって？」2024年7月25日. 福岡市.
- ・令和6(2024)年度ファミリーサポートセンター会員養成講習会「小児看護の基礎知識」2024年10月8日. 田川市.

9. 附属研究所の活動等

令和6年度福岡県立大学附属研究所研究奨励交付金(COC研究)「療養中の子どもの“こころの準備”を支えるための絵本プロジェクト」研究分担者

10. 今年度の自己評価

学生が既習知識を用いて主体的に学びを深められるよう授業方法の工夫・改善を毎年行っています。今年度は事例のアセスメント技術演習での教材制作や提示方法の工夫、地域の乳幼児・保護者や近隣保育園の園児・保育士に参加していただくアクティブラーニング型演習などを多く取り入れ、学生の意欲や実践力向上につながったと評価しています。附属研究所奨励研究では、人間社会学部の先生方と共に医療絵本の翻訳版制作・臨床評価に関する研究に取り組みました。今後も他職種連携による研究を継続してまいります。

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	猪狩崇
-----------	----	----	----	-----

1. 教員紹介・主な研究分野

2016年に着任し、2018年度までヘルスプロモーション看護論、2019年からは地域・在宅看護論に属してとくに地域・在宅看護や地域包括ケアシステムにかかわる研究を進めています。大学院では理論看護学を専攻し、理論看護学（看護学概論）に属します。また近代看護成立史にも興味があり、とくにドイツの看護史が近代看護の成立にあたって果たした役割について研究を進めています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 猪狩崇：「もう一人の父」フリートナー牧師と F.ナイチンゲール（以下 F.N.）—‘A new art and science’の背後にひそむ F.N.の認識とは—ナイチンゲール研究 No.13（ナイチンゲール生誕 200 年記念号）、ナイチンゲール研究学会 2025 年 3 月末までに刊行予定（アクセプトは 2023 年 9 月 22 日）
- ・ 平塚淳子、猪狩崇、中村美穂子、小野順子、吉川未桜、吉田麻美、田中美樹、山下清香、櫛直美、尾形由起子：A 県における訪問看護ステーションの BCP 策定における現状と課題、福岡県立大学看護学部研究紀要 第 20 巻 共著、2023.3 月

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 猪狩崇 ナイチンゲール看護論の人間観を伝える看護対象論教育の試み ナイチンゲール研究学会 第 44 回学術懇談会 2024.10.6
- ・ Takashi IGARI, Makoto MASUMITSU, Junko HIRATSUKA, Shinobu MAKIUCHI, Toyohiko KODAMA, Satoko CHO, Yoko ISHIBASHI, Naoki HARADA, Tsuyako HIDAKA, Kencho MATSUURA: Literature Review on the Ongoing Crises Faced by Nurses at Home and Abroad in the Period Leading up to ‘the Fifth Wave’ of COVID-19 in Japan ; JANS43th., (ポスター発表)、Dec.8, 2023.
- ・ 猪狩崇 〈寄稿〉ナイチンゲール生誕 200 年に寄せて 私とナイチンゲール—学問への道の水先案内人としての彼女— ナイチンゲール研究 No.13 ナイチンゲール生誕 200 年記念号、ナイチンゲール研究学会、2025 年 3 月末までに刊行予定（アクセプトは 2023 年 10 月 28 日）
- ・ 猪狩崇 F.ナイチンゲールの‘もう一人の父’T.フリートナー牧師が果たした役割 ナイチンゲール研究学会第 43 回学術懇談会 2023.10.1

③過去の主要業績

- ・ 猪狩崇、石崎 龍二、櫛直美、柴田 雅博、小野 順子、檜橋 明子、杉本 みぎわ、尾形由起子：地域包括支援ケアシステム構築へ向けて人的ネットワーク形成・運営に関する一考察；福岡県立大学看護学部研究紀要 16 号, 161-128, 2019.3.31（H30 年度研究）。
- ・ 猪狩崇、石崎 龍二、櫛直美、柴田 雅博、小野 順子、檜橋 明子、杉本 みぎわ、尾形 由起子：地域包括ケアシステム構築に向けた地域医療情報連携ネットワークシステム導入に関する一考察；福岡県立大学看護学部研究紀要 15 号, 83-90, 2018 .3.31（H29 年度研究）。
- ・ 猪狩崇：対応困難な事例にしないための対象理解の構造（博士学位論文）；看護科学研究第 8 号、

p.25-40, 看護科学研究学会. 2013.

3. 外部研究資金

研究代表者 松浦賢長 研究分担者 猪狩 崇：科研費 基盤研究 B（一般）エッセンシャルワーカーとしての看護師の継続する危機への適応力教育パッケージの開発；16380,000 円、令和 4 年度ー令和 7 年度

4. 受賞

なし

5. 所属学会

看護科学研究学会、ナイチンゲール研究学会、日本看護科学学会、宮崎県立看護大学看護学研究会

6. 担当授業科目

地域・在宅看護論 2 単位 2 年、家族看護学 単位 1 年、チーム医療論 1 単位 1 年、地域・在宅看護論演習 1 単位 3 年、在宅看護学実習 2 単位 3 年、暮らしを知る実習 1 単位 1 年、暮らしの中の看護を知る実習 1 単位 2 年、専門看護学ゼミ 2 単位 3 年、卒業研究ゼミ 2 単位 4 年

7. 社会貢献活動

添田町協議体アドバイザー

添田町地域包括支援センター運営協議会委員

8. 学外講義・講演

「高齢者集いの場ガイド」基調講演 講師 2025 年 2 月 21 日 添田町社会福祉協議会

9. 附属研究所の活動等

なし

10. 今年度の自己評価

令和 6 年度はもう一本原著論文を刊行する予定で、原稿はひとまず書き上げましたが、新規の実習など担当科目が増えたこともあり、教育業務優先で投稿には至りませんでした。あと一步のところであったので、次年度中には投稿、発表まで完了する予定です。

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	植田 愛
-----------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

福岡県立大学看護学部を卒業後、総合病院の精神科で看護師として勤務しました。その後、福岡県立大学大学院看護学研究科修士課程を終了し大学教員として6年間勤務し、2023年4月より福岡県立大学に着任しました。2024年にレジリエンストレーナーの資格を取得したため、今後、学生のレジリエンスや精神疾患の両親をもつ子どものレジリエンスを高めるための研究を行っていききたいと考えています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 安藤愛，後藤有紀，前田由紀子：精神科における長期入院患者のストレスに焦点をあてた看護の特徴に関する文献研究．西南女学院大学紀要，26，15-23，2022
- ・ 中本亮，安藤愛，宮崎初，坂部滯：被害妄想に対する介入に関する文献レビュー．福岡県立大学看護学研究紀要，19，35-43，2022
- ・ 井手裕子，坂部滯，坂本未穂，水原美地，橋本真弥，石井奈央，安藤愛：新型コロナウイルス感染症流行下の看護学各論代替実習における看護学生の学びに関する文献研究．西南女学院大学紀要，27，105-117，2023

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 松枝美智子,光永憲香,脇崎裕子,植田愛,倉持裕子,増満誠,高野歩,中本亮,池田智,児玉裕子,安保寛明：COVID-19に罹患した利用者をケアした経験を持つ訪問看護師のMoral Injuryに繋がる状況．第44回日本看護科学学会学術集会（熊本）．2024年12月
- ・
- ・

③過去の主要業績

- ・
- ・
- ・

3. 外部研究資金

- ・ 科学研究費助成事業，基盤研究(B)，エッセンシャルワーカーとしての看護師の継続する危機への適応力教育パッケージ開発,令和4-7年度,分担研究者（研究代表者：松浦賢長）
- ・ 科学研究費助成事業，基盤研究(C)，高度実践看護師の患者との対話場面における沈黙の意味解釈と活用技法の検討，令和3～6年度，分担研究者（研究代表者：増満誠）
- ・ 科学研究費助成事業，基盤研究(C)，日本版Moral Injury尺度の作成と信頼性・妥当性の検証，令和4～8年度，分担研究者（研究代表者：松枝美智子）

4. 受賞

5. 所属学会

日本精神保健看護学会、日本看護科学学会

6. 担当授業科目

環境への適応と看護・1単位・1年・後期、暮らしの中の看護を知る実習・1単位・前期、災害看護学・1単位・2年・後期、精神看護学・2単位・2年・後期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、精神看護学演習・2単位・3年・前期、精神看護学実習・2単位・3年・後期、卒業研究・2単位・4年・通年、統合実習・2単位・4年・通年

7. 社会貢献活動

フードバンク活動、子ども食堂におけるボランティア活動

8. 学外講義・講演

授業参観（高校生への授業公開）：環境への適応と看護「リカバリーを支えるストレングスモデル - 自分のストレングスを知ろう！」

9. 附属研究所の活動等

10. 今年度の自己評価

今年度は、新しい担当科目が増え試行錯誤した1年でした。学年に応じた教授方法を見直し、次年度につなげていきたいと思えます。また、レジリエンストレーナーの資格を取得し、スキルアップに向けた準備を行うことができました。次年度は、精神看護学演習の中でレジリエンスを高めるための演習を実践するとともに効果の検証方法についても検討していきたいと考えています。

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	鹿嶋 聡子
-----------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

大学卒業後、看護師として6年間、保健師として3年間、大学教員として約10年間勤務し、大学院修士課程修了後の2022年4月より本学へ着任し、現在は主に基礎看護学の科目を担当しています。主な研究として、看護系大学生のレジリエンスの検討、フィジカルアセスメント教育などを行っています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・
- ・
- ・

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 鹿嶋聡子, 永嶋由理子. 看護系大学生のレジリエンスと達成動機の関連性の検討, 第42回日本看護科学学会学術集会, 2022年12月.
- ・
- ・

③過去の主要業績

- ・ 清村紀子, 鹿嶋聡子, 時吉佐和子他. A地域における中学生へのCPR教育に関する質的評価, 日本臨床救急医学会雑誌, vol.16, No.5, 632-642, 2012.
- ・ 石井美紀代, 鹿嶋聡子, 布花原明子他. 初年度教育における問題解決型学習の効果, 西南女学院大学紀要, vol.16, 25-34, 2012.
- ・ 清村紀子, 梶原江美, 鹿嶋聡子. 看護形態機能学の知識習得に関連したバリアとニードの構造, 西南女学院大学紀要, vol.12, 37-46, 2008.

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本看護科学学会
日本健康医学会

6. 担当授業科目

基礎看護技術論・2単位・1年・後期、看護過程・1単位・2年・前期、フィジカルアセスメント論・2単位・2年・前期、シンプトンマネジメント論・1単位・2年・後期、基礎看護学実習Ⅰ・1単位・1年・前期、基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2年・通年、暮らしの中の看護を知る実習・1単位・2年・前期、暮らしを知る実習・1単位・1年・後期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、卒業研究・2単位・4年・通年

7. 社会貢献活動

・看護技術極め隊（看護技術ワーキング）秋興祭での地域住民への血圧測定、2024年11月10日

8. 学外講義・講演

・公開講座「健診ひろめ隊」養成講座、2024年10月5日、2025年1月11日、2025年3月15日（予定）
・養護教諭リカレント研修、2025年3月8日（予定）

9. 附属研究所の活動等

10. 今年度の自己評価

今年度は教育活動においては担当授業数や役割も増え、昨年度よりも充実した教育内容を実践することができたと考えます。さらに社会貢献活動や学外に向けた活動においても自身の教育活動と連動した内容や地域住民の健康維持に関わる内容に積極的に参加することができました。研究活動においては、活動した内容をまとめて学会での発表や執筆まで至らなかったため、次年度以降の課題としたいと考えます。

看護学部／看護学科・成人老年コース	職名	助教	氏名	清原智佳子
-------------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

老年期の授業および実習を担当させていただいております。研究に関しては老年期の代謝異常関連脂肪性肝（**MAFLD**）および自己愛型パーソナリティ障がい（**NPD**）やセルフコンパッション（自身に対する慈愛）に関する研究を行っております。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・
- ・

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・
- ・
- ・

③過去の主要業績

- ・ 発達障がいを持つ子どもの親を対象に行ったステップングストーンズトリプルP 受講前後のパイロット・スタディ 福岡県立大学看護学研究紀要 第15巻 2018
- ・ 韓国、大邱韓医大学校における韓方医学及び看護短期研修プログラムの開発 福岡県立大学看護学研究紀要 第16巻 2019
C型慢性肝炎患者の疲労感, QOLと身体活動量に関する研究 日本看護研究学会雑誌37 巻2号 2014年

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

- 日本看護研究学会
- 日本看護慢性学会
- 日本赤十字看護学会

6. 担当授業科目

教養演習 1 単位 1 年通年 専門看護学ゼミ 2 単位 3 年通年 卒業研究 2 単位 4 年通年 基礎看護学
実習 I 1 年 1 単位前期 基礎看護学実習 2 年 2 単位前期 クリティカルケア周産期看護学演習 2 単位
3 年前期 セルフケア支援演習 2 単位 3 年前期 成人老年慢性期看護学実習 3 単位 3 年後期

7. 社会貢献活動

筑豊市民大学 アドバイザー (座談会ボランティア)

第 37 回日本福祉学会学術大会 運営 参加支援 2024 年 7 月 6 日～7 月 7 日

8. 学外講義・講演

放送大学支援ツール 午後 問題番号 20 (床上排泄)

筑豊市民大学 講義内容【少し楽になる脳の使い方】

9. 附属研究所の活動等

筑豊市民大学 開催式 修了式 運営参加

10. 今年度の自己評価

新たに本大学と提携協議している筑豊市民大学のアドバイザーとなり社会貢献として会議および講義をさせていただいた。また、成人老年看護学が新規カリキュラムとなり新たな環境下で実習や演習授業に関して微力ながら務めさせていただいた。また、コロナ明け初めて学会に出席することができた。2023 年度に 3 ヶ月の病休職を取得後の復帰であり、自身と葛藤しながら周りの協力のお陰により 1 年間努力することができた。自身の課題としては長期にわたり研究を怠っているため最終年度 (定年退職) は研究に力を入れたい。

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	笹山 万紗代
-----------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護師として手術室・SICUでの臨床経験を経て2017年より本学に着任し、成人老年看護学、統合実習に携わっています。演習ではシミュレーション教育を取り入れ、学生が患者をイメージできるように関わり、看護技術の習得・アセスメント能力の向上を目指しています。

手術室における新人看護師教育について研究し、2022年に修士(看護学)を取得しました。新人看護師の離職予防・早期の職場定着に向けた看護基礎教育や新人看護師教育について研究していきたいと考えています。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・ 笹山万紗代, 山口馨子, 大場美緒, 御手洗みどり: 周術期看護演習の現状と課題に関する文献検討, 福岡県立大学看護学研究紀要 第22巻, 2025
- ・ 山口馨子, 笹山万紗代, 大場美緒, 村田和子, 中井裕子, 福田和美: クリティカルケア実習における看護学生の体験～フォーカス・グループインタビューの分析～, 福岡県立大学看護学研究紀要 第19巻, 2022
- ・ 村田和子, 笹山万紗代, 福田和美, 大場美緒, 政時和美, 山口馨子, 中井裕子, 古庄夏香: 成人急性看護学実習におけるシミュレーション教育を取り入れたハイブリッド型学内実習の実践報告, 福岡県立大学看護学研究紀要 第19巻, 2022
- ・ 政時和美, 大場美緒, 古庄夏香, 中井裕子, 村田和子, 笹山万紗代, 山口馨子, 福田和美: 学内での対面とオンラインを組み合わせた成人慢性看護学実習の取り組み, 福岡県立大学看護学研究紀要 第19巻, 2022

② その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 笹山万紗代, 石田智恵美: 手術室における新人看護師教育の課題について～新人看護師・教育担当看護師双方の視点から～, 第42回日本看護科学学会学術集会, 広島市, 2022

5. 所属学会

日本看護研究学会、日本看護科学学会、日本手術看護学会

6. 担当授業科目

成人老年看護学Ⅰ(急性期)・2単位・2年・後期、成人老年看護学Ⅱ(回復期・慢性期)・2単位・2年・後期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、クリティカルケア・周術期看護演習・2単位・3年・前期、セルフケア支援演習・2単位・3年・前期、成人老年急性期看護学実習・3単位・3年・後期～4年前期、成人老年慢性期看護学実習・3単位・3年・後期、卒業研究・2単位・4年・通年、統合実習・2単位・4年・通年、日本事情A・2単位・交換留学生・後期

10. 今年度の自己評価

クリティカルケア・周術期看護演習では、グループワークやシミュレーション教育を取り入れることで、単にテクニカルスキルを習得するのではなく、患者の状態アセスメントや状況に応じた対応を

求める工夫をしました。技術試験後の学生感想において、「患者の状態に合わせた実践ができた。」との意見も聞かれ、臨床判断能力修得につながったと考えます。

また、周術期看護演習について文献検討を行い、周術期看護演習の現状と課題について考察しました。今回の文献検討をもとに、来年度の演習のブラッシュアップや自身の看護基礎教育や新人看護師教育の研究につなげていきたいと考えています。

看護学部	職名	助教	氏名	清水 夏子
------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

2010年3月福岡県立大学大学院看護学研究科修士課程を卒業。専攻は看護教育学で、経験型実習教育における教員の教授行動と学生に与える影響に関する研究を行った。近年は、看護学生の東洋（漢方）医学のイメージと受講意欲に関する調査を経て、2023年度からは、東洋（漢方）医学に関する基礎看護教育の実態調査を実施しており、看護基礎教育における東洋（漢方）医学教育の必要性についての検討を継続して実践している。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- 吉田静,安河内静子,佐藤繭子,清水夏子,石村美由紀,道園亜希：学内における女性看護学実習に関する実践報告. 福岡県立大学看護学研究紀要. 21. 2024.3

②その他最近の業績

<学会発表>

- 清水夏子. (2023). 看護基礎教育における東洋（漢方）医学教育の必要性-看護大学生に対するアンケート調査結果より-. シンポジウム「漢方でさらに深める看護の魅力～教育から実践まで～」. 第73回日本東洋医学会学術総会. 福岡

③過去の主要業績

- 安酸史子編集. 清水夏子, 他. 経験型実習教育. pp240-252. 東京. 医学書院. 2015.
- 清水夏子, 石田智恵美：看護学生の東洋（漢方）医学のイメージと「東洋医学概論」の受講意欲に関する調査研究. 福岡県立大学看護学研究紀要. 14 (1). 2017.
- 清水夏子. (2018). 漢方教育導入から9年 - 福岡県立大学における東洋医学概論のあゆみ -. 共催セミナー(招聘講演). 第28回日本看護学教育学会学術集会. 神奈川.

3. 外部研究資金

[研究種別・研究期間・交付金額] 基盤研究(C)一般, 令和5年～令和9年度, 3,300千円

[研究課題] 東洋（漢方）医学に関する基礎看護教育の実態調査と現役看護師に対する教育効果の検討

4. 受賞

5. 所属学会

日本看護科学学会, 日本看護学教育学会, 日本東洋医学会, 日本看護研究学会

6. 担当授業科目

暮らしの中の看護を知る実習・1単位・2年, 基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2～4年・通年,
リプロダクティブヘルス看護学実習・2単位・3年・通年, 専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年,
卒業研究・2単位・4年・通年, 東洋医学概論・1単位・2年・前期, ケアリング論・2単位・3年・
前期, リプロダクティブヘルス看護学演習・2単位・3年・前期, 小児看護学演習・2単位・3年・前
期,

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

10. 今年度の自己評価

近年の医療では、老若男女問わず東洋医学の需要が高まっている。看護師もその知識・技術は必然的に求められてくると考え、看護基礎教育での東洋医学教育導入に関する研究を長年努めている。本学では、平成 22 年度より東洋医学の概論教育を実施し、これまで継続的にかかわってきた。今年度は、本学の看護学部生に対し、東洋医学の魅力や学ぶ必要性の周知に努め、漢方を体験してみる等の工夫を凝らした講義を担当した。その結果、受講者数は、昨年度よりも3倍以上増加した。受講後の学生からの意見として、「看護に東洋医学(漢方)教育が必要である」「今後の看護に生かせる学びがあった」等の声が多く聞かれ、満足度の高い講義を実践することができた。

また演習・実習教育において特記すべきこととして、本学の新カリキュラムである「リプロダクティブヘルス看護学」教育を実践し、本学3学年の学生全員と年間を通して関わることであった。年齢を超えた性と生殖について、他人ごとではなく自身のこととして、心理的・身体的・社会的側面で『リプロ』的視点をもって学生と共に考えることができた。学生の学びや意見、実習指導を通して今後の看護教育としての示唆を得たことは自分自身の気づきとして大きかった。さらに実習施設の臨床現場においても、看護管理者や実習指導者とリプロダクティブヘルスの捉え方、看護の在り方、教育について、振り返り、検討することができた。以上のことから、基礎看護教育としての教授方法、学生の学び、今後の教育課題について、より明確になった。次年度の自己の課題として、引き続きブラッシュアップしていきたい。

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	新 友子
-----------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

助産師（アドバンス助産師）、看護師、保健師、公認心理士。学士。修士課程在学中。現在挙児希望と産痛の関連や少子化問題、無痛分娩の流行などから女性にとって最大の苦痛である出産の痛みとケアの在り方について研究している。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・ A Perspective on the Declining Birthrate in Japan（日本の少子化についての考察）
九州思春期研究会誌, 2024 （松浦賢長先生との共著）

・
・

② その他最近の業績

<学会発表>

- ・ ケアリングアイランド大学コンソーシアム第113回看護師国家試験学習支援ツール作成
- ・ （公社）全国助産師教育協議会第108回助産師国家試験問題の検討（杉浦,石田）

・

③過去の主要業績

- ・ なし
- ・
- ・

3. 外部研究資金

なし

4. 受賞

なし

5. 所属学会

九州思春期研究会,公益社団法人日本アロマ環境協会,日本思春期学会,母性衛生学会

6. 担当授業科目

リプロダクティブヘルス看護学（2年次後期、1単位）、専門看護学ゼミ（3年通年、2単位）、リプロダクティブヘルス看護学演習（3年次前期、2単位）、リプロダクティブヘルス看護学実習（3年次、2単位、後期）、卒業研究（4年次、通年2単位）

7. 社会貢献活動

なし

8. 学外講義・講演

なし

9. 附属研究所の活動等

なし

10. 今年度の自己評価

本年度より新カリキュラムとして3年生の演習スタイルをがらりと変更し、少人数グループで時間ごとに技術習得ブースを回るプランを考案し、臨床推論型の思考を養うシミュレーション教育を取り入れた。これによりマタニティ看護技術が向上し、実習先でも学生が技術の実施に積極的な姿勢がみられたが、看護過程の展開を演習で行わなかったためアセスメント力の低下が課題として挙げられている。今後とも教育の充実や改善に取り組みたい。

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	田原千晶
-----------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

<自己紹介>

看護師として小児病棟・GCU に勤務後、平成 29 年度より本学に着任した。小児病棟・GCU では、急性期から慢性期、内科から外科まで幅広い小児看護に携わり、子どもの成長や発達を促す看護について考え、実践してきた。特に、長期入院やターミナル期の子どもについては、入院しているために制限される遊びやお祝い事などを中心に、1人ひとりの子どもや家族の気持ちに寄り添い、両者の思いや願いをかなえる看護を創造することに力を注いできた。

平成 29 年に本学に着任し、基礎看護・小児看護・在宅看護・学校保健等の科目の補助を行った。令和 5 年度に看護学修士課程を修了し、現在は、地域・在宅看護に所属している。

<主な研究分野>

近年、医療技術の進歩により子どもの救命率は向上し、NICU を退院後、引き続き人工呼吸器や胃瘻を使用し在宅医療を受ける子どもは増加している。国の施策により地域包括ケアの整備が進み、在宅療養を行う人が増え、訪問看護利用者は年々と増加している。15 歳未満の訪問看護利用者も同様に年々と増加し、令和元年には 18,000 人を超えている。

しかし、令和 5 年度における福岡県の子どもを受け入れている訪問看護事業所の割合は 35.6%であり、半数に及んでいない現状にある。子どもの訪問看護事業所の少ない理由の一つに【小児看護の知識・技術の不足】が報告されているが、その詳細は明らかにされていない。そこで、訪問看護師における小児の知識・技術の獲得に向けた研究を進めており、現在、質問紙調査に取り組んでいる。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 梶原由紀子, 原田直樹, 田原千晶, 松浦賢長 (2022). 養護教諭の危機対応に関する研修についての調査研究, 福岡県立大学看護学部紀要, 第 19 巻 57-68.
- ・ 原田直樹, 梶原由紀子, 田原千晶, 増満誠, 松浦賢長, (2022). 元不登校児童生徒とその保護者の不登校をめぐる意識差と家族機能についての研究, 福岡県立大学紀要, 第 19 巻 1-12.
- ・

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ なし
- ・
- ・

③過去の主要業績

- ・ なし
- ・
- ・

3. 外部研究資金

なし

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本看護協会、日本保健福祉学会

6. 担当授業科目

暮らしを知る実習・1単位・1年・後期, 基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2年・通年, 暮らしの中の看護を知る実習・1単位・2年・前期, 災害看護学・1単位・2年・後期, 地域・在宅看護論演習・2単位・3年・通年, 地域・在宅看護論・2単位・2年・後期

7. 社会貢献活動

- ・子ども食堂におけるボランティア
- ・放送大学看護師国家試験学習支援ツール分担製作者（2024年）

8. 学外講義・講演

なし

9. 附属研究所の活動等

なし

10. 今年度の自己評価

助教になり始めて迎える年であり、講義や演習を通し、学生へ教授することの難しさを感じた一年であった。講義と演習、演習と実習との接続を考慮し、次年度の講義や演習内容を見直したいと考えている。

研究に関しては、修士論文を論文投稿できず1年が過ぎてしまったので、次年度は論文投稿することを目標に取り組んでいきたい。

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	中村 美穂子
-----------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

福岡県立大学大学院看護学研究科修士課程修了、修士（看護学）。看護師として呼吸器内科病棟、緩和ケア病棟に勤務、その後 2015 年度より本学へ着任する。これまでの経験の中で、がんを患い、がんによる症状や治療に伴う副作用を持ちながら自宅で過ごす方、残された時間や最期の時を住み慣れた自宅で過ごしたいという患者・家族の想いに触れてきた。しかし現実はそのほとんどが病院での看取りとなり、患者家族の願いを叶えるためには、患者・家族の意向を中心に据えた退院支援及び地域における社会資源の充実と人材育成の必要性を感じている。がん、非がんに関わらず、院内外の看護職及び多職種による退院支援や意思決定支援における連携の促進をテーマに、地域包括ケアシステムの視点もあわせ探究していきたいと考えている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 中村美穂子，山下清香，小野順子，吉田麻美，大塚文，岩崎玲奈「入院早期から退院調整を開始している退院調整実施者の特徴」、『福岡県立大学看護学紀要』，21 卷，福岡県立大学，2024 年 3 月。
- ・
- ・

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・
- ・
- ・

③過去の主要業績

- ・ 〈著書〉
 - ・ 尾形由起子，山下清香編，山下清香，中村美穂子．「第 5 章 演習から実習の展開」、『地域包括ケアをすすめる公衆衛生看護学 演習・実習』，クオリティケア，2019 年。
- ・ 〈論文〉
 - ・ 榎直美，尾形由起子，小野順子，中村美穂子，大場美緒，吉田麻美，猪狩崇，平塚淳子，田中 美樹，吉川未桜，山下清香．「在宅医療推進における訪問看護ステーション連携への取組に関する一考察」、『福岡県立大学看護学紀要』，19 卷，福岡県立大学，2022 年 3 月。
- ・ 〈学会発表〉
 - ・ 中村美穂子，山下清香，小野順子，尾形由起子．「がん患者の退院支援における退院調整看護師の病棟看護師との連携に関する研究 退院調整看護師の認識による連携の促進因子」．第 48 回日本看護研究学会学術集会，愛媛，2022 年 8 月。
- ・
- ・

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本公衆衛生看護学会、日本公衆衛生学会、日本在宅ケア学会、日本地域看護学会、日本看護研究学会

6. 担当授業科目

公衆衛生看護学Ⅰ（2単位，2年前期），専門看護学ゼミ（2単位，3年通年），公衆衛生看護アセスメント論Ⅰ（2単位，3年通年），卒業研究（2単位，4年通年），公衆衛生看護学Ⅱ（2単位，4年前期），公衆衛生看護技術論Ⅰ（2単位，4年前期），公衆衛生看護技術論Ⅱ（2単位，4年前期），公衆衛生アセスメント論Ⅱ（2単位，4年前期），公衆衛生看護学実習Ⅰ（1単位，4年前期），公衆衛生看護学Ⅲ（1単位，4年後期），公衆衛生看護管理論（2単位，4年後期），組織協働活動論（2単位，4年後期），公衆衛生看護学実習Ⅱ（4単位，4年後期）、統合実習（2単位，4年前期）

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

・令和6年度附属研究所重点領域研究「生活習慣病の重症化による慢性腎臓病（CKD）のリスクアセスメント」研究メンバー

10. 今年度の自己評価

保健師教育において、疾病だけでなく対象者の価値観や生活史を捉えたアセスメントと共に、介護や育児などのライフイベントの中で人々が健やかに暮らすことができる支援技術の習得に繋がるよう、現場の保健師をゲストに招き共に演習内容を工夫した。また、地域診断を用いて地域をアセスメントし健康課題を抽出する思考について、データ収集や地区踏査、実習内容を結び付け学ぶことができるよう教育に取り組んだ。

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	平塚淳子
-----------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

病院の看護師として勤務した後、平成 27 年に福岡県立大学大学院看護学研究科修士課程を修了し、平成 29 年より看護学部に着任いたしました。教育では、地域・在宅看護に関わる科目を担当しています。研究では、在宅看護、リスクマネジメントに関する研究を行っています。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- 平塚淳子, 猪狩崇, 中村美穂子, 小野順子, 吉川未桜, 吉田麻美, 田中美樹, 山下清香, 櫛直美, 尾形由起子. A 県における訪問看護ステーションの BCP 策定における現状と課題. (2023) 福岡県立大学看護学研究紀要.

櫛直美 尾形由紀子 小野順子 中村美穂子 大場美緒 吉田麻美 猪狩崇 平塚淳子 田中美樹 吉川美桜 山下清香. (2022) 在宅医療推進における訪問看護ステーション連携への取組に関する一考察. 福岡県立大学看護学研究紀要.

吉川未桜・吉田麻美・平塚淳子・中村美穂子・大場美緒・小野順子・猪狩崇・山下清香・田中美樹・櫛直美・尾形由起子. (2022) 新型コロナウイルス感染拡大下における訪問看護ステーションの困難と対応. 福岡県立大学看護学部紀要. 第 19 巻.

・
・

②その他最近の業績

<学会発表>

- Takashi Igari, Makoto masumitsu, Junko Hiratsuka, Shinobu Makiuchi, Toyohiko Kodama, Satoko Cho, Yoko Ishibashi, Naoki Harada, Tsuyako Hidaka, Kencho Matsuura. Literature Review on the Ongoing Crises Faced by Nurses at Home and Abroad in the Period Leading up to the Fifth Wave of COVID-19 in Japan. (2023) .The 43rd Annual Conference of Japan Academy of Nursing Science.

Junko Hiratsuka, Toyohiko Kodama, Satoko Cho, Tsuyako Hidaka, Yoko Ishibashi, Makoto masumitsu, Kencho Matsuura. Factors affecting the crisis faced by ward nurses during the COVID-19 pandemic: A review of studies outsides of Japan (2023) .The 43rd Annual Conference of Japan Academy of Nursing Science.

Junko hiratsuka, Takashi igari, Chie namitomi. A study of the nutritional status of older people living in hilly and mountainous areas and attending exercise classes. (2023) .The16 th EAFONS 2023.

・

.

③過去の主要業績

- 平塚淳子. 医療安全風土と医療エラーに関する海外文献レビュー. (2019). 福岡県立大学看護学研究紀要. 第 16 巻, p103-109.
- 平塚淳子. 倫理的風土と職務満足に関する海外文献レビュー (.2018) 福岡県立大学看護学研究紀要. 第 15 巻, p91-96.

.

3. 外部研究資金

研究代表者 松浦賢長. 分担研究者. 平塚淳子. 基盤研究B. エssenシャルワーカーとしての看護師の継続する危機への適応力教育パッケージ開発. 16,380 千円 . 2022 年～2026 年

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本看護科学学会, 日本看護研究学会, 日本看護倫理学会, 日本保健福祉学会

6. 担当授業科目

暮らしを知る実習・1 単位・1 年, 暮らしの中の看護を知る実習・1 単位・2 年, 地域・在宅看護論・2 単位・2 年・後期, 災害看護学・12 年後期, 専門看護学ゼミ・2 単位・3 年・通年, 地域・在宅看護論演習・1 単位・3 年・前期, 在宅看護支援実習・2 単位・3 年・後期,

7. 社会貢献活動

第 37 回日本看護福祉学会学術大会 企画・運営委員
第 12 回日本公衆衛生看護学会学術集会 協力員

8. 学外講義・講演

なし

9. 附属研究所の活動等

なし

10. 今年度の自己評価

地域・在宅看護にかかわる教育では、1年次の「暮らしを知る実習」、2年次の「暮らしの中の看護を知る実習」で獲得した個を通して地域をみる視点を、3年次の「在宅看護支援実習」において、健康課題、生活課題と関連づけて考えることができるように、心がけました。これにより、学生は在宅療養者の生活課題支援に着目できるようになりました。次年度は、これらの学びを4年次の「地域包括支援実習」において、活用できるように、関わっていきたいと考えています。

看護学部	職名	助教	氏名	廣瀬 理絵
------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

2009年福岡県立大学大学院修士課程修了（看護学修士）後、同年にがん看護専門看護師を取得しました。その後5年間、筑豊地域にある医療機関において、がん看護専門看護師として「がん」と共に生きる人、「古い」を生きる人を対象としたエンド・オブ・ライフ・ケアの実践と看護師を対象とした看護倫理教育に携わりました。2015年度より本学へ着任し、現在、看護師や学生を対象とした看護倫理教育と研究に取り組んでいます。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- 塩田 昇, 廣瀬理絵, 松山美幸, 加藤法子, 藏元恵里子, 田中美智子, 江上千代美(2022). 「陣痛促進剤による薬害被害者」の講演を聞いた学生は薬害防止に向け何を思い・感じたか, 福岡県立大学看護学研究紀要, 19,77-87.
- 宮内 信治, 蔡 小瑛, 張 暁春, 前田 樹海, 小西恵美子, 廣瀬 理絵 (2024). 看護倫理における対話の有用性: emic (当事者の視点) と etic (観察者の視点) をめぐって, 日本看護倫理学会誌, 16 巻, 1 号 p. 67-70, 2024.

②その他最近の業績

<学会発表>

- 宮内 信治, 小西 恵美子, 高橋 梢子, 蔡 小瑛, 廣瀬 理絵, 小野 美喜, 山下 早苗, 前田 樹海 (2024)
- 実習中の暴力に対する看護学生の対応例: イラン、中国、日本、日本看護倫理学会第 17 回年次大会.

③過去の主要業績

- 廣瀬理絵 (2015). 「認知機能低下がある終末期高齢がん患者の意思決定支援」, Oncology NURSE, 8 (6) p98-104.
- 廣瀬理絵, 渡邊智子 (2017) .がん看護専門看護師が行う高齢がん患者の意思決定支援, 日本看護科学学会第 37 回学術集会, 仙台.
- 廣瀬理絵, 仲村亜依子, 井原資子, 渡邊智子 (2018) . 急性期病院における看護師を対象とした倫理教育方法の検討, 日本臨床倫理学会第 6 回年次大会, 東京.

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本看護科学学会，日本看護学教育学会，日本看護研究学会，日本看護倫理学会
日本がん看護学会，日本緩和医療学会，日本 CNS 看護学会，日本看護老年学会
日本臨床倫理学会

6. 担当授業科目

基礎看護学概論・2 単位・1 年・前期、基礎看護学実習Ⅰ・1 単位・1 年・前期、看護過程・1 単位・
2 年生・前期、対人関係と看護・1 単位・1 年・前期、教養演習・2 単位・1 年・前期、健康レベル
と看護・1 単位・1 年・後期、基礎看護学実習Ⅱ・2 単位・2 年・通年、看護倫理学・1 単位・2 年・
前期、シンプトンマネジメント論・1 単位・2 年・後期、成人老年看護学Ⅱ・2 単位・2 年・後期、
成人老年看護学Ⅲ・2 単位・2 年・後期、専門看護学ゼミ・1 単位・3 年・通年、卒業研究・2 単位・
4 年・通年

7. 社会貢献活動

介護認定審査委員（2 回/月）

放送大学看護師国家試験学習支援ツール分担制作者（2024 年）

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

10. 今年度の自己評価

看護倫理教育において、事例・視聴覚教材を用い、また、個人・グループワークなどを取り入れ、
学習方法を工夫したことが、学生の思考と学びを深めたと考える。今後、看護倫理に対する学修内容
を 1 年次から 4 年次へと効果的に積み上げ、学生が対象者にとって倫理的判断・行動・倫理的なあり
方ができるように検討を続けたい。

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	松山美幸
-----------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

清潔援助（入浴・清拭・部分浴等）や罨法といった看護技術を行った際の生理学的効果の解明を主な研究分野としている。現在は月経関連片頭痛とその症状を緩和するケアについての研究に取り組んでいる。また、睡眠と自律神経の関係性に関する研究、薬害被害者講演を受講した看護学生の学びに関する研究を学内外の教員と共同で行っている。保有学位は修士（看護学）。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・ 塩田 昇, 廣瀬 理絵, 松山 美幸, 加藤 法子, 藏元 恵里子, 田中 美智子, 江上 千代美「陣痛促進剤による薬害被害者」の講演を聞いた学生は薬害防止に向け何を思い・感じたか, 福岡県立大学看護学研究紀要 19 巻, 77-87(2022.03)
- ・
- ・

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 田中 美智子, 江上 千代美, 津田 智子, 松山 美幸, 野末 明希, 有松 操, 長坂 猛, 更年期女性の入眠前後の自律神経反応が睡眠パラメーターに及ぼす影響, 日本看護研究学会, 2022.10.
- ・ 松山 美幸(福岡県立大学 看護学部), 廣瀬 理絵, 塩田 昇, 加藤 法子, 藏元 恵理子, 田中 美智子, 江上 千代美, 薬害被害者の講演を聞いた看護学生の薬害防止に向けたアンケートの分析(第 2 報) 薬害の実態への思い, 2022.08.
- ・

③過去の主要業績

- ・ なし
- ・
- ・

3. 外部研究資金

科学研究費助成事業、若手研究、研究課題：「月経関連片頭痛に対するケアの検討」、交付金額 4,030 千円、令和 2 年度～令和 6 年度

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本看護技術学会、日本看護研究学会、日本看護学教育学会、日本看護科学学会

6. 担当授業科目

生態機能看護学Ⅰ・2単位・1年前期、生態機能看護学Ⅱ・2単位・1年後期、フィジカルアセスメント論・1単位・2年前期、基礎看護実習Ⅰ・1単位・1年前期、生態・病態看護学実験・1単位・2年前期、基礎看護実習Ⅱ・2単位・2年通年、専門看護学ゼミ・1単位・3年通年、卒業研究・1単位・4年生通年、生態機能看護学Ⅲ・1単位・4年後期

7. 社会貢献活動

なし

8. 学外講義・講演

なし

9. 附属研究所の活動等

なし

10. 今年度の自己評価

教育においては生態機能看護学Ⅰ、Ⅱにて、ヒト身体における「よく、うまく、たくましく生きていく」しくみをゴードンの機能的健康パターンに沿って授業を行った。授業では事例等を用いたアクティブラーニングを取り入れることで、学生のこれまでの「生活の中での経験」について、学修した内容を用い、根拠を持って説明する力を育む授業内容とした。研究では、月経に関連した片頭痛について、体温や生活習慣などの基礎的データ収集中心に研究を進めた。

看護学部	職名	助教	氏名	御手洗みどり
------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護師として総合病院での臨床経験を経て、大分大学大学院医学系研究科看護学専攻（看護学修士）に進学し、高齢者の家族支援の研究を行いました。その後、大学教育や臨床経験を経て、北九州市立大学大学院社会システム研究科博士後期課程（学術博士）で、高齢者家族の代理意思決定の研究を行いました。主な研究分野では、高齢者の家族支援や、ひきこもりの当事者家族支援の研究を行っています。また、シミュレーション演習やエッセンシャルワーカーのメンタルヘルスの研究を行っています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 御手洗みどり,磯村侑泉,多田村昂央,中西優里,畑島美鈴,山根俊恵 (2022) : ひきこもりの人が居場所に求めるもの～居場所に通うことによって生じる変化からの考察～,精神科看護 (49) 50-58
- ・ 御手洗みどり,石橋花音,竹内優梨,田中瑠羽,平田若菜,山根俊恵 (2024) : 家族心理教育がひきこもりの家族に与える変化,精神科看護 (51) 46-55
- ・ 笹山万紗代,山口馨子,大場美緒,御手洗みどり (2025) : 周術期看護演習の現状と課題に関する文献検討,福岡県立大学紀要 第22巻

②その他最近の業績

<市民講座>

- ・ 2022年：山口県宇部市市民公開講座 誰もがなりうる「ひきこもり」の正しい知識（企画、司会、運営、調整）

③過去の主要業績

- ・ 御手洗みどり,櫛直美,楠凡之 (2021) : 看護学の実習におけるシミュレーション教育の学習効果～臨地実習経験のある学生の学びのレポートからの分析～,北九州市立大学文学部紀要（人間関係学科）(29) p 19-30
- ・ 御手洗みどり (2021) : 終末期を迎えた高齢の親の死を受容することの困難さ～成人期の子どもへの理解と支援～,北九州市立大学大学院社会システム研究科博士学術論文
- ・ 御手洗みどり (2021) : 終末期を迎えた高齢の親の死を受容する過程と困難さ～「未解決の葛藤」の問題に焦点をあてて～,北九州市立大学大学院紀要 (34) p 95-112
- ・ 御手洗みどり (2021) : 終末期を迎えた高齢の親の死を受容する過程と困難さ～成人期の子どもの自閉スペクトラム症に焦点をあてて～,北九州市立大学社会システム紀要 (19) p 17-33
- ・ 御手洗みどり (2021) : 終末期を迎えた高齢の親の死を受容することの困難さ～成人期の子どもへの理解と支援,第47回日本生活指導学会学術集会（オンライン）
- ・ 御手洗みどり,雪松和子,廣瀬理絵,櫛直美 (2021) : 老年看護学におけるシミュレーション実習の学習効果について,第47回日本看護研究学会学術集会（オンライン）

3. 外部研究資金

研究代表者 松浦賢長, 分担研究者 御手洗みどり, 基盤研究 B: エssenシャルワーカーとしての看護師の継続する危機への適応力教育パッケージ開発, 16, 380 円 2022 年～2026 年

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本家族看護学会、日本臨床栄養代謝学会、日本生活指導学会、日本精神科看護協会、日本精神保健看護学会

6. 担当授業科目

「セルフケア支援演習」(2 単位・3 年・前期)、「クリティカルケア・周術期看護演習」(2 単位・3 年・前期)、「成人老年看護学Ⅰ(急性期)」(2 単位・3 年・後期)、「成人老年看護学Ⅱ(慢性期・回復期)」(2 単位・3 年・後期)、「成人老年急性期看護学実習」(3 単位・3 年・後期)、「成人老年慢性期看護学実習」(3 単位・3 年・後期)、「専門看護学ゼミ」(2 単位・3 年・通年)、「卒業研究」(2 単位・4 年・通年)、「災害看護」(1 単位・2 年・後期)、「キャリア像確立講義Ⅰ・Ⅱ」(1 単位・1～4 年・後期)、「基礎看護学実習Ⅰ」(1 単位・1 年・前期)、「基礎看護学実習Ⅱ」(2 単位・2 年・前期)

7. 社会貢献活動

2024 年度～: 放送大学看護師国家試験学習支援ツール分担制作者

8. 学外講義・講演

2024 年 7 月 北九州市立大学 高齢者の理解(認知症高齢者に対する理解) 外部講師

9. 附属研究所の活動等

なし

10. 今年度の自己評価

セルフケア演習やクリティカル・周術期演習では、シミュレーション教育を取り入れ、学習方法の工夫したことで、実習につなげられる教育の充実や改善につながったと考える。また、この教育指導を行う上で、シミュレーション教育の文献クリティークを行い、今後の研究活動につなげられる論文の投稿も行った。成人老年急性期および慢性期看護学実習では、学生が学びやすい環境の整備をおこないつつ、実習病院との連携を図り、学生が充実した実習が行えたと考える。

看護学部	職名	助教	氏名	村上 香織
------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護師として主に手術室、救急外来に勤務しながら、2011年に手術看護認定看護師の資格を取得し院内外での勉強会・セミナー、看護雑誌・専門誌の執筆などを行ってきました。2019年、法政大学大学院 政策創造研究科(政策学修士)に進学し、手術室における看護師の人材育成に関する研究を行いました。2023年4月、福岡県立大学に着任し、臨床看護技術にかかわる演習、実習科目を担当しております。

今後は、手術室における人材育成の研究を継続しながら、手術体位を起因とする末梢神経損傷に関する研究も進めてまいります。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

村上香織. 褥瘡リスクの高い手術患者におけるエビデンスに基づいた褥瘡予防策のケアバンドルを用いた評価. ミルズしげ子監修. AORN Journal 日本語版 2024 ; 1(3) : 2.

村上香織. 製造業者の添付文書とスポルディング分類を用いた周術期における超音波プローブの消毒方法の評価. ミルズしげ子監修. AORN Journal 日本語版 2024 ; 1(3) : 16-22.

- ・ 村上香織. 「基本のき」からやさしく学べる術中看護記録の書き方レッスン - 術中看護記録はどうして大切? -. Ope Nursing 2023 ; 38(1) : 71-75.
- ・ 村上香織. 「基本のき」からやさしく学べる術中看護記録の書き方レッスン - 基本の記録方法を知ろう -. Ope Nursing 2023 ; 38(2) : 73-77.
- ・ 村上香織. 「基本のき」からやさしく学べる術中看護記録の書き方レッスン - 「何を書けばいい?と迷っているあなたへ」 -. Ope Nursing 2023 ; 38(3) : 60-63.
- 村上香織. 「基本のき」からやさしく学べる術中看護記録の書き方レッスン - 看護がみえる手術看護記録とは? -. Ope Nursing 2023 ; 38(4) : 78-81.
- 村上香織. 「基本のき」からやさしく学べる術中看護記録の書き方レッスン - 記録に個別性を取り入れよう 手術体位編 -. Ope Nursing 2023 ; 38(5) : 86-92.
- 村上香織. 「基本のき」からやさしく学べる術中看護記録の書き方レッスン - 記録に個別性を取り入れよう 体温管理編 -. Ope Nursing 2023 ; 38(6) : 76-79.
- 村上香織. 「基本のき」からやさしく学べる術中看護記録の書き方レッスン - その記録、正しく伝わりますか? -. Ope Nursing 2023 ; 38(7) : 78-82.
- 村上香織. 「基本のき」からやさしく学べる術中看護記録の書き方レッスン - 術前訪問・術後訪問を記録に残すことの意味 -. Ope Nursing 2023 ; 38(8) : 64-70.
- 村上香織. 「基本のき」からやさしく学べる術中看護記録の書き方レッスン - 緊急時の術中看護記録何が大切になる -. Ope Nursing 2023 ; 38(9) : 68-71.
- 村上香織. 「基本のき」からやさしく学べる術中看護記録の書き方レッスン - 急変時の記録 大量出血の事例 -. Ope Nursing 2023 ; 38(10) : 68-71.
- 村上香織. 「基本のき」からやさしく学べる術中看護記録の書き方レッスン - 急変時の記録 アナフィラキシーの事例 -. Ope Nursing 2023 ; 38(11) : 74-77.
- 村上香織. 「基本のき」からやさしく学べる術中看護記録の書き方レッスン - 手術室看護師だからこそ残せる記録 -. Ope Nursing 2023 ; 38(12) : 58-61.

村上千織. 手術室における看護管理のワンポイントアドバイス 厳しくも温かいスタッフの成長を願う看護管理者を目指して. 手術看護エキスパート 2023 ; 17(1) : 75-78.

小澤聡貴, 村上千織 編著, 個別性による困難事例を最速解決! オペナースのための手術体位 Q&A52. 第1版 大阪: メディカ出版. 2022.

村上千織. 脊椎手術の特殊性と外回り・器械出しのコツ - 患者の情報収集、アセスメントと術中観察のポイント -. 手術看護エキスパート 2022 ; 16(1) : 60-64.

村上千織. 脊椎手術の特殊性と外回り・器械出しのコツ - 体位固定時の皮膚損傷・神経障害の予防 -. 手術看護エキスパート 2022 ; 16(2) : 51-55.

村上千織. 脊椎手術の特殊性と外回り・器械出しのコツ - かゆいところに手が届く器械出しのコツ -. 手術看護エキスパート 2022 ; 16(3) : 58-62.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 村上千織 (2024) : 手術看護認定看護師が認識する手術体位による末梢神経損傷発生の現状と課題について, 第38回日本手術看護学会年次大会 (札幌)
- ・
- ・

③過去の主要業績

村上千織, 小澤聡貴. ガッテン! 体位固定!. Ope Nursing 2019 ; 34 (1~12).

- ・ 村上千織. 術式ごとに解説「椎弓形成術/椎弓切除術」. 手術看護エキスパート 2017 ; 11(4) : 56-63.
- ・
- ・

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本手術看護学会、日本看護科学学会

6. 担当授業科目

看護過程・1単位・2～4年・前期、教養演習・1単位・1～4年・前期、
フィジカルアセスメント論・2単位・2～4年・前期、
シンプトンマネジメント論・1単位・2～4年・後期、基礎看護技術論・2単位・1～4年・後期、
基礎看護学実習Ⅰ・1単位・1～4年・前期、基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2～4年・通年、
暮らしの中の看護を知る実習・1単位・2年・前期、暮らしを知る実習・1単位・1年・後期、
専門看護学ゼミ・2単位・3～4年・通年、卒業研究・2単位・4年・通年

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

10. 今年度の自己評価

臨床での経験を活かし患者を生活者としてとらえ、対象者にとって何を優先し大切にすべきか、自身が提供する看護技術に対し根拠と責任をもって臨む必要があることを演習や実習を通して伝えることを心がけてきました。看護師として臨床に出てからも様々なことに対処できるよう、学生が自ら考えを導き出せるようにかかわることを継続してまいります。

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	山口 馨子
-----------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護師として総合病院の一般病棟、看護専門学校専任教員の経験を経て、福岡県立大学大学院看護学研究科（看護学修士）で、術後患者の観察に関するシミュレーション学習前後の眼球運動の変化について研究に取り組みました。現在は、シミュレーション教育や術後患者の観察に関する研究を継続しています。また、成人老年看護学演習でシミュレーション教育に携わり、学生と共に看護を考えより良い看護を目指しています。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・ 笹山万紗代、山口馨子、大場美緒、御手洗みどり. 周術期看護演習の現状と課題に関する文献検討. 福岡県立大学看護学研究紀要 第22巻 2025 : 35-45.
- ・ 共に学ぶ・共に育豊かな看護教育を創る授業デザイン・授業リフレクションの実際 講義・演習編 メヂカルフレンド社 編集 目黒悟、永井睦子. 第2章-1 基礎看護学 山口馨子. 2023 : 18-38.
- ・ 山口馨子、笹山万紗代、大場美緒、村田和子、中井裕子、福田和美. クリティカルケア実習における看護学生の体験～フォーカス・グループインタビューの分析～. 福岡県立大学看護学研究紀要 第19巻 2022 : 69-76.
- ・ 村田和子、笹山万紗代、福田和美、大場美緒、政時和美、山口馨子、中井裕子、古庄夏香. 成人急性看護学実習におけるシミュレーション教育を取り入れたハイブリッド型学内実習の実践報告. 福岡県立大学研究紀要 第19巻 2022 : 99-105.
- ・ 政時和美、大場美緒、古庄夏香、中井裕子、村田和子、笹山万紗代、山口馨子、福田和美. 学内での対面とオンラインを組み合わせた成人慢性看護学実習の取り組み. 福岡県立大学研究紀要 第19巻 2022 : 115-122.

② その他最近の業績

<学会発表>

- ・ Keiko Yamaguchi, Kazumi Fukuda. Comparison of learning motivation between simulation learning and DVD viewing learning in a post-operative patient observation situation for nursing students. 28th East Asian Forum of Nursing Scholars(EAFONS) , Seoul, Korea, 2025.
- ・ 山口馨子、福田和美、江上千代美. 術後患者の呼吸状態の観察場面における看護学生のシミュレーション学習前後の眼球運動の変化. 日本看護研究学会 第49回学術集会、オンライン開催、2023年
- ・ 山口馨子、福田和美. 看護場面における眼球運動計測機器を用いた観察に関する文献検討. 日本看護研究学会 第48回学術集会、オンライン開催、2022年

5. 所属学会

日本看護学教育学会、日本看護研究学会

6. 担当授業科目

基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2年・通年、成人老年看護学Ⅰ（急性期）・2単位・2年・後期、成人老年看護学Ⅱ（回復期・慢性期）・2単位・2年・後期、セルフケア支援演習・1単位・3年・前期、クリティカルケア・周術期看護演習・1単位・3年・前期、成人老年急性期看護学実習3単位・3年・後期、卒業研究・2単位・4年・通年

7. 社会貢献活動

10. 今年度の自己評価

成人老年看護学において、臨床の事例を交えて学生が臨床をイメージしながら患者の看護を考える講義展開を意識しました。演習においては、より具体的に臨床の場面を想定した看護実践を学ぶことができるように検討をし、患者の状況や状態に応じた看護技術の習得を学習することができたと考えています。実習では、臨床の看護師と連携し看護学生が患者に寄り添い生活者として捉えた看護実践ができるように指導をしました。学生の授業後の感想から演習で学んだ看護技術を活かして援助できた、と意見がありました。今年度の研究はシミュレーション教育や周術期看護学演習に関して取り組みました。今後研究で得られた知見をいかし、看護学生が講義、演習、実習とつながりをもって看護を学べるように工夫を重ねていきたいと思えます。

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	吉田麻美
-----------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

小児科病棟・NICU・障害児訪問保育現場での訪問看護で、退院を見据えた関わりや在宅生活支援に携わってきた。医療的ケアを必要とする子どもやその家族の想いや生活に触れ、地域で生活するための支援不足を日々感じてきた。子どもやその家族が、住み慣れた地域であたりまえに日常生活を送り社会参加できるための支援について探求している。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- 吉川未桜、田中美樹、吉田麻美、中原雄一、菅原航平、杉野寿子：保育学生と看護学生が協同制作した医療絵本の評価と課題. 福岡県立大学人間社会学部紀要第 33 巻第 2 号. 2025 年 3 月.
- 田中美樹、吉川未桜、吉田麻美、杉野寿子、中原雄一、池田孝博：入院中の子どもを支える保育士と看護師の専門性を活かした協働 第 3 報－協働のためのコンピテンシー－. 福岡県立大学看護学部紀要第 22 巻. 2025 年 3 月.
- 福岡県立大学附属研究所絵本プロジェクト. (編集) 田中美樹、吉川未桜、吉田麻美、池田孝博、杉野寿子、中原雄一：MRI ってなあに？. 初版：2024 年 3 月.
- 福岡県立大学附属研究所絵本プロジェクト. (編集) 田中美樹、吉川未桜、吉田麻美、池田孝博、杉野寿子、中原雄一：がんばれ！！てんてきマン. 初版：2024 年 3 月.
- 田中美樹、吉川未桜、吉田麻美、中原雄一、杉野寿子、池田孝博：入院中の子どもを支える保育士と看護師の専門性を活かした協働 第 1 報－業務内容の現状分析－. 福岡県立大学看護学部紀要第 20 巻. 2023 年 3 月.
- 吉川未桜、田中美樹、吉田麻美、中原雄一、杉野寿子、池田孝博：入院中の子どもを支える保育士と看護師の専門性を活かした協働 第 2 報－協働の現状と課題－. 福岡県立大学看護学部紀要第 20 巻. 2023 年 3 月.
- 田中美樹、吉川未桜、吉田麻美、杉野寿子、中原雄一、池田孝博：新型コロナウイルス感染症拡大による入院中の子どもを支える上での看護師と保育士の困難感. 福岡県立大学人間社会学部紀要第 31 巻 2 号. 2023 年 3 月.
- 杉野寿子、吉川未桜、田中美樹、吉田麻美、池田孝博、中原雄一：入院中の子どもの権利と家族の QOL に関する課題. 福岡県立大学人間社会学部紀要第 31 巻第 1 号. 2022 年.
- 吉田麻美：歩ける医療的ケア児の母親の子育てにおける適応していくプロセスの検討. 福岡県立大学大学院看護学研究科修士論文. 2022 年 3 月.
- 吉川未桜、吉田麻美、平塚淳子、中村美穂子、大場美緒、小野順子、猪狩崇、山下清香、田中美樹、榎直美、尾形由起子：新型コロナウイルス感染拡大下における訪問看護ステーションの困難と対応. 福岡県立大学看護学部紀要 19 巻、2022 年.
- 田中美樹、吉川未桜、尾形由起子、榎直美、吉田麻美：小児訪問看護における訪問看護師の困難感と同行訪問研修の試み. 福岡県立大学看護学部紀要 19 巻、2022 年.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 田中美樹、吉川未桜、吉田麻美、杉野寿子、古野憲司：療養中のこどもの”こころの準備”を支えるための絵本プロジェクト．第33回日本外来小児科学会．岐阜．2024年9月．
吉川未桜、吉田麻美、田中美樹：小児のフィジカルアセスメント技術の段階的習得を目指してー保育園年長クラスの子どもたちの演習参加の試みー．第23回九州・沖縄小児看護教育研究会．鹿児島．2023年8月19日．
吉田麻美、山下清香、小野順子、吉川未桜、田中美樹、岡田麻里、尾形由起子：歩ける医療的ケア児の母親の子育てに適応していくプロセスの検討．日本看護研究学会第48回学術集会（オンライン）ポスター発表．2022年8月．

③過去の主要業績

- ・
- ・
- ・

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

九州・沖縄小児看護教育研究会

6. 担当授業科目

基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2年・通年、子どもの健康と安全・1単位・2年・前期、暮らしの中の看護を知る実習、1単位・2年・前期、小児看護学・2単位・2年・後期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、小児看護学演習・2単位・3年・前期、小児看護学実習・2単位・3年・後期、卒業研究・2単位・4年・通年

7. 社会貢献活動

- ・健康教育（おおきくなる自分の「いのち」）田川市立幼稚園，2025年1月28日。
- ・第52回福岡ブロック大会田川大会職業体験 Children's TAGAWA～こどもたちのたがわ～（看護師体験），2024年5月25日。

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

10. 今年度の自己評価

子どもの発達段階や特徴が理解しやすいよう写真や動画を用いての講義や机上での学びが実習での実践と結び付けられるように関わることができた。また、保育と看護の連携・協働に関する実践研究として、保育と看護の学生と一緒に新たな医療絵本の協同制作に取り組むことができた。来年度は、講義や演習で事例を用いながら様々な状況にある子どもに応じた看護を学べるよう取り組んでいきたい。研究に関しては、絵本の作成と医療施設への配布を目標に、医療における子どもの心の準備を支えるツールを作成していきたい。

看護学部／看護学科	職名	助手	氏名	石田 祐子
-----------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

2022年度より本学に着任し、現在は地域・在宅看護、精神看護に携わっています。

研究では、看護師の心身健康のもと就業し続けられることを目的に、看護師のバーンアウトに関するテーマで研究を進めていきたいと考えています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・
- ・
- ・

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・
- ・
- ・

③過去の主要業績

- ・
- ・
- ・

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本看護協会、日本精神科看護協会、看護理工学会、日本看護倫理学会、

6. 担当授業科目（補助）

暮らしを知る実習・1単位・1年・後期、チーム医療論・1単位・1年・後期、基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2年・前期、暮らしの中の看護を知る実習・1単位・2年・前期、家族看護学・1単位・2年・前期、在宅看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期、在宅看護学演習Ⅱ・1単位・3年・前期、在宅看護支援実習・2単位・3年・後期、精神看護学実習・2単位・3年・後期

7. 社会貢献活動

放送大学看護師国家試験学習支援ツール分担制作者（2024年）

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

10. 今年度の自己評価

教育においては、補助担当科目に入りながら、学生の多角的な視点を引き出せるような授業方法などを学び、今後に活かしたいと考えます。研究において積極的に活動や発表など実施していきたいと思っています。

看護学部	職名	助手	氏名	大場 美緒
------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

産業医科大学産業保健学部看護学科卒業（学士）。熊本大学医療技術短期大学部助産学特別専攻過程終了。助産師として産婦人科病棟、看護師として内科病棟で勤務後、看護小規模多機能型居宅介護事業所に勤務。2018年に本学に着任し、主に成人老年看護学に携わっている。

臨床では、神経難病や脳梗塞後の麻痺などで介助が必要となった患者が、住み慣れた自宅に戻るものの困難さを感じていた。そのため、慢性疾患患者が在宅復帰する際に必要となる支援や他職種との連携について探求していきたいと考えている。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・ 笹山万紗代、山口馨子、大場美緒、御手洗みどり. 周術期看護演習の現状と課題に関する文献検討、福岡県立大学看護学部研究紀要、22、2025.
- ・ 榎直美、尾形由起子、小野順子、中村美穂子、大場美緒、吉田麻美、猪狩崇、平塚淳子、田中美樹、吉川未桜、山下清香. 在宅医療推進における訪問看護ステーション連携への取り組みに関する一考察、福岡県立大学看護学研究紀要、19、2022.
- ・ 吉川未桜、吉田麻美、平塚淳子、中村美穂子、大場美緒、小野順子、猪狩崇、山下清香、田中美樹、榎直美、尾形由起子. 新型コロナウイルス感染拡大下における訪問看護ステーションの困難と対応、福岡県立大学看護学研究紀要、19、2022.
- ・ 山口馨子、笹山万紗代、大場美緒、村田和子、中井裕子、福田和美. クリティカルケア実習における看護学生の体験～フォーカス・グループインタビューの分析～、福岡県立大学看護学研究紀要、19、2022.
- ・ 村田和子、笹山万紗代、福田和美、大場美緒、政時和美、山口馨子、中井裕子、古庄夏香. 成人急性看護学実習におけるシミュレーション教育を取り入れたハイブリッド型学内実習の実践報告、福岡県立大学看護学研究紀要、19、2022.
- ・ 政時和美、大場美緒、古庄夏香、中井裕子、村田和子、笹山万紗代、山口馨子、福田和美. 学内での対面とオンラインを組み合わせた成人慢性看護学実習の取り組み、福岡県立大学看護学研究紀要、19、2022.

② その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 山口馨子、笹山万紗代、大場美緒、村田和子、中井裕子、福田和美. 看護学生のクリティカルケア実習の体験～フォーカス・グループインタビューの分析～、第47回日本看護研究学会学術集会、2022.
- ・ 政時和美、古庄夏香、大場美緒. 医療依存度の高い在宅患者への災害時における避難支援に関する文献検討、第47回日本看護研究学会学術集会、2022.

③ 過去の主要業績

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本看護科学学会、日本看護教育学会、日本看護研究学会

6. 担当授業科目（補助）

基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2～4年・通年、セルフケア支援演習・2単位・3年・前期、クリティカルケア・周術期看護演習・2単位・3年・前期、リプロダクティブヘルス看護学演習・2単位・3年・前期、成人老年慢性期看護学実習・3単位・3年・後期、成人老年急性期看護学実習・3単位・3年・後期

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

10. 今年度の自己評価

主に演習や実習に関わらせていただいている。実習では脳神経疾患や循環器疾患、地域包括病棟や緩和ケア病棟といった慢性期を担当することが多かったが、今年度は整形外科や消化器外科の手術、ICUや救急外来といった急性期の実習も担当した。患者さんの状態変化が大きな時期なので、学生の皆さんが患者さんの回復状況を理解できるよう、先を予測した早めの指導を心掛けた。